

意識の国際比較方法論の研究

——新しい統計的社会調査法の確立とその展開——

1991年10月

統計数理研究所

はしがき

この研究レポートは昭和61年度から平成2年度にわたる文部省科学研究費補助金を受けてなされた研究の成果をまとめたものである。この研究の目的は、異なる文化圏に属する人々の意識構造の比較研究のための方法論を確立し、それを具体的に適用して国際理解、国際協力の基礎となるべき基礎的知見を得ることであり、連鎖的比較調査方法とそれに基づく統計的データ解析法がこの中心的役割をなしている。実際の調査対象は、ドイツ（調査当時の西ドイツ）、フランス、イギリス、アメリカ、日本の5カ国であり、1987年と1988年に実施された。特別推進研究としての報告書は全20冊になるが、その核心をなすのは第1分冊であり、本研究の目標、基本的方法論、調査の計画と実際、データ分析による国際比較を論述したものである。このレポートにはこの第1分冊と、これまでにすでに発表された研究成果を収録した。これで本研究の内容の概要を示しているが、より詳しい研究成果をまとめた全報告書の内容を示すため、全20冊のはしがきと内容目次も報告書のままかかしておく。

目 次

はしがき

「意識の国際比較方法論の研究」報告書 はしがき
昭和61年度～平成2年度 実績報告書等

第1部	意識の国際比較の方法論とその基本構想	1
§ 1	比較可能性の基本的考察 - いかにして比較可能か -	
§ 2	国際比較の方法論	
§ 3	国際比較研究の基本構想	
§ 4	本研究の学術的背景	
第2部	調査の計画と実施	31
§ 1	標本調査のデザイン	
§ 2	質問票の決定と翻訳の問題	
§ 2.1	Link Analysisに基づく質問内容・項目の決定	
§ 2.2	翻訳と再翻訳	
§ 2.3	和訳の問題点、質問票の決定	
§ 3	各国における調査の実施	
第3部	データとデータ分析による国際比較	71
[I]	連鎖的調査計画・分析法 (Cultural Link Analysis, C L A)	73
§ 1	C L Aによる分析の視点	
§ 2	地域 (belonging) によるC L A	
§ 2.1	日本人とアメリカ人の鎖としてのハワイの日系人	
§ 2.2	各国グループの位置づけ - 鎖はどこにあるか	
その1	単純集計を用いて	
§ 2.3	各国グループの位置づけ - 鎖はどこにあるか	
その2	考えの筋道の同一性と各国グループの位置	
§ 3	質問 (question) によるC L A	
§ 3.1	Q O Lと社会的態度	
§ 3.2	信頼感と仕事	
§ 3.3	金・仕事・国の目標	
§ 3.4	イソップ物語と社会的態度	
§ 3.5	スケール間の関連性その1	
§ 3.6	スケール間の関連性その2	
§ 3.7	まとめ	
§ 4	時間 (time series) によるC L A	
[II]	社会的態度と国民の意識 (国民性)	188
§ 1	政治意識と国民意識 (国民性) の国際比較	
§ 2	宗教意識と国民意識 (国民性) の国際比較	
[III]	属性別態度の国際比較	206
§ 1	年齢の意味の国際比較	
§ 2	男の意見と女の意見の国際比較	
§ 3	宗教による意見差の国際比較	
[IV]	調査票と総括表	263
	調査票 (日本語A、B)	
	各質問のニックネーム	
	単純集計国別一覧	
	質問項目履歴一覧	

発表成果（抜粋）

1. 林 知己夫(1990) 「意識の国際比較方法論の研究」、学術月報 Vol. 43, No. 12, 1072-1077.357
2. T.Suzuki(1989) Cultural Link Analysis:Its application to social attitudes -A study among five nations-, Bulletin of the International Statistical Institute, Proceedings of the 47th Session, Paris, 363-379.365
3. T.Suzuki(1990) Comparative Social Survey:Current Status, Future Directions, Research Memorandum, No. 393, Institute of Statistical Mathematics.385
4. T.Suzuki and M.Sasaki(1991) Dimensions of Public Acceptance of Science and Technology among Five Industrialized Nations, Behaviormetrika, No. 29, 73-82.....417
5. M.Sasaki and T.Suzuki(1990) Trend and Cross-National Study of General Social Attitudes, International Journal of Comparative Sociology XXXI, 3-4, 193-205.429
6. I.Miyake(1991) Dimensions of Partisanship:A Five-Nation Comparison, to be read at the German-Japanese Symposium on Quantitative Social Research, Cologne, Germany, May 6-10, 1991. Unpublished paper.445
7. 林知己夫、鈴木達三(1986) 社会調査と数量化, 岩波書店 序および第I部 翻訳 (P.M. Scottによる)473
8. 林 知己夫(1990) 「国民性をはかる」市場調査 206-207号, 2-32.513

このほか、次の口頭発表がある。

C.Hayashi(1990), Belief system and the way of thinking of the Japanese; Interchronological and international perspectives, key note address read at The 22nd International Congress of Applied Psychology, Kyoto, Japan, July 26, 1990.

これは改めて論文として Proceedings に収録される。

意識の国際比較方法論の研究

——新しい統計的社会調査法の確立とその展開——

統計数理研究所

東京都港区南麻布4-6-7

電話 (03) 3446-1501

Fax (03) 3446-1695

この研究レポートは

- (1) 昭和61年度～平成2年度 文部省科学研究費補助金(特別推進研究(1) 61060002) 「意識の国際比較方法論の研究——新しい統計的社会調査法の確立とその展開——」
- (2) 昭和63年度～平成元年度 文部省科学研究費補助金(国際学術研究、63041128) 「意識の国際比較方法論の研究——連鎖的比較方法の確立とその展開——」

による研究成果をまとめた報告書全20冊の一部を編集したものである。

当研究所では、

Annals of the Institute of Statistical Mathematics

統計数理研究所彙報

Computer Science Monographs

を発行している。

研究リポートは主として研究調査の成果の発表を目的とし、必要に応じて発行する。

ALL RIGHTS RESERVED.

NO PART OF THIS PUBLICATION MAY BE REPRODUCED OR TRANSMITTED IN ANY FORM OR BY ANY MEANS, ELECTRONIC OR MECHANICAL, INCLUDING PHOTOCOPY, RECORDING, OR ANY INFORMATION STORAGE AND RETRIEVAL SYSTEM, WITHOUT PERMISSION IN WRITING FROM THE INSTITUTE.

平成2年度科学研究費補助金

特別推進研究（1） 課題番号 61060002

研究成果報告書

意識の国際比較方法論の研究

— 新しい統計的社会調査法の確立とその展開 —

CULTURAL LINK ANALYSIS FOR COMPARATIVE SOCIAL RESEARCH

- A New Approach for the Exploration of
Structure in Ways of Thinking Applied to Cross
-National Analysis of General Social Attitudes -

The Research Committee Members :

HAYASHI, Chikio	Institute of Statistical Mathematics, Professor Emeritus
MIYAKE, Ichiro	Kobe University, Professor
SUZUKI, Tatsuzo	Institute of Statistical Mathematics, Professor
SASAKI, Masamichi	Hyogo Kyoiku University, Professor
HAYASHI, Fumi	Toyo Eiwa Women's University, Associate Professor

The present study was supported by a grant from the Monbusho
Grant-in-Aid for Specially Promoted Research (1),
Ministry of Education, Science and Culture, Japan(MESC) [61060002]

は し が き

この研究の目的は、異なる文化圏に属する人々の意識構造の比較研究のための方法論を確立し、それを具体的に適用して国際理解、国際協力の基礎となるべき基礎的知見を得ることである。連鎖的国際比較調査方法とそれに基づく統計的データ解析法がこの中心的役割をなす。

対象の国としては、日本、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ（ハワイを含む）をとりあげ、国による連鎖を形成した。次に、質問内容に関して、連鎖的国際比較を効果的にするため、対象国に関する情報を収集、各国に共通すると思われる質問群、各国同一の質問群を作った。これを各国語に翻訳し、準備調査、再翻訳、各国研究者との意見交換などを通して、検討を重ね、各国版の質問票を作成した。各々の国・場所における最適な標本計画をたて、これに基づいて標本を抽出し、これに対して1対1面接法により調査を実施した。得られたデータから、分析のためにふさわしい共通ファイルを作成し、データ分析を行なった。また、比較分析を容易にするためのコンピュータソフト‘多重並列型データ総合分析システムMulti-PASS’を開発した。

通常の分析法のほか、ダイナミックな立場から考えの筋道を明らかにする数量化の方法を用い、各国の意識の同じところ、異なっているところを明らかにした。ここで出てきたことは、従来言われていたことの確認にとどまらず、さらに従来の考え方では考え及ばなかった深い知見が得られ、キメの細かい結果を得ることができた。こうして、国際比較の連鎖的調査分析法の有効性を確認することができ、連鎖的国際比較の方法が確立した。

つぎに、本研究の報告書の構成を説明しよう。内容は5部構成で、これに資料を加え、合計20分冊となる。さらに参考資料をつけた。

第1分冊の第1部、第2部、第3部は本研究の核心をなすもので、本研究の目標、基本的方法論、調査の計画と実施、データ分析による国際比較を論述したものである。これはいわば総括であって、これのよって来る根拠として第4部及び資料があるわけである。この部分は相当大部なものになるが、この根拠を掲げておくことは、研究の根幹を支えるものを示すことであって、これを除いては、研究の客観的価値はない。つまり、追試しようと思えば、追試する方式を指示するものであり、実験で言えば、実験方法を明示することに相当し、科学では当然のことで、これなくしては実験の価値がないということになる。また、こうした方法を明らかにしておくことは、将来、研究を継続していくとき、比較の根拠として意味深いものがあり、研究の積み上げ、経験の蓄積を可能にする土台ともなるものである。

第5部はこの研究実施中に本研究に関連して発表したものが中心であり、研究の成果の一部が第10分冊に要約されてある。また、本研究は、突然始まったものではなく、共同研究者の従来の研究蓄積の上に行なわれているものである。こうした研究の全容の中に、

本研究を位置づけてみることによって、その意義がより理解しやすくなることを考慮して、第5部第11分冊、第13分冊及び参考資料（ハワイ調査 1988 及び Data Analysis for Comparative Social Research, International Perspectives）をつけておいた。第12分冊は、スタンフォードで行なった国際共同研究集会の記録であるが、アメリカの国民性研究を知る上で重要と考え、加えておいた。

以上、報告書としては、大部なものになったが、この理由は次のような考えに基づくものである。社会・人文分野の科学研究にあっても、明確な方法論、データ獲得の方法とデータ分析の方法、それに基づく分析結果、の上にたつ論述のほかに、追試の可能性の条件明示、将来の継続研究を可能にするための基本情報の記載、があつて初めて「科学研究」としての意義があるという考えがあるからである。今後これを土台にし、これを越えて研究をさらに発展させる機縁として本報告が用いられれば幸いである。

「意識の国際比較方法論の研究」報告書 内容

第1分冊

はしがき

第1部 意識の国際比較の方法論とその基本構想

§ 1 比較可能性の基本的考察

— いかにして比較可能か —

§ 2 国際比較の方法論

§ 3 国際比較研究の基本構想

§ 4 本研究の学術的背景

第2部 調査の計画と実施

§ 1 標本調査のデザイン

§ 2 質問票の決定と翻訳の問題

§ 2.1 Link Analysisに基づく質問内容・項目の決定

§ 2.2 翻訳と再翻訳

§ 2.3 和訳の問題点、質問票の決定

§ 3 各国における調査の実施

第3部 データとデータ分析による国際比較

[I] 連鎖的調査計画・分析法 (Cultural Link Analysis, C L A)

§ 1 C L Aによる分析の視点

§ 2 地域 (belonging) による C L A

§ 2.1 日本人とアメリカ人の鎖としてのハワイの日系人

§ 2.2 各国グループの位置付け—鎖はどこにあるか

その1 単純集計を用いて

§ 2.3 各国グループの位置付け—鎖はどこにあるか

その2 考えの筋道の同一性と各国グループの位置

§ 3 質問 (question) による C L A

§ 3.1 Q O L と社会的態度

§ 3.2 信頼感と仕事

§ 3.3 金・仕事・国の目標

§ 3.4 イソップ物語と社会的態度

§ 3.5 スケール間の関連性その1

§ 3.6 スケール間の関連性その2

§ 3.7 まとめ

§ 4 時間 (time series) による C L A

[II] 社会的態度と国民の意識 (国民性)

§ 1 政治意識と国民意識 (国民性) の国際比較

§ 2 宗教意識と国民意識 (国民性) の国際比較

[III] 属性別態度の国際比較

§ 1 年齢の意味の国際比較

§ 2 男の意見と女の意見の国際比較

§ 3 宗教による意見差の国際比較

[IV] 調査票と総括表 調査票 (日本語 A、B)

各質問のニックネーム

単純集計国別一覧

質問項目履歴一覧

第4部 [I] 各国毎の性別、年齢別集計

第2分冊

第4部 [II] 1988年日本調査 (A、B) の自由回答
(含む分析例)

第3分冊

第4部 [II] 1987年ドイツ調査自由回答 (原文・翻訳対照)	第4分冊
第4部 [II] 1987年フランス調査自由回答 (原文・翻訳対照)	第5分冊
第4部 [II] 1987年イギリス調査自由回答 (原文・翻訳対照)	第6分冊
第4部 [II] 1988年アメリカ調査自由回答 (原文・翻訳対照)	第7分冊
第4部 [III] 標本と翻訳の検討	第8分冊
§ 1 標本計画と日本調査の標本誤差分析	
§ 2 翻訳の検討 (日本A、B調査)	
第4部 [IV] 5カ国調査の質問文対照一覧	第9分冊
第5部 発表成果	第10分冊
1. 林 知己夫 (1990), 「意識の国際比較方法論の研究」、学術月報 Vol.43, No.12.	
2. T. Suzuki (1989), Cultural Link Analysis : Its application to social attitudes --A study among five nations--, ISI, 47' Session, Paris, 1989.	
3. C. Hayashi (1990), Belief system and the way of thinking of the Japanese; Interchronological and international perspectives, key note address read at The 22nd International Congress of Applied Psychology, Kyoto, Japan, July 26, 1990.	
4. T. Suzuki (1990), Comparative Social Survey : Current Status, Future Directions, Research Memorandum, No.393, Institute of Statistical Mathematics.	
5. T. Suzuki and M. Sasaki (1991), Dimensions of Public Acceptance of Science and Technology among Five Industrialized Nations, Behaviormetrika, NO.29, 73-82.	

6. 林 知己夫、鈴木達三 (1986), 社会調査と数量化, 岩波書店 序および第 I 部
 翻訳 (P. M. Scott による)
7. 林 知己夫 (1990) 「国民性をはかる」市場調査 206-207号.

第 5 部 発表成果 第 1 1 分冊

C. Hayashi and T. Suzuki eds. (1990), Beyond Japanese Social Values: Trend and Cross-national Perspectives, Institute of Statistical Mathematics.

第 5 部 発表成果 第 1 2 分冊

The Institute of Statistical Mathematics and Hoover Institution on War, Revolution and Peace (1991), Japanese/American National Character Conference, Hoover Institution, Stanford University, March 17-18, 1990, Institute of Statistical Mathematics.

第 5 部 発表成果 第 1 3 分冊

C. Hayashi and T. Suzuki eds. (1991), The Japanese and the Americans --Comparative and Time Series Surveys of the Institute of Statistical Mathematics, The Institute of Statistical Mathematics, (Toyota Foundation Grant 77-3-032).

資料 1. 1988年日本調査のコードブック及び付属資料 第 1 4 分冊

資料 2. 1987年ドイツ調査のコードブック及び付属資料 第 1 5 分冊

資料 3. 1987年フランス調査のコードブック及び付属資料 第 1 6 分冊

資料 4. 1987年イギリス調査のコードブック及び付属資料 第 1 7 分冊

資料 5. 1988年アメリカ調査のコードブック及び付属資料 第 1 8 分冊

資料 6. 1987年ドイツ調査
1987年フランス調査
1987年イギリス調査 共通ファイルコードブック
1988年アメリカ調査
1988年日本調査

第19分冊

資料 7. Multi-PASS マニュアル

第20分冊

研究組織

研究代表者： 林 知己夫 (統計数理研究所 名誉教授)
研究分担者： 三宅 一郎 (神戸大学 法学部 教授)
研究分担者： 鈴木 達三 (統計数理研究所 領域統計研究系 教授)
研究分担者： 佐々木正道 (兵庫教育大学 学校教育学部 教授)
研究分担者： 林 文 (東洋英和女学院大学 人文学部 助教授)

研究経過の概要

この研究の目的は異なる文化圏に属する人々の意識構造の比較研究のための方法論を確立し、それを具体的に適用して国際理解、国際協力の基礎となるべき基本的知見を得ることである。連鎖的国際比較調査法とそれに基づく統計的データ解析法がこの中心的役割をなす。

次にこの研究がどのような順序で行なわれたかを示すことにする。

昭和61年度（1986年4月～1987年3月）

61年度は、連鎖的国際比較を効果的に実施するための資料を収集、既存の資料とあわせて整理し、基本的知識の拡充につとめ、62年度以降実施予定の比較調査対象社会である日本、イギリス、フランス、西ドイツ、アメリカ、ハワイの関連調査については特に質問文を翻訳するなど具体的に比較調査に利用するための検討を行ない、質問項目を選択し調査票原案を構成した。これをもとに、各調査対象社会の研究協力者と質問項目の相互の翻訳、調査方法実施上の諸問題についても検討しながら調査票の最終原案を作成した。調査実施を委託する調査機関の選定には、これら研究協力者からの詳しい情報を得て、信頼性に重点をおき、又日本との連絡等の面も検討して決定された。

これと並行して、連鎖的国際比較調査のデータ解析に不可欠な「多重並列データの統計的解析システム」の開発を進めた。調査データ相互の構造比較のため、多くの調査データを並列管理し、種々の解析手順が容易に連続して実行できるだけでなく、分析データの取捨選択、再計算の手順が容易にできることを目的としている。又、これらの解析結果のグラフ化、作表やこの変換あるいは相互比較がスムーズに実行できる。このシステムの基本設計が完成し、「多重並列型データ総合分析システム—Multi-PASS (Multi-Plex Analyze System for Social Surveys)」と名付けられた。

昭和62年度（1987年4月～1988年3月）

62年は、連鎖的国際比較を具体化して、ヨーロッパ3カ国（西ドイツ、フランス、イギリス）を対象に比較調査を実施した。調査項目は、各対象社会において継続調査に使用された項目を基礎にして、61年度に選定作業を進めたものを中心に約100項目をとりあげ、各国においてプリテストを実施し、①質問項目の質問順序、②面接調査員の回答記入様式、③回答選択肢のコード、④質問文の翻訳の是非・ワーディング、⑤社会経済的基本属性項目等につき検討を重ね、各国で使用する本調査用調査票を作成した。また、連鎖的比較研究を進めるに当たり自由回答形式の質問が有効であるとの認識を得たので、プリテストで調査可能性を確認し、本

調査にとり入れた。この自由回答形式質問の回答の多次元的解析は従来フランス側共同研究者ルバル教授の下で研究されてきたが本格的な各国語による比較研究の解析は今回が初めてであり、データ解析を効果的に行うため新技法の開発もあわせて進めた。

本調査は有権者（満18歳以上市民）を対象にする層別多段抽出（イギリス）、地域層別代表標本法（フランス、西ドイツ）である。データ・クリーニングと並行して、共通ファイルの作成を進めた。このとき、63年度実施予定（日本、アメリカ、ハワイ）の比較調査結果を待って、総合分析を行なうことを念頭においた。

統計的データ解析法は、61年度に基本設計を終えた「多重並列型データ総合分析システム－Multi-PASS」のグラフィック機能、データ・ベース機能、データ・ファイル管理機能等に関するソフト開発を進め、プロトタイプの使用を始めた。この他、IBM・PCを購入し、統計ソフトSPSS等を連鎖的比較研究に利用するため、分析ファイルの作成を進めた。

昭和63年度（1988年4月～1989年3月）

63年度は、日本、アメリカで調査を実施し、62年度に実施したヨーロッパ調査のデータ整備を行なった。具体的には以下に示す通りである。

1. 日本全国調査実施（昭和63年10月実施，1988年10月）

1953年以来5年毎に実施した「日本人の国民性調査」の継続質問項目に、1978年実施の日本・アメリカ比較調査の項目、1983年実施の日本・アメリカ・フランス比較調査の項目および1987年度実施のヨーロッパ調査（仏・西独・英）の共通項目を加え調査項目とした。調査項目（約80）のうち26項目は、国際比較調査の質問文翻訳における問題を検討するため、従来から使用している原日本語質問文と各国（英、西独、仏、米）で使用した質問文から再翻訳した質問文のA、B二本立ての調査票を作成しスプリット方式で調査した。調査は1988年10月に実施した。計画サンプル数は4500（A調査3096、B調査1404）調査完了数は3282（A-2265、B-1017）であった。また日米比較の項目について、1989年2月に検討調査（計画サンプル数2000、調査完了数1537）を実施した。これらの調査データおよび資料を整理し、共通ファイルの作成準備を行なった。

2. アメリカ本土全国調査実施（昭和63年10月実施，1988年10月）

これまでの調査経験があり、連鎖的調査方法を効果的に適用できるとともに、この連鎖的調査方法の安定性および拡大をはかるため、アメリカ本土における調査を実施した。調査項目は日本調査およびヨーロッパ調査と共通に設定したが、質問文の適否等について1988年9月にプリテストを実施し、二、三の項目についてアメリカの実情に即した変更をおこない10月3日～31日に本調査を実施した。調査サンプル数は1566、これは前回（1978年）アメリカ調査と同じ規模である。

3. 62年度実施のヨーロッパ調査の調査資料整備を行ない、63年度実施の日本・アメリカ両調査およびハワイ調査結果を含めた共通ファイルの構成について検討を進め、予備的な共通ファイルを作成し、全体的な比較分析計画を作成、検討した。

4. ハワイ調査実施(1988年ホノルルで実施)(調査の実施費用は「国際学術研究」による)
1972年、1978年および1983年の調査実施により連鎖的調査方法の基礎が開発され、その有効性が確かめられてきた。1988年は継続調査項目による連鎖的調査方法の安定性の確認および共通項目を利用した効果的な適用(質問項目の組合せ)方法を考え、調査項目を選定した。調査はハワイ州ホノルル市域(21選挙区から39選挙区まで)における1988年の選挙人登録簿より無作為抽出した標本に対し1988年6月～9月(一部1989年2月まで)に実施した。調査完了数は509(うち不良票7)、移転、死亡を除いた実質回収率は約60%であった。

平成元年度(1989年4月～1990年3月)

昭和62年度、63年度に実施した調査の調査結果を整理し、集計分析用共通ファイルを作成した。これに基づき、関連調査との比較を行なうと共に、各国共同研究者との結果分析・検討を行なった。具体的には、

- 1) 62年度実施のヨーロッパ調査(仏、独、英)および63年度実施の日本調査、アメリカ本土調査、ハワイ・ホノルル調査(63年度国際学術研究学術調査で実施)の各調査を個別に整理し、データ・クリーニングを行ない、コード・ブックを作成した。
- 2) 各個別調査の各質問項目および回答者属性項目の回答肢を標準化し、共通ファイルを作成し、コード・ブックを作成した。
- 3) 各個別調査ごとに関連調査との比較分析を行ない、各国における調査結果の経年的動向に関する基礎資料を得た。さらに、日本調査、ハワイ・ホノルル調査、アメリカ本土調査について連鎖的比較調査方法の安定性を検討した。

連鎖的調査方法の方法論を確立するため、調査の結果分析を、当研究グループおよび各国共同研究者が独自に行ない、それを単に比較するだけでなく、独自の分析結果を持ち寄り、パリ(国立高等電通大学院)、ケルン(ZA)、マンハイム(ZUMA、調査解析センター)、ブリュッセル(EC委員会)、ウィーン(ヨーロッパ社会科学センター)等で、共同討議を重ねた。これにより、同異の本質的は部分を客観的にとらえることの可能性が確かなものとなった。また、アメリカでは、スタンフォード(フーバー研究所)で、日本とアメリカの国民性に関する研究会を行ない、社会調査データに基づく国民性研究の基本的問題点および調査データによる国際比較研究の問題点を検討した。これにより、国際比較研究における連鎖的調査方法の具体化にとって有効な方策、および調査データによる比較分析方法の改善の方策について知見を得た。

平成2年度（1990年4月～1991年3月）

平成2年度は、昭和62年度・63年度に実施した調査の調査結果を整理し、平成元年度に作成した集計分析用共通ファイルに基づき、関連調査との比較を行なうとともに、平成元年度の各国共同研究者との結果分析・検討、特にアメリカ・スタンフォード（フーバー研究所）で行なった日本とアメリカの社会調査データにもとづく国民性研究の基本的問題点および調査データによる国際比較研究の問題点の討議を参考にし、国際比較研究における連鎖的調査方法の具体化にとって有効な方策、および調査データによる比較分析方法の改善の方策について研究を進めた。具体的には、

- 1) 各国別の調査結果の分析をおこなうとともに、
- 2) 平成元年度作成の共通ファイルによる比較分析をすすめ、
- 3) 調査データの国際比較をさらに効果的におこなうための分析用共通ファイルの作成および分析システムの開発とその検討を進めた。
- 4) 連鎖的調査方法の具体化にとって有効な方策に関する検討を進めた。

さらに、各国研究者間の分析・検討が進むにつれ、日本・ヨーロッパ・アメリカの三極構造、日本とアメリカの意識構造等についての認識の差が根本的なものにつながっていることが分かってきた。さらに、これまで気付かなかった盲点も浮かび上がってきた。このため、これらの点について、比較対象国の研究者と直接共同討議を行なうことにより、調査結果をより一層客観的立場から評価し、分析の視点と結果の解釈の盲点を補うことが必要となった。そこで、ヨーロッパの国際比較の分析方法のエキスパートであるL. ルバル教授（フランス、パリ、国立高等電通大学院）と、日系人の調査結果が、日本とアメリカの意識構造の同異を探る上で鎖の役割をよく示していることに鑑み、アメリカの日系人のこの方面のエキスパートであるフランク・ミヤモト教授（アメリカ、シアトル、ワシントン大学）と分析結果の検討を進めた。

通常の分析法のほか、ダイナミックな立場から考えの筋道を明らかにする数量化の方法を用い、各国の意識の同じ所、異なっているところを明らかにした。ここで出てきたことは、従来言われていたことの確認にとどまらず、さらに従来の考え方では考え及ばなかった深い知見が得られ、キメの細かい結果を得ることができた。こうして、国際比較の連鎖的比較調査分析法の有効性を確認することができ、連鎖的国際比較の方法が確立した。

研究成果をとりまとめて、印刷物その他として発表した。

ABSTRACTS OF RESEARCH PROJECT, GRANT-IN-AID
FOR SCIENTIFIC RESEARCH (1990)

1. RESEARCH INSTITUTION NUMBER : 6 2 6 0 3
2. RESEARCH INSTITUTION : Institute of Statistical Mathematics
3. CATEGORY : Grant-in-Aid for Specially Promoted Research (I)
4. TERM OF PROJECT (1986 ~ 1990)
5. PROJECT NUMBER : 6 1 0 6 0 0 2
6. TITLE OF PROJECT : CULTURAL LINK ANALYSIS FOR COMPARATIVE SOCIAL RESEARCH: A NEW APPROACH FOR THE EXPLORATION OF STRUCTURE IN WAYS OF THINKING - Cross-national Analysis of General Social Attitudes
7. HEAD INVESTIGATOR 180750000188 HAYASHI, Chikio Institute of Statistical Mathematics, Professor Emeritus
8. INVESTIGATORS
 - (1) 313060066157 MIYAKE, Ichiro Kobe University, Law School, Professor
 - (2) 300390000190 SUZUKI, Tatsuzo Institute of Statistical Mathematics, Department of Interdisciplinary Statistics, Professor
 - (3) 440730142326 SASAKI, Masamichi Hyogo Kyoiku University, Bureau of Sociological Research, Professor
 - (4) 431900180977 HAYASHI, Fumi Toyo Eiwa Women's University, Department of Humanities, Associate Professor

9. SUMMARY OF RESEARCH RESULTS

The purpose of this study were (a) to establish a method for comparative study of attitudinal structures of peoples of differing cultural spheres, and (b) to apply this method to existing and new data to obtain fundamental knowledge to serve as a basis for international understanding and international cooperation. The cultural link analytic method for international comparative surveys, and data analyses based on this method played a major role in this study.

For international comparisons, Japan, England, France, the Federal Republic of Germany, and the United States (including Hawaii) were chosen as nations and linkages for the study. For the construction of questions --to make international comparison by link analysis efficient -- existing identical questions, and questions which seemed identical across the five nations, were utilized.

Pilot surveys were conducted by first translating each question into each nation's language. The questions were then retranslated back to the original language for comparison and contrast of the results. For example, an original English question would be translated into Japanese and then retranslated back into English for evaluation of any changes resulting from this process. Opinions and ideas were also exchanged between each nation's researchers regarding the results of the analysis of the pilot survey, as well as regarding general aspects of comparative attitude studies. Through this process, the questionnaires for each of the five nations were prepared.

The most appropriate sampling design was then established for each nation and, based on this process, samples were drawn. Face-to-face interview surveys were then conducted in each of the five nations. The obtained data was assembled into forms appropriate to the analysis. Data analysis was then carried out, a process which was facilitated by a newly created computer program entitled "MULTI-PASS".

In addition to conventional analytic methods, a quantitative method which clarifies ways of thinking from a dynamic perspective was used to detect common and unique elements within each nation's attitudinal structures. In this way, detailed information was obtained which reaffirmed previous findings and claims. Such results would have been impossible using conventional thinking.

Before synthesizing the final results of the study, the need to evaluate the results from different perspectives was recognized. This led to a research conference in the United States as well as a meeting of researchers conference in the United States and France. The purposes of these meetings were to discuss and evaluate the results of the analysis of the study and to exchange ideas which could ultimately make the study more objective and more valid.

This study established a new method for international comparison so-called "the cultural link survey method" and confirmed its usefulness.

10. KEY WORDS

- | | | |
|---|---------------------------------------|---|
| (1) Cultural Link Analytic Method | (2) International Comparative Surveys | (3) Japanese National Character |
| (4) Multiple Data Analysis | (5) Statistical Social Surveys | (6) A Method of Cross-National Study of Attitudes |
| <hr/> | | |
| Time-Trend Surveys among Jpan, the United States, Hawaii, England, France and the Federal Republic of Germany | | |
| <hr/> | | |

(CONTINUE TO NEXT PAGE)

11. REFERENCES

AUTHORS , TITLE OF ARTICLE	JOURNAL, VOLUME-NUMBER, PAGES CONCERNED, YEAR
HAYASHI, C. and SUZUKI, T. The Role of Language in Cross-National Surveys: American and Japanese Respondents	Applied Stochastic Models and Data Analysis, Vol. 2, P43-59, 1986
MIYAKE, I., and others, Electoral Behavior in the 1983 Japanese Elections	Institute of International Relations, Sophia University, 1986
SASAKI, M. and SUZUKI, T., Changes in Religious Commitment in the United States, Holland and Japan	American Journal of Sociology, Vol. 92-5, P1055-1076, 1987
HAYASHI, C., Statistical Study on Japanese National Character	Journal of the Japan Statistical Society (Japan Statistical Society), Special Issue, P71-95, 1987
SUZUKI, T., SASAKI, M., and other, Soziale Ungleichheiten in Japan und der Bundesrepublik Deutschland	Kolner Zeitschrift fur Soziologie und Sozialpsychologie (Westdeutscher Verlag) Heft3-39, P496-515, 1987
HAYASHI, C., SUZUKI, T., and other, The End of Westernization and the Beginning of New Modernization in Japan: Attitudinal Dynamics of the Japanese. 1953-1983	The Arab Journal of the Social Sciences (KPI Ltd., Routledge & Kegan Paul), Vol. 2 No. 1 April, P18-36, 1987
SUZUKI, T. and other, Language and Attitude: A Study in Arabic, English, and Japanese on the Role of Language in Cross-Cultural Thinking	Thinking Across Cultures: Proceedings of the Third International Conference on Thinking (Topping, D.M, Crowell, D.C. and Kobayashi, V.N. (Eds.)) P147-161, 1989
HAYASHI, C., Response Reliability and Multidimensional data Analysis	Ed. H.M. Bock, Classification and Related Methods of Data Analysis, North-Holland, P625-632, 1988
HAYASHI, C., New Developments in Multidimensional Data Analysis	Ed. HAYASHI, C., et al, Recent Developments in Clustering and Data Analysis, Academic Press, P3-16, 1988
HAYASHI, C., Principles and Strategy of Data Analysis	Journal of the University of the Air, No. 6, P113-119, 1988
HAYASHI, C., The National Character in Transition	Special Issue, Japan Echo, Vol. XV, P7-11, 1988
SASAKI, M. and SUZUKI, T., A caution about the Data to be Used for Cohort Analysis: Reply to Glenn-	American Journal of Sociology, Vol. 95, P761-765, 1989
SUZUKI, T. and SASAKI, M., New Directions in the Study of General Social Attitudes: Trend and Cross-national Perspectives	Behaviormetrika, No. 26, P9-30 1989

11. REFERENCES

AUTHORS , TITLE OF ARTICLE	JOURNAL, VOLUME-NUMBER, PAGES CONCERNED, YEAR
SUZUKI, T., Cultural Link Analysis: Its Application to Social Attitudes -- A Study among Five Nations	Bulletin of the International Statistical Institute, Proceedings of the 47th Session, PARIS, VOL. 47, p363-379, 1989
SUZUKI, T. and other, A Comparative Attitudinal Analysis of Rationality: Arab, American and Japanese Students	The Proceedings of International Conference on Urbanism in Islam (ICUIT), Vol. 3, P65-95, 1989
YOSHINO, R., An Extension of the "Test Theory without Answer key" by Batchelder and Romney and its Application to an analysis of Data of National Consciousness	Proceedings of the Institute of Statistical Mathematics, vol. 37, P171-188, 1989
HAYASHI, C., SUZUKI, T., and SASAKI, M., Data Analysis for Comparative Social Research: Internal Perspective	Institute of Statistical Mathematics, 700, 1991
HAYASHI, C. and others, The Fourth Attitudinal Survey of Honolulu Residents, 1988	Institute of Statistical Mathematics Research Report No. 70 P1-316, 1991
HAYASHI, C., Japanese National Character -Interchronological and International Perspectives-	Key Note Adress for the 22nd International Congress of Applied Psychology, Kyoto, Vol. 22, 1990
HAYASHI, C., Cultural Link Analysis for Comparative Research	The Survey Statistician, Vol. 21, P14-15, 1989
SASAKI, M. and SUZUKI, T., A Trend Study of the Problem of Public Acceptance of Science and Technology in Japan	Behaviormetrika, Vol. 29, P61-71, 1991
SASAKI, M., and SUZUKI, T., Dimensions of Public Acceptance of Science and Technology among five Industrialized Nations	Behaviormetrika, Vol. 29, P73-81, 1991
KURODA, Y. and SUZUKI, T., Arab Students and English: The Role of Implicit Culture	Behaviormetrika, Vol. 29, P23-44, 1991
HAYASHI, C. and SUZUKI, T., Beyond Japanese Social Values	The Institute of Statistical Mathematics, P1-690, 1990
HAYASHI, C., Belief Systems and the way of Thinking of the Japanese	Proceedings of the 22nd Int. Congress of Applied Psychology Lawrence Erlbaum Ass. Ltd. London "Ed. Bernhard Wilpart" 1992 to appear
HAYASHI, C., SUZUKI, T., and SASAKI, M., Japanese/American National Character Conference	Institute of Statistical Mathematics, P1-160, March, 1991
HAYASHI, C., SUZUKI, T., and other, The Japanese and the Americans	Institute of Statistical Mathematics, P1-278, 1991
SASAKI, M., and SUZUKI, T., Trend and Cross-national Study of General Social Attitude	International Journal of Comparative Sociology, Vol. 31, P193-205, 1991
MIYAKE, I., "Agents of Partisan Socialization in Japan" The Japanese Voter	Eds. FRANAGAN, S., and thers New Haven Conn.: Yale Univ. Press Chap. 5, Fourthcomming

第1部

意識の国際比較の方法論とその基本構想

第 1 部

意識の国際比較の方法論とその基本構想

§ 1 比較可能性の基本的考察
—いかにして比較可能か—

§ 2 国際比較の方法論

§ 3 国際比較研究の基本構想

§ 4 本研究の学術的背景

§ 1 比較可能性の基本的考察

—いかにして比較可能か—

ここに比較における方法論とは、いわゆる cross-societalあるいは cross-cultural な統計調査による比較研究の方法論を指すものとする。仮説をたて、これを検証するという自然科学的方法が社会調査やその分析において基本的な配慮であるべきであるが、未知の部分の多い比較研究の場においては、それ以前の「素直にものを観察する」という態度が重要な意味をもつ。「素直にものを見る」といっても、視点なくしてものを見ることはできない。したがって、最初の仮説をたてるのは当然のことであるが、あまりこれを剛直に守りその枠を出さないような研究方法は得策ではない。つまり仮説検証ばかりに固執することなく、新しい問題の発見、新しい仮説の発見を志向しつつ多くの仮説を按じながら研究を進めることがより一層大事である。

§ 1.1 意識の比較研究の意義と方法

比較研究を始める問題意識から考えを進める必要がある。これは比較という漠然としたものに、明確な形を与えていこうとするとき考えねばならない第一歩である。我々としては、彼我の間に起り得る生きたコミュニケーションにおける問題提起とその説明を志向するという意図を持っている。これは、

- 1) 自らをよりよく知るための鏡としての比較、
- 2) 国際交流における無用な摩擦・障害の排除、相互理解の方法を見出すこと、
- 3) 我々が他の文化を理解し、もっと情緒的にいえば感得し、それを実り豊かに享受し、我々の文化創造の糧と動因たらしめること、
- 4) 他の国の人々が、日本および日本人、その文化を理解しようとする意欲を持っている場合、その理解を容易にするための科学的手段を提供し、その道をつけること、相手が「日本がわかった」と考え、感じ得るための内容を科学的レトリックにより示すこと、

につながるものであることを期待するものである。これはさらに進めると人間理解の方法にまで高められるものである。

我々の統計的方法に基づく計量的比較研究方法は、大局を逸せずはっきり捉えること、「中らずと雖も遠からず」ということを根底に据えて考えることである。こうした、計量的方法は科学の共通の言語である。そこに日本固有の論理---日本人には容易に理解できるが日本人以外には理解し難い論理---を介入させないのである。データとしてデータに語らしめつつ、その国の心の構造を計量的方法で分析し、その方法の妥当性のあることをその国の人に理解させる。この方法で日本人の心の方を分析し、そのデータの出方によって日本の姿を知らしめようとするのである。このあたりに、理論優先の解釈を介入させないのである。解釈はもとより否定するべきでなく、解釈は次のデータによる解析のための仮説という立場を堅持するものである。共通の論理で特殊や同一性、類似と差異の構造を理解させようとするのである。

計量的方法以外のものの好ましいところ、注意すべきところもいろいろあるが、ただ一

つ、こうした手法は一つの固定的立場で現象を切りまくり、都合のよい事例のみを引用し解釈し、説得的に理論を構成するもので、時に肯綮に当り時に大曲解を生むものである点を指摘するに止めよう。その特色は洞察力と構想力にある。この点、前にも述べた計量的方法のあたらずといえども遠からずを狙う方法と趣きを異にする。

計量的方法は、日本人とても一様ならず、外国人とても一様ならず、ヨーロッパは一つならず、アジアは一つならず、しかし、一様でないままに大局的に似ているところ、異なっているところの筋を客観的に、つまり彼我ともに理解し合える科学的方法によって見通すことを考えるのである。相手が理解しようと思えば理解し得る論理、つまり普遍を通して共通のところはもとより特殊をも理解し得るようにすることである。このために、どうするかを方法論的に考えることになる。ある結果が示されたときに、一面的に解釈せず仮説を一步一步深めて探っていくのであって結論を焦らぬということが大事である。

§ 1.2 比較研究の基本的立場

最も基礎的な考え方は上述の問題発見を重視するという思想であるが、これをもう少し押し進めてみたい。科学的立場から比較するということは、同じ道具と測定方法を用いて計測し、同じ所、異なる所を明らかにするところに意味がある。科学的な比較は、このように共通点、異なった点を見出すための上述の手段の構成が可能かどうか、可能ならばそれをいかに構成するかを念頭におくことが出発点となる。この尺度は、完全なものが始めから期待できるものではない。不完全ではあるが、ひとまずそれらしいものを考え、それを土台に異なった所、同じ所を析出させ、問題を見出し、さらにそれを良くしていくという逐次近似の思想に立つことが必要である。

つまり、これまでの方法で事実がある程度わかりながら、その上に立って問題点を見出し、新しい知見を得て一層事実をはっきりさせる方法を考えて進むというプロセスそのものが重要なのである。これと同時に、前述のように問題発見つまり探索的な接近方法が重要である。言いかえると、継続・連続調査の分析を通して次第に問題が明らかになっていくのであって、常に出発点に立ち戻りつつ高まっていくという上昇螺旋状に研究が進むということになる。このように比較研究を進めていくところに、方法論の特色があるわけである。

次に社会調査により人々の考え方、ものの見方、感じ方を明らかにしようとする方法の利点と欠点とを考えなくてはならない。社会調査の方法では、all or nothing という抜本的な立場は得策ではないという思想が根底にある。利点はいうまでもなく客観的な方法により共通の土俵に立ちつつ上述の方法論で次第に成果を積みあげ、事を運ぶことができるという点である。しかし、調査で調べ得ることは限りがあり、タテマエ的な回答が出やすく、ホンネが出にくいことである。したがって現実の行動の予測につながり難いという欠点あげられる。これをいかに補うかの工夫がなくてはならない。タテマエはタテマエとして重要な意味があり、これが人間の顔であることに間違いはない。ホンネだけでは世の中は動かないのである。ホンネの肉付けとして必ずタテマエが用いられるので、ものの考え方としてタテマエの分析は重要な意味を持つ。なお、行動の根本原理としては、タテマエのみでなくホンネが主要な動機を与えていることは事実であろう。タテマエとホンネの

ダイナミックスが人間の社会行動を形成しているということが出来る。これをどう捉えるかが課題である。ホンネを探り出すことは、従来の質問法、分析法を工夫して、ある程度まで接近できるがもとより十分ではない。ホンネをさぐる手法も手をつけられているが、いまのところ十分ではない。

以上のような限界を十分心得た上で、より一段、より一段と高めていく心構えが、社会調査方法論として大事なことであって、あまりにも楽観的に問題を処理し事は終わったとすることは危険なことで戒めねばならない点である。

§ 2 国際比較の方法論

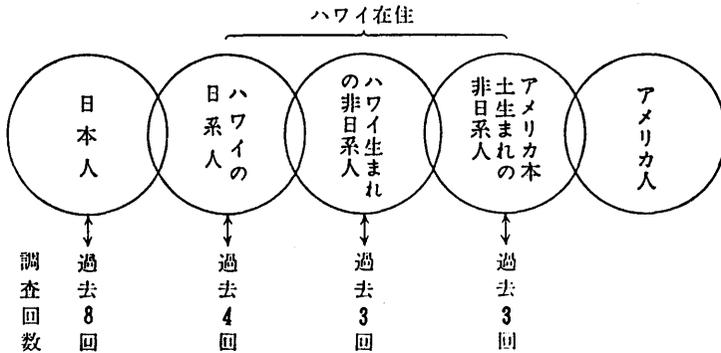
§ 2.1 連鎖的調査計画・分析法

§ 1で上昇螺旋という形で研究を進める重要性を述べた、ここで基本に立ち返ってみれば、比較対象をいかに選定して事を進めることが有利か、また分析のために何をユニットとして事を運ぶことが研究戦略上有利であるかを考慮することが大事である。我々の得た結論は、いきなり異なったものを比較するのではなく、相似たところと異なるところがあるものを比較するという考え方である。連鎖的調査計画法というのが、事を理解するのに都合がよいということである。例えば、我々のグループの行なっている例を次に示しておく。日本を起点として、まずアメリカとの比較研究を進める場合を考えよう。基本となる日本の調査は、1953年以来5年おきに今日まで続いており、質問票の問題をはじめ種々のことがわかってきている。日本を起点として、日本と近いところでハワイの日系人、さらにハワイ生まれの非日系アメリカ人、アメリカ本土生まれでハワイ在住の非日系アメリカ人、アメリカ本土在住のアメリカ人というように調査対象を拡げ、調査を続けていく、少しずつ似たところを重複させて同異の相を露呈させ、離れて相異なるものを次々繋げながら理解しようとする考え方である。異なるものが異なるだけでは理解を絶するのみで深い情報とはならない。同異の相を連鎖的に理解しつつ相離れて異なるものを了解しようとする立場である。

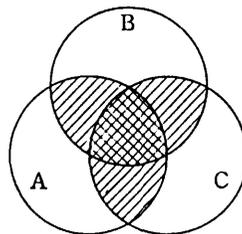
図 2-1

連鎖的調査計画---調査対象集団の連鎖---

(a) 一次的連鎖



(b) 多次元的連鎖

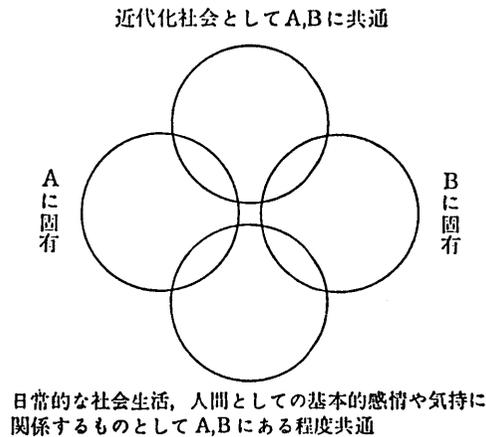


これは二次元的であるが対象が多くなると多次元となる

また、日本人の自然観とドイツ人・フランス人の自然観の同異をしらべる調査を行なっている。これは多次元的連鎖計画と考えるべきもので3者相互に似たところと異なるところを想定しての比較である。問題が限定され自然という基本問題を取り扱っているため、非常に隔絶した姿も示されているものの、これを理解する鍵は見出すことが容易であった。

以上は対象の方であるが、質問も連鎖的に連関のあるものを取り上げるのがよい、まず人間である以上、喜怒哀楽の感情、快・不快の感情など基本的感情は同じものだということが出発点になくしては調査はできない。人間としての基本条件である。質問はそれぞれの社会（国）に固有と思われる質問群、近代化社会に共通する質問群（これは、それぞれの社会（国）に共通する部面となる）、人間として基本的な素朴な感情ないしは習慣、宗教感情などに関係する質問群（ある程度共通なものとなると予想される）などから構成されるのが情報を豊かにすると考えられる。

図 2-2
連鎖的調査計画 - 質問項目の選択 -

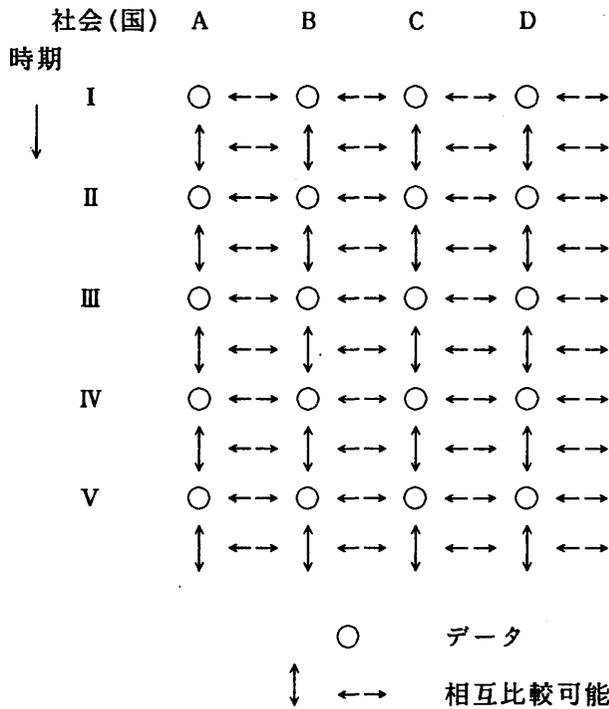


対象のとり方、質問の構成、これらに関連するデータの分析法、あわせて連鎖的調査計画・分析法（略して連鎖的調査・分析法という）と名付けることにするが、この考え方が、有効であると考えられる。

なお、このように考えてくると、時系列調査もこの中に含め得ることがわかる。国際比較でない場合、一つの集団の時系列調査も、同じところと異なるところが出てくるので、時系列で得られたデータは連鎖的であると思うことが出来る、国際比較の場合は、空間と時間とが共に連鎖的につながり合うことになり、このデータ分析は変化の仕方などの比較もでききわめて有意義なものになる。

図 2-3

時間的・空間的連鎖と比較



さて、各質問群に入れる質問は、その素姓がよく知られていればいるほど情報量が多くなる。日本での継続調査に用いられ、その変化、不変の相を通して性格がわかっていること、数多くの調査に用いられ、他の諸質問との関連性においてその性格がわかっていること、国際比較調査に用いられ、その質問の意味するところが外国と日本で同じか異なっているかの様相が知られていること、外国の調査でよく用いられており、時系列調査などを通じてその性格が解明されていること、などが重要である。こうした質問文を手なれた道具として用い、上述の質問群を構成するのである。また、分析対象とする集団を個別に分析し、その結果を比較するとともに、二つの集団をあわせて---ポンド・サンプルという---分析し、それぞれの特色が浮かびあがるものか、また両集団がまざり合い個人差が浮かびあがるものか、などについて分析を行なうことも有効である。個別集団とポンド・サンプルによる分析はそれぞれ全く異なった機能を持つもので、これらの特色を巧妙に用いることは深い情報をえぐり出すのに有用である。

さらにまた、分析に用いる質問項目を適宜入れかえ、それらを用いて意識構造を描き出した結果がどう異なってくるかを知ることは重要な意味をもつ。質問文の性格がよくわかっていると、質問項目の入れかえで結果が変わる、その変わり方の意味を探り出すことができる。

上述のような質問文の入れかえと分析対象の選択（個別集団、ポンド・サンプルを随時併用する）とを絡めて分析し、問題に様々な角度から切り込んでいくというダイナミックなき方からわかっていくことは多いものである。こうしたいき方は、結論をすっぱり示すというより、あれこれ考えて情報を探り出していくというものであって、複雑な多次元的様相を持つものの比較研究の方法として望ましいものと考えられ、外国・外国人の行動の予測、文化摩擦の生じる意識の仕組み、文化の相互理解への鍵を見出すのに適した方法ということができる。

なお、質問文の選択として日本において事情がよくわかっている日本的質問なるものを第一に用いることは、日本人にとって有利なき方である。つまり、日本人が日本人自身をこうした客観的方法で知っておき、また、これが外国でどうなっているかを見ることは、日本人は「日本人の見方」なるものを抜け切れないのであるから重要な意味がある。日本人の見方・考え方が外国でも通じると不用意に考えると誤解が生じ、摩擦を生む第一歩となるのであるから、こうした方法によって、日本の論理がどういう形で外国に現われるか、また、どうして通じないかを知ることは大事なことである。こうした日本的質問の他に比較研究として重要であると言及した各種の性格を持つものを加えて、内容を拡大していけば、正鵠を得た情報をつかみ出していくことができる。

この比較研究として重要な質問は、新しく我々が作成するよりも、既に外国で作成され利用されているものを用いるのがよい。我々は外国のことを熟知しているわけではないからである。アメリカの質問はアメリカ的価値観によって作られたもので、必ずしもこの外国にも通用するものではないし、自国で問題意識となっているところについての質問が中心となっている。フランス、ドイツ、イギリスにおいてもアメリカと同様な性格を持っている。しかし日本のものを含めて、こうしたものの中にどこにでも通用する考え方で答えられる質問も含んでいることがわかる。このようにして、国際比較で用いられる調査票の内容は、恰も万華鏡をみる如きものである。これで始めて、有用な道具となるものである。一つの筋にしたがって作られたものは、その筋がどこに通用するか解らないし、通用したとしても、ものの一面から把んだものであって、それぞれの国の固有の考え方との関連もつかめず、一面の真理は却って多面での誤解を招来するものである点に特に注意したい。

§ 2.2 具体化のための基本的方法論

これは、具体的に比較研究を進める上で、いかなる手だてを工夫するかに関係している。

(ア) もとになる既存データの性格を十分把握することについて

いかなる対象が、いかなる測定法に基づいているのか、その妥当性・信頼性・精度はどのようなものか、どのような歪み・偏りがあるものか等の評価がまず重要である。

(イ) 標本の性格について

どのような性格のサンプルか、調査対象の集りをどう規定し、ランダム・サンプルをいかにとるべきか、もし、ランダム・サンプルとしての性格が弱い（たとえばクォータ法）とするならば、その代表性を確かめるようにその方法を種々検討すべきである。

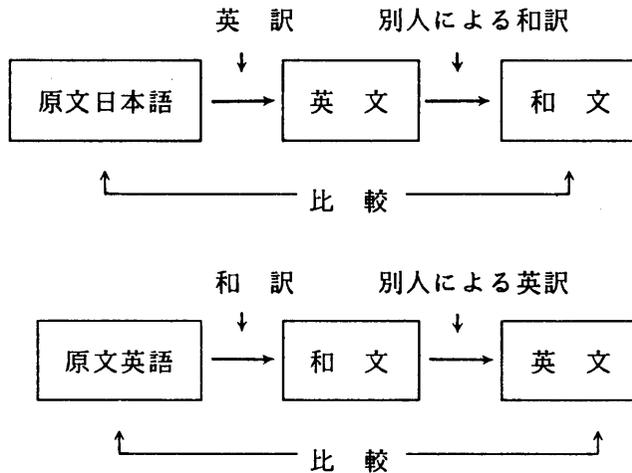
(ウ) 質問について

どのような質問を作るか、これには§ 2.1 で述べた連鎖的調査計画・分析法によるのが

望ましいが、多くの仮説に基づいて幅広い質問を加えておくのが望ましい（初めから仮説をせばめ、問題をあまり絞り込まない方がよい）。その上で、前述のように質問の種類、数、組み合わせ等を適宜入れ替えながら分析を進め、質問の持つ意味・機能を調べながら比較そのものの情報をとり出すといういき方が有用である。さらに質問文の作り方などは、質問法の研究成果を基礎とすることは当然である。

比較研究である以上、質問文の翻訳の問題がある。まず字面の検討が第一であるが、日本文・英文質問についてその方法を説明したのが図2-4である。

図2-4
質問文の翻訳検討の手順



翻訳（和訳・英訳）は例えば、英訳の場合は英語の上手な人による翻訳であっていわゆる我々のような素人による翻訳ではないのはもちろんである。ここで、原文と再翻訳文とを比較することによって日・英両語で同じ質問文が出来ているかどうかを検討するのである。我々の調査票では、一般にこの程度までは検討を経たものを用いている。

字面が同一でも異なったことを訊ねているということもありうる。日本文・英文のニュアンス、イメージの違いがあるかも知れないので、日本固有の質問、ある義理人情に関する質問文の与えるイメージをハワイのアメリカ人に質問してみたが、回答分布は異なるものの、質問によって与えられるイメージは全く同一という興味ある結果が得られている。しかし、すべての質問についてこれを行なうことは不可能で、別の検討を必要とする。

そこで、日・英両語が同じように理解できるグループを折半し、日・英両語で調査をして回答パターンを比較することが考えられる。しかし、英文・日本文ともに理解できるグループを見出すことはなかなか難しい。英文の理解は不十分でも一応英文を理解できる---ニュアンスまではとても無理と考えられるが---のは日本において集団として存在するのは大学生である。一方、逆の場合つまり英語を国語とする国で、日本文も理解するグループを見付けることは困難である。日本文の理解が不十分でも一応理解できるグループを

団として見出すことが現実的であり、ハワイの日本語専攻学生や日系の宗教団体において見出すことができよう。これを対象に等質のグループをつくり、一方は日本文による調査、一方は英文による調査を行なって、その結果を検討してみるとという試みも一つの接近法である。

こうした比較検討の結果、両者よく一致するものもあるが、英文のニュアンスの不理解、誤解（誤訳して回答することも含む）もあると考えられるものもあり、この方法の妥当性についてはさらに分析を進めなくてはならない。

このような基本的検討をいくら行なっても十分首肯できるところまではいくものではない。以上の基本を踏まえた上で、データ分析を種々の角度から行ない、質問の妥当性や意味を考え、比較可能性を頭に入れて、あちらへひねり、こちらへひねって考えを深めつつ研究を進め、遂次核心に迫るといいうき方がとられるべきものであろうと思う。

こうしたなかで次のような考え方も有効なものとなる。ある程度性格のわかっている質問群の構成を前述のように種々変えることにより――質問群構成のダイナミックスといおう――比較対象群の結果がどう変わってくるか、これらを通して比較対象群に対して持つ質問の性格がより一層明確になるとともに比較対象の性格も把握できてくるという試みも大事である。質問群構成のダイナミックス、とりあげる集団のダイナミックスの相互作用によって両者の性格がより一層明確になってくるという方法を用いるのである。

このためには、以下に述べる分析方法と上述のような配慮とが相互に相携えて進まねばならない。なお、このためには、長い間の継続調査や比較研究を通して、その性格のよくわかっている質問群を中核として話を進めることが望ましい。この意味で、比較して探るための道具として質問の性格を踏まえて、質問そのものを大事にしていかななくてはならない。

（エ）データ獲得の方法について

これは調査実施法に関するもので、データの性格・質に関係するところが多く、調査法を精査し、比較可能性を検討する必要がある。

（オ）データ分析方法について

データの性格に応じて分析を実施し、その中に潜む情報を過不足なく別抉しなければならぬ。このために多種多様な方法が開発されねばならない、この一部については、林知己夫、鈴木達三、「社会調査と数量化」、岩波書店（1986）に述べてあるのでそれを参照されたい。

以上、分析方法まで含めて、どれも完全というものはないことを繰り返しておこう。前にも述べたが重要なので重ねて強調しておきたい。一つずつを完全にしてからでないと比較はできないとなると同一個所に拘泥してそこに留まってしまう。そこに滞っていて完全にできればよいが、そこだけの知識で完全に話が進むものではない。いわば泥沼にあがくようなものである。科学の全体の水準が上がり、他の進んだ知識がポテンシャルとなって、この問題が一步推し進められるようなことになる。同じ所を攻撃し続けても突破できないとき、他の所々を攻め、得られた成果を土台にし、あらためて、もとに戻り攻撃を繰り返せば容易にそこを突破できることも多い。ある個所をある程度まで高めておき（質問法のところを考えていただきたい）、次に標本の比較可能性の検討に進む、これも完全に可能とは限らないがあるところまで突き詰める、こうして獲得されたデータを種々ひねりまわ

して分析を加える。もとより分析方法も完全なものではないので、現状で可能な限りの新しい有効な方法の開発を行なう。ここである種の知見を得ることになる。こうしたことが可能となるということで質問法の問題へ戻し、対象の選択のことも考えなおすことになる。このようにもろもろの不完全な道具を使いながら問題を探索的に究めると同時に、調査法という道具をより妥当なものに作りかえつつさらに探索を進めるという形になる。初めに述べた上昇螺旋的研究方法である。仮説から仮説へと進みながら、なにがしかの知見を増しつつ核心に迫ろうとする態度である。

§ 2.3 “成果のまとめ”を通しての研究の進展

同一のデータを用い、比較の対象となった異なる社会双方の研究者が別々に報告書を作りあげる。このような研究では、データ解析や分析のための視点、解釈の他に、次のアプローチ、問題発見、新しい方法の開発意図といった方面のことが問題になるので、出来上がった報告書の相互検討を通して初めて、より一歩進んだ知見が得られ、比較研究のレベルが上がることになる。このことは一見容易で可能と見えながら、双方研究者のレベルが揃っていること、同一プロジェクトを相互に信頼し合い人間関係がよく、緊密に連繫させて行ないつつ、しかも考え方が全く同一でないこと、同一の熱意のあること、双方柔軟な考え方の持ち主であることが必要不可欠のことである。こうした共同研究者を得ることは、非常に難しいと思われるが、このことが共同研究成功の鍵である。

なお、共同研究グループの相互の考え方の理解が共同研究では不可欠であるが、これが進みすぎると共通の盲点を持つということが出てくる。何によらず、連帯の強いグループには、盲点の出てくるものである。これを打破するために、こうした問題に興味があり、類似の研究を別の角度から進めている専門家を加えて、新しい角度から内容を論議・検討をすることが必要で、非常に有意義なものと考えられる。

このような相互検討における誤解・理解を通して、しかもより高い段階へ進むための建設的意見が形成されるためには、前述した方法論による比較研究が相互に認め合えるということが基本的に重要なことであろうと思う。

§ 3 国際比較研究の基本構想

§ 3.1 従来の国際比較方法と連鎖的調査方法

以上のような根本的考え方を土台としてそれを具体化するための研究構想を述べることになるが、ここであらためて従来の比較研究方法のあり方を検討することから始めよう。

従来の社会調査法は、調査対象者の選定にランダム・サンプリングの方法を利用し、ある仮説にしたがって作成した質問文を用いて調査し、これを集計して検定していることだけで、科学的 実証的方法とみなしていた。我々の方法は従来の仮説検証的発想に基づく方法ではなく、探究的方法である。これが、比較研究等の複雑な問題の解明に適していることが、これまでの研究から分ってきた。

従来の比較研究は、一連の仮説に基づいて作成された質問項目を、比較研究の対象とされた、それぞれの社会で調査するため翻訳し、翻訳された質問項目の言語的な意味上の同等性を確認し、それぞれの社会の比較調査における共通の測定手段として利用し調査を進めてきた。

しかし、比較可能性を確保し、比較可能性を高めるためには、質問項目の翻訳に十分配慮することは当然のこととしても、これだけでは十分でなく、比較の対象となった社会相互の間の関連を事前に十分見極めると共に、質問項目の選択においても、比較対象社会の間における回答構造のあり方を、探索的に、「回答パタンの相互関連分析」の方法により確認して研究を進めることが不可欠であることが分ってきた。

我々の連鎖的調査方法をもう一度繰り返すと、平たくいえば互に似たところと異なるところのあるものを鎖の環のようにつないでいく方法である。この方法における連鎖は、

- i) 対象社会の選択において（空間的連鎖）
- ii) 質問項目群の構成において（比較における測定方法の連鎖）
- iii) 継続的時系列調査において（時間的連鎖）

すなわち、空間的・時間的ひろがり、測定方法について「連鎖的比較調査」の方法が考えられ、比較研究方法として極めて有効な方式であることが分ってきた。

対象社会の選択における連鎖は基本的には『社会環境』、『文化』、『民族性』の三つが考えられるが、比較対象社会をつなぐ時には重複して種々の組合せが生じる。この三つの基本的なものを軸とし、これらが、比較対象社会相互の意識構造に及ぼす影響力を計量的に解明することが科学的な比較研究を進める上で不可欠でありながら、このことは従来の比較研究では真剣にとり上げられていなかったことである。

このような計量的分析を可能にしたのは、回答構造の統計的分析方法である「回答パタンの相互関連分析」の方法を基礎にする一連の多次元的データ解析方法である。これは、

1. 比較の対象となった二つの社会の共通部分、それぞれの社会の固有部分を仕分けしその相互関連の仕方をみること、
2. 一方の社会で有効に利用されてきた質問項目の組における回答構造が、比較の対象である他方の社会ではどのように変形されるか等の分析を含むものであり、ii) でのべた、質問項目群の構成に関する連鎖的調査方法の適用においても決定的に重要な役割を果す統計的方法である。

この方法は、日本においては 1950年代より質的データ解析を必要とする政治学、社会学

等社会科学領域および医学、生物学、林学等広範囲の領域に適用されて多大の成果を挙げてきた方法であるが、近年（1970年以降）フランス、イタリア等ヨーロッパ諸国においても同様の方法が開発され研究が進められている。（Benzecri（1973）、Lebart（1984））

このような具体的分析方法を伴った、組織的な比較研究方法である『連鎖的調査方法』は比較研究、比較調査の分野においてはじめてのものであり、ひろく社会調査の分析方法としても、社会現象に対してより一層客観的、合理的な接近の方策を可能にする方法と考えられ、社会調査法の上に新しい時代を開くものといえる。

§ 3.2 連鎖的調査方法の国際比較調査への具体的適用とその妥当性の検証

連鎖的調査方法は、これまでに日本とアメリカとの比較研究において、ハワイ・ホノルル調査を媒介にして、連鎖をつなぎ、その有効性を確認してきた（この一例を参考資料としてあげる）。しかし、対象社会が二つ三つでは普遍的な有効性、広範囲の適用性が問題となる。このため、少なくともアメリカ・ヨーロッパの先進工業社会等のうちいくつかについて、連鎖的調査方法による国際比較調査を実施し、その有効性を確かめる必要がある。これなくしては、この方法の有効性を広く国際社会に認知させることは不可能である。

連鎖的調査方法における連鎖は、§ 3.1でのべたように、基本的には『社会環境』、『文化』、『民族性』の三つがあり、現実には重複した組合せがある。我々はこの方法の具体的適用において

- i) 比較の対象となる社会が上述の意味において連鎖的につながっていると考えられること
- ii) この方法を効果的に適用するため、その社会（国）における継続調査データが何らかの形で存在すること
- iii) 調査の実施が可能であること
- iv) 我々と協力する研究者が現地にいること（これらの研究者は再三、我々と接触しており、統計数理研究所において具体的な共同研究もおこなっている）

すなわち、連鎖の基本となる三つの事項の組合せを考えると連鎖的調査方法を適用すれば効果的であると考えられる数多くの社会がある。そして、それらの社会との比較研究は重要なものといえるが、この研究では、少なくとも上述の4条件を満たす社会を最小限の対象社会と考えた。ii)、iii)、iv)は相当きつい条件であり、とくに、iv)については、我々の方法で比較研究を実施することを了解し、積極的に協力してくれる現地研究者の存在が本研究にとって極めて重要であるという認識によるものである。

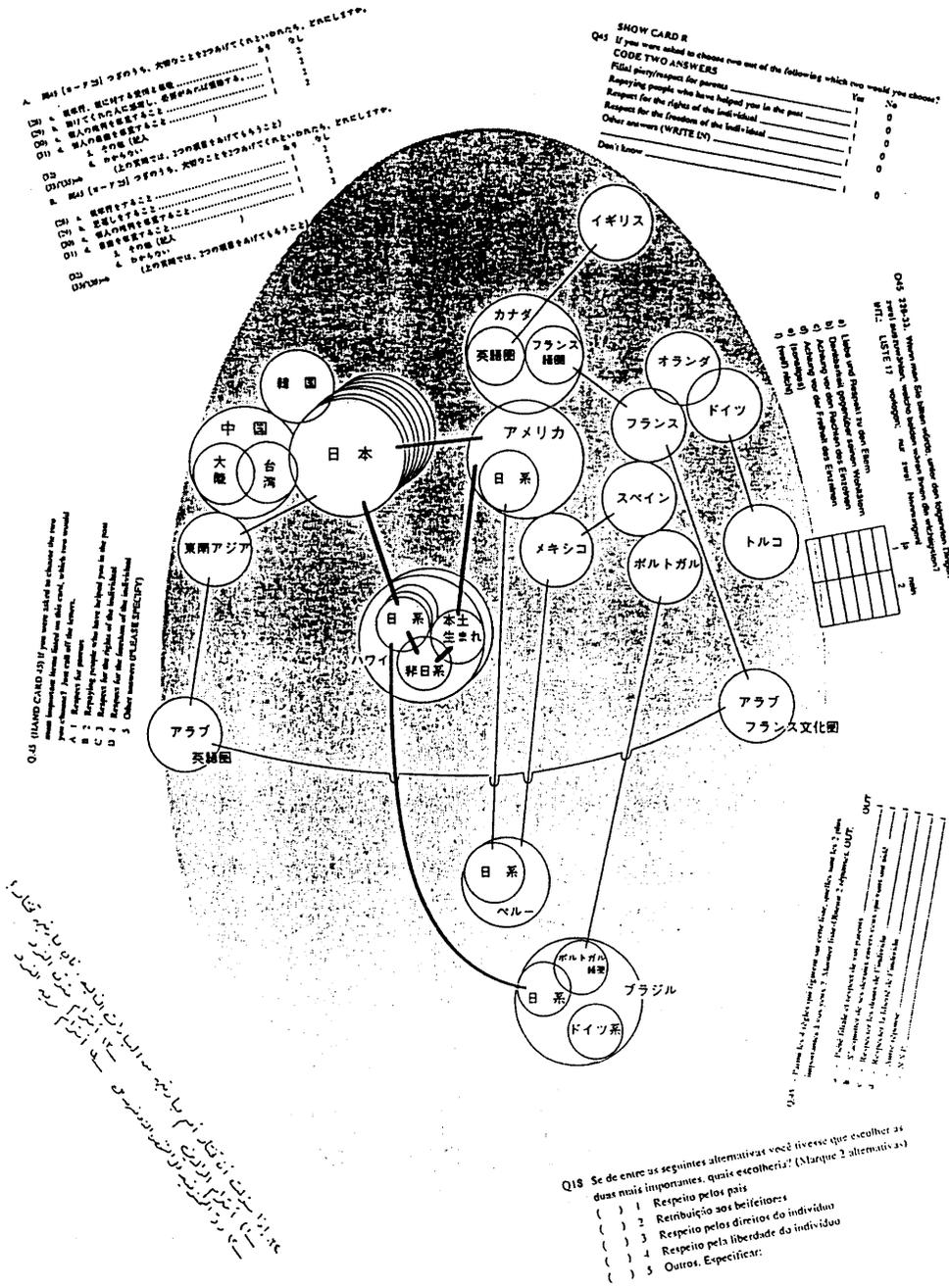
上述のような研究は、抽象的な議論だけではなく、具体的な対象にとり組む必要がある。比較の対象となる社会の具体例として

- (1) これまで調査経験があり、連鎖的調査方法を効果的に適用できるとともに、この方法の安定性および拡大をはかる上でハワイ・ホノルル市民調査、およびアメリカ本土における調査をまず考えた。（1988年が前回1978年実施以来10年目になるので1988年に調査を実施した。）

さらに、日本調査、ハワイ・ホノルルの日系人調査との関連を考える上でブラジ

連鎖的調査法における対象社会の連鎖の図

CULTURAL LINK ANALYSIS FOR COMPARATIVE RESEARCH



ル日系人に関する連鎖的比較が重要である。（調査は 1990年に計画され 1991年 1月－2月に実施された。ブラジル全土からの日系人ランダム・サンプルに対する調査結果は回収率 75%で、集計サンプルは 500以上になった）。

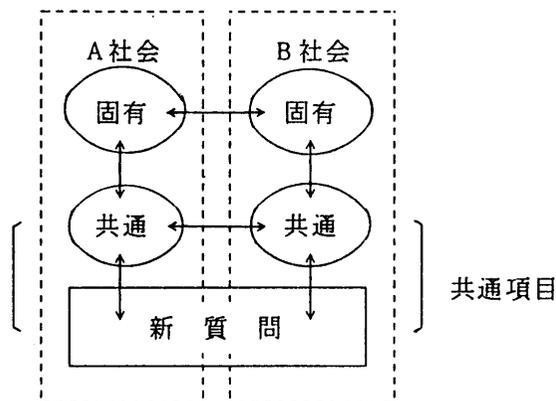
- (2) これまで、共通質問（形式的な）のみの比較で概要だけをとらえていた、フランス、ドイツ（西、東）、イギリスに連鎖的調査方法による比較調査を実施した。（フランス調査1982年より5年目に当る1987年に調査を実施した）これらの連鎖のつながりとして今後、カナダ（英語圏、仏語圏）に対する調査を実施することが極めて緊急且つ主要なことと考えられる。
- (3) この他、将来的には、トルコに対する連鎖的調査方法の適用を考える。これは、宗教の面からみて、また近代化過程がある面で日本と対比され研究されていること、さらに、歴史的にみて、ハワイとは別の次元における、東西文化の接点という観点から、連鎖的調査方法の妥当性を検討する一つの手がかりとなるものと予想される。（Ward & Rostow（1964）、Bellah（1958））

つぎに、質問票のあり方について具体的にみてみよう。

調査における測定方法としての調査票の構成・各質問項目の作成についてみると、比較の対象となった二つの社会のそれぞれにおいて、実績のある（とくに継続調査されている）質問項目を中核として選定する。この際、中核の質問項目について、対象社会それぞれの固有の部分と、両社会に共通の部分とに仕分けする。中核におけるこの二つの質問項目グループの相互関連のあり方の安定性を確認して、比較調査項目として利用する方式をとる。これらに新しく調査すべき共通質問項目を付加することにより、二つの比較対象社会の比較研究に関する形式的な連鎖は図式的には出来上る。しかし、これだけでは、十分ではない。

これを分析する統計的方法としての回答パタンの相互関連分析の方法（数量化Ⅲ類）がそれぞれの質問項目グループの間をつなぐ真の鎖止めの役を果たすことになる。（図1の ←→の部分）

図 1



それぞれの質問項目のグループにおける相互関連分析の結果得られた各社会の回答構造について、各社会を通じた共通部分をまず見出し、これを中心軸として他の部分を位置づける。こうすれば、各社会における固有部分に相当するものの仕分けができ、この部分が共通部分とどのような関連をしているかという関連のあり方もわかり、各社会における回答構造を全体として、部分ごとの位置づけをはっきりさせながら、とらえることができる。このようにして、質問項目の組合せにもとづく回答パタンの相互関連分析によりはじめて、回答構造のあり方を客観的にとらえることが可能となる。すなわち、それぞれの社会の回答構造の同異のあり方が各社会における‘ものの考え方’（あるいは思想）の構造をときほごす手がかりを与え、計量的な比較の第一の目的を達することが出来る。

このような調査票を具体的に構成するため、われわれは

a) 質問項目の作成にあたり、多年にわたる各種継続調査および国際比較調査の実績を通して築かれた実証的情報を十分に活用し、データにもとづいて性格の明らかにされた質問文を中核におくという方策をとる。

b) 連鎖的調査方式をとる。

ということで対処することにした。この a) に関して〈中核になる質問〉項目の選定方針をつぎにのべる。

中核になる項目の選定には、それぞれの対象社会において継続調査された質問項目をまず考える。これは、

a) 継続してくり返し調査されている項目は、その社会で安定して使用されているという意味で偏りのない情報が得られる可能性が高い。

b) 継続調査されている質問項目の調査データはその社会で指標としての役割が高い。
(社会環境の変化と相関させて分析すれば多くの情報が得られる可能性が高い)

したがって、継続調査されている質問項目は、その社会の環境の変化(時代的・経年変化の有無)等に相応して、その情報を継続調査のデータとして蓄積している。継続的に調査されている共通項目は人々の意識の面における経年的な動向をとらえる形のものであり、このことは社会科学が「主観ではなく経験にもとづいて客観的に社会現象の因果関連を明らかにする科学であり、とくに社会現象の運動の法則性を追求するものである」と考えれば、社会科学の本来の目的に沿ったものであるといえる。またそればかりではなく、社会現象の運動の法則性を明らかにする方法として組織的な継続調査は重要である。

すなわち、変化をとらえる定時観測は、同一の調査方法を用い、一定間隔をおいて定時的に観測調査を実施し、その変化の中から運動の法則に近づいていくという組織的継続調査の行き方は方法論的にも妥当なものである。

とくに継続調査データを年齢層別にして有機的に連結し、〈時代効果〉、〈年齢効果〉、および同一生年層の効果すなわち〈コウホート(世代)効果〉を識別するコウホート分析は、従来問題が多かったが、新しいコウホート分析方法の開発により、意識の変化過程における要因分析を的確におこなえるようになり、社会変化の動向との関連が、統計的方法の面からも客観的につけられるようになった。

経年的動向、すなわち時間軸の方向における連鎖的調査方法の大きな連環の鎖止めが出来上がってきたといえる。このようにして継続調査データの分析を通し、浮動的な部分および基盤的な部分を仕分けして、安定的(予測可能)な部分を取り出し、これを中核とし

て質問項目の組を構成することができる。これが比較可能性を高めることにつながる。

以上のように、回答パタンの相互関連分析、あるいは継続調査データのコーホート分析等の最新の統計的方法を、適切に選択・構成された質問項目の組に対して的確に利用・分析することにより、連鎖的調査方法の効果的適用法の基礎が出来上がる。これは、クーンというパラダイム^{*)}は、「概念や法則だけでなく、より重要なことは方法論的原理ととるべき方策の総体である」という見地からみると、連鎖的調査方法の効果的な適用を講究することは社会現象の科学的探究における新しいパラダイムの構築にもつながるものである。

*) T.Kuhn (1962) 'The Structure of Scientific Revolution' Ch.2 (文献参照)

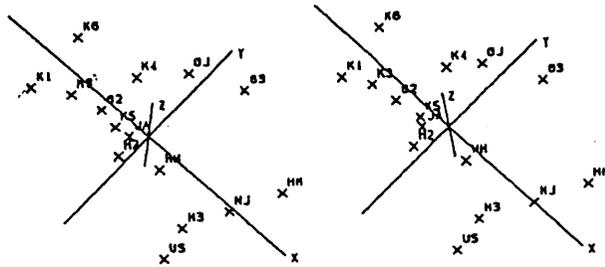
〈連鎖的調査方法の具体的適用例〉

連鎖的調査方法は、日本とアメリカとの比較において、ハワイ日系二世、日系三世、非日系ハワイ生れ、非日系アメリカ本土生れの各グループを媒介にして連鎖させることにより効果的な比較研究方法であることが確認された。すなわち、ハワイ日系人については、その文化変容の過程が明確に示され、ハワイ日系二世グループでは日本の特色である義理人情の質問項目の組が日本と同じような回答構造をもつこと、しかし三世ではハワイ非日系等に近い形で示された。これは、「文化」と社会環境の impact が「民族性」の背景より強いことを示唆するものである。また、別の質問の組については、日系各グループ、非日系グループ共にハワイ生れは共通の回答構造をもつが、非日系アメリカ本土生れは異なり、社会環境の影響が文化的背景より強い分野のあることも分かってきた。このように、連鎖的調査方法を利用することにより意識構造の変化過程がより一層はっきり示され、文化変容等の複雑な社会現象を解明するに際しても、「収斂理論 (Convergence theory)」の仮説に対する接近に際しても、従来の方法と比較して格段に効果的な成果が期待できると考えられる。

さらに日本における意識構造の経年的変化の一端をアメリカとの関連においてみると、いわゆる「伝統回帰」の内容が具体的に示されてくることが分った。これは回答比率においていわゆる伝統的意見の支持比率が30年前の比率に近づいたということではなく、実は構造的にみると立体図に示されたごとく上昇螺旋型の変化であり比率の接近は見かけ上のものであることが分かった。すなわち、伝統・近代の対立を第一義的に考える意識構造（これは日本特有のものである）が1970年代後半から徐々にくずれ出したことを示すものである。これは1950年代から70年代はじめにかけて伝統的意識から近代的意識へ大きく変化した意識構造の変化過程が単純に「収斂」するものではなく、外来の「ものの考え方」の影響は部分的であり、いわばこの時期はアメリカ文化の取捨選択の過程であったことが示唆された。

立体視の図

立体鏡により中央に立体像を浮き上がらせてみるようにすること



図中の記号の説明

- K 1 : 1953年 日本調査の結果
- K 3 : 1963年 日本調査の結果
- K 4 : 1968年 日本調査の結果
- K 5 : 1973年 日本調査の結果
- K 6 : 1973年 日本調査の結果
- O 2 : 1971年 ハワイ日系二世の結果
- O 3 : 1971年 ハワイ日系三世の結果
- O J : 1971年 ハワイ日系全体の結果
- H 2 : 1978年 ハワイ日系二世の結果
- H 3 : 1978年 ハワイ日系三世の結果
- H H : 1978年 ハワイ非日系ハワイ生まれの結果
- H M : 1978年 ハワイ非日系アメリカ本土生まれの結果
- J A : 1978年 日系全体の結果
- N J : 1978年 非日系全体の結果

§ 3.3 連鎖的調査方法の具体的適用とデータ解析のための『多重並列型データの統計的解析システム』の構築

<統計的解析システムの構想>

測定手段としての調査方式（面接調査法か自記式調査法か等）、質問項目の選択・作成・翻訳等においても、また、質問項目を組合せて調査票を構成する場合にも、これまでの実績調査データの蓄積・分析を通して、その情報を活用することが不可欠であり、既存情報の整理・体系化なくしては実証的・科学的測定手段の基礎も築き得ないことは明らかである。これは、実績の調査データから最新の統計的方法を十分に活用したデータ解析により、利用可能な（有用な）情報を選択する過程であり、このためには、信頼できる調査データの蓄積と、これを利用したデータ解析が縦横に出来るコンピュータ・システムを構築することが不可欠である。このようなシステム構築が社会調査の方法を一新し、現代に即した社会現象の実証的・科学的研究、国際共同研究を進める上で、また成果の国際的普及、社会的還元の上で必要な第一歩である。本研究においても、ハードの面の充実が研究を効果的に進める上で不可欠である。

このような「多重並列型データの統計的解析システム」の構築により、連鎖的調査方法の具体的適用におけるデータ解析は、逐次接近的方法を極めてスムーズに実行できることになり、研究の能率が格段に向上することが期待される。

<信頼できる調査データの蓄積およびその利用>

これについては、「社会調査データの保存・維持管理・利用システム」が存在すればよい。しかし、日本には現在このようなシステムが存在しない。

われわれが国際比較の研究対象として取り上げたアメリカ、イギリス、ドイツでは、大規模な「社会調査データ・アーカイブ」があり、研究活動を行なっている。これは、調査計画を具体化する段階で非常に有用であるばかりでなく、調査結果の信頼性を吟味検討する上でも非常に重要なものである。このシステムを欠くわが国の統計的な社会調査データの分析検討等に関する研究環境を今後改善することが極めて重要である。

§ 4 本研究の学術的背景

これまでの社会調査の発展の経過をみると、社会調査の基本的な方法は、調査の対象を一定の測定操作により分類し、その数を数えるという素朴なものに始まり（測定操作上問題の少ない人口調査など）、実態調査を経て徐々に測定操作の複雑な意識調査へと進んできた。

意識に関する調査が社会現象の実証的研究のための方法として利用され定着してきたのは1930年代後半である。有名なものはアメリカのギャラップ調査であり、ほぼ同時期にフランスではステゼェルによって調査研究所が発足している。

第二次大戦後、社会調査の方法は広く各方面で利用されるようになった。日本における調査は戦前にもNHKの番組嗜好調査、あるいは毎日新聞の調査等がみられるが、限られたものである。戦後アメリカからの標本抽出法、世論調査の方法が普及し、現在まで各方面で利用されるようになった。アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ等でも世論調査は数多く実施されている。

このような社会調査の方法が組織的な情報収集の手段として一定水準に達したのは、ここ30～40年のことである。そして計量的な測定に利用し得る段階に達するには少なくとも次の二つの面における進歩があげられる。

1. 人を対象とする集団から確率サンプルをとる方法が確立したこと
2. 個人から情報を収集する方法を標準化してきたこと

しかし、1. に関しては原理的には確立しているとはいえ、調査の実際においては種々の問題がある。とくに経験的な知識の統合が必要であり複数社会の比較に関する場合、これまでの研究調査は必ずしも十分なものとはいえない。2. に関しては、同一国内における標準化は進んでおり、単一の調査に関していえば形式的には標準化されているようにみえる。しかし、継続調査による時系列比較研究あるいは、複数社会を対象とする国際比較研究を念頭に置いた標準化は、これまでのところほとんど考えられていないのが現状である。以下、国際比較研究についての経過と現状をのべる。

§ 4.1 国際比較研究における経過と現状

戦後における社会調査の普及により、1950年代から2国間、数ヶ国間の国際比較調査に基づく研究が試みられるようになった。例えば、アーモンドとバーバ（1963）による（政治）市民文化の研究は初期における国際比較を考えた研究である。これに続いて、日本における池内一教授および分担者三宅が参加した4ヶ国比較研究は「市民意識の研究」としてまとまっている。この他、サライらによる生活時間調査（1972）は初期の多数社会に関する比較研究である。また、生活の質に関する比較調査研究（サライとアンドリュース（1980））も行われている。

これらの諸調査とならんで、各国における社会階層と社会移動に関する諸調査も、国際比較研究の上からは見逃すことができない（研究成果は、例えば、トライマンの職業威信に関する国際比較研究（1977））。

上述の諸調査は、組織的な国際比較調査という観点からみると、その試行期に属するも

のということが出来る。これらの経験をふまえて、1970年代には、より組織的な国際比較調査がおこなわれるようになる。

その一つはヨーロッパ共同体の加盟諸国における共通調査である。（これは現在までユーロバロメータとして30数冊の調査報告書がある。（例えば、ユーロバロメータ（1985）、また、これにアメリカの調査を加えた研究の一つとしてイングルハート（1977）の研究がある。）

このような国際比較研究は多数の国を同時に取り上げ、共通質問項目を利用して一斉に調査を実施するタイプの国際比較調査である。これは国際比較調査の経験が豊かな国際的調査機関の連合組織を媒介として、調査を企画した組織が統一のとれた調査を一斉に実施できるところに特徴がある。わが国では、例えば世界青年意識調査（1972 および 1977, 1978, 11ヶ国）および13ヶ国価値観調査があり、西欧では、ヨーロッパ9ヶ国価値観調査がこのタイプになる。

今一つのタイプは、試行期にもみられたように、それぞれの国の研究組織（あるいは研究者）がそれぞれ自分の国における（継続）調査を実施してきた実績と経験およびそれまでに積み重ねてきた研究交流の蓄積を基礎に、相互に協力して比較研究に進むタイプである。これは、それぞれの国で実施されてきた継続調査が、日常生活の基礎に関する調査項目を多数共有するような場合には国際比較研究を効果的に実施できるところに特徴がある。

前者のタイプの比較研究は、特定主題に関する多数社会相互の位置づけをみるという観点から今後も各方面で実施される可能性は高い。また、これは比較すべき社会が同種のものであり、同じ考えの筋道があり、かつ質問文の翻訳も無理なく行われ、比較に関する調査方法の標準化にも問題がなければ、有意義な結果を示す可能性もあるが、この前提条件の充足はいかにして達成されるかの方法がこの系列の考え方からは見出し難い。

一方、後者の比較研究は、狭いところから始まり、各社会における調査研究の方法を深めつつ成果の蓄積をはかり、次第に取り扱う範囲を広め、それが進めば進むほど国際的な共同研究を実施する環境がよくなり、今後の比較研究の一つの方向となるものと考えられる。この考え方は、比較のあり方の方法論的研究を中核としつつ比較の輪を広げていくという思想である。つまり、これは、各社会それぞれの日常生活における‘ものの考え方’には基本的なところではそれほど大きな違いはない、という認識の上に立って比較研究を進める考え方が基本にある。

このように、各社会の差異よりも、共通性を基本軸として調査計画を立て、それぞれの対象社会の関連の性質を十分配慮した調査方式（連鎖的調査方式）をとることができれば、成果の可能性が期待される。このタイプの比較調査方式は着実であるが、比較すべき対象は狭く、拡大するのに時間がかかる。この方法は、データに基く探索的な過程のうちに、国際比較の目的にふさわしい情報が得られてくるところに特徴があると考えられる。

§ 4.2 これまでの研究過程

標本抽出法の研究、質問紙法の研究、面接調査員の問題に関する研究等を経て、社会調査方法が実際場面における一般市民の日常の‘ものの考え方’に関する研究に適用できると考えられた 1950年代はじめから、統計数理研究所の調査がはじまった（1953年）。

この研究調査は、当初はそれまでの研究同様、仮説検証的発想の調査であった。1958年に第2回目の調査を実施し、調査結果の比率の動きが社会環境の常識的な動きと連動する点の多いことが確認され、1963年の第3回調査を実施する段階では、多数の質問項目を固定して調査し、変化を調べる形のものにした。この段階では、社会環境の変化の傾向も経年的にみて同一方向の流れが主であり、変化の方向が一定であり、変化量だけが問題であったため、社会環境の変化過程における意識の変化のあり方をとくに詳しく研究するまでには至らなかった。

1968年の第4回調査においても調査結果の分析は比率に関する限り、この変化量だけが主要な関心事であり、調査方式はほぼ確立してきた形となった。この頃からようやく大型コンピュータの利用が可能になり、今回の連鎖的調査方式の統計的分析方法の面の要である「回答パタンの相互関連分析(数量化Ⅲ類)」の方法を多くの質問の組に適用できることになった。

その結果、これまでの調査結果にみられた比率の動きは表面的なものであり、その根底に回答構造の動きが考えられることがわかってきた。この回答構造の動きを考えにいれなければ、表面的な比率の動きは明確に説明することができない可能性が高いこともわかってきた。しかし、まだ、1960年代終わりから、1970年にかけての時期では調査結果の回答比率の動きは一定方向の動きであり、表面的な分析でも不都合な点は目立たなかったので、顕著な成果が確認されなかった。

1971年日本学術振興会国際共同研究事業により、ハワイ・ホノルルにおける日系人のパーソナリティ調査を実施する機会にめぐまれ、いくつかの点が問題として考えられた。

その1は調査対象者の選定、すなわち標本抽出の問題である。いままで日本では、20歳以上を対象とする調査の場合、対象者を網羅した台帳がほぼ完備しているので、標本抽出の問題はほとんどなかったが、ハワイ(アメリカ)ではこのような台帳がないので、確率サンプルをとるには地域抽出法によることになるが、我々にその経験がなく、この方法をとることが不可能であった。実際には、ハワイでは極めて登録率の高い有権者名簿が入手でき、これを利用して調査を実施できた。

その2は質問項目の翻訳についてであり、これも日本語←→英語の場合には大変な問題であることがわかってきた(が、くわしい検討はその後の1978年調査におこない、問題点はほぼ解決した)。

その3は結果の比率の比較に関することである。日本との比較を考えたとき、日本における古い考え方がハワイでは回答率が減少し、日本における新しい考え方はハワイでは比率が増大するという当初の予想は必ずしも当たらず、さらに年齢別にみた傾向も、日本ではいつも若い年齢層ほど新しい考え方をし、高齢層ほどそうでない傾向があると考えられてきたが、必ずしもハワイ日系人の結果ではこのようにならない。男と女の意見差に関する場合もそうであることがわかった。

この結果、

1. いわゆる日本的な意見とはなにか? 日本における古い考え方とは何か? という反省が生じた(不用意な仮説検証的発想は問題があることがわかってきた)。
2. 日本における社会階層別にみられる意見差のあり方に対応するものは、ハワイでは何であるか? 等の問題がでた(これについてはハワイでの日常生活で日本的環境

の強い層、弱い層と日本における年齢層の傾向との対応がつくことが研究の結果判明している)。

3. 回答構造に関しては、一部は前述(研究目的参考資料)した通り、日本に関連の強い質問項目の組では二世グループで日本と同様の回答構造を示すが、三世ではそうならない等、回答構造(すなわち‘考えの筋道’)を重視することが比較研究を進める要点であることが分かってきた(これらの詳細については「比較日本人論」等参照)。

このようにして、1970年代前半に比較研究の結果を土台として、新しい調査方式への構想が芽ばえたといえる。

1978年には、第6回の継続調査を実施するに当たり、前回のハワイ日系人調査の結果得られたことを教訓として質問項目の選択に当たり、

1. 日本の発想の質問のうち、継続質問項目は、すべてとり入れる。
2. 日本以外において調査された項目を、とり入れる。(とくにハワイ調査を念頭において、アメリカ的発想の質問の組をとり入れる。)
3. これまでの日本固有のものを重視する立場から、共通性を重視する立場をとって、質問項目を選定し、調査票を構成する。

等のことを考えた。

丁度この時期は、世界的にみても、多くの先進工業社会が、経済的な面で豊かさを実現し、ポスト・インダストリアルな社会ということがいわれており、各国で‘生活の質’に対する評価・見直しの研究が実施されつつあった。日本もようやく、近代化過程を終わり、先進工業国の一員となったといわれた時期であり、‘生活の質’に関する質問項目に共通性をもたせることが必要となっていた。

また、幸いなことに、文部省海外学術調査で、ハワイ・ホノルル一般市民調査を、トヨタ財団研究助成で、‘アメリカ人の価値意識調査’を、同時期に実施することが出来、比較・研究の範囲が拡大した。これにより、日本を基点としたアメリカに関する比較・研究を、日本→ハワイ日系二世→ハワイ日系三世→ハワイ生まれ非日系→ハワイ在住本土生まれ非日系→アメリカ本土という鎖をつないでいく連鎖的調査方式の土台が出来上がってきた。(研究成果の一部については、研究目的参考資料の参考図参照)

これらの研究成果を土台にして、1983年における日本の第7回国民性調査は、継続調査項目を継続すると共に、比較対象の範囲を拡大することを考えた。1980年以降研究協力を進めてきたフランス経済研究所の調査項目の組(20項目)をとり入れ、同時に実施されたハワイ・ホノルル市民調査(第2回)にも、この質問項目群をとり入れることにより、これまでの2国間比較ではなく、日本・フランス・ハワイ(アメリカ)3ヵ国の同時比較を行うことが出来た。これにより、日本では欧米と一緒にまとめられることの多いアメリカとヨーロッパの回答構造は異なり、日本との対比では三極構造を示すことが分かってきた。(参考文献の C. Hayashi 他(1985)参照)

この点からみると、連鎖的調査方式による比較を、日本からアメリカへの比較研究だけではなく、ヨーロッパ諸国へ広げていくことが非常に重要であることがわかる。すなわち、連鎖的調査方式により、比較の対象となった2国間の似たところと異なるところがどのような構造をもって関連しているかが具体的にわかり、これをつぎつぎにつなぎ合わせる

ことによって、それぞれの国で共通の部分はどのような側面であるのか、異なるところはどのような分野であるのか等のことを、‘回答パタンの相互関連分析’の方法により、図示することができるので、客観的な比較の基礎が得られることになる。これを土台にして、今後さらに比較すべき分野を拡大していく形をとれば、国際比較調査は、より一層実り多いものとなっていくものと期待される。

本研究は、1983年までの日本国内における5年ごと7回、都合30年間にわたる継続調査、および1971年から3回にわたるハワイ日系人調査、1978年と1983年のハワイ・ホノルル市民調査および1978年アメリカ調査、1982年のフランス調査の実施および結果分析の過程で構想のまとまりをみせた連鎖的調査方法を、調査企画の段階から、組織的計画的に適用する、はじめての研究計画である。

ここで、参考までに、これまでの研究成果が引用されている本（諸外国）の一部を資料としてあげておく。

- Cole, Robert E. "Changing Labor Force Characteristics and Their Impact on Japanese Industrial Relations." Japan: The Paradox of Progress, ed. Lewis Austin. New Haven: Yale University Press, 1976:200-207
- Cole, Robert E. Work, Mobility, & Participation: A Comparative Study of American and Japanese Industry. Berkeley: University of California Press, 1979.
- Cummings, William K. Education and Equality in Japan. Princeton, New Jersey: Princeton University, 1980.
- Dore, Ronald. British Factory - Japanese Factory: The Origins of National Diversity in Industrial Relations. Berkeley: University of California Press, 1974.
- Flanagan, Scott C. and Bradley M. Richardson. Mass Political Behavior Research in Japan: A Report on The State of the Field and Bibliography. New York: Social Science Research Council, 1979.
- Hall, John W. and Richard K. Beardsley. Twelve Doors to Japan. New York: McGraw-Hill, 1965.
- Ike, Nobutaka. Japanese Politics. New York: Alfred A. Knopf, 1957.
- Inglehart, Ronald. The Silent Revolution. Princeton, New Jersey: Princeton University, 1977.
- Marsh, Robert and Hiroshi Mannari. Modernization and the Japanese Factory. Princeton, New Jersey: Princeton University Press, 1979.
- Stoetzel, Jean. LES VALEURS DU TEMPS PRESENT: une enquête européenne. Paris: Presses Universitaires de France, 1983.
- Trommsdorff, Gisela. "Value Change in Japan." International Journal of Intercultural Relations. 7(1983):337-360.
- Tsuneishi, Warren M. Japanese Political Style. New York: Harper & Row, 1966.
- Vogel, Ezra F. Japan as Number One. Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 1979.

また、我々の日本における継続研究が直接の動機となって実施された調査もみられる。その一つは、アメリカにおける一般社会調査であり、1972年から毎年実施されている。継続調査されている項目は100項目余り、他の項目は4年サイクルで継続されている（Davis 他（1986））。また、この調査とはほぼ同じ調査をイギリス、ドイツで実施し、共同研究を進めようとしている。（イギリスの1984年調査の結果はJowell他（1984）、ドイツは1980年から1年おきに実施、最近のものは1984年の第3回調査である。）この共同研究に統計数理研究所も参加するよう、我々のもとにドイツから要望がある。

今一つは、ステゼェルらによるヨーロッパ9ヶ国価値観調査である（Stoetzel（1983））。この本の冒頭には、'日本における統計数理研究所の30年にわたる日本人の国民性の継続調査は、その期間における意見の変化過程を描き出したばかりでなく、コウホート分析を通して意見変化のメカニズムを研究している'と述べ、この継続研究が評価されている。

また最近、我々のもとに、アメリカ国立科学研究財団の科学指標作成班から、アメリカ・ヨーロッパ（EC加盟諸国）および日本の共同研究（科学と技術（先端技術）に関する意識調査実施）の可能性を打診してきた。このような国際比較・研究は現在の科学と技術の進展状況からみて、今後さらに重要性を増し、数多く実施されることも予想される。これらの比較研究が従来そのままの方式で実施される可能性があることを考えれば、非常に重大なことといわざるを得ない。このような内外の情勢をみると、比較研究方法に関する本研究は極めて緊急のことといえる。

§ 4.3 学術的意義と価値

この研究計画の目的が達せられたときには

1. 従来の国際比較・研究（組織的国際比較・研究の第1のタイプ）の企画に大きな影響を与える。すなわち、対象国の選定、質問項目群の選定にも、本研究の成果をとり入れることが必須となる。
2. したがって、国際比較・研究の質の水準が向上し、より一層、信頼性妥当性の高い情報が利用可能となる。
3. これにより、普遍的な人間研究における、より一層信頼性の高い基礎情報が蓄積されることになり、今後の偏りのより少ない研究が、促進される。
4. また、これまでの研究結果の見直しが期待され、新しい視点からの再分析が実施されることにより、比較研究の基礎水準が飛躍的に向上する。
5. 波及的効果として、これらの結果、国内・国外における社会調査方法のあり方も一新され、新しい社会調査の方法が出来上がってくる。
6. 社会調査データ・アーカイブの重要性がより一層認識され、より一層信頼性の高い基礎情報の蓄積と利用が促進される。
7. また、全体として、国際相互理解が進む。

参 考 文 献

- Almond G.A. and Verba, S. (1963). *The Civic Culture*. Princeton : Princeton University Press.
- Bellah, R.N. (1958). "Religious Aspects of Modernization in Turkey and Japan." *American Journal of Sociology*. 64: 1-5.
- Benzecri, J.P., et al. (1973). *L'Analyse des Données 1,2*. Paris: Dunod.
- Bering, Jan, Felix Geyer and Ray Jurkovich. (1979). *Problems in International Comparative Research in the Social Sciences*. Oxford: Pergamon Press.
- CRÉDOC (Centre de Recherche pour l'Étude et l'Observation des Conditions de Vie). (1982). *Situation et Perception des Conditions de Vie et Qualité de la Vie des Français*. Paris: CRÉDOC. (in French)
- Davis, J.A. and Smith, T.W. (1986). *General Social Surveys, 1972-1986 : Cumulative Codebook*. Chicago : National Opinion Research Center.
- Gallup, George H. (1976). Human needs and satisfactions : A global survey. *Public Opinion Quarterly*. 40, 459-67.
- Gallup, George H. (1976). *The Gallup International Public Opinion Polls, France: years 1939, 1944-1975*. New York: Random House.
- Gallup, George H. (1976). *The Gallup International Public Opinion Polls, Great Britain: years 1937-1975*. New York: Random House.
- Gallup, George H. (1979). *The Gallup Poll Public Opinion : Years 1976-1978*. Willington, Delaware: Scholarly Resources Inc.
- Guttman, L. (1950). The principal components of scale analysis. In *Measurement and Prediction*, eds. S.A. Stouffer, L. Guttman, E.A. Suchman, P.F. Lazarsfeld, S.A. Star, et al. Princeton : Princeton University Press.
- Hayashi, C. (1956). Theory and example of quantification (II). *Proceedings of the Institute of Statistical Mathematics*. 4,19-30.
- Hayashi, C. (1987). Statistical study on Japanese national character. *Journal of the Japanese Statistical Society (special issue)* : 71-95.
- Hayashi, C. and Suzuki, T. (1974). Quantitative approach to a cross-societal research-I, A comparative study of Japanese national character. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*. 26 (3), 455-516.
- Hayashi, C. and Suzuki, T. (1975). Quantitative approach to a cross-societal research-II, A comparative study of Japanese national character. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*. 27 (1), 1-32.
- Hayashi, C. and Suzuki, T. (1984). Changes in belief systems, quality of life issues and social conditions over 25 years in post-war Japan. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*. 36 :135-61.
- Hayashi, C. and Suzuki, T. (1986). *Data Analysis for Comparative Social Research : International Perspectives*. Tokyo : Iwanami. (in Japanese).

Hayashi,C., Hayashi, F., Suzuki, T., Lebart,L. and Kuroda,Y.(1985). Comparative Study of Quality of Life and Multi-dimensional Data Analysis ; Japan. France and Hawaii. *Fourth International Symposium, Data Analysis and Informatics* (Versaille, France, Oct., 1985). INRIA, 573-583.

Hofstede, Geert. (1980). *Culture's Consequences: International Differences in Work-Related Values*. Beverly Hills, California: Sage.

Ikeuchi, H. and Miyake, I.(1974). *Shimin-ishiki no kenkyu : Political Participation and Equality in Japan*. Tokyo : Tokyo University Press.

Inglehart, Ronald. (1977). *The silent revolution : Changing values and political styles among Western publics*. Princeton : Princeton University Press.

Inglehart, Ronald. (1990). *Culture Shift in Advanced Industrial Society*. Princeton : Princeton University Press .

Jowell, R. and Airey, C. Eds. (1984). *British Social Attitudes: The 1984 Report*. England: Gower, Hants.

Kuhn, Thomas S. (1962). *The Structure of Scientific Revolutions*. Chicago : The University of Chicago Press.

Lebart, L. and others. (1982,1983,1984). *SPAD: Systeme portable pour l'analyse des donnees 1,2,3*. SESIA.

Nakamura,T. (1982). A Bayesian cohort model for Standerd cohort table analysis. *Proceedings of the Institute of Statistical Mathematics*. 29, 77-97. (in Japanese).

Nakamura,T. (1986). Bayesian cohort models for general cohort table analyses. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*. 38, (Part B), 353-70.

Noelle, Elizabeth. and Neumann, Erich Peter. (1967). *The Germans Public Opinion Polls: years 1947-1966*. West Port, Conneticut: Greenwood Press, Publishers.

Research committee on the study of the Japanese national character (1977). *Changing Japanese Values*, Tokyo : The Institute of Statistical Mathematics.

Stoetzel, Jean. (1983). *Les Valeurs du Temps Present : une enquête européenne*. Paris : Presses Universitaires de France.

Suzuki, T. (1970). A study of the Japanese national character, Part IV- Fourth Nation-Wide Survey. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*. Suppl. 6, 1-80.

Suzuki, T. (1984). Ways of life and social milieus in Japan and the United States : A comparative study. *Behaviormetrika*. 15, 77-108.

Suzuki, T. (1986). Macro analyses using cohort analysis. In Hayashi, C. and Suzuki, T. *Data Analysis for Comparative Social Research : International Perspectives*. pp.93-139. Tokyo : Iwanami, (in Japanese).

Suzuki, T. and Leghorn, R. Y. (1985). Age, sex and cohort : Explicating social change in post-war Japan. *Behaviormetrika*. 18, 1-16.

Suzuki,T et al. (1972). A Study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*. Sup.7.

Szalai, Alexander. (1972). *The Use of Time*. The Hague : Mouton.

Szalai, Alexander and Andrews, Frank M. (1980). *The Quality of Life : Comparative Studies*. Beverly Hills : Sage.

The Commission of the European Communities (1988). *Eurobaromètre*. Brussels : The Commission of the European Communities.

Tokei-suri kenkyujo kokuminsei chosa iinkai (Research committee on the study of the Japanese national character) (1961). *Nippon-jin no Kokuminsei (Japanese National Character)*. Tokyo : Shiseido.

Tokei-suri kenkyujo kokuminsei chosa iinkai (Research committee on the study of the Japanese national character) (1970). *Daini Nippon-jin no Kokuminsei (Japanese National Character, Vol.II)*. Tokyo : Shiseido.

Tokei-suri kenkyujo kokuminsei chosa iinkai (Research committee on the study of the Japanese national character) (1975). *Daisan Nippon-jin no Kokuminsei (Japanese National Character, Vol.III)*. Tokyo : Shiseido.

Tokei-suri kenkyujo kokuminsei chosa iinkai (Research committee on the study of the Japanese national character) (1982). *Daiyon Nippon-jin no Kokuminsei (Japanese National Character, Vol.IV)*. Tokyo : Shiseido.

Treiman, Donald J. (1977). *Occupational Prestige in Comparative Perspective*. New York : Academic Press.

Verba, S., Nie, N. H., and Kim, Jae-On (1985). Political Participation and Equality in Seven Nations 1966-1971 (ICPSR 7768). *ICPSR Guide to Resources and Services*. Ann Arbor : University of Michigan.

Ward, Robert E. and Dankwart A. Rustow. (1964). *Political Modernization in Japan and Turkey*. Princeton: Princeton University.

Youth Bureau, Prime Minister's Office of Japan. (1978). *The Youth of the World and Japan*. Prime Minister's Office of Japan.

ZA. (Zentralarchiv für Empirische Sozialforschung) (1982,1984,1986). Codebuch mit Methodenbericht und Vergleichsdaten (ZA-Nr.1000 ALLBUS 1980, ZA-Nr.1160 ALLBUS 1982. data codebook). Köln: Universität zu Köln.

第2部

調査の計画と実施

第 2 部

調査の計画と実施

§ 1 標本調査のデザイン

§ 2 質問票の決定と翻訳の問題

§ 2.1 Link Analysisに基づく質問内容・項目の決定

§ 2.2 翻訳と再翻訳

§ 2.3 和訳の問題点、質問票の決定

§ 3 各国における調査の実施

はじめに

第1部 § 3 国際比較研究の基本構想で示した「連鎖的調査方法」を、§ 3.2にのべた、ドイツ、フランス、イギリス、アメリカおよび日本の5カ国に関する比較調査として具体化することを考える

具体化するにあたっては、調査結果の比較可能性およびデータの有効性を高めるため、調査を計画・実施するとき、次の点について慎重に検討することが必要である。

a) 調査対象の選択：それぞれ比較の対象となる社会の範囲、対象者の範囲等を考えにいたした上で、比較対象となる社会における代表性を十分に検討すること。

b) 調査項目の選択：

- ① 質問文作成の方式、回答形式、回答選択肢の構成等、測定法の基礎となる枠組みの検討
- ② 質問項目の組の選択、分類等の検討
- ③ さらに、比較の対象となる社会の特性によって影響を受けやすい質問項目を扱うのであるから、比較研究を具体的に考える場合、比較可能性について十分な検討が必要となる。

すなわち、この研究で考えている連鎖的比較調査の方法は、形式的に考えれば通常の世論調査の方法と多くの点で共通性をもつと考えられる。したがって、通常の世論調査の場合に考えられている調査法の諸問題を検討し、これらを一定水準以上でクリアできた方法を基礎として、この研究で利用する比較調査の方法を探究していくことになる。

ここで、調査の信頼性・比較可能性についてみると、通常の世論調査は一定の手続きにより抽出された調査対象者に対して、一定の形式の質問紙（票）を用い、一定形式の調査（測定）の過程により回答（情報）を収集する方式をとっている。特に、ここで取り上げる面接（聴取）法による世論調査は“質問に対する回答が次々に言葉による情報として得られ、それを一定の形式で記録するように構成された測定手法”である。

調査から得られる資料（情報）を利用するとき、あるいは調査から結論されたことを評価するとき、測定手法の信頼性および妥当性が問題にされる。測定における信頼性・妥当性の問題については種々述べられているのでここではふれないが、調査を一つの測定の道具として考えたとき、調査の全体は調査の各段階が相互に関連し合う複雑な一つのシステムを構成している。

面接調査のシステムは、調査企画者だけではなく、調査実施指導担当者、面接調査員および調査対象者等、多数の人々の間の合意と協力があって初めて成立するものである。この研究調査のように多数の国を対象として考える場合には、調査に関係するこれらの人々と調査システムの各段階とのかかわり方は多様であるから、信頼性、比較可能性を単純に考えるわけにはいかない。

調査結果の信頼性、比較可能性の程度は、

- ① サンプルの企画と調査対象者の抽出に関連した事項
- ② 面接調査員の訪問調査の努力などの調査実施に関連した事項
- ③ 情報収集手法、質問文、質問形式、および回答形式の作成に関連した事項
- ④ 調査員の質問提示、回答記録等調査実施に関連した事項

⑤ データ整理および分析に関連した事項

等の側面に関連して決まってくる。これらの事項は本来相互に関連し合っているので、どれ一つを取り上げるにも切り離して考えるのは問題もあるが、一応、サンプリング企画と調査対象者訪問の段階までの事項（①、②）と、情報収集手法と調査実施段階に関連した事項（③、④）とに分けて検討する。これは、それぞれ、上にのべた、a)、b)と密接に結びついている。

また、研究の対象となるそれぞれの社会で一様には考えられない事項も多い。まず各国で実施した調査の標本計画の大要をのべ、その多様性を具体的に示す

§ 1 標本調査のデザイン

1 経過

調査の対象として考える社会は、さきに述べた通り、ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、および日本の5カ国である。このうち、日本、アメリカについてはこれまで調査実施の経験があり、今回の研究調査実施計画においてもほとんど問題点はなかった。調査実施の時期とは逆になるが、以下、この二カ国についての概要から知る。日本調査の標本抽出計画とアメリカ調査の標本抽出計画とは、10年前の1978年に実施した日米比較調査の際の標本抽出計画とほぼ同様であり、安定した調査結果が得られるものと期待できる。(これについては後述する)。

一方、ヨーロッパの3ヶ国に対しては、これまで調査実施の経験はないが、1980年以降の研究交流の蓄積があり、現地の研究者および調査機関の研究者と調査実施に関する予備的検討を進め、慎重に準備を進めてきた。したがって、調査を計画実施する段階においてもほとんど問題はなく計画を円滑に進めることができた。

2 各国における調査の標本抽出計画

2. 1 1988年日本調査の標本抽出計画と調査実施の概要

日本の調査の場合は、対象となる社会の範囲、および対象者の範囲について、つぎのように定義すれば、標本抽出計画について極めて明確であり、何らの問題もないと考えられよう(注1)。

すなわち、表2-1の2の通りである。標本抽出計画は日本においては、まず、全国の行政単位を地方別(11分類)および人口規模別(4分類)に層別し、政令指定都市(11市)を各1つの層と考え、合計55層に層別する。つぎに、各層の18歳以上の人口を最近時の国勢調査資料および住民基本台帳資料により推計し、層人口に比例した割合で各層に標本($n=4500$)を割当てる。つぎに各層の割当標本数に応じて、1調査地点当り標本数が(10~15)になるようにして各層の調査地点数を算出する。つぎに、各層ごとに国勢調査の調査区を調査区特性で層別した資料から、各層に割当てられた必要な数だけの調査区(調査地点)を確率比例抽出する。

調査対象個人の抽出は、抽出された調査区の該当する市区町村の町丁字番地から各調査地点ごとに住民基本台帳を利用して、割当標本数を等間隔抽出する。

今回の1988年日本調査では、計画標本数4500で抽出地点数は、都市部：243地点、町村部：72地点 計315地点である。調査できた標本数はA調査2265、B調査1017、計3282で回収率は73%であった。(表2-1の5参照)

なお、標本抽出計画の詳細については本報告書 第4部〔Ⅲ〕および資料1：「1988年日本調査のコードブック及び付属資料」を参照のこと

第4部〔Ⅲ〕標本と翻訳の検討の§1には、1988年日本調査のうちA調査の結果($n=2265$)を用いて全質問項目の標本誤差等を算出している。また基本属性項目についてはA、B両調

査を合わせた（n = 3282）計算結果を示してある。この結果からみて、日本調査の調査データは代表性および標本精度について予期通りのものといえる。

国際比較研究を念頭においたとき、日本における標本抽出計画は、日本の社会のあり方にそって構成されており、その特徴は「日本人を母集団とする確率標本が容易に抽出できる」ということにある。

以下、他の比較調査対象社会における標本抽出計画を順に示すが、それらの諸計画と対比したとき、この点はよりはっきりしてくる

表2 - 1 「意識の国際比較方法論の研究」の日本全国調査 [調査概要]

1. 調査内容（くわしくは§ 2以下をみよ）

政治、社会、文化、及び生活に関する意識：75項目および属性項目
（うち26項目についてはスプリット方式）

2. 調査対象

- 1) 母集団 全国の満18歳以上の個人
- 2) 標本数 4,500人（A、B調査 2対1のスプリット割当）
- 3) 抽出法 層別2段無作為抽出法
- 4) 抽出枠 第1段：国勢調査の調査区、第2段：個人（住民基本台帳）

3. 調査時期

昭和63年10月6日～19日

4. 調査方法

調査員による個別面接聴取法

5. 回収結果

	全 体	A 調 査	B 調 査
・有効回収数	3,282人（72.9%）	2,265人（73.2%）	1,017人（72.4%）
・調査不能数	1,218人（27.1%）	831人（26.8%）	387人（27.6%）
・設定標本数	4,500人（100.0%）	3,096人（100.0%）	1,404人（100.0%）
転 居	114人（2.5%）	70人（2.3%）	44人（3.1%）
長期不在	105人（2.3%）	72人（2.3%）	33人（2.4%）
一時不在	436人（9.7%）	306人（9.9%）	130人（9.3%）
住所不明	33人（0.7%）	24人（0.8%）	9人（0.6%）
拒 否	499人（11.1%）	335人（10.8%）	164人（11.7%）
そ の 他	31人（0.7%）	24人（0.8%）	7人（0.5%）
計	1,218人（27.1%）	831人（26.8%）	387人（27.6%）

2. 2 1988年アメリカ調査の標本抽出計画

アメリカにおける標本調査の標本抽出計画のうち、日本との相違点は、アメリカでは、日本と異なり調査対象者全体を網羅して記載してあり、標本抽出台帳（リスト）として利用できるような名簿がないことである。したがって、調査地点として抽出された地域から、調査対象者個人を抽出するに当たり、調査対象に該当する者全部のリスティングをしなければならない。このようにして作成されたリストを利用して調査対象者の抽出をおこなうことになる。このため、標本抽出の過程が、日本の場合とくらべ、大変手間のかかる作業となる。このため、日本とは異なった標本計画が利用されることが多い。今回の1988年アメリカ調査で利用した標本抽出計画の概要を以下にのべる注2)。

母集団：アメリカ合衆国在住の18歳以上の成人一般市民（病院や刑務所など施設にいる人を除く）

地域の層別：つぎのように人口規模×地方による。

1) (都市人口規模)：アメリカ全体を1980年国勢調査資料に基づき都市人口規模別に次の7つの層に分ける

- a) 大都市圏の人口 100万以上の市（または複合した市）域
- b) 大都市圏の人口25万から99万9999までの市（同上）域
- c) 大都市圏の人口5万から24万9999までの市（同上）域
- d) 都市圏でそれ以外の市街地域
- e) 都市圏以外の人口2500人以上の市域
- f) 2500人以下の町村
- g) 町に含まれない農村部

2) (地方)：つぎにこれらの層を東部、中西部、南部、西部の4地方にわけ、各地方の区分は国勢調査資料の区分である。

このようにしてアメリカ全体は人口規模×地方の層に層別され、各層内を地理的順序に配列する。

調査地域の抽出：このように並べられた市郡人口を 180の等しい人口の層 (Zone) に分割し、各層から2調査地域を抽出する。

各地域の抽出は、その地域の1980年国勢調査資料の人口規模に比例した確率比例抽出法による

調査地点の抽出：ブロック統計が利用できる場所では、調査地域から調査地点として、ブロックあるいはブロックの組を確率比例抽出する。

それ以外の場所では、ブロックあるいは地域セグメントのランダム・サンプルをとる

各調査地点では、調査地点を含む地域の地図上に、抽出されたブロックを取り囲む道路をワク取りし、その道路上にランダムに調査出発点を選定し、それ以降の調査経路、および方向を図示する。(道順の矢印はあらかじめランダムにきめる。)

調査の実施：調査は出発点における住宅の居住者の調査から始め、指示された道順に従

ってそれ以降の調査を進め、初めに割り当てられた数の調査が終了するまで調査を続ける。

すなわち、調査は出発点の住宅から始め、在宅者のうち調査対象資格者（18歳以上）を世帯について1人だけ次つぎ調査していく方式をとる。

調査は、各人の在宅率を考え、在宅する可能性の高い週末・休日、それに平日の場合は女性に対しては午後4時以降、男性に対しては午後6時以降に訪問するよう調査員に指示してある。また不在者に対する再訪問をするよりも在宅率で加重する方式（注3）をとった。すなわち、在宅で調査できた対象者には調査前3日間の該当時刻（調査実施可能な時間帯）における在宅の有無を質問し、属性、地域による在宅率を推定し、不在による偏りを減少させる方式を用いた。

1988年アメリカ調査の標本抽出計画の詳細（抽出調査地域一覧、調査地点地図等を含め）については本報告書 資料5：「1988年アメリカ調査のコードブック及び付属資料」を参照のこと。

調査の概要：このようにして抽出された調査地点360地点のうち、計画標本数1500に対応する322地点について各調査地点当たり平均5人づつ面接調査した。

調査不備および調査実施後のチェックにより判明した不完全回答標本を除き、集計に利用したものは1563である。

2. 3 1987年ドイツ調査の標本抽出計画

標本抽出計画はドイツの場合もアメリカとほぼ同様である

母集団：ドイツの場合は標本抽出計画に利用する地区別有権者数の情報の関係で調査対象集団が16歳以上になっている。

1987年ドイツ調査の基本母集団はドイツ連邦共和国の10の州と西ベルリン（1987年当時の西ドイツ）の16歳以上の成人である。これらの地域に居住する16歳以上のドイツ人（外国人は除く）は1985年12月31日現在で4,686万2000である。

地域標本の抽出：標本抽出計画にはドイツ市場調査協会（ADM）がドイツの選挙人登録者資料をもとに作成しているADM-mastersampleを利用する。

ドイツ市場調査協会は、各調査機関ごとの標本計画にかえて、毎年、ドイツの選挙人登録者資料に基づく全国標本計画の方式を開発整備している。これは、地域、人口規模別層別による多段確率標本法による調査地域標本である。100組の地域標本が作成され、調査ごとに1組の地域標本を利用する。各組の抽出調査地域は全国の210地域（投票区）である。

調査地点内の標本抽出：調査地点内では、地点内の道路について、道路ごとの有権者数の大きさに比例した確率で、確率比例抽出し、その道路のランダム・スタートの番地から指定されたルートに沿って3軒目ごとに調査する。

世帯内では16歳以上の成人で、次の誕生日に関する情報から調査員ごとの乱数によって、世帯について1人を抽出選定し面接調査する、もし不在ならこの標本について訪問時刻をかえて2回までくり返し訪問し面接調査する。

1 調査地点平均5人の調査を完了するまで調査をおこなう。

調査の実施：調査は1987年10月10日から11月16日まで実施し、全体で標本1051の調査を完了した。訪問面接の状況をチェックし、4件は調査不備として除き、調査完了数は1047である。

このうち、比較研究において調査対象の年齢条件をそろえるため、年齢16、17歳の対象をはずした。1987年ドイツ調査の集計標本は1000である1987年ドイツ調査の標本抽出計画および調査実施に関して詳しくは本報告書 資料2：「1987年ドイツ調査のコードブック及び付属資料」を参照のこと

2. 4 1987年フランス調査の標本抽出計画

フランスでは 選挙人登録簿の資料等は、国（公共）の調査機関でなければ利用できない。したがって、アメリカ、ドイツ同様、確率地域抽出法により調査地域を抽出し、抽出調査地点では割当法（クォータ法）により個人を面接調査することになる。

母集団：18歳以上のフランス市民、（18歳以上人口は33,445,200人）

地域層別：最近時のフランス国立経済統計院（INSEE）の国勢調査データにより、全国を地方（9分類）と人口規模（4分類）で層別し、パリ大都市圏は別枠とする。

調査地点の抽出：地方×人口規模による36層およびパリ大都市圏の18歳以上の人口の大きさに比例して計画標本数（ $n=1000$ ）を割当てる、つぎに、1調査地点当りの標本数を（平均10）として調査地点数を求め、パリ地区以外では88地点を抽出した。パリ大都市圏には11地区（パリ地域は8地点）を割り当て、合計99調査地点を抽出した。

調査地点内の個人の抽出：調査地点内の個人の抽出（選択）は各層における母集団の性、年齢、世帯主の職業の各属性の最近時の国勢調査データによる構成比率にしたがって割り当てる。

調査の実施：調査は1987年9月28日から10月16日の間に面接調査法で実施された。調査完了標本1020のうち調査状況のチェック等により7件を除き集計サンプルは1013である。調査完了標本の属性別構成を国勢調査のそれと対比すると次の表のようになり調査は良好に完了したといえる。

1987年フランス調査の標本抽出計画については、本報告書 資料3：「1987年フランス調査のコードブック及び付属資料」を参照のこと

表2-2 標本の属性別構成

属性	1987年フランス調査		国勢調査
	標本数	構成比	の構成比
	N	%	%
Sex			
Men	472	46.6	47
Women	541	53.4	53
	1013	100.0	100
Age			
18-24	154	15.2	14.3
25-34	245	24.2	22.0
35-49	253	26.0	23.7
50-64	212	20.9	21.9
65 ans et plus.....	149	14.7	18.1
	1013	100.0	100.0
Occupation of head of household			
Farmers.....	52	5.1	6.0
Shopkeepers, craftsmen	71	7.0	6.6
Executives and business men...	94	9.3	9.3
White collars.....	280	27.6	24.5
Blue collars	236	23.3	25.6
Non active, pensioned, etc ...	280	27.7	28.0
	1013	100.0	100.0
Size of locality			
Rural.....	262	25.9	28.2
2.000-20.000	166	16.4	16.0
20.000-100.000	131	12.9	13.0
100.000 (except Paris)	288	28.4	27.4
Paris agglomeration.....	166	16.4	15.4
	1013	100.0	100.0

2. 5 1987年イギリス調査の標本抽出計画

イギリスでは、毎年更新される基本選挙人登録簿が大英博物館の資料部で公開されているので、用途、目的等を記して閲覧を申請すれば誰でも閲覧できる。しかし、全国の開票区、投票区ごとの選挙人名簿を集積し整備するのは時間がかかる。したがって、最近時の名簿を利用した標本抽出計画を立てるとき、この点を考慮する必要がある。

1987年イギリス調査の標本抽出計画は確率標本法（層別2段抽出）によって実施した。

母集団：イギリス（Great Britain）在住の18歳以上の有権者

地域の層別：国勢調査データによる分類システム（国勢調査の調査区特性）により地域を層別する

層の決定と調査地点の抽出：層別は地方別と上述の地域特性格の組合せによる。各層に層人口に比例して150地点を比例割当し、各層から国勢調査の調査区（CED）を確率比例抽出する。

（CEDは平均150世帯）

個人の抽出：抽出されたCEDの該当する地域の選挙人登録簿から1調査地点当たり10サンプルを系統抽出して、氏名、住所を受持簿に転記する

調査の実施：各調査員は受持名簿に記された調査対象者につきつき面接する。しかし、選挙人登録簿が作成されてから日時が経過しているため、死亡、移転、地域の再開発等のため該当者がいない場合や住所が不明の場合がある。この時は調査地域から同一住所への転入者などをリストアップして代替標本とする（全調査対象のうち10%程度になる）。

調査拒否が予想以上に多くなり、調査完了数は1049であった。

これから属性別のクロスチェック等により調査不備と判明した6件を除き、集計に利用した標本数は1043である。

1987年イギリス調査の標本抽出計画については、本報告書 資料4：「1987年イギリス調査のコードブック及び付属資料」を参照のこと。

以上、各国の標本抽出計画の概要をのべた。

研究調査の対象となったそれぞれの社会において通常実施されている継続調査の標本抽出計画とは同一水準の計画である。

各国における標本の代表性についてみると、各国の調査結果の一次的属性分析によって国勢調査結果と比較し、計画した水準を達成していることがわかる。（資料1～5参照）

§ 2 質問票の決定と翻訳の問題

この章では 先にのべたb) 調査項目の選択 に関連することをとり上げる。

まず、この研究調査に利用する調査項目の質問内容・項目を具体的にきめることを考える。つぎに、これらの質問項目の翻訳の問題について、調査法の観点から検討する。とくに、日本的なニュアンスの含まれている項目の翻訳、および外国で利用されている質問項目の和訳における翻訳質問文の微妙なユレの影響の問題について考察する。さらに調査の実施に関連した質問形式（調査員の質問提示の仕方）、および回答形式、回答記録様式等の問題について検討する。

1 Link Analysis に基づく質問内容・項目の決定

第1部の§3 国際比較研究の基本構想で示した連鎖的調査方法における質問票の構成を具体化することを考える。

まず、比較の対象となった各社会における継続調査のうち、われわれの研究調査の内容と関連すると考えられる調査をとり上げ調査項目を検討することにした。

とり上げた調査は、日本以外では、

アメリカ：① シカゴ大学の全米世論調査センター（NORC）が1972年以来毎年実施している一般社会調査（GSS）、（この調査は国立科学財団（NSF）および、社会科学の研究者による一般社会調査実施委員会により実施されている。）（最新のコードブックはDavis, J.and Smith, T.(1990)）

② ミシガン大学社会調査研究所（ISR）が1954年以来1年おきに実施している全国調査、（Converse, P.他（1980））および「アメリカ人の生活の質に関する研究調査」（Campbell, A.他（1976））このほか、毎年、ISRが実施している政治、経済に関連した調査

イギリス：アメリカの一般社会調査と類似のイギリス一般社会調査、1984年から毎年実施（Jowell らによる（1984））

ドイツ：ZA（ケルン大学中央データ・センター）およびZUMA（調査・方法・解析研究センター）が1980年以降隔年に実施している一般社会調査（ALLBUS）。調査項目はほぼアメリカの一般社会調査（GSS）と比較可能な項目となっている。（Lepsuis, Scheuchら（1980、82、84、86））

フランス：CREDOC（フランス経済研究所）が1978年以降毎年実施している一般社会調査（Lebart, L.(1986)）

ヨーロッパ共同体調査：1973年以来毎年2回ずつEC加盟国で実施されている。この調査項目のうちから 一般社会調査の項目と考えられる項目（ユーロバロメーター調査報告 毎年2回発行）

この他、継続調査ではないが、国際比較調査として、

EC諸国およびアメリカを対象とした「基本的価値優先順位の変化および政治参加様式の変化の研究調査」（Inglehart, R.(1977)）

ヨーロッパ価値観調査（1981）（Stoetzel, J.(1983)）

13カ国価値観調査（1980）

等が主なものである。

これらの諸調査で調査されている質問項目についての情報を、報告書、コードブック、調査票、集計用のデータテープ等の形で集積し、質問文と調査結果のカード作成、データの二次的再分析等により集約・整理した。

この結果により、意識の国際比較方法論の研究に利用する質問項目のうち、日本以外のものの大要をつかむことが可能となった。

A) 質問項目の選択：

- ① 日本の継続調査として、「日本人の国民性調査」をとり上げる、これは統計数理研究所国民性調査委員会が1953年以来5年おきに実施しており、継続質問項目が多数含まれる（Research Committee, (1982)）
- ② ハワイ・ホノルル日系人調査（1971-72年）およびハワイ・ホノルル一般市民調査（1978、1983）も日本←→アメリカの連鎖的比較調査として欠かすことはできない。これらの調査の質問項目のうち日本人の国民性調査および次の1978年アメリカ調査と共通の質問項目は連鎖的比較研究にとって重要である（林・鈴木（1986）、Hayashi, Suzuki（1991））
- ③ 1978年アメリカ調査の質問項目も、連鎖的比較調査の安定性、信頼性を検討するために重要である。また、アメリカの‘ものの考え方’の特徴を考える上で重要である。とくに①にあげた、国民性の調査の質問項目は、日本の‘ものの考え方’の特徴をみる上で、重要であり、また、つぎのような点でも重要である。
 - I) 日本における1953年から30年以上にわたる変化の過程を検討することが可能な継続質問項目を多数含んでいる。
 - II) これらの質問項目の多くは1978年アメリカ調査および数回にわたるハワイ・ホノルル調査でも比較調査されている
 - III) 1983年の国民性調査ではフランスのCREDOC調査と比較研究をおこなった質問項目（20項目）を含んでいる。これらは、フランスの‘ものの考え方’の特徴を考える上で重要である。

以上のことを考えに入れて質問項目の選択を進めた。

調査にとり上げた具体的な質問項目については、一つ一つここでは述べないが、質問項目として取り上げたものを大別して示すと以下ようになる。

すでにのべたように、この連鎖的比較調査では比較の柱として、比較の対象となる各社会で共通に考えられる質問項目の組を考えている。

これに対応するには、それぞれの社会で性質のよくわかっている質問項目の組をとり上げ、その共通部分を考えていくことになる。これらの質問項目は各社会（国）における継続調査の質問項目の組について具体的に検討することにより選定した。

これらの質問項目は

- a) 近代化社会あるいは脱工業社会における‘ものの考え方’の側面を調べる形の質問群および

b) 近代化あるいは高度産業化社会における社会環境に対する一般の人々の考え方を、

① 生活の質 (QOL) の一般的評価

② 生活各側面に対する満足度、(あるいは不安感)

等について調査する項目であり、各社会における一般の人々の現代社会に対する基本的な評価の一側面を検討することが可能な形の質問項目の組が主なものである。

つぎに、これらと関連づけて各社会の固有のものを考える質問項目の組をとり上げる。

これらは、各社会 (国) における継続調査の質問項目のうち、それぞれの社会で基本的な 'ものの考え方' の側面を測るものとしてくり返し調査されている質問項目の組であり、ある社会ではスケールを構成する質問群であるし、別の社会では 回答パタンの相互関連分析により、その社会の 'ものの考え方' の特徴を示すものとして析出されてきた質問項目の組である。

このように各社会で共通に考えられる質問項目の組と、どちらかといえば、それぞれの社会における 'ものの考え方' の特徴を示すと考えられる質問の組とがあるが、ここではこれらを合わせて、各社会ごとに大局的にまとめてみる。

日 本 : 日本人の国民性調査のうち、質問相互の関連分析からみて日本的な 'ものの考え方' のシステムをよく示していると考えられるもの、

① 一般的な人間関係 (いわゆる義理人情) に関連する質問項目の組

② 各種の組織、社会のしきたり、制度等についての考えをみる質問項目の組 (日本ではとくに伝統←→近代の対立概念を含む質問項目の組として考えられ、日本的な 'ものの考え方' の特徴を示すとされるもの)

③ くらし方、自然観 等の質問項目の組

等である。これらのうち、①、②はハワイ・ホノルル日系人調査において、日本人とハワイ日系人の間における差異および関連性のあり方を具体的に描き出すことができ、さらに1978年、83年のハワイ・ホノルル市民調査および1978年アメリカ調査において、より一層具体的に日本とアメリカの同異のあり方を示すことができた項目の組である。(第I部 §3. 参照)

アメリカ : 1978年アメリカ調査のときとり上げた項目は、主にアメリカの 'ものの考え方' をみるため調査したが、これらの項目の多くはアメリカ的な 'ものの考え方' の特徴を示すと考えられ、アメリカとヨーロッパとの同異のあり方をみるために利用できると思われる。これらは

① 信頼感スケールの質問項目の組

② 一般社会調査 (GSS) で利用された '仕事観'、'一生働くか' 等の質問群

③ EC諸国との比較調査に利用された質問項目

等である。

とくに②、③の諸項目はEC諸国で比較調査されているものがあり、これらの質問項目をとり上げることにした。

ドイツ : } ドイツのALLBUS調査およびイギリスの一般社会調査は、すでにのべたよ
イギリス : } うに、アメリカの一般社会調査 (GSS) と共通するものが多いので、GSS
に含めて考えた。また、ドイツ、イギリスについてはEC諸国で実施されて
いる調査から共通に考えることにした

ヨーロッパ共同体（EC）調査：

ユーロバロメータ調査のうち、一般社会調査の項目（アメリカの②、③と重なるものあり）および‘政治関心’、‘保守か革新か’、‘民主政治に満足か’、‘社会は変えるべきか’等の政治に関連する質問項目の組等を取り上げた

フランス：フランスからはCREDOC調査の質問項目のうち、①フランスの‘ものの考え方’の特徴を示し、しかも回答パタンの相互関連分析でフランスの属性別にみた‘ものの考え方’の構造をよく示している質問項目の組（20項目）、および、②フランスの‘ものの考え方’の経年変化分析にとって有効な項目（この中には①の項目も含むので、それを除き8項目）

等となる。

これらの継続質問項目に加えて、科学技術に関する日米比較調査（これは1990年にEC諸国でも質問された）から2項目を取り入れた。

また、異なる社会の比較調査には、質問項目の回答選択肢をあらかじめ作成した質問形式ばかりではなく、各社会における自由な発想を重視する考え方も重要である。この目的のため自由回答法の質問項目を2項目とり上げた。自由回答法の質問は調査結果の整理・分析に問題が多いと考えられ、これまで比較調査ではとり上げられなかったが、組織的な分析方法も開発されつつある（Lebart, L.(1988)、鈴木・村上（1990））。（自由回答の結果は本報告書第4部〔Ⅱ〕に示す。1988年日本調査の自由回答については一部の分析例を示し、他の国の調査の自由回答の結果はそれぞれ、原文と翻訳を対照して示してある。）

以上選択した質問項目について5カ国調査に利用する翻訳調査票を作成し、プリテストにより、翻訳の可否、実施可能性（各国で質問の趣旨が理解できるか、異和感なく受けとられるか、疑問点はないか等）を検討するとともに、質問項目の数、分量等の面から調査の可能性を検討し、質問項目の取捨選択をおこない最終的な調査票を確定する手続きをとった。（各国で実施した調査票（質問文）は本報告書 第4部〔Ⅳ〕：「5カ国調査の質問文対照一覧」等を参照のこと）

本調査で使用した質問項目の原出典をまとめるとつぎのようになる。

意識の国際比較方法論の研究

1987年ヨーロッパ3カ国調査 } 質問項目出典一覧*
 1988年アメリカ、日本調査

	原質問項目	調査	項目数 (延項目数)		他調査との重複等	
継 続 調 査	日 本	国民性	30	(34)		
	アメリカ	ISR	6	(6)	GSS (2)	EC (2)
		GSS	1	(1)		
	フランス	CREDOC	23	(53)	ALLBUS (2)	GSS (3)
	E C	Eurobarometer	5	(5)	ALLBUS (1)	
比 較 調 査	1978	アメリカ調査	4	(4)	ISR (2)	EC (1)
	1987	科学技術調査	2	(7)		
新			2	(2)		
	政治の質問項目 は各国異なる		2	(4~6)		
	合 計		75	$\left\{ \begin{matrix} 117 \\ \\ 119 \end{matrix} \right\}$		

*各項目ごとの詳しい原出典、履歴の一覧表は第3部〔IV〕調査票と総括表にある

B) 基本属性項目の選択：

調査結果の分析検討には、それぞれの社会を構成する人々を分割する社会階層として、どのような属性項目、あるいはどのような社会的・地域的構造を考えて分析を進めていくのがよいか問題になる。

このとき、比較の対象となるそれぞれの社会にとって、共通に利用可能な社会階層を取り上げて比較するのがよい。属性項目は、比較の対象となった社会の間で共通性の高い、相互に共通理解の得られる項目であり、さらに、それぞれの社会で一般の人々の間に具体的なイメージが存在し、調査実施過程において一義的に解釈されうるような項目（分類）であることが比較分析上望ましい。

これらの点を考えて、次のような項目：

個人属性：性、年齢、これに 学歴、家族構成等

社会経済的属性：職業、収入、および 住居の種類等

地域、環境属性：居住地の地域別、都市規模別 等

その他の属性的項目：地域層別特性 等

等を調査項目に含めている。多数の社会に対する国際比較研究上注意する必要があることは

- ① ここで比較の対象と考えている5カ国についてみるだけでも、共通に考えられる項目は、個人属性の「性」、「年齢」だけであること
- ② 「学歴」はそれぞれの社会（国）の制度と関連しているので、ごく粗い分類による比較しかできない。（収入も同様）
- ③ 都市規模別（都市↔農村）の比較は②より問題があると考えられる。

したがって、属性別および基本項目別分析として共通には、「性別分析」および「年齢別分析」のみをとり上げ、第4部〔I〕「各国毎の性別、年齢別集計」としてとりまとめて示した。また資料6の5カ国調査の共通ファイルコードブックに示したように、「性」、「年齢」以外の基本属性項目のコードは共通になっていないので注意が必要である。

*注1) しかし、現実には、いくつかの問題があり、これらの問題点については標本抽出計画の問題として別に検討されている。

たとえば、鈴木・高橋（1991）：「標本抽出の計画と方法」放送大学教育振興会、p225-p249.

*注2) アメリカの標本調査の標本抽出計画を日本のそれと対比し検討したものは、第4部〔III〕§1に示してある。

*注3) Politz, A. and Simmons, W., "An Attempt to Get the "Not at Homes" into the Sample without Callbacks", JOURNAL OF THE AMERICAN STATISTICAL ASSOCIATION, Volume 44, (March, 1949), pp.9-31.

REFERENCES

- Campbell, Angus, Philip E. Converse and Willard L. Rodgers. (1976) The Quality of American Life. New York: Russell Sage Foundation.
- Converse, P. E., J. D. Dotson, W. J. Hoag and W. H. McGee III. (1980) American Social Attitudes Data Source Book 1947-1978. Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- CREDOC (Centre de Recherche pour l'Etude et l'Observation des Conditions de Vie). (1982). Situation et perception des conditions de vie et qualité de la vie des Français. Paris: CREDOC. (in French)
- Davis, James A. and Tom W. Smith. (1986). General Social Surveys, 1972-1986: Cumulative Codebook. Chicago: National Opinion Research Center.
- Hayashi, Chikio, Sigeki Nishihira, Kikuo Nomoto and Tatsuzo Suzuki. (1973). Hikaku Nipponjin Ron [Comparative Studies on Japanese]. Tokyo: Chuokoronsha. (in Japanese)
- Hayashi, Chikio and Tatsuzo Suzuki. (1984). Changes in belief systems, quality of life issues and social conditions over 25 years in post-war Japan. Annals of the Institute of Statistical Mathematics 36: 135-61.
- Hayashi, C. and Suzuki, T. (1986). Data Analysis for Comparative Social Research: International Perspectives. Tokyo: Iwanami. (in Japanese).
- Hayashi, Chikio, Tatsuzo Suzuki and Fumi Hayashi. 1984. Comparative study of lifestyle and quality of life: Japan and France. Behaviormetrika 15: 1-17.
- Hayashi, C., Hayashi, F., Suzuki, T., Lebart, L. and Kuroda, Y. (1985). Comparative Study of Quality of Life and Multi-dimensional Data Analysis; Japan, France and Hawaii. Fourth International Symposium, Data Analysis and Informatics (Versaille, France, Oct., 1985). INRIA, 573-583.
- Inglehart, Ronald. (1977). The silent revolution: Changing values and political styles among Western publics. Princeton: Princeton University Press.
- Inglehart, Ronald. (1990). Culture Shift in Advanced Industrial Society. Princeton: Princeton University Press.

- Japan Prime Minister's Office, Public Relations Office (1987). Public Opinion Survey of Science, Technology and Society. (in Japanese)
- Jowell, R. and Airey, C. Eds. (1984). British Social Attitudes: The 1984 Report. England: Gower, Hants.
- Lebart, L. (1986) Sept ans de Perceptions: Evolution et Structure des Opinion en France de 1978 a 1984. Paris: CREDOC.
- Lebart, L., Y. Houzel-van Effenterre, C. Castro, C. Duflos, F. Gros, P. Pleuvret and P. Reynaud. (1980). Le système d'enquêtes sur les aspirations des Français: une brève présentation. No. 1. Paris: Consommation, CREDOC. (in French)
- Lebart, L. and Salem, A. (1988). Analyse statistique des données textuelles. Dunod, Paris.
- Office of World Value Conference. (1980). Data Book of Value Surveys among 13 Nations.
- Research committee on the study of the Japanese national character (1977). Changing Japanese Values, Tokyo: The Institute of Statistical Mathematics.
- Science and Engineering Indicators (1987). "Public Attitudes Toward Science and Technology." in Science Indicators, 1987. Washington D. C. : National Science Board, Chapter 8.
- Stoetzel, Jean. (1983). Les Valeurs du Temps Present: une enquête européenne. Paris: Presses Universitaires de France.
- Suzuki, T. (1970). A study of the Japanese national character, Part IV-Fourth Nation -Wide Survey. Annals of the Institute of Statistical Mathematics. Suppl. 6, 1-80.
- Suzuki, T. (1984). Ways of life and social milieus in Japan and the United States: A comparative study. Behaviormetrika. 15, 77-108.
- Suzuki, T. and Leghorn, R. Y. (1985). Age, sex and cohort: Explicating social change in post-war Japan. Behaviormetrika. 18, 1-16.
- Suzuki, T et al. (1972). A Study of Japanese-Americans in Honolulu, Hawaii. Annals of the Institute of Statistical Mathematics. Sup. 7.

The Commission of the European Communities (1988). Eurobarometre. Brussels: The Commission of the European Communities.

Tokei-suri Kenkyujo kokuminsei chosa iinkai (Research committee on the study of the Japanese national character) (1961). Nippon-jin no Kokuminsei (Japanese National Character). Tokyo: Shiseido.

Tokei-suri kenkyujo kokuminsei chosa iinkai (Research committee on the study of the Japanese national character) (1970). Daini Nippon-jin no Kokuminsei (Japanese National Character, Vol. II). Tokyo: Shiseido.

Tokei-suri kenkyujo kokuminsei chosa iinkai (Research committee on the study of the Japanese national character) (1975). Daisan Nippon-jin no Kokuminsei (Japanese National Character, Vol. III). Tokyo: Shiseido.

Tokei-suri kenkyujo kokuminsei chosa iinkai (Research committee on the study of the Japanese national character) (1982). Daiyon Nippon-jin no Kokuminsei (Japanese National Character, Vol. IV). Tokyo: Shiseido.

ZA. (Zentralarchiv für Empirische Sozialforschung) (1982, 1984, 1986). Codebuch mit Methodenbericht und Vergleichsdaten (ZA-Nr.1000 ALLBUS 1980, ZA-Nr.1160 ALLBUS 1982. data codebook). Köln: Universität zu Köln.

2 翻訳と再翻訳

意識の国際比較研究では、調査票にとり上げる質問項目の翻訳等、言語上の問題を検討することが重要である。

質問項目はすでにみたように

- ① 日本の調査結果がすでにあり、これを比較の対象となる社会で調査して比較する場合
- ② 逆に比較の対象となる社会における調査がすでにあり、それを今回の比較調査にとり上げる場合
- ③ 今回の比較研究調査のため作成した新しい質問項目

の3種類になる。いずれの場合も質問文は比較の対象となる社会（国）の言語（日本語、英語、フランス語、ドイツ語、米語）の質問文が必要で、それぞれの言語による質問文には調査実施上、測定手段としての同等性が必要となる。

これを検討するには

- A：翻訳→再翻訳の過程を通して同等性を検討する－（これは言語上の同等性である）
B：翻訳の適否を検討吟味する調査をおこない、調査結果に基づく同等性の検討をする－（これは実際の調査場面における同等性の確保に通じる）

等が考えられる。（1978年日米比較調査の際の検討手順について 詳しくは、林・鈴木（1986）「社会調査と数量化」第Ⅱ部を参照のこと）

まず、質問文の翻訳、検討、および調査票作成の経緯や検討した手順について、概要を示す。

- ① § 2.1でのべたように調査に取り上げる質問項目（具体的な質問文、回答選択肢の文）を選択した
- ② それぞれの質問項目について、対応する日本語の訳文、および英語の訳文を作成し、これを比較調査のため他の各国語に翻訳する元になる質問文とした（この多くはすでに1983年ハワイ・ホノルル市民調査および1978年アメリカ調査に利用した質問文であり、その他の質問文は、GSS調査のもの、あるいはEC調査のものがあり参考とした。フランスからの質問文はフランス語質問文に英語の訳文をフランス側で作成したものを参考にした）
- ③ この比較の元となる質問文を、イギリス、フランス、ドイツの調査機関でそれぞれ自国調査用の質問文に翻訳した
- ④ これらの質問文をそれぞれ日本語に翻訳し、比較検討した（Aタイプの検討）
- ⑤ この検討結果により各調査機関と問題点を協議し、プリテスト用の調査票を作成した（プリテストでは、翻訳質問文の理解度等のチェック、たとえば、用意された回答選択肢以外の回答の出方—すなわち、質問文の内容がはっきりしているかどうかという明確さの程度、あるいは調査員の回答処理の仕方、調査対象者が回

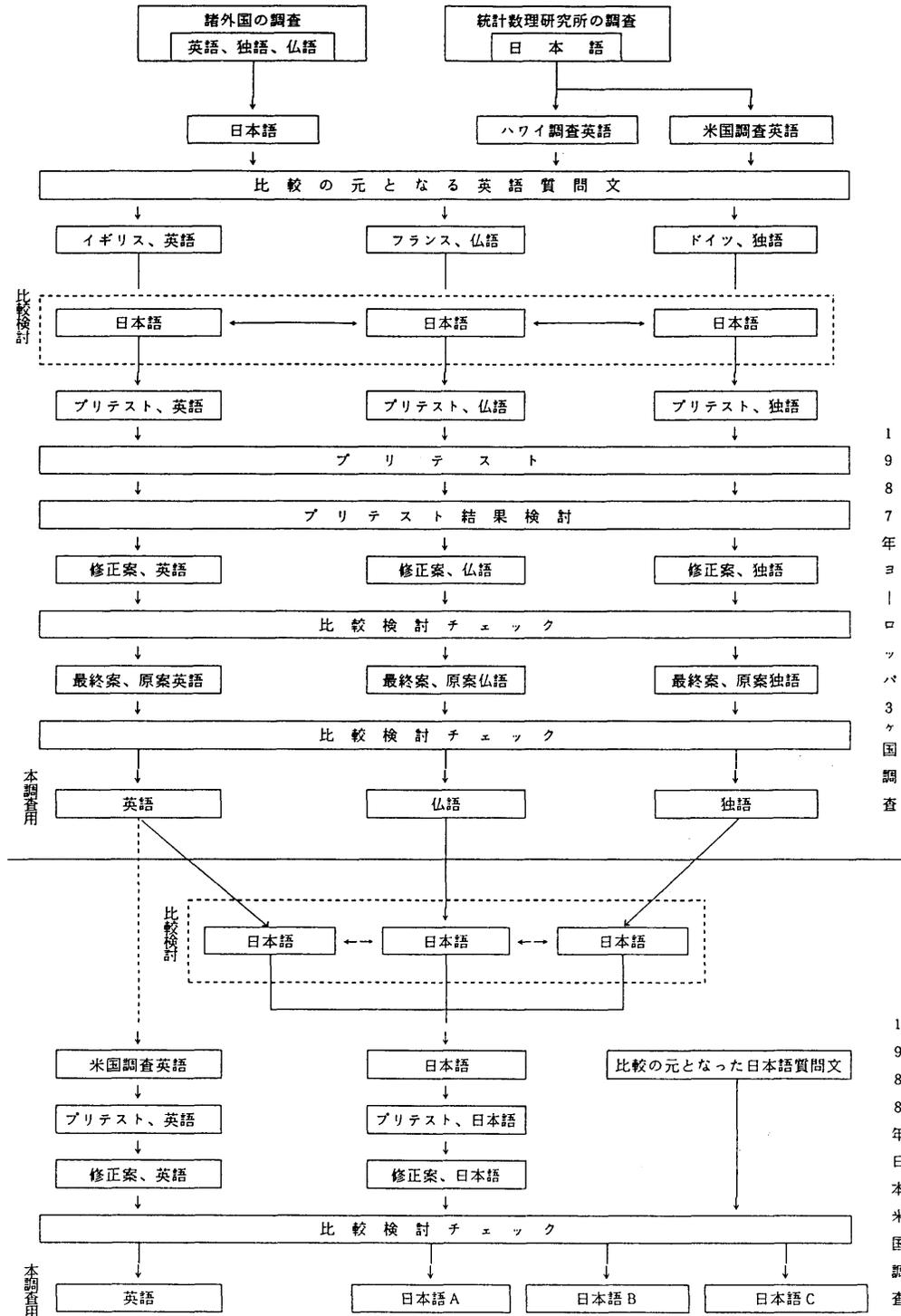
答するまでにどのくらい考えたか一等について検討すると共に、いくつかの質問項目では翻訳質問文を二種類作成して、どちらがよりよいかを検討した。また、質問順序をかえた二種類の調査票を作成し、どちらの順がよいかも合わせて検討した（これはBタイプの検討と考えられる）

- ⑥ プリテスト調査結果を各国調査機関の担当者が持ちより、研究者と合同検討会を開いた。質問文、回答選択肢、質問提示方法について一項目ずつ検討をおこない、修正案を作成した
- ⑦ 各国の修正案を比較検討すると共に各調査機関の担当者も相互に調査票修正案を検討し、質問文の中の不用意な翻訳ヶ所の修正、および回答選択肢の同等性の検討および質問提示方法（回答をよみ上げるか、回答用リストあるいは回答用手持カードを回答者に提示するか等）のチェックをおこない、最終案を作成した
- ⑧ 各国の最終案について比較検討をおこない、イギリス、フランス、ドイツの3国における調査を実施した
- ⑨ これらの3カ国で使用した英語、フランス語、ドイツ語の各質問文を日本語に翻訳し、相互に比較検討すると共に、比較調査の元である日本語質問文とそれぞれの翻訳文を比較検討した
- ⑩ この結果、多くの質問項目では、比較の元である日本語質問文と実際に各国で調査した質問文の日本語への再翻訳質問文はよく合っていると考えられ、また、各国相互の比較においてもよく合っていると考えられた
- ⑪ しかし、比較の元である日本語質問文と各国で実際に調査した質問文の日本語への再翻訳質問文とが多少異なっており、しかも、各国で実際に調査した質問文の間ではあまり差はなく、よく似ているという場合がみられた
- ⑫ また、いくつかの質問項目では、各国の質問文の日本語への再翻訳文に多少の違いがみられた
- ⑬ したがって、⑪、⑫のような質問項目については、日本調査において、日本語調査票をA、Bの二種類作成し、翻訳 \leftrightarrow 再翻訳の過程における質問文（回答選択肢の翻訳も含む）のユレの影響を検討することにした
- ⑭ 1988年日本調査の日本語調査票は上にのべたようにA、B二種類としたが、この際、1978年日米比較調査（および1983年ハワイ・ホノルル市民調査）以来問題が提起され未解決になっていたいくつかの問題点も合わせて検討することとした（これについては節をあらためてのべる）

以上のような手続きにより、5カ国比較調査をおこなった。質問文の検討、調査票作成の経緯についてその手順をフローチャートの形に整理してみるとつぎの流れ図のようになる。

特別推進研究「意識の国際比較方法論の研究」

－ 質問文の検討、調査票作成の経緯 －



1
9
8
7
年
ヨ
ー
ロ
ッ
パ
3
ヶ
国
調
査

1
9
8
8
年
日
本
米
国
調
査

上でとり上げなかったアメリカ調査については、比較の元になる調査票として、1978年アメリカ調査の調査票および1983年ハワイ・ホノルル調査の調査票があるので、これを基礎とし、今回の5カ国比較調査で新しくつけ加えられた質問項目の質問文はイギリスで利用した質問文を参考とした。アメリカの調査機関の担当者と協議し、プリテスト調査票を作成した。プリテストの結果、アメリカ調査用の調査票を確定した。この際、1978年アメリカ調査と今回の調査と共通する質問項目について、その質問順序が異なるところがいくつか存在し、問題となったが、プリテストの結果、今回の国際比較調査の質問順でよいことになり最終調査票は5カ国共通の順である。

注1 Aタイプ of 検討の手順の一部 (林・鈴木 (1986)「社会調査と数量化」岩波書店 p18-19)

a) 検討の手順

検討の手順を図式的に示すと、図 II-8 のようになる。

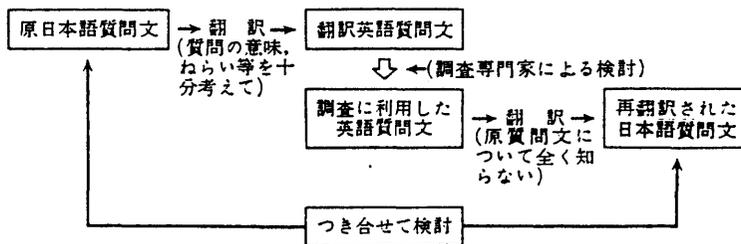


図 II-8 質問文翻訳検討の手順

すなわち、原日本語質問文を英語に翻訳する場合には、英語に翻訳した質問文が、英語圏では調査可能になるように考えており、調査実施に当たっては、実際の調査経験豊かな専門家による検討を加えて調査票にまとめている。

したがって、この実際に利用した英語調査票にある質問文が、もとの日本語調査票の原質問文と同等であるかどうかの問題となる。この問題を検討する一つの方法がここで述べている質問文の翻訳⇔再翻訳による検討になるわけである。再翻訳の場合は調査に利用した英語質問文を原日本語質問文を全く知らない翻訳の専門家に、できるだけ英文に忠実に翻訳してもらい、このようにして日本語に再翻訳された質問文を原質問文とつき合せて検討することにした。このとき、

- 1) 質問の意味は損なわれていないか？
- 2) 質問のねらいが損なわれていないか？
- 3) 日本文として両者のくい違いはどうか？
- 4) 言外の意味、ニュアンス等のくい違いはどうか？

等について検討した。

3 和訳の問題点、質問票の決定

国際比較研究をおこなうとき、①日本が「元になる調査票」の原案を作成し、これを、比較の対象となる各社会（国）で利用する調査票に翻訳して調査を実施するという場合、あるいは、②諸外国で実施された調査と比較するために、それらの調査票の質問文を日本語に翻訳して、比較調査に利用する場合、このどちらの場合にも問題になることは多いが、とくに、つぎのような点はいつでも問題になる。

- ① （賛成あるいは反対などの回答をさらに細かく分けて）程度をきく場合
〈例〉‘賛成’、‘反対’の回答を‘非常に賛成’、‘やや賛成’…‘やや反対’、‘非常に反対’等とするときの翻訳…これは多くの場合は外国語の調査票から日本語に翻訳して比較調査をするとき問題となる。

- ② 何かと比較するときの質問文等
〈例〉問 あなたは健康な方ですか？など…これは「あなたは、あなたと同じ年代の人とくらべて健康な方ですか？」、あるいは「あなたは、世間一般人（ほかの人）とくらべて健康な方ですか？」等の形で英語等に翻訳される…比較調査のとき問題が生じる可能性がある。

- ③ 日本的な色彩の強い表現のとき
〈例〉‘恩返し’‘恩人’‘親孝行’等を英語等に翻訳するとき、その質問文に沿った形で説明を加え、理解し易くする形にする…これは比較調査のとき注意が必要になる。

- ④ 外国の質問文を翻訳して比較調査するとき、直訳調の質問文ではなく、多少意識あるいは翻案して利用する場合、（質問文を日本語らしくして調査の実施を容易にする意図で）…これも比較調査のときは注意する必要がある。

しかし、これらの問題点が、実際に比較調査のときの障害になるのかどうかは、これまでに、ほとんど研究はなく、内容的にはっきりしていない。今回の比較調査では、前節の質問文作成の経緯でもふれたように、日本調査を実施するまでに2回 翻訳←→再翻訳の検討をおこなっている。そこで出て来た問題点を集約・整理し、いくつかの質問項目については、「比較の元になった質問文及び回答選択肢」と「再翻訳された質問文及び回答選択肢」とを対比して、比較検討できる形の調査計画を立てることにした。ここで考慮した検討事項は、上にのべたことに対応して、

- ① 程度を表わす副詞の有無

- ② 何かと比較するときの比較の対象を質問文にいれるかどうか

- ③ 日本的な色彩をもつ質問文の文章をふつうの説明文でおきかえる

④ 意訳、翻案の程度の強い質問文を翻訳調に戻してみる

等のほか、1978年アメリカ調査の際の翻訳検討以来、懸案となっていた「子供に金は大切と教えるか」の質問項目の、「金は最も大切」と教えるという文を、「金は最も大切なものの一つだ」と教えるという形にして比較検討することにした。(1978年アメリカ調査では…the most important…としたが、今回は…one of the most …とした) この他、日本語→英語(フランス語、ドイツ語)→日本語の翻訳の過程で変わってしまった質問文も検討することにした。

このようにして、1988年日本調査ではA型、B型2種類の調査票を作成して〈翻訳のユレ〉ともいべきものを比較検討できる形の調査とした。このうち、A型は比較対象の4カ国の調査票の質問文の翻訳に近い形の質問文を利用し、B型は元の形の質問文を利用した。翻訳の問題を比較検討する質問項目は24項目になり、この他、翻訳の検討以外の質問文の文章あるいは回答選択肢の文章の検討のため2項目を加えた。したがって、1988年日本調査の2種類の調査票A、Bで質問文の異なる質問項目は26項目になる。これらの質問項目は一つ一つ上げないが、質問文あるいは回答の異なるところを示した一覧表を示しておく。どの質問項目が、上にのべたどの検討事項に該当するか等詳しくは「第4部 [Ⅲ] 標本と翻訳の検討 §2翻訳の検討」の項にゆずるが、A型、B型の質問項目(質問文及び回答選択肢)を対比し比較検討すると、調査結果が同じようになる項目もあり、異なるところもあり、その程度もさまざまで、「翻訳のユレ」の問題は抽象的・観念的議論は避けるべきであることがわかる。

ここでは、一覧表により各質問項目と検討事項との関連を例示しておく。

検 討 事 項	質 問 項 目
① 〈程度〉	問1, 問2, 問3 (問16)
② 〈比較の場合〉	問11,
③ 〈日本的文脈の説明〉	問12, 問35, 問45, 問47, 問49 (問64)
④ 〈意訳・翻案〉	問20, 問23, 問30, 問39 問46, 問51, 問52, 問53 問71
その他	1) 最も大切→最も大切なものの1つ…問33 2) 調査実施上生じたもの…(問16), 問17, 問34, 問44,(問64)
	翻訳検討とは関係ない項目…問22, 問73

日本調査A、Bで質問文が異なる質問

			A	B
問1	#7.30B	日本人の生活水準	1 非常によくなった 2 非常にわるくなった	1 よくなった 2 わるくなった
問2	#7.30A	生活水準10年の変化	1 非常によくなった 2 非常にわるくなった	1 よくなった 2 わるくなった
問3	#7.31	今後の生活水準	1 非常によくなるだろう 2 非常にわるくなるだろう	1 よくなるだろう 2 わるくなるだろう
問11	#4.11	先祖を尊ぶか	普通より先祖を尊ぶ方	先祖を尊ぶ方
問12	#4.10	他人の子供を養子にするか	養子にとって	養子にもらって
問16	#1.8	社会的階層	もとのまま 1上 2中の上 3中の中 4中の下 5下	<u>上</u> _____ <u>下</u> 1 2 3 4 5
問17	#7.81	収入か余暇か	1 収入が増えること 2 余暇が増えること	1 欲しいものがもっと買える 2 自由な時間がもっと長く
問20	#7.24	就職の第1の条件	1 お金のことを気にしないで	1 かなりよい給料がもらえる
問22	#2.4	くらし方	もとのまま 1 一生懸命働き 2 まじめに 3 金や名誉	条件文をカット 1 金持ちに 2 名を上げる 3 自分の 4 のんきに
問23	#2.3F	生活環境満足か	環境や住やすさ 1 満足	生活環境 1 満足
問30	#7.19	才能か運か	今の社会で成功している人をもて	人の成功には
問33	#4.5	子供に金は大切と教える	最も大切なものの1つだ	とても大切なものだ
問34	#8.1B	政治家にまかせるか	その人達にまかせる 3いちがいに	その人にまかせる 3いちがいに
問35	#2.1	しきたりに従うか	世間の慣習	世のしきたり
問39	#4.31	家事や子供の世話	3男性、女性の区別なくやるべきだ	3 男性と女性で公平に分担すべきだ
問44	#7.4	国と個人の幸福	国	日本
問45	#5.1D	大切な道徳	a 親に対する愛情と尊敬 b 助けてくれた	a 親孝行 b 恩返し
問46	#5.6H	他人との仲か仕事か	1 仕事はあまりできない	1 仕事の上ではパツとしない
問47	#2.2B	スジかまるくか	一定の原則に従う、他人との調和	スジを通す まるくおさめる
問49	#5.1C2	入社試験(恩人の子)	普世話になった人の子供	恩人の子供
問51	#2.12	他人のためか自分のためか	自分のことだけ考えている	自分のことだけに気を配っている
問52	#2.12B	スキがあれば利用されるか	機会があれば	スキがあれば
問53	#2.12C	人は信頼できるか	常に用心した方がよい	用心するにこしたことはない
問54	#3.3	宗教は1つか	独自の教えを説いている	立場が違う
問71	#8.8	社会は変えるべきか	1 根本的に 2 徐々に 3 あらゆる破壊的勢力から守り 通す	1 一挙に 2 悪いところは少しずつよくして 3 守り通す いく
問73	#8.7	支持政党	しいていえば何党を支持しますか	しいていえばお考えに近い政党は

以上のような調査における質問項目の翻訳に関連することは、日本の場合だけではなく、諸外国にもあるものと予想される。また、社会が異なれば、同じ言葉でも意味が異なって伝えられる可能性もあるわけで、この意味では、国際比較研究における調査方法論は経験の蓄積により分析・検討をおこない一步一步進む以外にない。

今回の調査票を比較対象の各国における研究協力者と検討した際、「翻訳のユレ」の問題について討議したが、実際の調査データに基づくものは少なく、今後の研究にまつところが大きいと思われる。

一、二のコメントを例示すると：

日本におけるA、Bの比較検討事項と関連する点の1つは、ドイツ語ではたとえば回答が‘よい’の場合、ただ‘よい’というだけでは不十分という意識があるので、調査の回答では‘非常によい’ということが多く、回答記入欄を用意するのが普通である。という指摘があった。また、問35の‘しきたり’が1987年ドイツ調査の質問文では‘普通の慣習’というよりも‘掟’に近い印象があり、この影響でドイツ調査の回答結果は‘押し通す’の比率が高くはならないだろうという指摘があったこと等である。

具体的な質問項目の質問文及び回答選択肢の翻訳等については「第4部 [Ⅲ] §2 翻訳の検討の項を参照のこと。そこには、翻訳検討にとり上げた24項目の質問文および回答選択肢について、各項目ごとに4ページにわたり下図のように見開きで比較対照できるようにしてある。

ドイツ質問文	ドイツ質問文 和訳
フランス質問文	フランス質問文 和訳
イギリス質問文	イギリス質問文 和訳

アメリカ質問文	アメリカ質問文 和訳
ハワイ質問文	ハワイ質問文 和訳
日本A質問文	
日本B質問文	
イギリス質問文(再録)	(1978年アメリカ質問文)

§ 3. 各国における調査の実施

1 調査実施の調査機関

各国における調査の実施は、比較の対象となるそれぞれの国における調査機関に委託した。その際、この研究調査の目的等からみて以下の諸点に留意した。

すでにのべたように、本研究における比較調査は、質問項目の選定において、これまでに実施されている諸調査のそれとの比較を最大限に考えるとともに、信頼できる継続調査の質問項目をも含むように計画しており、異なる社会の間の比較調査研究における比較可能性を高めるように計画している。さらに、調査実施には、対象となるそれぞれの社会の調査環境、社会的文化的背景を十分に考え、調査結果の中に、不測の偏りや調査誤差（非標本誤差）が入り込まないようにする必要があるばかりでなく、比較の対象となった各社会（国）における調査の技術的水準が一定水準以上であり、調査結果の比較可能性が高いことが決定的に重要である。ことことから調査実施に当たる機関として次のことが重要である。

- ① 比較の対象であるそれぞれの国において、信頼できる調査結果を得るためのサンプリング技術（全国調査の）および調査技術等の経験が豊富であること
- ② これまで継続調査の実施経験が豊富であること
- ③ これまで国際比較調査の実施経験が豊富にあること
- ④ これまで学術的研究調査に経験が深いこと
- ⑤ 国際的な調査機関の連合体に加盟していること

等である。さらに、研究の目的からみて、単にデータを取得して統計的分析を加え、それぞれの対象社会の人びとの意識の特徴（‘ものの考え方’、価値観等）をみるだけではなく、他の社会における結果と比較検討するときの比較可能性をより高めるためには、調査企画・実査の各段階における作業内容が明確に把握されなければならない。

したがって、

- ⑥ 調査企画・サンプリング実施上の詳細資料による誤差計算の実績があり、その技術水準が客観的に把握できること。
- ⑦ 質問文作成・回答記録様式作成・調査票構成・調査員に対する指示要領等、実査の基本的諸段階における実績の評価・検討に関する研究実績があること。
- ⑧ 調査票構成、実査、データ整理の各段階において研究者の指導・監督が十分且容易にできること

等が望まれる。

比較の対象となった各国における調査実施には、現地の研究協力者の意見も参考にして、下記の諸調査機関が調査を実施した。

ドイツ：EMNID-Institut GmbH
Bodelschwinghamstrasse 23-25a
D-4800 Bielefeld 1
Tel. 49. 521. 260. 010

フランス：Faits et Opinions
25, rue Cambon,
F-75001 Paris
Tel. 331. 42. 96. 41. 65

イギリス：Research Services Limited
Station House
Harrow Road
Wembley HA9 6DE
England
Telephone 01. 903. 1399

アメリカ：The Gallup Organization, Inc.
53 Bank Street,
Princeton, New Jersey
Phone: (609) 924-9600

日本：新情報センター
〒100 東京都千代田区永田町2-10-2
TBRビル
電話 03 (3580) 5231

これらの調査機関により、プリテストおよび本調査が実施された。

以下、プリテストの実施およびプリテスト結果の検討経過のうち、本研究調査の全体計画に影響を与え、調査結果の比較検討において留意すべき諸点についてのべる。

2 プリテスト

プリテストにおいては、すでにのべたように、翻訳質問文の理解度等を検討するとともに、回答型式、回答記入様式、質問提示の型式（質問文だけ読み上げるか、質問文とともに回答選択肢まで読み上げるか、回答選択肢をリストにして回答者に提示するか（回答票リスト、カード提示）等）等を検討した。

比較の元になった調査票は、これまで日本およびハワイの調査で実施した調査に利用した質問形式、回答形式にならったものである。

この調査票原案にもとずき、二種類のプリテスト用調査票を作成した。プリテストにおける検討事項は

① 各質問項目の質問順序

② 回答記入欄に、プリコードの回答選択肢および「その他」の回答を記入する欄を用意するかどうか

③ 質問提示の形式として回答票リスト（提示カード）を利用するかどうか等である

①については、プリテスト用調査票作成の段階で、実際の本調査に利用した調査票の質問順序に近いものが提案され、この一部分を原案のものに入れかえて、プリテスト用の調査票（青）を作成し、原案通りの調査票（黄）と比較検討した。この結果、原案ではなくプリテスト用調査票の質問順序を採用した。（この質問順序は調査票参照。）

②については、「回答記入欄に、プリコードの回答選択肢以外の「その他」の回答を記入する欄を用意することは、面接調査員に、調査に対する負担感を増大させる要因となるから、極力減らす方がよい」という考え方と、「その他の回答が多少でも出る場合には「その他」の回答を記入できるようにした方がよい」という考え方があり、プリテストでは、各質問項目における「その他」の回答の出方を検討した。その結果、各国における「その他」記入欄はそれぞれ異なることになった。これは、各国の調査実施が円滑にいくことを優先して考えたからである。各国における各質問項目ごとの「その他」の記入欄の有無の一覧表を、第3部〔IV〕調査票と総括表にまとめて示す。

また、プリコードの回答選択肢のコード順も、2、3の質問項目では、各国の調査で異なっている。これもそれぞれの国の実情によると考えられる。（第3部〔IV〕の質問項目の履歴一覧の注 参照）

③については、日本における考え方と、二、三異なる考え方が示された。その1つは程度に関する回答の場合である。日本では、程度を示す回答選択肢を並べた回答票リストを提示して、回答者が容易に回答できるようにしている。しかし、これらの質問項目ではほとんど回答選択肢を読み上げる形式でよいという考え方である（注1）。また、回答選択肢が、割合簡単な二項選択の場合にも読み上げの形式がとられることがある。一方支持政党では多数の政党がある場合、回答票リストを示して選択させる形式をとる。したがって、質問提示の方式も各国で多少異なることになった。しいていえば、原則として、回答選択肢が3肢以上では、程度をきく場合を除き各国同一になる。また、多数の事項について、あり、なし等の同じことをくり返して質問する形式の質問項目の場合、日本調査では、回答票リストの形式で質問事項を一覧できるリストを提示して回答してもらう形式である点も異なる。各質問項目ごとに回答票リストを、使用したかどうかの一覧表をやはり第3部〔IV〕に示す。

以上のようにしてプリテストの際の検討において、本調査用の調査票の骨組が確定し、本調査が実施された。（注2）

本調査の実施状況については、すでに、§1 標本調査のデザインの項で要点を示しておい

た。また詳しくは、資料1～5「各国調査のコードブック及び付属資料」を参照のこと。

(注1) たとえば、今回の調査票では問1～問3などがそれに該当する。日本調査では、回答の安定性を考えて、程度を示す回答票リストを提示して回答者に選択させている。これは口頭の場合、調査員の判断が入り込み、その分が調査誤差の要因となる可能性があると考えからである。一方、比較対象の4カ国では、回答を読み上げる方式をとる。程度を細かくきく場合、回答選択肢はmuch (beaucoup, viel) あるいはvery (tres, sehr) 等がついたものがつけ加わるだけであるから、回答選択肢を並べた回答票リストを用意し、回答者に提示するまでもないということである。しかし、ドイツで実施した実験調査では、読み上げ様式と、カード提示方式とで、調査結果は多少異なる。

(注2) プリテストにおいて検討した質問項目の質問順序、回答形式、および質問提示の形式では、いずれの場合も、調査対象者（回答者）および調査員に対して、調査の負担感を余分にはかけないように考え、しかも調査結果の信頼性、安定性を確保するように考えた方式が選択された。

これは比較の対象となった各社会（国）における調査の方式全体の形式的な統一をとることを考えるより、それぞれの社会（国）で継続して、くり返し調査されている安定した方式に基づいた調査方式をとる方が比較研究上望ましいという考え方による。

第Ⅱ部のはじめにもふれたが、調査は多数の人々の合意と協力があってはじめて成り立つ大きなシステムである。したがって、これまでに、やや詳しくのべたように、調査のシステムを適切に運用することが、比較可能性を高めることになる。

調査の結果得られた調査データは、調査を企画したとき意図したような抽象的なものではなく、具体的な調査過程を経て、それぞれの段階で利用した方式に関連して得られたいわば人工構築物である。ということを念頭において調査結果の分析・検討を進めることが重要である。

3 調査結果の安定性についての例示

この国際比較調査は、質問項目の選定過程からも分かるように、1978年日米比較調査および1982年フランス調査の質問項目と共通の質問項目が多数含まれる。

ここでは、これらの共通質問項目の調査データを対比して例示する。

〈例1〉CREDOCの実施した1982年フランス調査と、今回の1987年フランス調査の共通項目の調査結果による比較：これはこの5年間の時期的ズレによる変動と調査主体の違いによる変動とを含んでいる。1987年フランス調査の共通項目に対する回答の比率を横軸に、1982年フランス調査の回答比率を縦軸にとり、各質問項目の回答カテゴリを点打ちしたものが次の図1である。図の作り方から分かるように、各調査における調査誤差および5年間の時期的ズレにもかかわらず回答結果の比率に変化がなければ、45°の対角線上に点が位置することになる。図1をみると、45°の対角線からややハズレ方の大きい点(M,Y等)もみられるが、全体としてよく合っているといえる。各調査の調査誤差および時期のズレ等を考えれば、調査データは安定しているといえる。また、くい違いの大きい項目が「フランス人の生活水準の評価(問2)」、および「省エネルギーは重要か(問59)」等、時期的な回答変化が予想される項目であることも調査結果の信頼性につながるものといえる。(全体として両調査データの相関は相関係数=0.97である)

このフランス調査に対比して、日本調査の比較をしてみる。利用した調査データは、統計数理研究所の日本人の国民性調査委員会の実施した1983年日本人の国民性調査と、今回の1988年日本調査の共通項目(フランス調査との共通項目)の調査結果である。

結果を図1と同じように横軸に1988年日本調査(A)の結果比率を、縦軸に1983年の国民性調査の結果比率をとり各質問項目の回答カテゴリごとに点打ちしてみると図2ようになる。各調査の標本誤差、5年間の時期のズレ、調査主体のちがい等を考えに入れてみると、両調査の結果はよく安定しているといえる(両調査の相関はやはり相関係数=0.97となる)

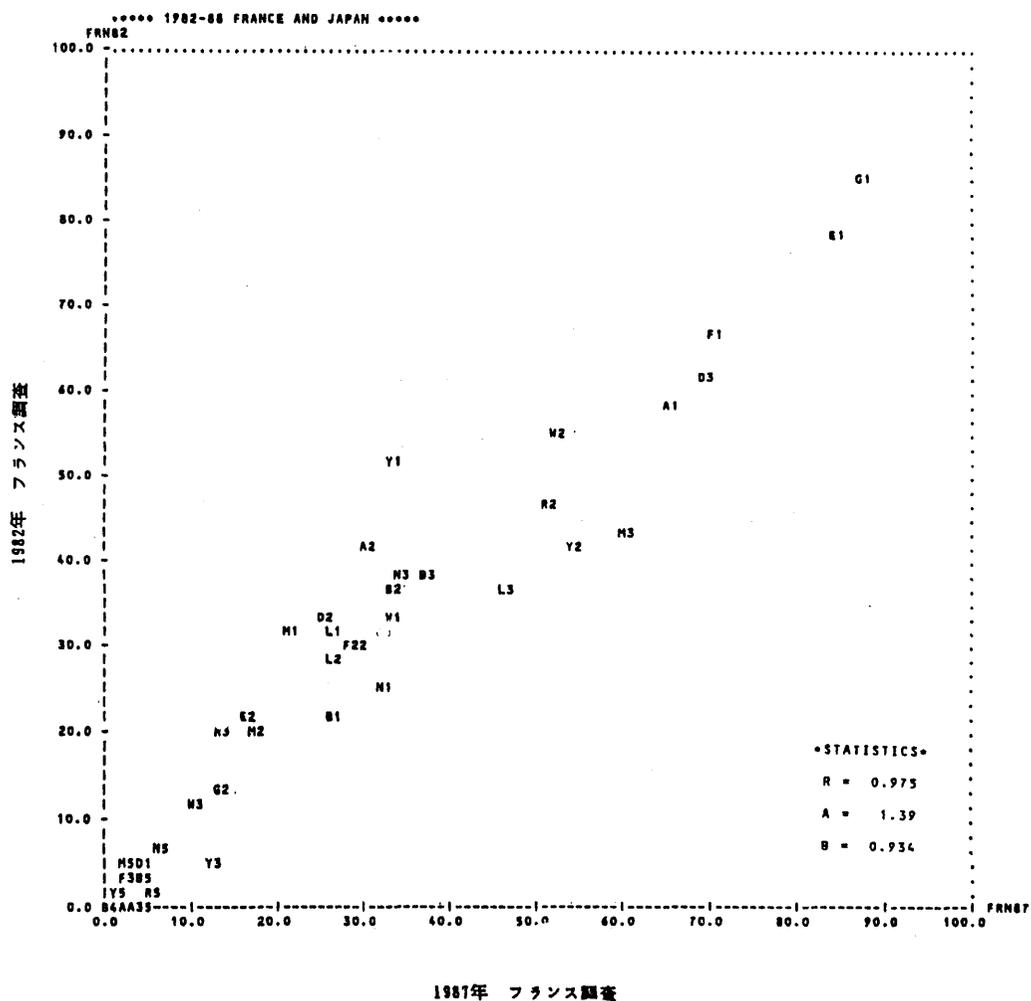
ここで両調査の間のズレがやや大きい項目(EとM)についてみると、これは「生活環境満足か(問23)」と「日本人の生活水準の評価(問2)」でフランス同様、この5年の間に変化が予想される項目である。

これからみると、日本調査、フランス調査とも同程度に安定性が高いということが出来る。

さらに、これらの質問項目について、回答の相互関連分析をおこなった結果では、回答構造について日本、フランス共に時期的変動はほとんどなく、全く安定していることが確認されている。これはアメリカを含めた分析でも日本、フランス、アメリカの3極構造に変化のないことが示されている(第5部 発表論文2、Suzuki(1989)参照のこと)。また、参考までに、比較にとり上げた各調査の回答比率を一覧表にしておく、図1および図2の図中の記号は表の一番左欄のAB…に対応している。表中の回答比率は回答選択肢をまとめた形

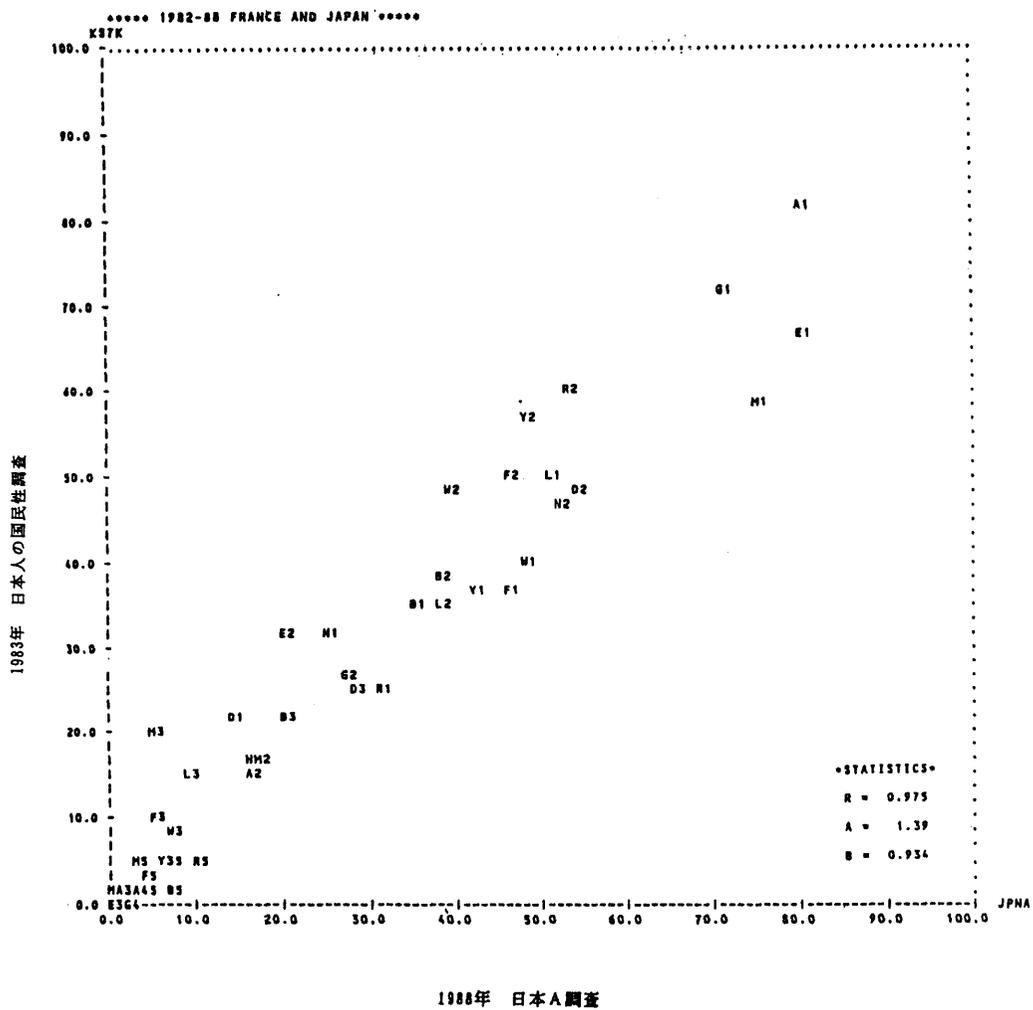
で示してあるので注意すること（詳しくは第3部 [IV] 調査票と総括表の単純集計表の国別一覧を参照のこと）。

図-1 フランス調査データの安定性
日本・フランス共通項目による5年間の動き（1982 - 1987）



1982年データの出所： CREDOC

図-2 日本調査データの安定性
日本・フランス共通項目による5年間の動き (1983 - 1988)



1983年データの出所： 統計数理研究所

回答分布の一覧表

	No	質問項目	コ ト 回 答 選 択 肢	記号	日本			フランス	
					1983	1988A	1988B	1982	1987
					2173	2265	1017	2000	1013
A	4.30 37	家庭はくつろぐ場所	1. そう思う 2. そうは思わない 3. その他 4. D.K.	△ △	82.3 14.5 2.3 1.0	80.3 16.3 0.6 2.8	78.5 18.2 0.3 3.0	58.0 41.8 0.1	65.4 29.7 3.3 1.6
B	4.32 38	離婚すべきでないか	1. 離婚すべきでない 2. ひどい場合には離婚 3. 合意あれば離婚 4. その他 5. D.K.	△ ・ △	35.3 38.7 22.0 1.7 2.3	35.4 37.7 19.5 0.7 6.8	35.2 38.5 19.0 0.6 6.7	22.3 36.8 37.9 3.0	25.9 33.3 37.4 3.5
D	4.31 39	家事や子供の世話	1. すべてが女性の仕事 2. いくつかは女性の仕事 3. 公平に分担すべき 4. その他 5. D.K.	△ ・ △	22.5 48.7 25.4 2.4 1.0	13.6 53.7 28.3 0.8 3.5	14.7 61.0 20.9 1.0 2.4	4.3 32.8 62.4 1.0 0.4	4.4 25.4 68.6 1.1 0.5
E	2.3f 23	生活環境満足か	1. 非常に満足 2. 満足 3. あまり満足していない 4. 満足していない 5. その他 6. D.K.	○ ・	67.5 31.0 0.6 0.9	79.6 19.7 0.0 0.6	76.0 22.6 0.0 1.2	78.5 21.5	84.0 15.9 0.1
Y	7.34 59	省エネルギーは重要か	1. 非常に重要 2. 重要 3. あまり重要ではない 4. 重要ではない 5. その他 6. D.K.	□ ・ ■	36.5 56.2 5.1 0.3 1.9	41.9 47.5 6.2 0.0 4.3	39.0 50.7 6.0 0.1 4.1	51.3 41.5 5.5 1.6	33.1 54.2 11.9 0.9
F	7.35 60	環境の保護は重要か	1. 非常に重要 2. 重要 3. あまり重要ではない 4. 重要ではない 5. その他 6. D.K.	□ ・ ■	37.1 49.8 9.5 0.6 2.9	45.6 45.7 4.9 0.8 3.8	44.1 47.8 5.1 0.1 3.0	66.9 30.2 2.9	69.6 28.1 1.6 0.7
G	2.3g 15	健康状態満足か	1. 非常に満足 2. 満足 3. あまり満足していない 4. 満足していない 5. その他 6. D.K.	○ ・	72.4 26.3 0.7 0.5	71.1 26.5 0.1 2.3	72.8 25.3 0.1 1.8	85.8 14.0	87.0 13.0 0.1
L	7.30a 2	生活水準10年の変化	1. よくなった 2. ややよくなった 3. 変わらない 4. ややわるくなった 5. わるくなった 6. その他 7. D.K.	○ ・ ・	49.3 35.3 14.5 0.2 0.6	50.9 37.9 9.2 0.1 1.9	53.4 35.5 9.7 0.1 1.5	32.5 28.8 35.9 2.8	26.1 25.9 46.2 1.8
M	7.30b 1	日本人の生活水準 (フランス・フランス人)	1. よくなった 2. ややよくなった 3. 変わらない 4. ややわるくなった 5. わるくなった 6. その他 7. D.K.	○ ・ ・	58.6 16.0 20.2 1.0 4.3	74.9 16.7 5.3 0.1 3.1	74.7 17.0 4.6 0.1 3.5	31.1 20.4 44.1 4.5	21.1 17.1 60.4 1.5
N	7.31 3	今後の生活水準	1. よくなる 2. ややよくなる 3. 変わらない 4. ややわるくなる 5. わるくなる 6. その他 7. D.K.	○ ・ ・	31.1 46.9 16.4 1.2 4.5	25.0 52.2 16.3 0.0 6.5	27.8 50.3 14.6 0.2 7.1	24.4 30.3 38.1 7.2	31.8 28.5 33.8 5.8
W	7.36 55	科学上の発見・利用 は生活に役立つか	1. 役立っている 2. 少し役立っている 3. 役立っていない 4. その他 5. D.K.	□ ・ ■	39.3 48.0 7.5 0.8 4.5	47.6 39.2 6.6 0.1 6.4	47.8 39.7 5.9 0.1 6.5	33.1 55.0 11.6 0.3	33.4 52.1 10.2 4.3
R	7.33 56	コンピュータ社会は 好ましいか	1. 望ましい 2. 避けられない 3. 危険なこと 4. その他 5. D.K.	□ ・ ■	24.7 60.2 8.2 1.2 5.6	30.5 52.8 6.6 0.3 9.8	31.5 50.4 8.1 0.6 9.4	31.0 47.1 20.1 1.6	31.8 51.0 12.5 4.6

〈例2〉 1978年アメリカ調査と今回の1988年アメリカ調査の共通質問項目の調査結果による比較：

これは、この10年間の時期にズレによる変動を含んでいる。例1のフランスのときと同じように、日本・アメリカ両調査に共通の項目をとり上げ、その回答比率について、横軸に1988年アメリカ調査の共通項目に対する回答の比率をとり、縦軸に1978年アメリカ調査の回答比率をとり、各質問項目の回答カテゴリを点打ちする。結果は図3のようになり、フランスの場合同様の図が得られる。10年の時期のズレを考えに入れば、1978年調査と1988年調査の調査データは安定しているといえる。

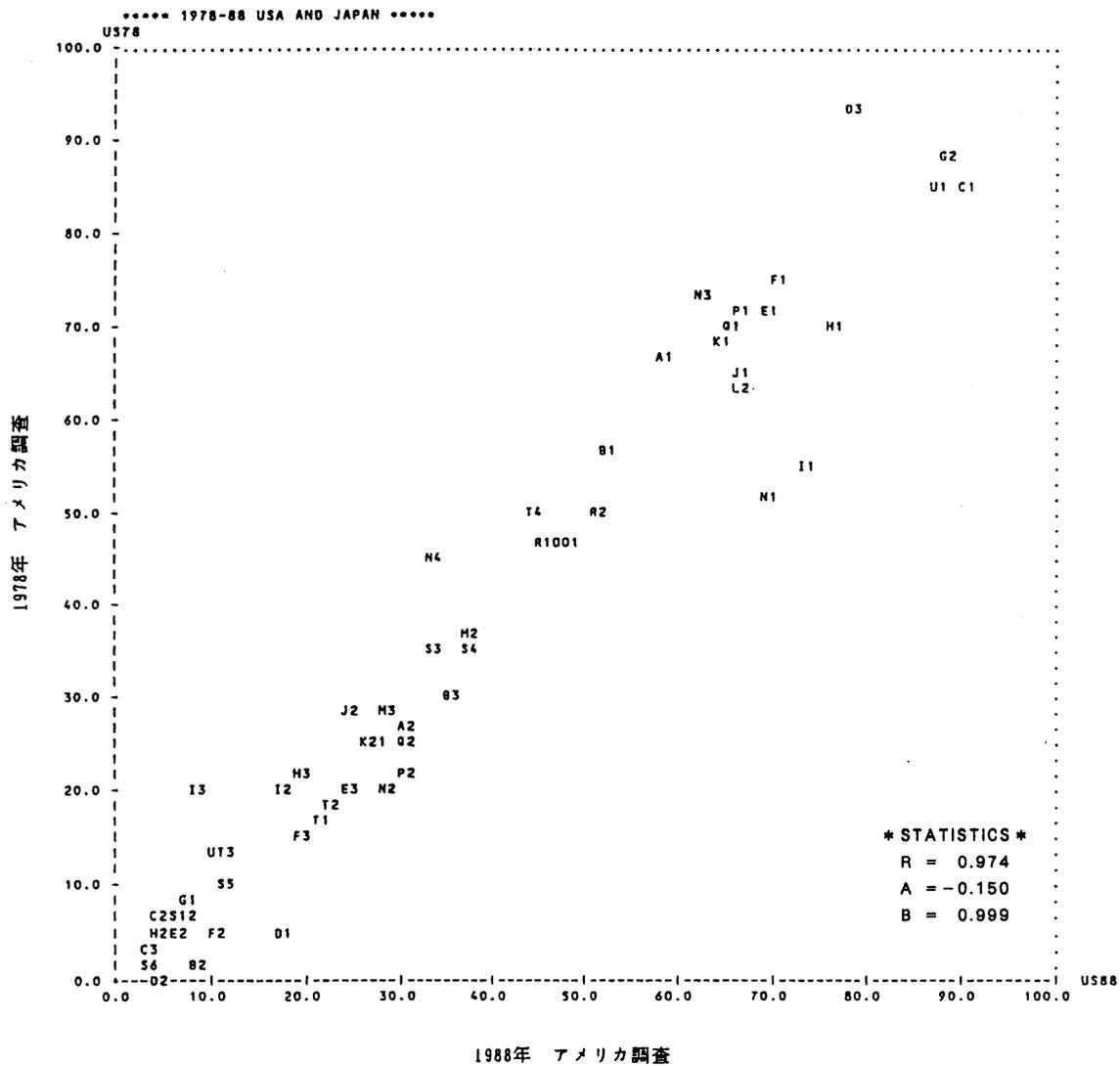
この図からみて、くい違いの大きい項目D,I,Nが目につく。しかし、Dは「子供に「金は大切」と教える（問33）」の項目であり、前節でのべた通り1978年調査の質問文‘…the most important…’を今回の1988年調査では‘…one of the most important …’とした。このため、‘賛成’が増え、‘反対’が減少するという影響がでたことになる（これは予想された結果といえる）。

また、Iは「先祖を尊ぶか（問11）」の項目であり、この項目も前節でのべたように日本調査で質問項目の比較検討の対象とした質問項目の1つである。日本では「あなたは先祖を尊ぶ方ですか」と「…普通より先祖を尊ぶ方…」とを比較しているが、アメリカ調査の場合は1978年調査では「…平均より尊ぶか」であり、1988年調査では「平均のアメリカ人より尊ぶか」となっている。この質問文のズレの影響が出ているものと考えられる。

Nは「大切な道徳（問45）」の項目で、この項目も日本調査で質問文の比較検討の対象となった項目である。1978年アメリカ調査では、回答選択肢の「親孝行」、「恩返し」をそれらに対応する英語に翻訳して、あまり説明をしなかったが、1988年アメリカ調査では「親孝行」を「親に対する尊敬」、「恩返し」を「これまでに、助けてくれた人に報いる」等と説明している。この3項目が1978年調査と1988年調査とで質問文（あるいは回答選択肢）の文章がことなっていることは注目される。これ以外の項目の回答結果は、この10年間にほとんど変動していないといえ極めて安定しているといえることができる。（両調査の回答結果の間の相関は、相関係数=0.97でフランス調査同様である）

上にのべた3項目について1978年アメリカ調査で利用した質問項目は、第4部〔Ⅲ〕§2の翻訳の検討の各質問項目ごとの翻訳比較対照のところに示してある。（また、前節も参照のこと）

図-3 アメリカ調査データの安定性
日本・アメリカ共通項目による10年間の動き (1978 - 1988)



参考までに、日本における10年間の時期的ズレによる変動の模様をアメリカ調査と共通の質問項目の回答結果について同様の図にして示すと参考図のようになる。

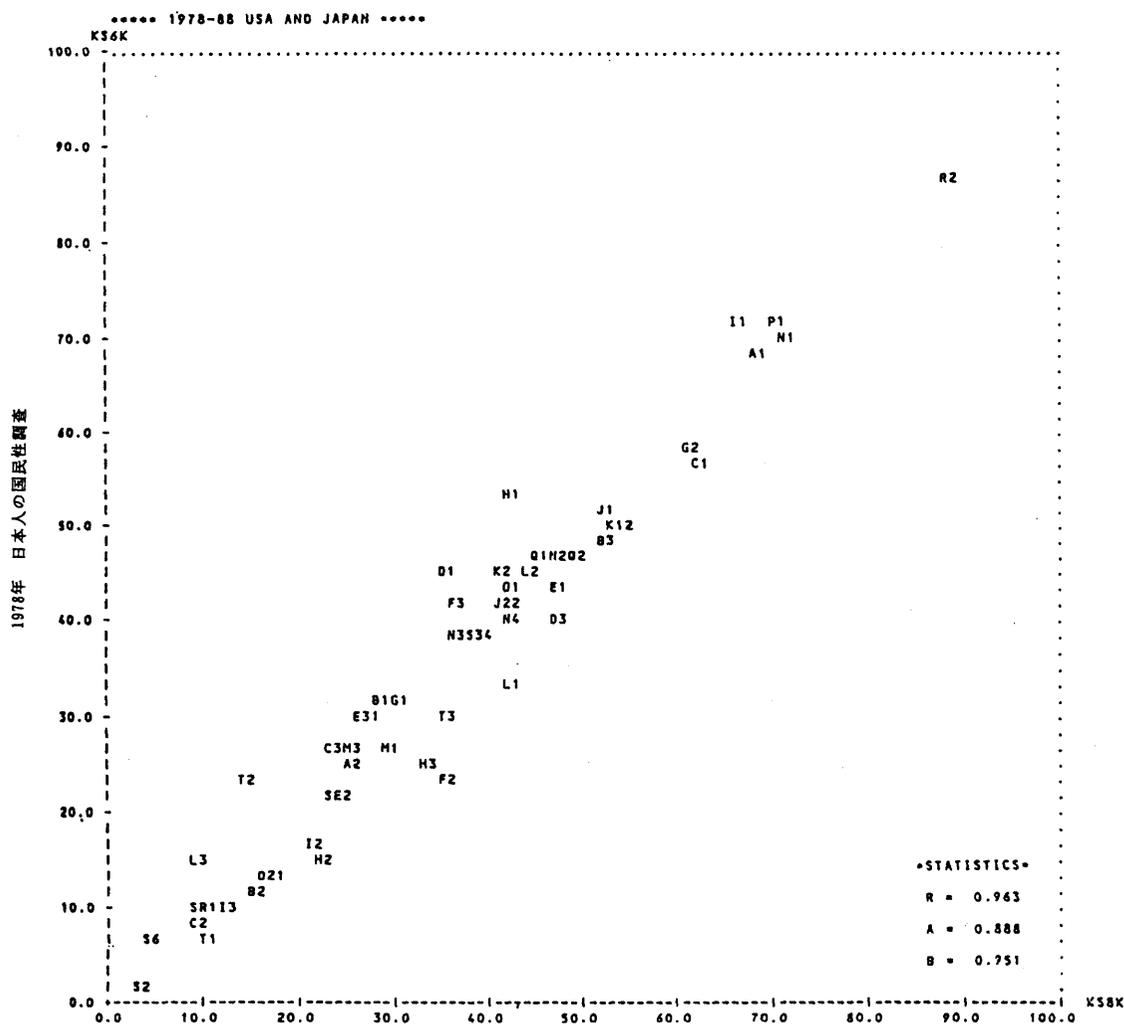
1978年および1988年のアメリカ調査は同一の調査機関によるものであり、この意味の調査システムの差はないと考えられたので、これと比較するため、日本調査の場合も、統計数理研究所の1978年および1988年の「日本人の国民性調査」の結果を利用した。

参考図をみると、これはほぼアメリカ調査の10年間の動きと同じであることがわかる。(相関は相関係数 = 0.96)

なお、比較検討した回答結果の一覧表は、本報告の主題をはずれるので、第3部 [IV] の末尾につける。

参考図 日本調査データの安定性

日本・アメリカ共通項目による10年間の動き (1978 - 1988)



日本・アメリカの共通項目による10年間の動きを、1978年日米比較調査の結果および今回の1988年日本調査と1988年アメリカ調査の比較分析を行いその結果を対比して検討することは本報告書の主題からはなれるのでここではふれない。

以上の検討により、1987年フランス調査、および1988年アメリカ調査の安定性も確かめられた。全体として、今回の5カ国調査の調査結果は調査計画にほぼ沿ったものと考えられる。この調査データを基礎にして、調査結果の分析・検討へと進むため、各調査ごとのデータの整備をおこなうとともに、5カ国の比較分析用の共通ファイルを作成した。これらの詳細については本報告書 資料-1~5、「各国調査のコードブックと付属資料」、および資料-6「共通ファイルのコードブック」をそれぞれ参照のこと。

第3部

データとデータ分析による国際比較

第 3 部

データとデータ分析による国際比較

- [I] 連鎖的調査計画・分析法
(Cultural Link Analysis, C L A)
 - § 1 C L A による分析の視点
 - § 2 地域 (belonging) による C L A
 - § 2.1 日本人とアメリカ人の鎖としてのハワイの日系人
 - § 2.2 各国グループの位置付け－鎖はどこにあるか
 - その 1 単純集計を用いて
 - § 2.3 各国グループの位置付け－鎖はどこにあるか
 - その 2 考えの筋道の同一性と各国グループの位置
 - § 3 質問 (question) による C L A
 - § 3.1 Q O L と社会的態度
 - § 3.2 信頼感と仕事
 - § 3.3 金・仕事・国の目標
 - § 3.4 イソップ物語と社会的態度
 - § 3.5 スケール間の関連性その 1
 - § 3.6 スケール間の関連性その 2
 - § 3.7 まとめ
 - § 4 時間 (time series) による C L A
- [II] 社会的態度と国民の意識 (国民性)
 - § 1 政治意識と国民意識 (国民性) の国際比較
 - § 2 宗教意識と国民意識 (国民性) の国際比較
- [III] 属性別態度の国際比較
 - § 1 年令の意味の国際比較
 - § 2 男の意見と女の意見の国際比較
 - § 3 宗教による意見差の国際比較

[I] 連鎖的調査計画・分析法
(Cultural Link Analysis, C L A)

§ 1 C L Aによる分析の視点
---連鎖的調査計画・分析法 (Cultural Link Analysis, C L Aと略称する)
による分析の背景---

これまでに日本とアメリカの比較を通して質問の内容について、日本的質問、アメリカ的質問、共通の質問の組み合わせでの分析、アメリカ的質問と共通の質問による分析を通して、日本とアメリカの同異の姿をみてきた。後者の質問群での分析では殆ど日本的考えの筋道に差のないことを知った。¹⁾²⁾ 日本、フランスとの比較を通してどこにでも共通して通用する‘Quality of Life(Q O L)’の質問項目の分析では大局的にポジティブ、ネガティブ、中間とわかれる考えの筋道は似ているが---但し日本は中間の内容が最も大事な柱となり、フランスはポジティブ、ネガティブが最も大事な柱となっているという考えがある---、日本ではポジティブの内容が分化せず異質のものが同じクラスターをつくるが、フランスではそれぞれ別のクラスターとなっているという大きな違いが見出された。³⁾ ここで、いわゆる日本固有の質問ではなく、どこにでも同じ考え方の下で回答できて、どこにでも通用する一見万国共通と見られる質問群においても考えの筋道の違いがあることが解ってきた。固有のものは、差異があっても当然と思われるが、同じと思える質問群の中に考えの筋道に差のあることは重要な示唆を与える。ここに根の深い大きな誤解が生ずることになる。同じと思えてそうではなく、しかもこれを意識していない---容易に気が付いてこない---ところが、深刻であると考えられるのである。

これを踏まえて一般的と思えるQ O Lを含む質問群を用い、日本、フランス、ハワイの調査を分析してきたが、⁴⁾ 単純にスケールを作るような質問群では非常に類似した考えの筋道を示すものであるが、スケールをなさず次元の異なるものが入りこむと、考えの筋道は異ったものになってしまうという点、中間の回答が日本の特徴をあらわすという点が解ってきた。

対象地域、質問内容におけるC L Aの有効性が次第に見えてきたので、C L Aの考え方を中心に据えた今回の国際比較研究を計画した。これから、得られたデータの分析に踏み込んで行くことにする。

ここでのC L Aの方法は、ダイナミックな立場に立つもので、ものの考え方、見方、感じ方 (Belief systems, the way of thinking, Emotional attitude) における、類似性と非類似性、共通・普遍性と差異・特殊性、似たところと異っているところ (Similarity と Dissimilarity, Commonality・Universality-Consistency- と Difference-Particularity-) を明らかにし、その同異の相の国別連鎖性のさまざまな姿を明らかにしようとするものである。

参考文献

- 1) Hayashi, C. (1980) Data Analysis in a Comparative Study, Data Analysis and Informatics, by E. Diday et al. (eds), 31-51, North-Holland.
- 2) 林 知己夫、鈴木達三 (1986) 社会調査と数量化、岩波書店
- 3) Hayashi, C., T. Suzuki and F. Hayashi (1984) Comparative Study of Lifestyle and Quality of Life : Japan and France, Behaviormetrika No. 15, 1-17.
- 4) Hayashi, C., F. Hayashi, T. Suzuki, L. Lebart and Y. Kuroda (1985) Comparative Study of Quality of Life and Multidimensional Data Analysis, Data Analysis and Informatics IV, by E. Diday et. al. (eds), 573-585, North-Holland.

§ 2 対象地域による C L A

まず地域によって連鎖の様相を明らかにしたい。

§ 2.1 日本人とアメリカ人の鎖としてのハワイの日系人

どういう点でハワイの日系人が、日本（日本人）とアメリカ（アメリカ人）の鎖をなしているかを各種のデータから分析してみよう。

（ア）義理人情スケール値の分布の点から

まず、我々が常々用いている日本的質問である義理人情に関する質問（質問表Ⅱによる）を用い、表 2-1 の考え方に従って義理人情スケールをつくりこの分布を比較するのである。このスケール値の多い方が義理人情的ということである。まず、日本の分布をみるとこの 25 年間少しの揺れはあるものの殆ど差が見られず安定している（図 2-1）。山はスケール値 1、2 のところにあり、スケール値 2 以上が常に過半数を占めている。相当日本的意味の義理人情的であるということが出来る。

表 2-1
義理人情スケールの作成

質問	義理人情回答	スケール値
1	a	1
2×3	2a×3b	1
4×5	4a×5b	1
6	b	1
7	7a×7b	1

日本とアメリカとハワイの日系人と非日系人の分布をみると、図 2-2 にみられるように、日本人、日系人、非日系人、アメリカ人（後二者に大きな差はない）という移り行く姿がみられている。日系人が間にくるのが面白い。

つぎに、日系人の内訳をとってみる。日本らしさのスケール（日本的文化との親近性をみるためのスケールで日本的なものに接触しているかどうか、という実態的な回答から作られるもの）で、より日本的グループ（J A J と名付ける）、より日本的でないグループ（J A A と名付ける）にわけると、このほか、アメリカ本土以外の生れの非日系人（ハワイ生れの非日系人を含む）、アメリカ本土生れの非日系人にわけて分布をとってみると図 2-3 のように順次に移り行き、集団の特性に応じてアメリカ型から日本型へ移行する形がみられ、日系人が鎖のように間に介入していることがわかる。このようなもののスケール分布は表 2-7 に示しておく。

（イ）義理人情の考えの筋道

日本人においては、上記質問における義理人情的考えの筋道---心の構図と言ってもよからう---がこの 25 年間全く安定していることは、多くの論文で論じてきたが、その安定し

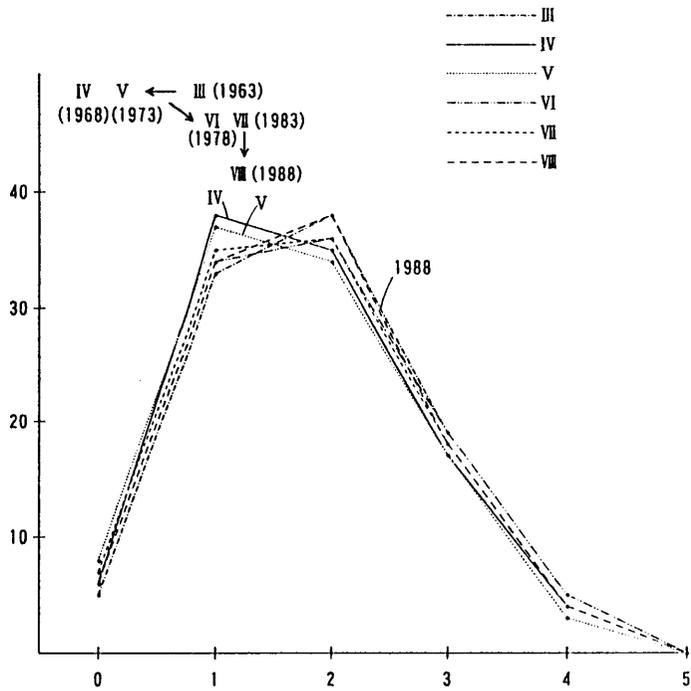


图 2-1
Distribution of Giri-ninjo Scale Value in Japan

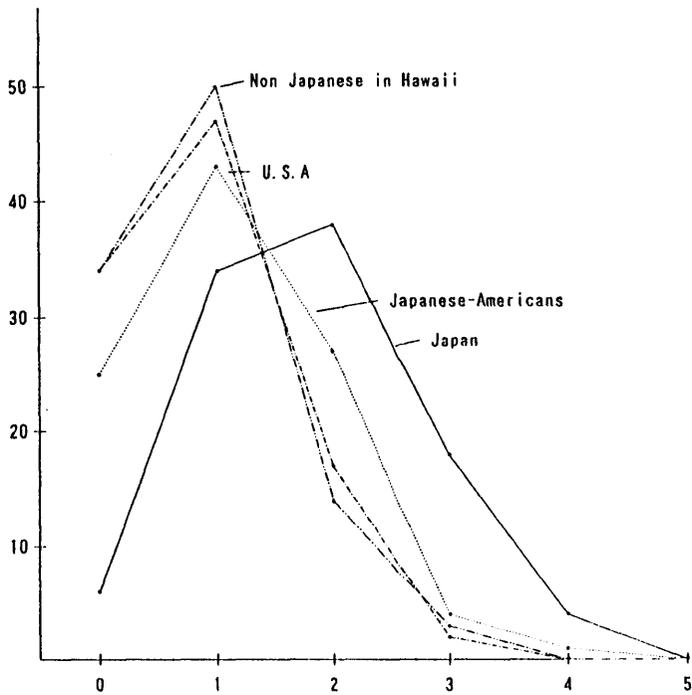


図 2-2
義理人情スケール分布 (日本, ハワイ, アメリカ)

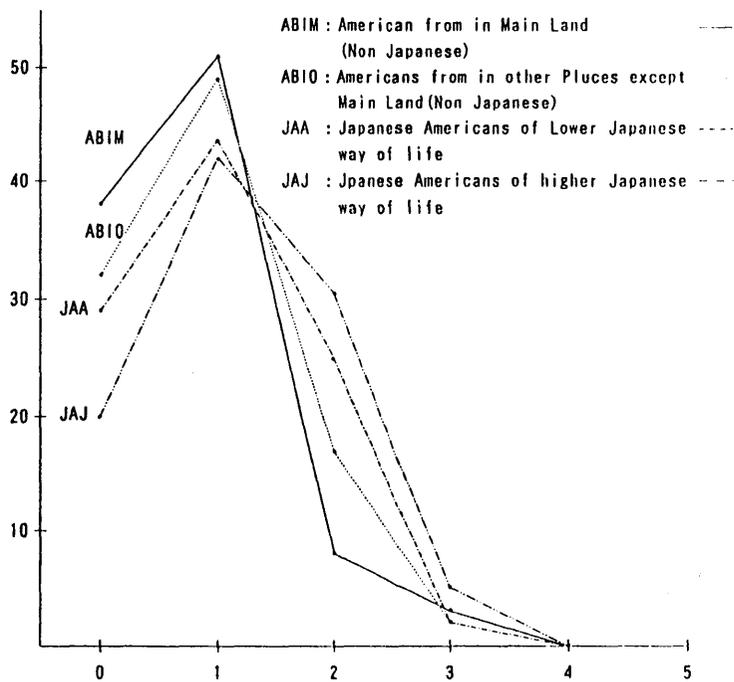


図 2-3
Giri-ninjo Scale in Segmentation of Hawaii Residents

た形のみを図2-4にのせておく。

ハワイの日系人は、これまで、相対的位置はそれほど日本と変わらないが、90°回転した図形のみられることが知られており、1988年調査でも同様である(図2-5)。日本の年齢別でもこうした形が時に見られるので、日本とかなり近いということが言える。諸外国では、やや異った位置が出ている(図2-5)。そこで、図形相互の点の位置の距離の平均を出し、回転してその最少の距離になるところを見出し、それを二つの図形間の差異とすることを考える。集団としては表2-2にある13集団である。日本の国民性調査をすべて入れるとあまり多くなりすぎるので3回の調査のみにした。距離は遠い近い位の意味しかないファジィなものなので距離の分布をつくり、その形から3段階に区分した(表2-2)。これをもとに多次元尺度解析法の一つである。MDA-ORを用いて、相互の位置付けを行ったのが図2-6である。

表2-2
DATA MATRIX (DISSIMILARITY CLASS)

1	D	0														
2	F	3	0													
3	E	3	2	0												
4	A	2	3	1	0											
5	J	3	2	2	2	0										
6	K8	3	3	3	3	1	0									
7	H8	3	1	2	1	2	3	0								
8	K5	3	3	2	3	1	1	3	0							
9	K3	3	3	3	3	1	1	3	1	0						
10	A7	2	2	1	1	3	3	1	3	3	0					
11	H0	3	1	2	2	1	2	1	1	1	2	0				
12	H2	2	1	2	2	2	3	1	3	3	2	1	0			
13	H4	2	3	3	1	2	2	2	2	2	2	2	2	0		
		D	F	E	A	J	K8	H8	K5	K3	A7	H0	H2	H4		

1: ~0.55 近い
2: 0.55~0.70 中位
3: 0.70~ 遠い

注) D : ドイツ
F : フランス
E : イギリス
A : アメリカ
J : 日本 (A調査票による)
K8 : 国民性調査1988
H8 : ハワイ住民1988
K5 : 国民性調査1973
K3 : 国民性調査1963
A7 : アメリカ1978
H0 : ハワイ日系人1971
H2 : ハワイ日系人1978
H4 : ハワイ日系人1983



o means ninja or giri-ninjo (traditional) response
 x means non-giri-ninjo response

☒ 2-4

Stability of configuration of giri-ninjo attitude in Japan

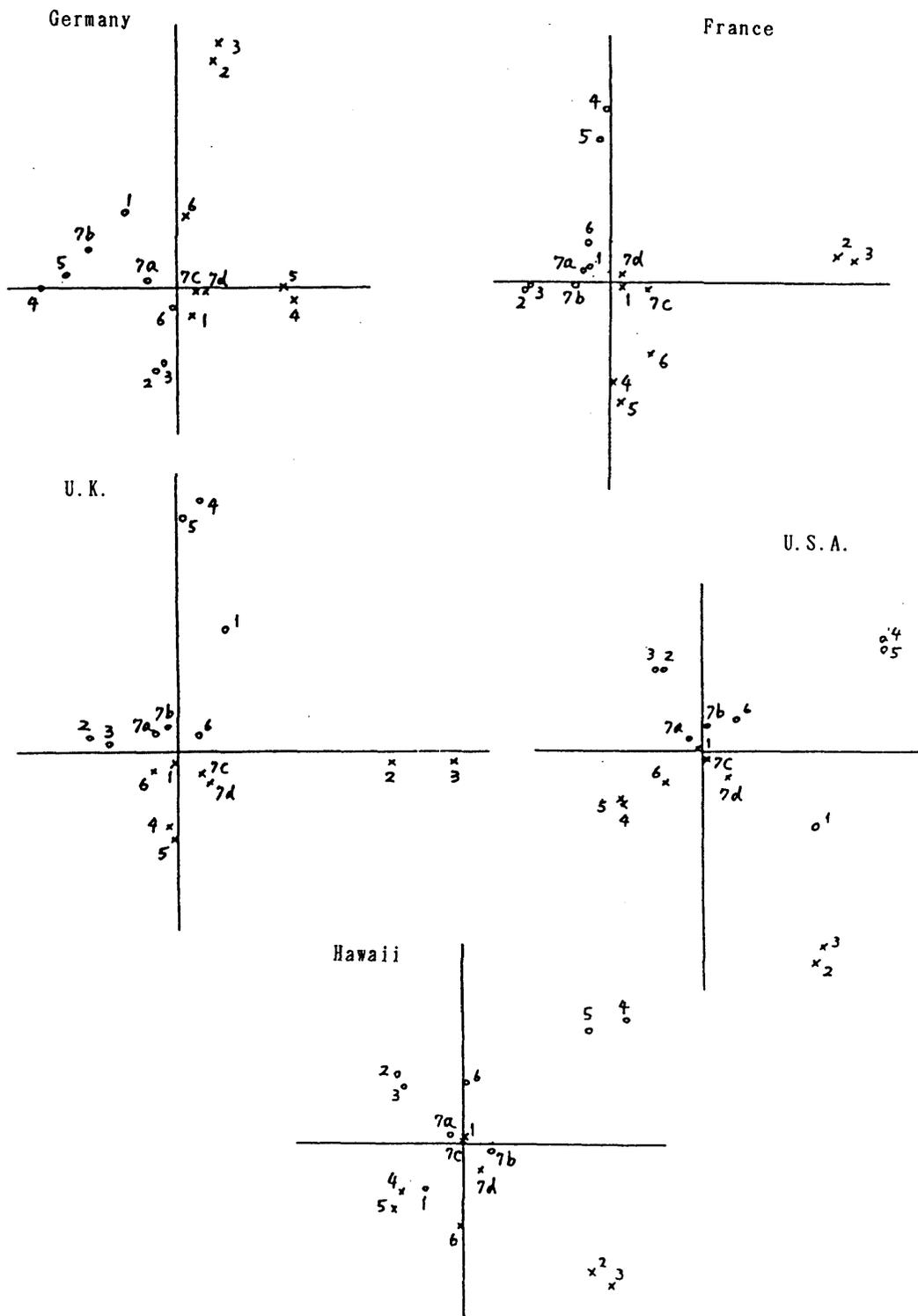


图 2-5
Configuration of giri-ninjo attitude

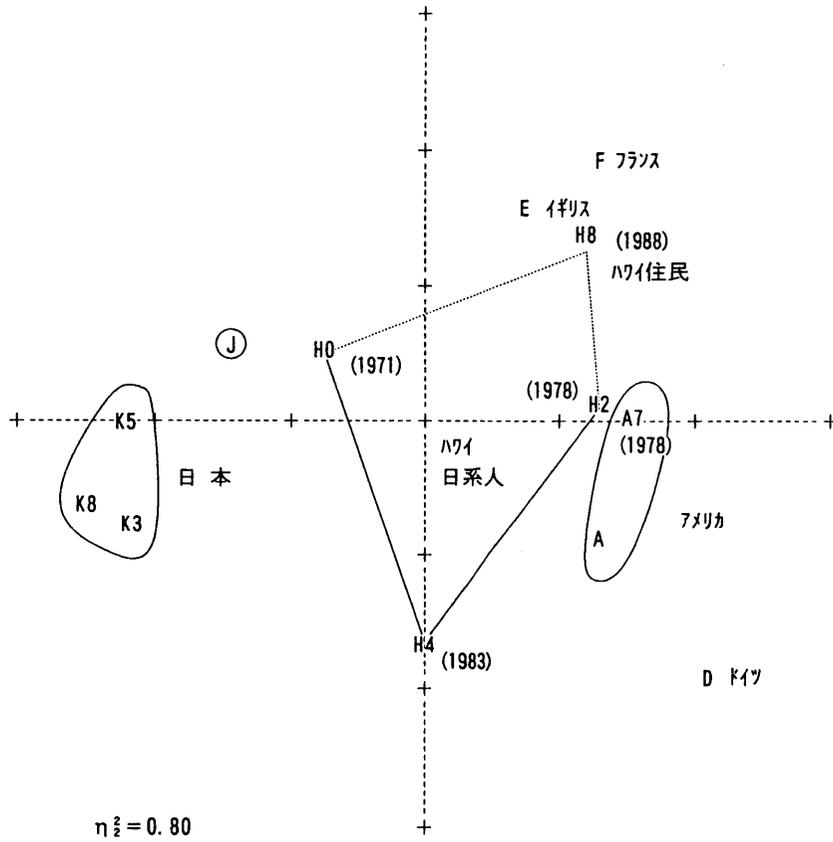


図2-6 相互の位置付け

日本のK3（国民性調査1963）、K5（同1973）、K8（同1988）は近くにかたまり、国際比較のA調査票によるものも近くにある。アメリカの2つ、A（国際比較）とA7（1978）は近くにあり、イギリス（E）、フランス（F）も近い。ドイツ（D）は離れるという形が出ている。これらの中間にハワイの日系人、ハワイ住民が位置する（1988でハワイ日系人を用いなかったのは、サンプルが少くなり図形が不安定であったためである）。この図形の4つの点の位置の範囲からみても日系人は日本人とアメリカ人との間に来ていると見ることができる。

（ウ）中間回答について

日本人に中間回答が多く且つ特徴的であるということは、これまでの調査で大よそ見当がつけられている。¹⁾²⁾³⁾ここでは、国際比較で用いられている質問項目のうち中間回答のある質問が11問あった（質問表Ⅳ）ので、この11問中何個中間回答をしているかをスケール値として分布をとってみた。日本人の調査（A、B調査票による）いずれも、よく一致し、中間回答の分布は中高の形をしていることがわかる。これは図2-7に示されている。アメリカをみるとはるかに少い方に寄っている。その中間にハワイ住民がくるが、日系人がやや日本寄り、非日系人がややアメリカ寄りにあるという興味ある形が出ているのである。この意味においても、ハワイ、日系人が日本とアメリカの鎖をなしているということが出てきており、ハワイ、日系人というのは、なにがしか日本的雰囲気を持っている。つまり、日米の橋渡しの形になっているということを知るのである。

次にさらに面白い関係が見られるのである。

（エ）イソップ物語りと人間関係の暖さ

イソップ物語りの中のキリギリスと蟻（蟻とセミというのものもある）の話についての回答である。このことについては、詳しく述べたものがあるのでそれに譲る⁴⁾とし、質問文は、質問表のⅧ問25の通りである。まずキリギリスと蟻の話を質問し、回答として「1. 夏の間怠けていたのだから、困るのが当然だと追い返してしまう」「2. 怠けていたのはいけなけれども、これからはちゃんと働くのですよ、といさめた上で、食べ物をわけてあげる」を示し、この話の結びとして、この中のどちらが自分の気持ちにじっくりしますかという形で回答をとるのである。回答は表2-3の通りである。

第2-3表

	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日本
1の型	13%	14%	13%	12%	15%
2の型	78	79	83	85	75

日本人は心がやさしいから2の型が多いと言う意見が文献に基く考察で論じられているがむしろ少めであることに注目したい。これはこれとして、この1、2の回答と心のやさしさとの関係のみよう。ここでは、人間関係における暖さ、柔かさ好みとも言うべきものとの関係をとりあげてみる、そのため、義理人情スケールの時用いた質問（質問表Ⅱ）から、人間関係における暖さ、柔さのスケールを作ってみた。このコード付けは表2-4の通

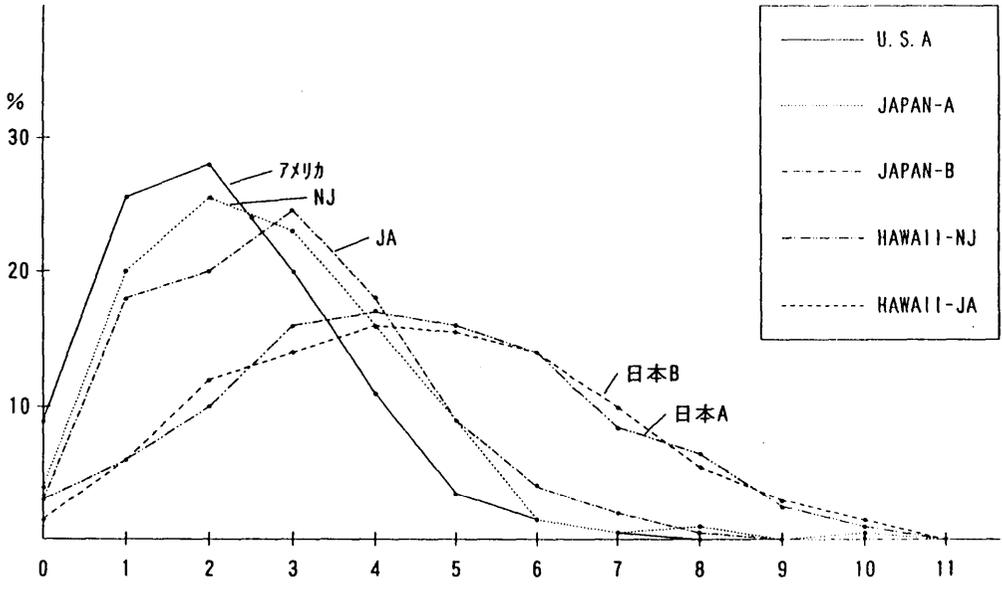


図2-7 中間回答の分布

りである。この0から8にまで及ぶスケールにおいて半分以上の5以上の値をとる比率（暖い、柔い態度を示すものの割合）を多い順にみると日本（38%）、フランス（35%）、ドイツ（33%）、イギリス（27%）、アメリカ（23%）となる。ハワイの非日系（19%）、ハワイの日系人（29%）をみると非日系はアメリカ側、ハワイの日系人は日本人とアメリカ人の中間にくるのも面白い。

表2-4

Affection (warm-heartedness, humaneness
and personal feeling)-oriented scale
in interpersonal relations (0-8)

Scale construction (Use of Giri-ninjo questions)

question no.	category	scale value
1	(a)	1
2	(a)	1
3	(a)	1
4	(b)	1
5	(b)	1
6	(b)	1
7	(a)	1
	(b)	1
total		0 - 8

表2-5

percentage of more than 5 values in 8 point

	S 1	S 2	Total*
German	36	34	33
French	40	36	35
English	28	28	27
American	24	23	23
non-JA in Hawaii	10	< 20**	19
JA in hawaii	18	< 31**	29
Japanese	32	< 40**	38

note) * including others besides S 1 and S 2.

** significant (confidence level 0.95)

$$(2 \sigma_{P1-P2} = 2 \sqrt{\frac{2P}{n}})$$

これはこれとして、1の型の回答（S1と示す）2の型の回答（S2と示す）との関係を見ると表2-5のようにハワイ、日本 以外では5以上のスケール値とS1、S2回答の間の差は全くない。しかし、ハワイになるとS2の回答の方に人間関係の暖かさ、柔さ好みが多くなるのである。日本では勿論高いのである。この関連性は注目してよい。S2の方の回答を人間関係の暖かさ、柔さと関係付けること、そのことが日本的考え方なのではないか、ということである。ハワイは、日本的な発想であり、関連性の上で、ハワイは日本と欧米との間に来ているのである。この関係を図示したのが図2-8である。

横軸に、スケール値5以上の全体での比率、縦軸に‘S2におけるスケール値5以上の比率’から‘S1におけるスケール値5以上の比率’を減じたものを目盛ってある。ハワイと日本は縦軸で上方にあり、日本人、日系人、非日系の順に横軸で少くなりアメリカに寄って行く。日本、ドイツ、フランスは全体での比率は近いが縦軸の意味で差が出ている。こういう意味において、日系人は日本人とアメリカ人の鎖になっているということがわかる。
 (オ) 人間関係 (interpersonal relations) における日系人

人間関係の affection scale について述べてきたが、さらにこれを拡大して同種のものをおつめてみよう。この一部をなしているQ50 めんどくさくをみる課長、Q20 就職の条件のうちの「3. 気のあった人達と働くこと」、Q47で「2. 物事を決定するとき他人との調和をはかることに重点をおく人」をより好むか、Q27d「友人、知人を非常に大事にする（6あるいは7（最大）程度）」をとりあげてみた。この比率を示すと次のようになる。

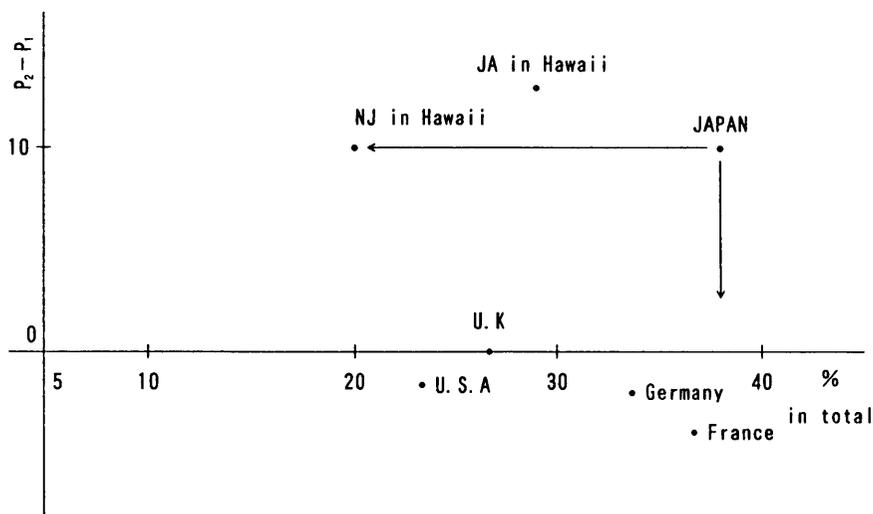


図2-8 義理人情的暖かさのスケール5以上の人の率

	ハワイ		ハワイ				
	日本	日系	非日系	アメリカ	ドイツ	フランス	イギリス
affection Scale	38	29	19	23	33	35	27
5以上の比率							
Q50 めんどうを みる課長	80	59	57	51	69	64	57
Q47 まるくおさめる 人を好む	68	72	67	47	62	66	52
Q20 気のあう人	29	22	13	11	20	7	15
Q27 友人・知人 非常に大事	67	65	58	63	63	49	57
(コード6、7)							

見やすくするため順位をつけてみると

	ハワイ		ハワイ				
	日本	日系	非日系	アメリカ	ドイツ	フランス	イギリス
affection Scale	1	4	7	6	3	2	5
5以上の比率							
Q50 めんどうを みる課長	1	4	5	7	2	3	5
Q47 まるくおさめる 人を好む	2	1	3	7	5	3	6
Q20 気のあう人	1	2	5	6	3	7	4
Q27 友人・知人 非常に大事	1	2	5	3	3	7	5
ランクの和	6	13	25	29	16	22	25

* 1%の差は同順とした。

ランクの和の近い順をみると、日本、日系人（ハワイ）、ドイツ人、フランス人、イギリス人＝非日系人（ハワイ）、アメリカ人となり、人間関係では日本の暖さ好み、アメリカのドライな好みが両極で日系人（ハワイ）は日本寄りで中間にあり、非日系（ハワイ）もイギリスと共に中間にきている。ドイツは暖かい方である。フランスは前三者は暖い方の好みであるが後の二つで異った反応をしており考えの筋道は明らかに異なる。この点アメリカも少し異なるようであるが、全体的にドライである。

いずれにせよ、人間関係で日系人は日本寄りの鎖を示しアメリカとの間にある。めんどうをみる課長のみは、アメリカ寄りであるのは注目してよい。

このように、「日本的なもの」を含む意見の場合には、多くの場合において、ハワイの

日系人は日本人とアメリカ人の鎖をなしていることが解るが、そうでない一般的な意見において日本とアメリカとが意見の異なる場合、その単純集計表をみても、日系人は必ずしもその間に來るのではなく、むしろ多くのもので、日系人はアメリカ人に非常に近く、日本に遠い考えを持っていることが示されており、日本人と異った、また、ドイツ、フランス、イギリスとも異ったものになっているのである。

参 考 文 献

- 1) 前 § 1 の参考文献 2)
- 2) 林 知己夫 (1984) 調査の科学、講談社
- 3) 林 知己夫 (1988) 日本人の心をはかる、朝日新聞社
- 4) 林 知己夫・米沢 弘 (1982) 日本人の深層意識、日本放送出版協会

§ 2.2 各国グループの相互の位置付け---鎖はどこにあるか その1 単純集計を用いて

こんどは、単純な構造の質問を用いて各国の位置付け、近さ・遠さに基く相互の位置関係を考えてみよう。

(ア) 日本的質問について

まず、大切な道徳(質問表Ⅱの問7)を用いてみよう。全体の比率は別として4つの道徳、親孝行、恩返し(調査票Aによる)、権利、自由それぞれの項目において比率の多いもの、上から3番目までをとりあげ、各国の特色をみることにする。ここで、ただ4項目の比率の多いものをとりあげると、特色の出る場合もあるが同じになってしまう場合もあるので、特色を浮き立たせる意味で、このようなとり方をしたのである。結果を表2-6に示すが、明確な関係が出てきた。日本からドイツへの両極を結ぶ関連がかわる。これを図2-9-1に示す。別の図示をしてみると図2-9-2のようになり、軸によってきれいに分離する形が出ている。日系人はこの質問においては全くアメリカと同じパタンを示していることは注目される。

表 2-6

	J	J A	A	U K	F R	G E
Filial piety	V	V	V			
Repaying obligation	V			V	V	
Respect for individual right		V	V			V
Respect for individual freedom				V	V	V

V : the largest three in each item

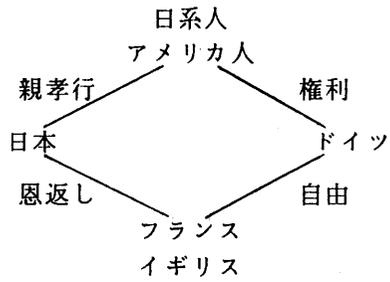


図 2-9-1
国の関連図

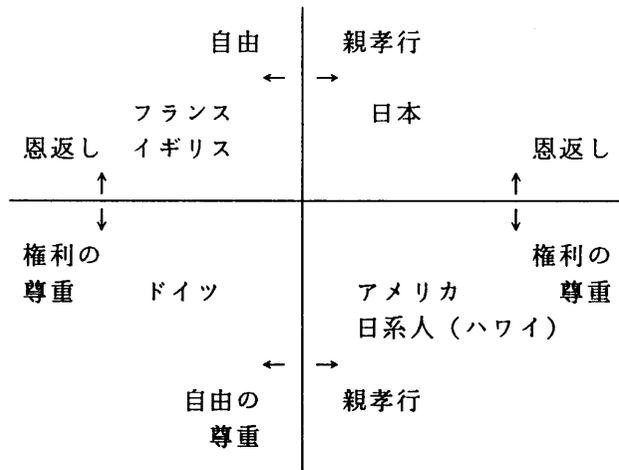


図 2-9-2

このように、日本とドイツが両極にあり甚だ差のあるように見えるが、これを拡大解釈してはいけない。めんどろをみる課長（質問表Ⅱの間6）のめんどろをみる課長の好みは

日 本	80%
ド イ ツ	69%
フ ラ ンス	64%
イ ギ リ ス	57%
ハ ワ イ 日 系 人	59%
ハ ワ イ 非 日 系 人	57%
ア メ リ カ	51%

というようにドイツと日本は近く、日系人はアメリカ人と日本人の間にくる。これは、おかしなことではなく、前述した義理人情の回答構造に日本とドイツが甚だ異ったものがある（図2-6）ことから理解されるのである。こうした構造の差があるにも拘らず「日本的な見方」でドイツの回答の関連性を見ることは正しくない、ということの意味しているのであり、各質問毎の単独集計からの「固有の発想」---それが固有であることに気がつかず、普遍的な論理と思い込んでいる---による解釈が、いかに危険であるかを如実に示している。

つぎに、義理人情における心の構図であるが、これについては§2.1にその図（図2-6）をかかげてあり、それぞれの位置付けが容易にわかる。同様に日本が安定した形で位置し、つぎに日系人がある拡がり---年次的にみて---を示し、これに近くアメリカ（1978、1988）が位置している。日系人グループに近くフランス・イギリスが位置するが、アメリカとは反対側にきて異り、ドイツがアメリカ側にあって離れて位置するという形であり、この点でみると図2-9の位置関係（日系人を除き）とかなり似ていることは面白いことである。

義理人情分布をみると図2-10のようになり、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツというように日本側に寄ってきている様相がわかる。これは表2-7に示すが、これをまとめてみやすくすると、表2-8のようになる。ハワイの日系人がやや形が異なるがハワイ非日系、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスの順に日本寄りになる。アメリカ→ヨーロッパ→日本という形であろうか。

つぎに、中間回答の分布をみよう。図2-11にその傾向を示すが、アメリカーフランスーイギリスードイツー日本という順に中間回答が大きい方に傾いて行くことがわかり、日本との距離はずいぶんある。ここでも、アメリカが人間関係の暖さの一つの尺度、義理人情スケールの時と同じく、日本の特色であるあいまいさの点で、アメリカ人がその対極のはっきり答えるという態度において、日本と対になる他の端に位置することがわかる。日系人は前述のようにヨーロッパなみということができよう。

以上は、日系人との問題でとりあげた質問について分析してきたが、これは問題への導入としてであって、次に一般的な問題をとりあげてみよう。

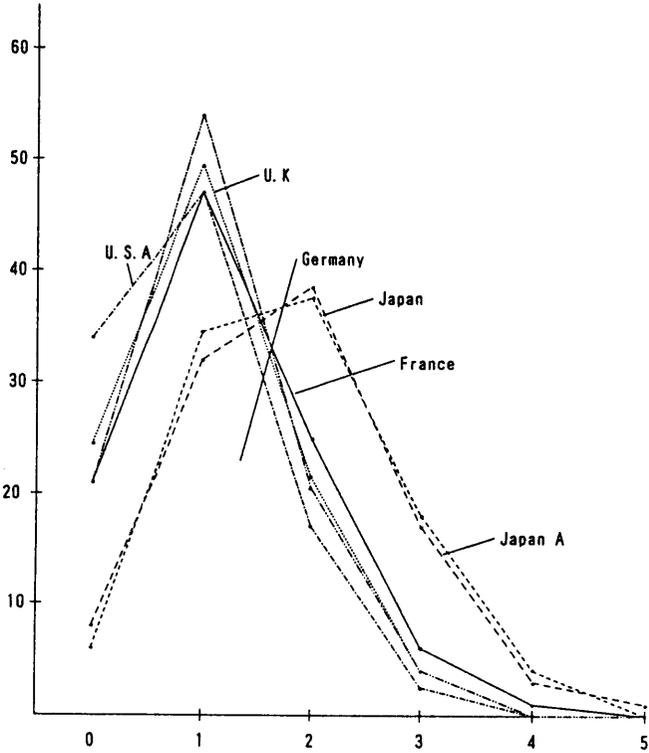


図 2-10
義理人情スケールの分布

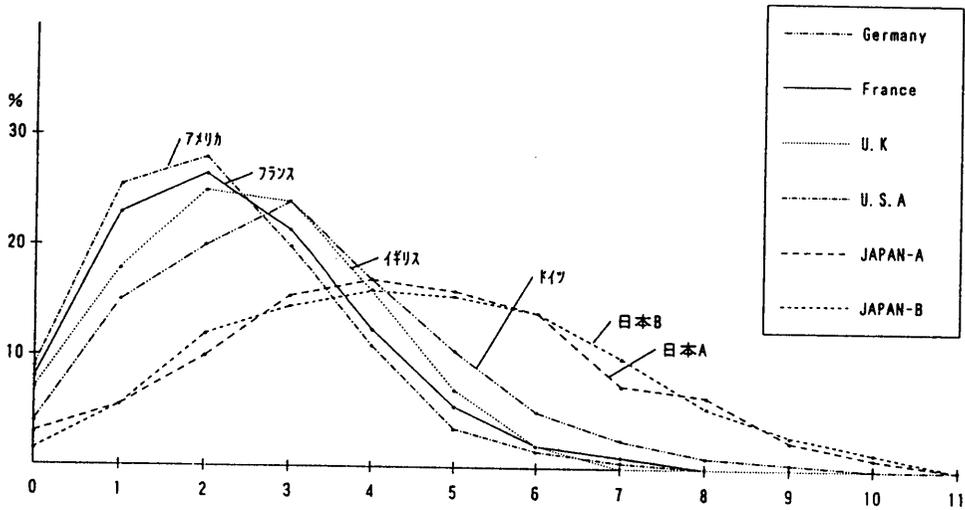


図 2-11
中間回答スケールの分布

表 2-7

Distribution of giri-ninjo scale value
(in percent)

Scale Value	J'63	J'68	J'73	J'78	J'83	J'88
0	7.1	6.1	8.4	5.8	4.6	6.1
1	34.6	37.8	37.0	33.5	33.1	34.5
2	35.7	34.8	33.7	36.4	37.9	37.6
3	18.2	17.1	17.4	19.0	18.8	17.9
4	4.0	3.8	3.2	4.9	5.0	3.6
5	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.3

Scale	Germany	France	U. K.	USA	HWNJ	HWJA
0	20.9	21.1	24.4	33.7	33.9	25.0
1	54.1	46.7	49.6	47.2	49.8	43.3
2	20.6	25.3	21.4	16.8	13.8	27.2
3	4.2	5.9	4.3	2.2	2.5	3.9
4	0.2	1.0	0.2	0.1	0.0	0.6
5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0

Scale	JA71	JA78	JA83
0	30.2	30.1	30.5
1	44.9	51.9	50.5
2	20.3	14.6	16.1
3	3.9	3.8	2.6
4	0.7	0.0	0.3
5	0.0	0.0	0.0

表 2-8

義理人情スケール分布

	ハワイ非日系	アメリカ	ハワイ日系	イギリス	ドイツ	フランス	日本
0 の比率	34%	34%	25%	24%	21%	21%	6%
2 以上の比率	16%	19%	32%	26%	25%	32%	59%

(イ) 経済と将来への期待

質問は、Q 1 から 7 まであり

- Q 1 過去 10 年間で国の生活水準はよくなったか
- Q 2 過去 10 年間であなたの生活水準はよくなったか
- Q 3 これからさき、5 年間にあなたの生活水準はよくなるか
- Q 4 これからさき、人は幸福になるか
- Q 5 これからさき、心のやすらかさはふえるか
- Q 7 これからさき、人間の健康の面はよくなるか

(Q 6 は人間の自由がふえるか、へるかの質問であったが、次元が異なる回答が入り込んでいることがわかりここでは割愛した)

という質問でポジティブ、ネガティブ、中間の回答にわけてまとめてみた。ある面での世の中の明るさに関する質問である。見易くするために、各質問で第 1 位、第 2 位に属するものの回答個数をしらべたのが表 2-9 の通りで、(日系人・アメリカ)、(日本・ドイツ)、(イギリス・フランス) というクラスターが見られこの間で差が出ている。大きく言えば 3 クラスターになり、明るい(日系人・アメリカ)と暗い(フランス・イギリス)と中間の(日本、ドイツ)ということになる。実際の経済面の実感と「ものの感じ方」の混合したものがあらわれていると見てよい。

表 2-9 世の中の明るさ

- Q 1. Standard of living in country 10 years ago
- Q 2. Your standard of living 10 years ago
- Q 3. Living conditions in future
- Q 4. Happiness in future
- Q 5. Peace of mind
- Q 6. Peoples health

	Positive	Medium	Negative
J A	6	0	0
A	4	1	2
J	1	5	0
G E	1	6	2
U K	0	0	2
F R	0	0	6

Number of the largest two answers
in each item

(ウ) 生活領域の重要性

Q 27 の問題である。

質問 [カードをみせる] 次にあげる生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思ふ程度に従って1～7の評価をつけてください。 重 要 度

- a. まず、「家族や子供」についてはどうですか。…………… 1 2 3 4 5 6 7
 b. では、「職業や仕事」についてはどうですか。…………… 1 2 3 4 5 6 7
 c. では、「自由になる時間とくつろぎ」について
 はどうですか。…………… 1 2 3 4 5 6 7
 d. では、「友人、知人」については…………… 1 2 3 4 5 6 7
 e. では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については…………… 1 2 3 4 5 6 7
 f. では、「宗教」については…………… 1 2 3 4 5 6 7
 g. では、「政治」については…………… 1 2 3 4 5 6 7

というのであるが、この重要さに応じて順位をつけてみると表2-10のようになる。これを見ると重要さの順位の高いのは各領域とも日本とアメリカにかたまり、あとはばらつく（イギリスの家や子供、フランスの職業仕事、ドイツの自由時間）と言う形で、こうした単純集計による生活領域の重視に関する全体像は、日本とアメリカとは驚く程近いことがわかる。集団としての類似度が高いということである。ここでAPMの方法によって、国と項目の同時分類を考えてみよう。この方法については、第3部[1] §1の末尾にある文献1)を参照されたい。

表 2-10
重要さに応じた国の順位

	ドイツ D	フランス F	イギリス U K	アメリカ A	日本 J	順位相関 係数
家族や子ども	5	4	2	1	3	1.00
職業や仕事	5	2	4	3	1	0.50
自由な時間	1	3	5	3	2	0.95
友人知人	3	5	4	2	1	1.00
両親など	5	4	3	1	2	1.00
宗教	3	5	4	1	2	0.90
政治	3	4	4	2	1	0.95

ここで順位1、2を○、3を△と書きなおすと

	D	F	U K	A	J
家族や子ども			○	○	△
職業や仕事		○		△	○
自由な時間	○	△		△	○
友人知人	△			○	○
両親など			△	○	○
宗教				◎(突出)	
政治	△			○	○

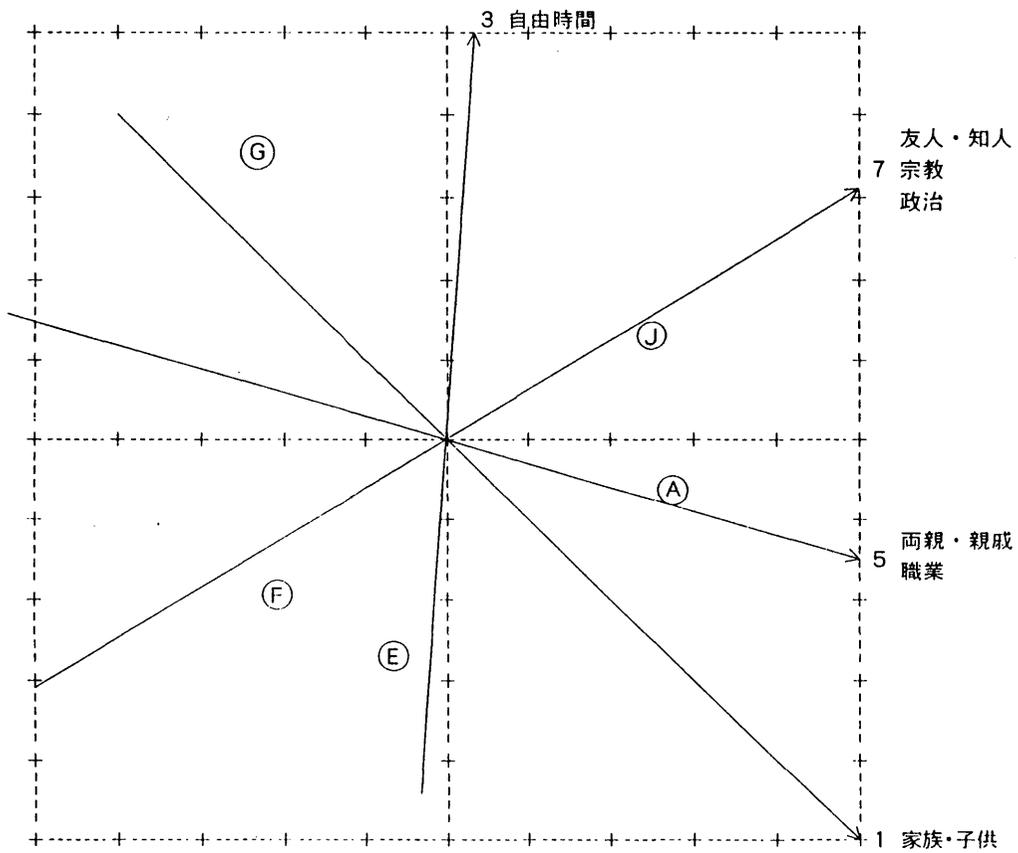


図 2-1 2
 ‘生活領域の重要度’の APM の結果

さてこの結果は、図2-12に示す通りである。

日本とアメリカが近くヨーロッパと分れる。ドイツがフランス、イギリスと離れている。2次元目に着目すると日本とドイツが近い。矢印（矢印のある方が若い順位）のついた直線で項目を示すが、友人、宗教、政治は全く同傾向。両親・職業・健康が同じで、これに近く家族がある。自由時間は独立である。これらの順位相関は表2-10の右側に書いてあるが、職業・健康を除いて高く、よく関係をあらわしている。全体の平均の順位相関は0.92と高く出ている。それぞれの間の異り、また近い様相がはっきりよみとれる。

単純集計をもとにした分析で、これ以上踏み込むことは、誤りを犯すことが多いので、これ以上論じない。これによって大局をつかんだ上で、国別の意見分布を見れば見通しがよくなるので、付録の集計表をみていただきたい。

§ 2.3 各国グループ相互の位置付け---鎖はどこにあるか。

その2 考えの筋道の同一性と各国グループの位置

§ 2.2においては、単純な集計をつらねて各国の関連性をみてきた。ここでは、考えの筋道をもとに分析を深めるのであるが、「考えの筋道の同一であるもの」を中心に分析を進めたい。多くの質問を集めても、考えの筋道の同一性を見出すことが困難である。しかし、いわゆるスケール（勿論ガットマンスケールの意味である）を作ると予想され、同質と見做すことが可能な質問を集めて分析を進めると、各国とも全く同じ考えの筋道が見出されたのである。複雑に見えるものの中に単純性を見出すことができた。これは、高度産業社会・情報化社会における一般的態度に関する質問に多く見られるがその他でも見かけられる。さて、しかし、この限られた考えの筋道の同一性から総括的に同じと見ることは正しくはない。その部面の考えの筋道の同一性、その内における国の関連性は解るが、人々はこれのみで生活しているわけではない。他の部面で考えの筋道の同一性はあってもその領域内における国の関連性は前のものと必ずしも同一ではないし、それら二つの部面の関連性は各国で同じとは限らない。こうした点に注意してみないと、複雑な中に単純性を見出したとしても、誤解を増幅するばかりである。ある点に着目すれば単純に見えるが、全体像は、それらの関連性を解きほぐしてこなくては見えてこないことを知るべきである。こうしたことを心得た上で、考えの筋道の同一性という単純なものと、その中での国々の位置付けを探り、複雑なことを知るための一環として行くことにしよう。

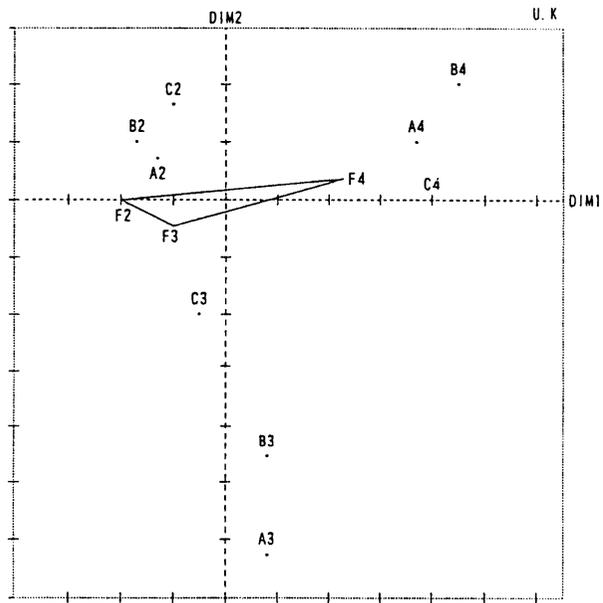
(ア) 経済と帰属階層意識

前の§ 2.2の(イ) 経済と将来への期待のときのQ1、Q2、Q3のほかにQ16の帰属階層意識の上、中、下を加えた分析を示してみよう。回答の概略は表2-11の通りである。

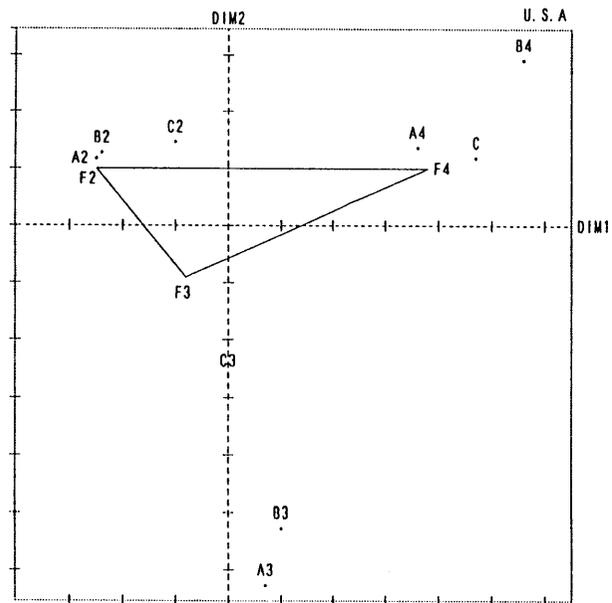
表 2-1 1
 経済の質問と帰属階層意識への回答

記号	質問	回答カテゴリー	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日本	
A	Q 1 Standard living in xxxxxx 10 years ago	A 2	1. Much better	19.2	2.6	21.4	17.0	25.1
			2. Slightly better	42.0	18.5	40.0	32.0	49.8
		A 3	3. About the same	26.0	17.1	13.0	18.0	16.7
			4. Slightly worse	9.6	37.4	15.0	21.8	4.5
		A 4	5. Much worse	1.4	23.0	8.0	9.3	0.8
			9. D. K.	1.8	1.5	2.7	1.9	3.1
B	Q 2 Your standard living 10 years ago	B 2	1. Much better	16.5	6.7	24.0	25.9	7.2
			2. Slightly better	38.9	19.4	30.4	27.0	43.7
		B 3	3. About the same	33.3	25.9	25.2	26.2	37.9
			4. Slightly worse	8.0	29.7	11.8	14.3	7.9
		B 4	5. Much worse	2.0	16.5	6.7	6.0	1.3
			9. D. K.	1.2	1.8	1.9	0.6	1.9
C	Q 3 Living conditions next 5 years	C 2	1. Much better	3.8	6.7	11.8	17.1	2.6
			2. Slightly better	27.4	25.1	28.2	29.9	22.4
		C 3	3. About the same	47.6	28.5	38.6	35.0	52.2
			4. Slightly worse	15.6	27.4	12.8	8.6	14.8
		C 4	5. Much worse	1.0	6.4	3.1	3.7	1.5
			9. D. K.	4.6	5.8	5.5	5.7	6.5
F	Q 16 Living class	F 2	1. Upper	0.9	1.8	0.4	1.5	1.1
			2. Upper middle	15.9	10.8	7.2	16.7	10.9
		F 3	3. Middle	53.7	61.2	53.6	54.5	53.6
			4. Lower middle	21.5	18.9	28.1	21.6	26.9
		F 4	5. Lower middle	3.4	6.3	8.1	5.2	5.4
			9. D. K.	4.6	1.1	2.6	0.5	2.1

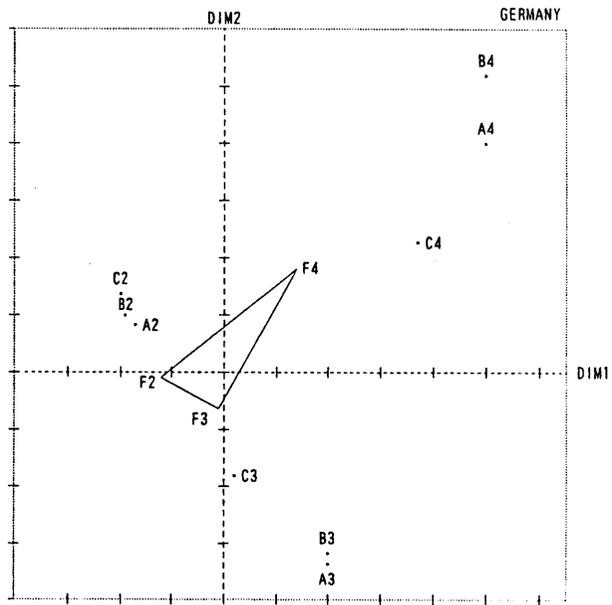
ここでパタン分類をしてみるとポジティブ、ネガティブ、中間の3つにきれいに分けられた姿とポジティブに帰属階層の高い方、ネガティブに低い方が並ぶというきわめて理解しやすい形がどの国でも出ている。こまかく検討すれば、帰属階層（F）の位置が少しずれていること、ポジティブのカテゴリーの小さくかたまるもの、広がるものネガティブ回答の小さくかたまるもの、広がるものが見出されるが大局的な構造にそう大きな違いはない。当然と言えば当然であるが、一つの知見である。日本とドイツはポジティブが小さく固りネガティブが広がることがわかり、フランスは逆にポジティブがひろがり、ネガティブが固り階層意識とポジティブ、ネガティブの関係が密接である（この点アメリカもこれと同じ関係が密接である）。これらは図 2-1 3-1, 2, 3, 4, 5 を見れば説明の必要がない。これをまとめてみると



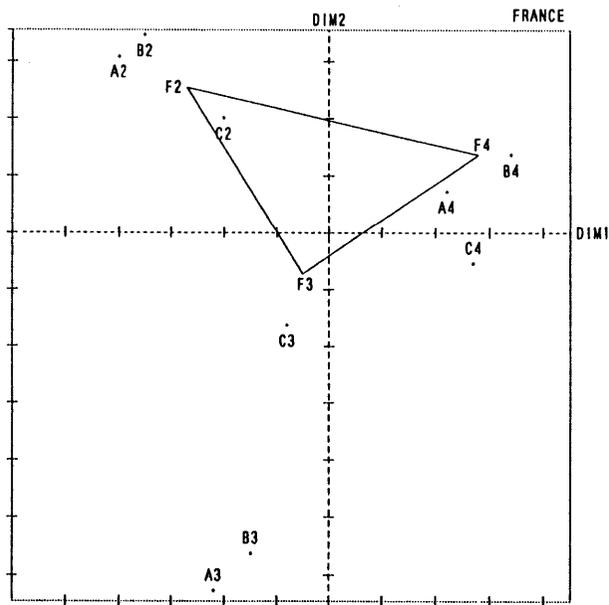
☒ 2 - 1 3 - 3
U. K.



☒ 2 - 1 3 - 4
U. S. A.



☒ 2 - 1 3 - 1
GERMANY



☒ 2 - 1 3 - 2
FRANCE

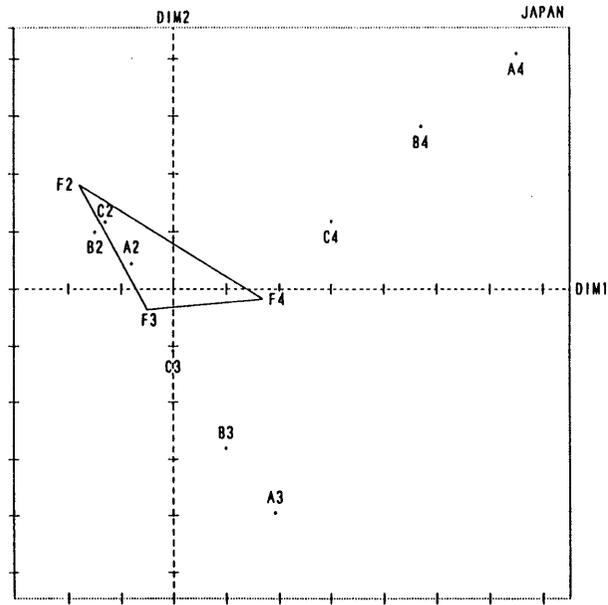


図 2-13-5
JAPAN

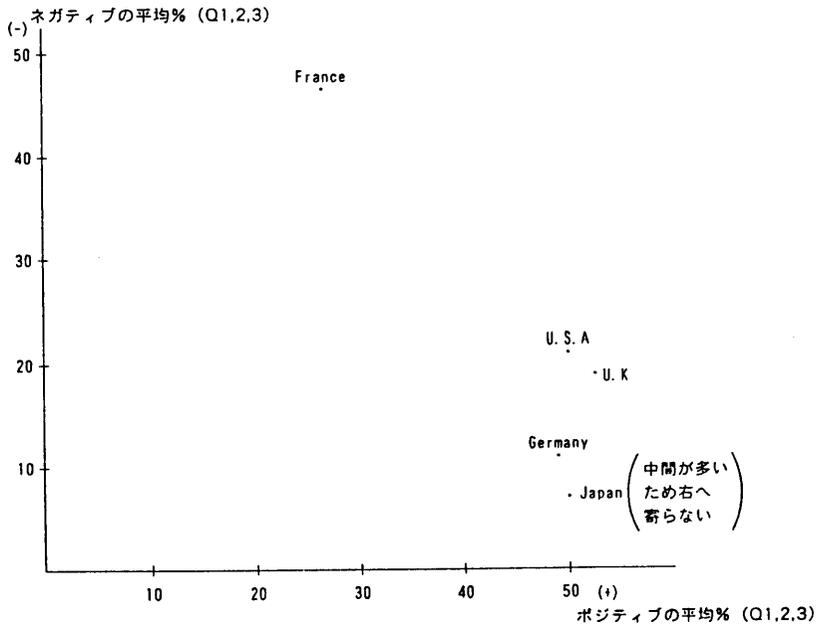


図 2-14

Q 1、2、3 のポジティブ・ネガティブ回答による国の位置付け

	ポジティブ群 の固り	ネガティブ群 の固り	帰属階級意識 との密接さ
日本	小	大	中
ドイツ	小	大	中
イギリス	小	中	中
アメリカ	小	中	密
フランス	大	小	密

という形がみられ、国々の連鎖が（日本、ドイツ）、イギリス、アメリカ、フランスという形で順次異っていく姿が上の関係から読みとれる。Q 1、2、3のポジティブの平均%とネガティブの平均%を目盛ると図2-14のようになり、上述の関係とよく似たつながりが見られる。

(イ) 不安感

質問は、調査票の問9（質問表Ⅷにもある）であり、用いたコードは次の通りである。

質問[カード]ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがありますか。あなたは、次のような危険について不安を感じるがありますか。

		非常に 感じる	かなり 感じる	少しは 感じる	全く 感じない
J	a. まず、「重い病気」の不安は どの程度でしょうか。……………	1	2	3	4
K	b. では、「交通事故」について はどうでしょうか。……………	1	2	3	4
L	c. では、「失業」についてはど うでしょうか。……………	1	2	3	4
M	d. では、「戦争」についてはど うでしょうか。……………	1	2	3	4
N	e. では、「原子力施設の事故」 についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4

これについて国別パタン分類を行うとどの国も全く同じ構造、つまり不安を感じる、中間、感じないという三極構造をし、いずれの国でも差異はないということがわかる。そこですべての国をボンドして、各国の位置付けを行ってみた。まず、質問については図2-15のようにきれいなスケールをなし、「非常に感じる」「かなり感じる」「少しは感じる」「全く感じない」の順にならぶが、「かなり感じる」と「少しは感じる」、は近く固まり、それほどの差はない。さて各国の位置は図2-16のようになり、日本は不安なしより中間的方向に寄っている。イギリスは非常に感じるものもあれば全く感じないものもあるという形が出ている。ドイツ・フランスが両極で、フランスはきわめて不安を感じる傾向を示し、ドイツは日本と共に感じない方の極にある。（ア）でのべた経済と帰属階層意識の分析の結果と全く呼応する関係が示されている。

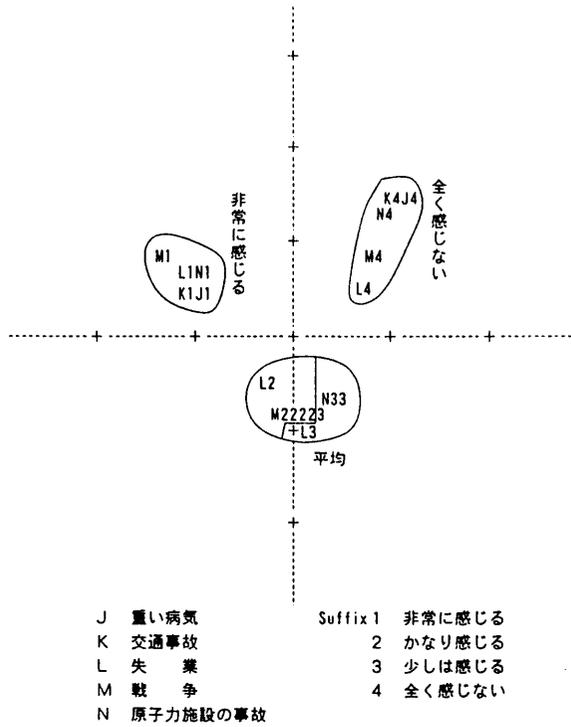


図 2-1 5
不安の構造

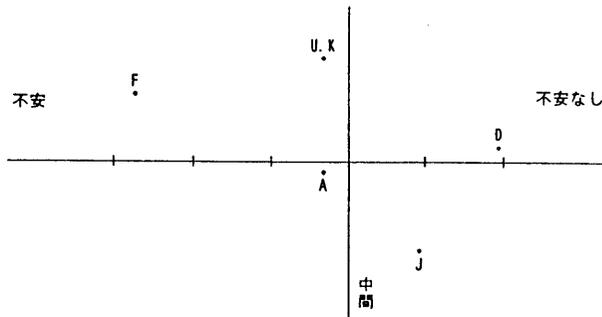


図 2-1 6
不安感による国の位置

(エ) 科学文明観

科学文明に対してポジティブかネガティブかを見ようとするものであり質問は次の通りである。

- | | | |
|-------|--------------------|--------------------|
| Q 55 | 科学は役に立っているか | D : D1, D2, D3 |
| Q 56 | コンピュータ社会は望ましいか | E : E1, E2, E3 |
| Q 57a | 近代医学で治療できないものがあるか | F : F1, F2, F3, F4 |
| b | 人の心は科学でわかるか | G : G1, G2, G3, G4 |
| c | 社会・経済の問題は科学で解決できるか | H : H1, H2, H3, H4 |
| Q 58a | 原子力廃棄物の安全管理可能か | I : I1, I2, I3 |
| b | ガン治療方法の解明可能か | J : J1, J2, J3 |
| c | ボケの治療方法の解明可能か | K : K1, K2, K3 |
| d | 宇宙ステーションの生活可能か | L : L1, L2, L3 |

各国別に、考えの筋道をしらべるため、パタン分類の数量化を用いたところ、ポジティブ、中間、ネガティブのスケールをつくる構造がどこの国でも明瞭に出てきて、こうしたものでは考えの筋道に差のないことがわかった。そこで全データをボンドしてパタン分類の数量化によって考えの筋道を描きだしたのが図2-19であり、これに見られる通りポジティブ、中間、ネガティブの構造が描き出された。但しこれをみているとFの項目（近代医学でなおらぬ病気があるかどうか）は縦軸に一例にならび、ここでの質問群—つまり科学文明観—とは別の次元のものであることが解った。

さて、こうした数値の下で各国の布置をみたのが図2-20である。アメリカ、フランスがポジティブ、ドイツがネガティブ、イギリスがややネガティブで多少中間がある。日本は中間という形が出てきて、それぞれの国のこの面での特色が描かれた。

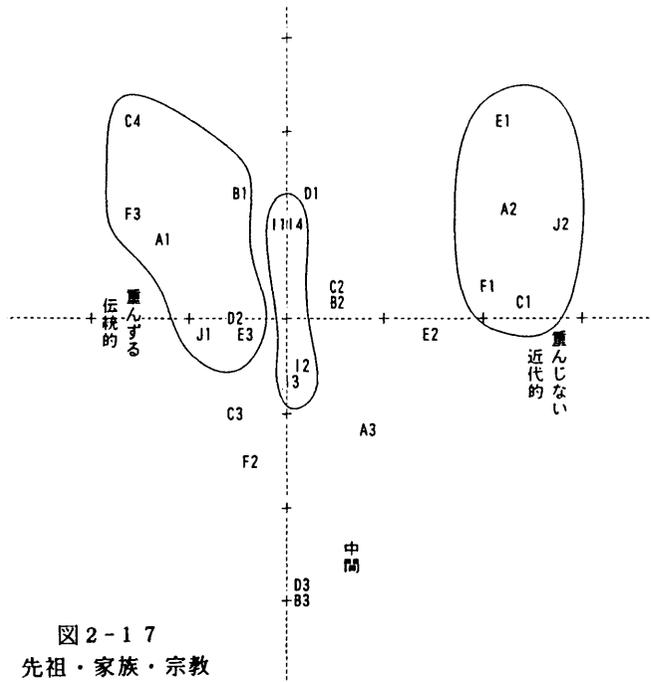


図 2-17
先祖・家族・宗教

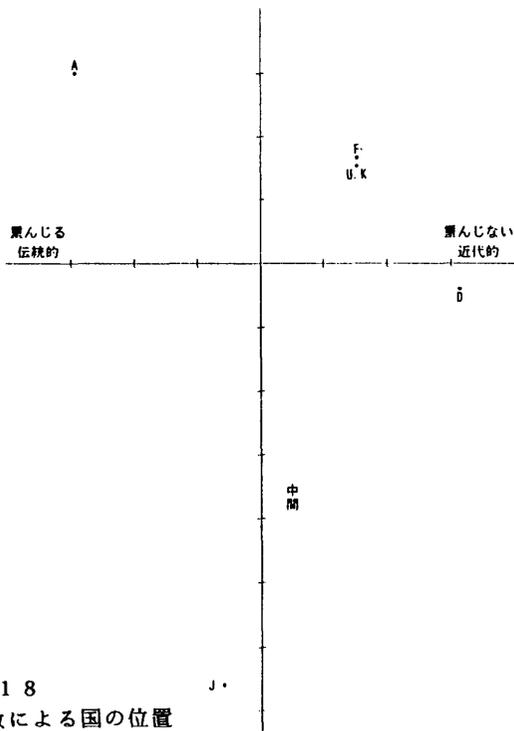


図 2-18
先祖・家族・宗教による国の位置

(ウ) 先祖・家族・宗教の関連性

一見異なるような質問群であるがこれは、

Q 11 先祖を尊ぶか	A : (1) A 1, (2) A 2, (3) A 3
Q 12 養子をとるか	B : (1) B 1, (2) B 2, (3) B 3
Q 13 子供の数	C : (0, 1) C 1, (2) C 2, (3) C 3, (4以上) C 4
Q 27e 親戚等 大切か	E : (1, 2, 3) E 1, (4, 5) E 2, (6, 7) E 3
Q 27f 宗教(教会)は大切	F : (1, 2, 3) F 1, (4, 5) F 2, (6, 7) F 3
Q 35 しきたりに従うか	D : (1) D 1, (2) D 2, (3) D 3
Q 54e 人生観 孤独か	I : (1) I 1, (2) I 2, (3) I 3, (4) I 4
Q 63 宗教的な心 大切か	J : (1) J 1, (2) J 2

注) コードは回答のコード、括弧はそのカテゴリーを統合したことを示し、それを右のコードで表していることを示している。

から成っている。質問の全文およびコードの意味は質問票を参照されたい(以下の節も同様である)。

なお、類似のものとしてQ 27aの「家族や子供」の大切さも同種であるが、回答が著しく大切の方に偏り、Q 27eとも関係が深いので割愛した。

ここで考えの筋道を見るため、パタン分類の数量化を行ったところ、どこの国においても同じ形、こうしたものを重んじる方、中間、重んじない方のスケールを作る形が出ていた。この意味で考えの筋道はどこの国でも同じであると見做せる。そこですべての国のデータをボンドしてパタン分類の数量化を行ってみたところ図2-17を得た。Iの項目(Q 54e)孤独を感じるかは縦軸にならび無関係の様相を示しているが、重んじる方、中間、重んじない方にスケールをなしていると見てよい。

そこで国別に平均値を目盛ってみたのが図2-18である。アメリカは重んじる方、日本は中間、ドイツ、フランス、イギリスが重んじない方、という構図である。アメリカ、日本が、X軸(第1軸)のスケール値で近く、ヨーロッパが重んじない方で近く位置する。(ア)と甚しく異なる結果である。

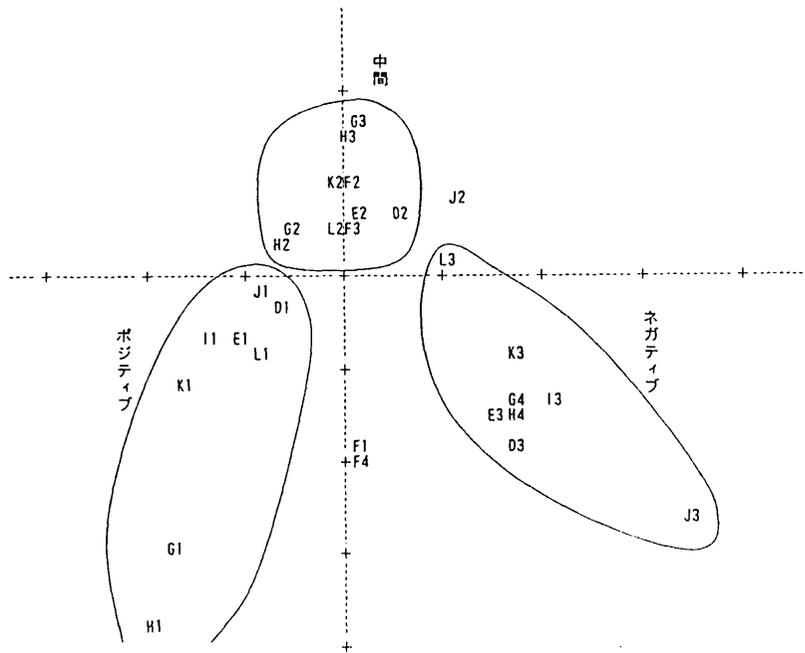


図 2-1 9
科学文明観

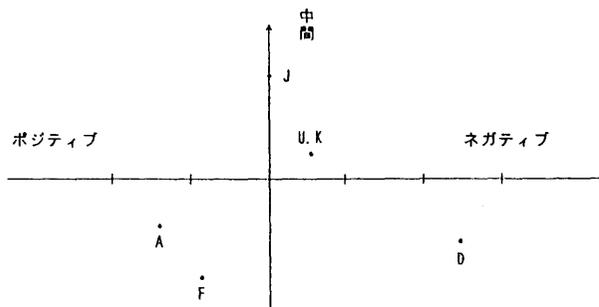


図 2-2 0
科学文明観による国の布置

(オ) 健康観と生活満足

健康に関する質問をあつめてみた。質問文は次に示す通りである。

- Q 7 人間の健康の面に関する将来の見通し A : (1) A 1, (2) A 2, (3) A 3
- Q 9 a 重い病気への不安 B : (1) B 1, (2) B 2, (3) B 3, (4) B 4
- Q 10 a 医療費を節約するか C : (1) C 1, (2) C 2
- Q 15 健康状態の満足感 D : (1) D 1, (2) D 2, (3, 4) D 3
- Q 23 環境満足 E : (1) E 1, (2) E 2, (3, 4) E 3
- Q 57 a 近代医学とは別の治療法がよい病気があるか F : (1) F 1, (2) F 2, (3) F 3, (4) F 4
- Q 58 b ガンの治療法の説明 G : (1) G 1, (2) G 2, (3) G 3
- Q 28 家庭生活満足感 J : (1) J 1, (2) J 2, (3) J 3, (4, 5) J 4
- Q 29 生活満足感 K : (1) K 1, (2) K 2, (3) K 3, (4, 5) K 4
- Q 14 a 頭痛、偏頭痛 かかったことあり L 1
b 背中のだるさ かかったことあり L 2
c いろいろ かかったことあり L 3
d うつ状態 かかったことあり L 4
e 不眠症 かかったことあり L 5

この質問について各国別に、パタン分類の数量化を行ったところ、全く同じ考えの筋道があらわれ、ポジティブ、中間、ネガティブの構造が見られた。この限りにおいてどこの国も、同じ考えの筋道があることが解った。そこで、すべてのデータをボンディングしてパタン分類の数量化を行ったところ図2-21を得た。ポジティブ、ネガティブ、中間のスケールをつくる構造が見られた。しかしF、Gの項目、近代医学とは別の方法で治療した方がよいものがあるか、ガン治療の説明の2項目は、こうしたものとは独立（無関係）であることが出てきているのは面白い。家庭生活満足感および、生活の満足感もポジティブ、ネガティブ、中間のクラスターに入り込んでいるのも注目してよい。健康観といわば一体となっている。こうして、考えの筋道が同一であることが解ったので国別の配置をメモしてみたのが図2-22である。フランスがネガティブ側、日本、アメリカ、イギリスがポジティブ側、ドイツが中間という明確な形がでていいる。ここでは（日本、アメリカ、イギリス）が一つのクラスター、ドイツ、フランスがそれぞれ別のクラスターとなっている形が出ており、これまでのものとやや異った国別関係が見出される。

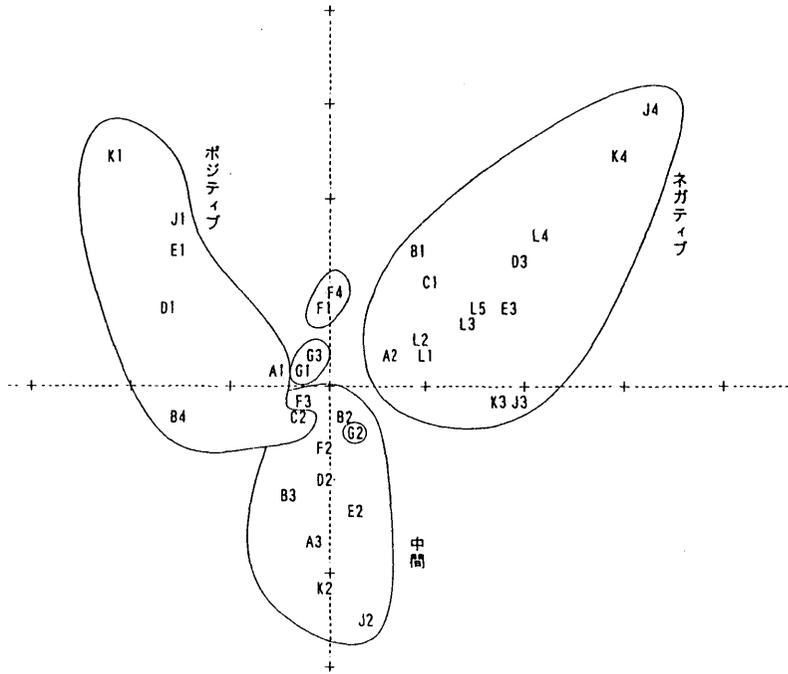


図 2-2 1
健康観と生活満足

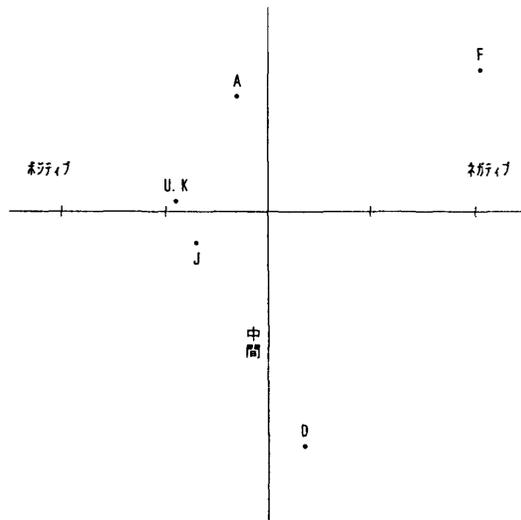


図 2-2 2
健康観・生活満足感による国の布置

(カ) 金に対する態度

金銭観、金と仕事というような質問をあつめてみた。

Q17 収入か余暇か	A : A1, A2
Q18 一生働くか	B : B1, B2
Q19 金と人生	C : C1, C2
Q20 就職の条件	D : D1, D2, D3, D4
Q22 暮らし方	E : E1 (金持ちになる)
Q33 金は大切と教えるか	F : F1, F2
Q8 国の目標 (ゴール)	I : I1, I2, I3, I4
Q54d 収入か手段か	H : H1, H2, H3, H4

これらを用い、国別に考えの筋道を出してみたところ、金志向、そうでない方というように分離する傾向がどの国でも見られた。これも、普遍的な考え方と言えよう。そこで金に対するデータをボンドして考えの筋道をはっきりさせるため、パタン分類の数量化を用いて、描き出したのが図2-23である。金志向、そうでない方がきれいに分離しスケールを作っている。そこで国別の配置をみたのが図2-24である。一次元(横軸)でみるとドイツ、フランスが金志向、アメリカ・イギリスが非金志向、日本が中間という形が出ている。但し日本のみ縦軸で下方にあり他のグループと異なる。(金があっても一生働く、金があっても仕事がなければ人生はつまらない、金は大切なものの一つだと教える、あるいはそれは時と場合による、物価の上昇をくいとめる政策、金持ちになる)という意見が多く出ており、こうしたところが日本の金銭観の特色を形成しているということが出来る。なお、ドイツ、フランスが上方に出ているが、これは(金がたまったら働くのをやめる、金があれば仕事はなくても人生はつまらないと思わない)という意見寄りである事を示している。

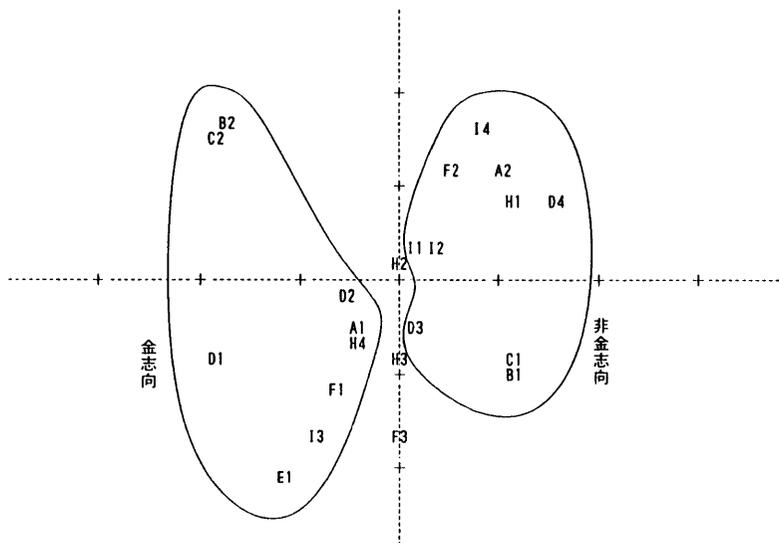


図 2 - 2 3
金に対する態度

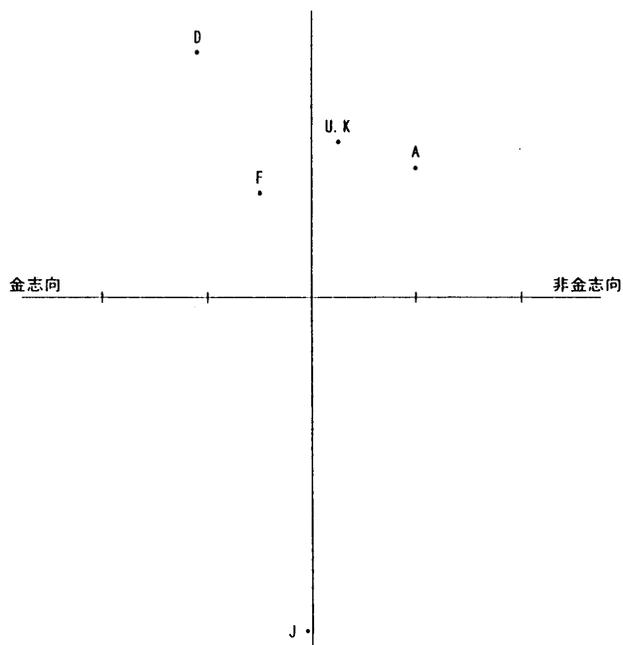


図 2 - 2 4
金に対する態度による国の位置

(キ) 経済に対する態度、これからの見通し

§ 2.2 の(イ) 経済と将来への期待、に見合うものの考えの筋道を探る問題である。質問は次の通りである。

- | | | |
|-----|-------------------------|----------------|
| Q 1 | 国の生活水準の10年間の向上 | A : A1, A2, A3 |
| Q 2 | 自分の生活水準の10年間の向上 | B : B1, B2, B3 |
| Q 3 | これから5年間の自分の生活水準
の見通し | C : C1, C2, C3 |
| Q 4 | 将来の幸福ふえるか | D : D1, D2, D3 |
| Q 5 | 将来の心のやすらかさふえるか | E : E1, E2, E3 |

各国別にボタン分類の数量化により考えの筋道を見ると、ポジティブ、中間、ネガティブの3つにわかれスケールをすることが明確に出ている。経済のポジティブ感と将来の見通しの明るさ、それらのネガティブ、中間という形である。Q1、2、3とQ4、Q5とは一見関係がなさそうであるが、そうではなく、ともに経済ポジティブ(ネガティブ)のクラスターに明るい(暗い)見通しが属しているのである。全データをボンドしてボタン分類の数量化を用い、考えの筋道を出してみると図2-25のようにはっきりした3極構造が見出された。そこで、国別の位置付けをみると図2-26のようになる。アメリカはポジティブ、明るい方に近くあり、イギリスはややネガティブ寄り、フランスはネガティブ、暗い方にある。日本とドイツは中間でややポジティブ・明るい方に寄っているという形が出ている。

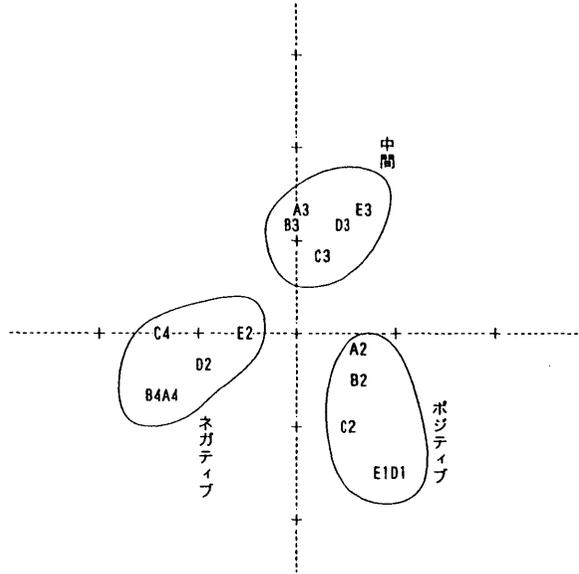


図 2-2 5
経済と将来の見通し

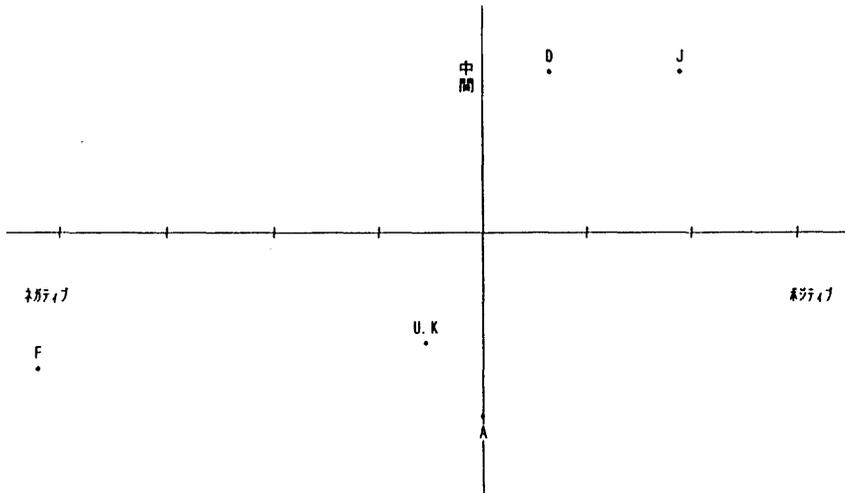


図 2-2 6
国別位置

(ク) 信頼感

人間に対する信頼感をみようとするものである。対人関係を問題にしたQ51、Q52、Q53をとりあげることにした。各質問のコードは次の通りである。

- | | | |
|-----------------|-------------|---------------|
| Q51 役に立とうとしているか | A0 他人の役に | AX 自分のことだけ |
| Q52 利用しようとしているか | B0 そんなことはない | BX 利用しようとしている |
| Q53 人は信頼できるか | C0 信頼できる | CX そんなことはない |

各国別にパタン分類をしてみると全く同じ形をし、信頼－不信頼が分離し、きれいにスケールを作ることがわかった。そこで、全サンプルをボンドしてパタン分類したのが図2-27であり明瞭すぎるほどの形が出ている。国別の位置をみたのが図2-28であり、フランスのみ離れて不信頼の方に、あとは信頼の方にかたまるが、アメリカとドイツは全く近い。日本は下寄り、つまりB0、C0、AXと回答する傾向がより強いと思われる。Q52、Q53では信頼寄りの回答をするが、Q51では自分のことだけ気をくばっているのが多いという回答である。一つの特徴である。

(ケ) 家庭に対する近代・伝統

質問としては、Q37、Q38、Q39、Q27a、Q27eをとりあげた。コードは次の通りである。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| Q37 家庭はくつろげるただ一つの場所 | A1 そう思う |
| | A2 そう思わない |
| Q38 離婚はよいか | B1 すべきでない |
| | B2 ひどい場合はよい |
| | B3 いつ離婚してもよい |
| Q39 家事や子供の世話 | C1 すべて女性の仕事 |
| | C2 いくつかは女性の仕事 |
| | C3 区別なくやるべきだ |
| Q27a 「家族や子供」大切か | F1 1～6 大切でない方 |
| | F2 7 非常に大切 |
| Q27e 「両親、兄弟、姉妹、親戚」大切か | R1 1～5 大切でない方 |
| | R2 6, 7 非常に大切な方 |

これを国別にパタン分類をしてみると、問題が単純なためほとんどその考えの筋道の同じことがわかった。このようなものでは、やはり心の構図に国の差はなく、伝統－近代の考えの筋道のあることが解った。そこで全サンプルをボンドしパタン分類をしてみると図2-29に示す通りである。伝統－近代のスケールをしていることがわかる。国別の位置をみたのが図2-30であり、伝統寄りから日本－アメリカ－イギリス－フランス－ドイツ（非伝統＝近代寄り）という順位が得られたが、日本はC1、家事や子供の世話はすべてが女性の仕事という方向に寄っている。ドイツは家族、子供、両親、兄弟姉妹、親戚が大切でない方にやや寄っている。アメリカはこれらを大切にする方に寄っており、フランスはA、B、Cでの近代的な方に寄っている。こういう形がそれぞれの国における特色となると見られよう。これらは相対的位置付けの問題である。

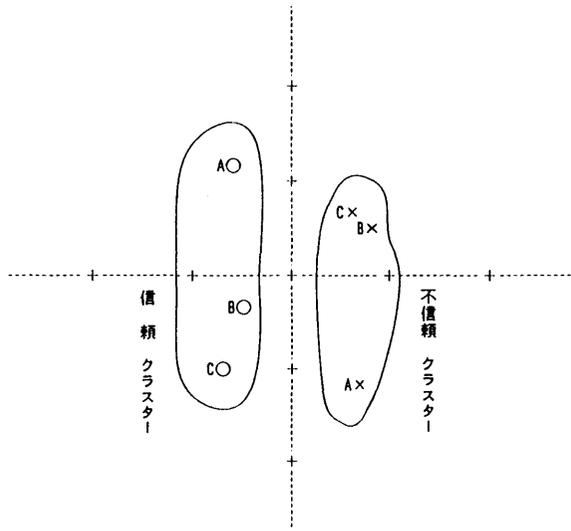


図 2-27
信頼感について

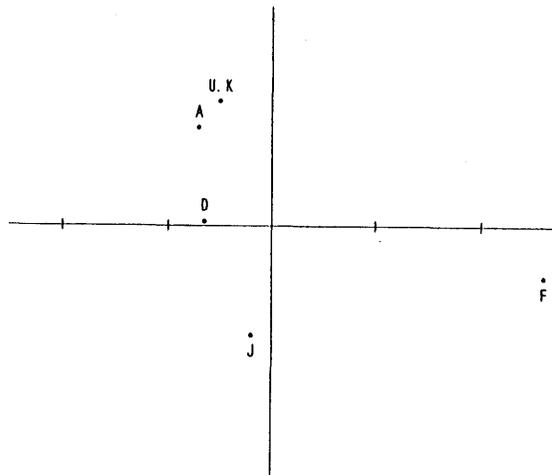


図 2-28
国別付置

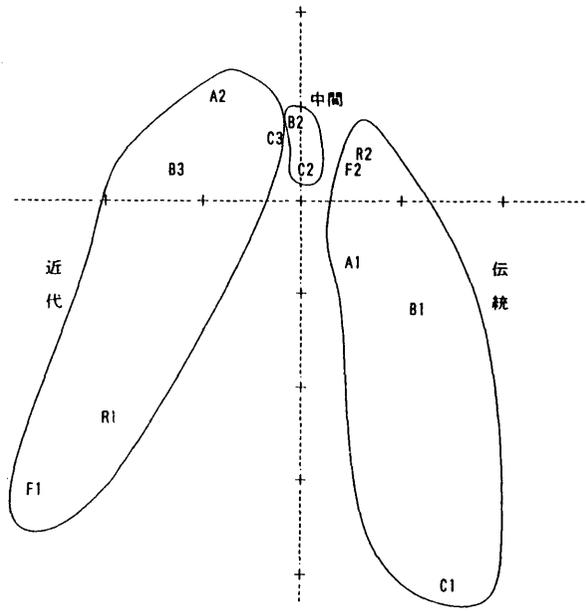


図 2-29
家庭に対する態度

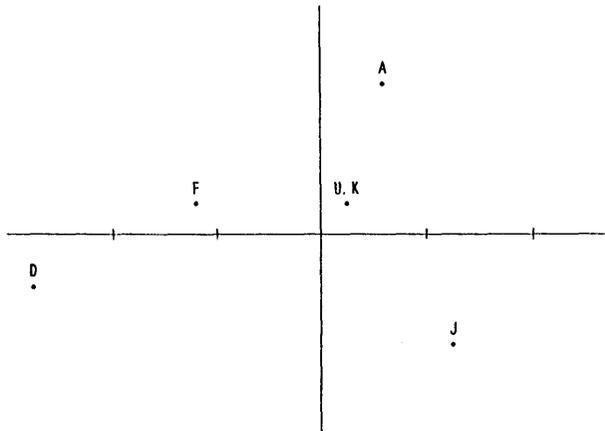


図 2-30
国の布置

(コ) 政治的主義主張

ここでは、民主主義、資本主義、社会主義の三つについて---自由主義・リベリズムは分析の結果アメリカのみ特異の反応を示す言葉であり他国と異質の内容を持つものであることが判明したのでこれを除外した---パタン分類を試みたところ、図2-31のように明らかな構造がみられた。社会主義好み、民主主義・資本主義寄り、時と場合による中間好みという明瞭な構造が出てきており国別の位置も図2-32のようにはっきりした結果が得られた。図2-31の記号は次の通りである。

O : 民主主義	O1 よい	O2 時と場合による	O3 わるい
P : 資本主義	P1 よい	P2 時と場合による	P3 わるい
Q : 社会主義	Q1 よい	Q2 時と場合による	Q3 わるい

アメリカの(民主主義、資本主義)好み、フランスの(社会主義)好み日本の中間好みでやや(民主主義、資本主義)寄り。ドイツはやや(民主主義、資本主義)寄り、イギリスは(社会主義)寄りという形が出て、日本、アメリカ、フランスの三極構造が出てその中でドイツのアメリカ寄り、イギリスのフランス寄りが出ている。

これまで行ってきた考えの筋道による分析は単純集計による分析§2.2の(イ)の分析と同じような結論を与えているが、さらにきめの細かい裏付けを与えている。一つは、国別に見た考えの筋道の同一性という重要な考察、さらに、その空間での位置付けという点である。このような考えの筋道の同一性がなければ§2.2(イ)でのべたような明確な関係が折出されなかったのではないかと思われる。

以上、いくつかの面で同一の考えの筋道を示すいわばスケールをなす質問群を見出してきた。同一の考えの筋道という共通の思想で測りうる部面を探り出してきたのである。複雑に見えることが、こうした考えの筋道の同一性を示すものに仕分けされたことが解ったのである。この限りにおいて、つまりそれぞれの仕分けされた中では、つまり局限された場においては誤解がおこり得ないわけである。そして、その中で各国の位置付けが出来たわけである。これらの仕分けされたもの間の相互関係が果たして各国で同一であるかどうか、これについては次の§3において考察することにする。

ここでは、その前段階として、そのスケールをなしている空間のポジティブ、ネガティブ(伝統-近代など)の位置をもとに、スケールを並列したとき、どのような関連性があるかを大局的に示しておこうと思う。これには、APMという方法、国の分類と各質問群とを同時に分類する方法でこれは、第3部[1]§1の末尾にあげた文献、林・鈴木「社会調査と数量化」岩波書店(1986)の234~243ページ以下に詳述してあるのでここでは繰返さない。

まずとりあげる質問群は、主義主張は一応別にして、不安、先祖、科学文明、健康、金、経済・将来の明るさ、信頼感、家族に関するもので、これまでの分析により何等かの意味でスケールをなし、ポジティブ-ネガティブ、伝統-近代等という段階のつくものである。

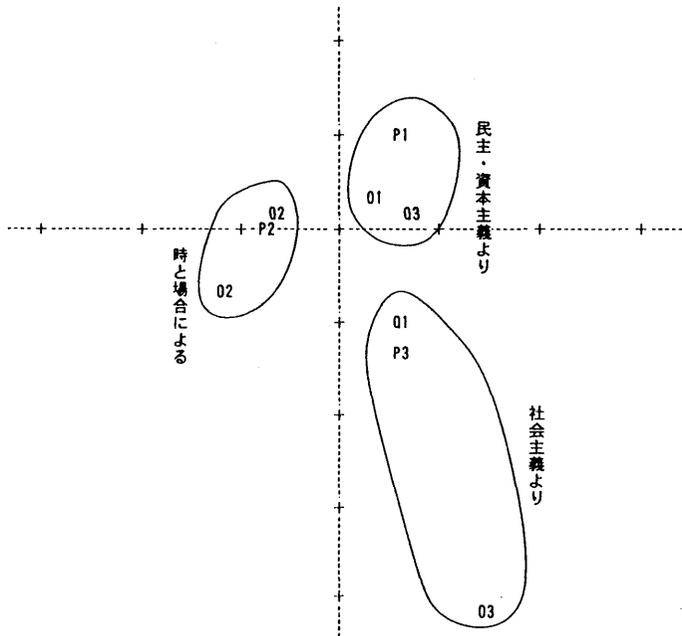


図 2-3 1
主義はよいか

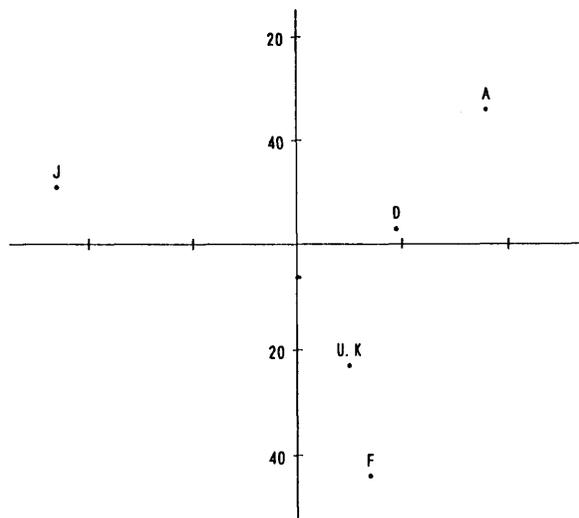


図 2-3 2
国の布置

大局をつかむため国の比較をしてそのランクオーダーを用いた。ポジティブ（明るい）の方に若い順位、非金志向、伝統的方向に若い順位を与えることにした。この国別の結果は表2-12に示す通りである。

表2-12
各質問群別の国の順位

	ドイツ	フランス	イギリス	アメリカ	日本	順位の 上の方の意味	順位相関係数
不安	1	5	3	4	2	不安なし	1.00
先祖	5	3	3	1	2	重んじる方	0.95
科学文明観	5	2	4	1	3	ポジティブな方	1.00
健康	4	5	1	3	2	ポジティブな方	0.60
金	5	4	2	1	3	非金志向の方	0.90
経済・将来	2	5	4	3	1	ポジティブ・明るい方	0.90
信頼感	1	5	3	1	4	信じる方	0.85
家庭	5	4	3	2	1	伝統的の方	0.90

APMの方法を用いた分析結果は図2-33に示しておく。国の位置をみると、アメリカ（A）、日本（J）、イギリス（E）、が近く、ドイツ（G）、フランス（F）がはなれるという3極構造が出てきた。各領域をあらわすものとして矢印のついた直線（矢印のついた方の意味は表2-12の右側に書いた方向である）によってあらわされる。領域のクラスターは、

- 金に対する態度、先祖、家族
- 科学文明観
- 健康観
- 信頼感・経済
- 不安感

というもので、これはあくまでも各領域別のポジティブーネガティブ、非金志向ー金志向、伝統ー近代等の順位の国全体の位置付けに準拠したものである。個人レベルでの相互関係を考慮した上のものでないことに注意されたい。順位相関は健康観の0.60を除きいずれも高く、全体の平均は0.90でこの図柄は表2-12の情報をよく盛り込んでいるといえることができる。

こうした部面に限定すると日本とアメリカは近く（このことはイギリスも同様）、前記のべた§2.2（ウ）生活領域の重要性と共に注目してよい。しかし、§2.2で述べた、日本的なものを考えに入れた対人関係などの事項に関しては日本とアメリカは対極にあるという関係は興味のある問題で、十分心に留めておくべき事項である。このAPMの分析も、単純集計で述べた時と同じく、スケールをなす領域に分類した質問群での国単位のスケール値に基づく大局的事象把握によるもので、この意味で単純集計の場合（関連性を考慮していないという意味）と見做せるものなので、単純集計のとき述べた注意がそのままあてはまる。一つ次元の上った意味での単純集計に基づく分析と言ってよい。

という関係は興味のある問題で、十分心に留めておくべき事項である。このAPMの分析も、単純集計で述べた時と同じく、スケールをなす領域に分類した質問群での国単位のスケール値に基づく大局的事象把握によるもので、この意味で単純集計の場合（関連性を考慮していないという意味）と見做せるものなので、単純集計のとき述べた注意がそのままあてはまる。一つ次元の上った意味での単純集計に基づく分析と言ってよい。

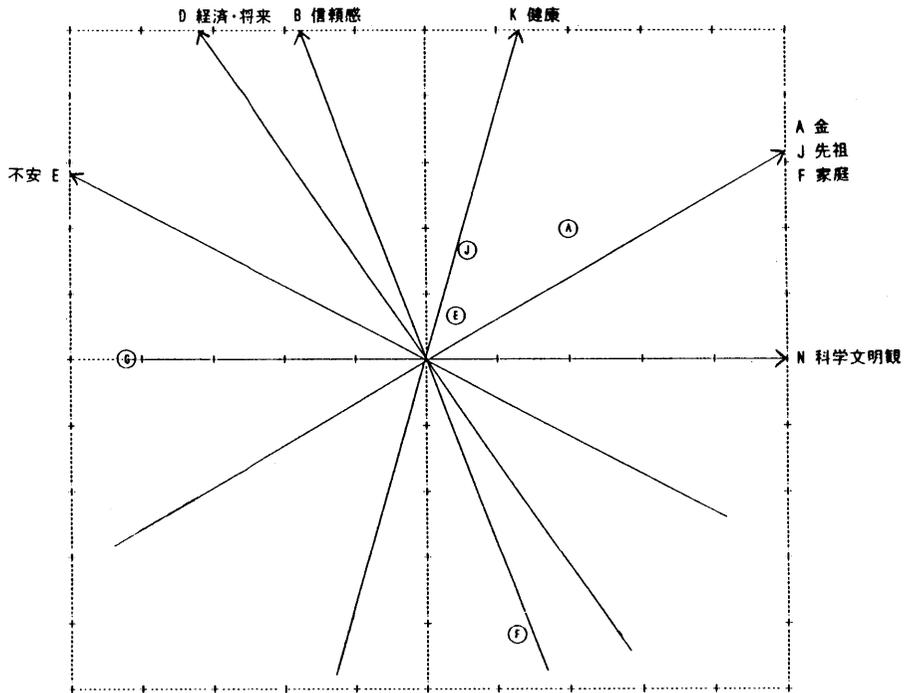


図 2-3 3
総合の A P M

§ 3 質問 (question) による C L A

これまで、スケールを作ると考えられる質問をあつめて、単純な考えの筋道を探ってきた。こうして、明確な形になる質問群---ニックネームをつけて総称できる形のものである---を構成し分析してきた。これでは、深い分析をしたことにならない。そこで、異質と思われる質問群を構成しつつ、考えの筋道がどのようになっているかについて分析を進めることにする。

§ 3.1 生活の質 (Q O L) と社会的態度

質問は Q17 (G) 収入か余暇か
 Q20 (H) 就職の第1条件
 Q23 (I) 生活環境満足か (住み易さ)
 Q71 (U) 社会は変えるべきか (社会の変更)

の4問であり、質問文は質問表Vの通りである (Q16は除外)。これら質問のコード、カテゴリーコードは表3-1に示す。

表 3.1
 QUALITY OF LIFE ISSUES AND SOCIAL ATTITUDE

category	1	2	3	4
question				
G : Choose money or free time	More money	More free time		
H : You place first about your work	Good salary	Safe job	Working people	Duty job
I : Quality of life in the area where you life	Very satisfied	Fairly satisfied	Fairly dissatisfied + dissatisfied	
U : Attitudes vis-a-vis the society	Change by revolution	Improve by reform	Defend against force	

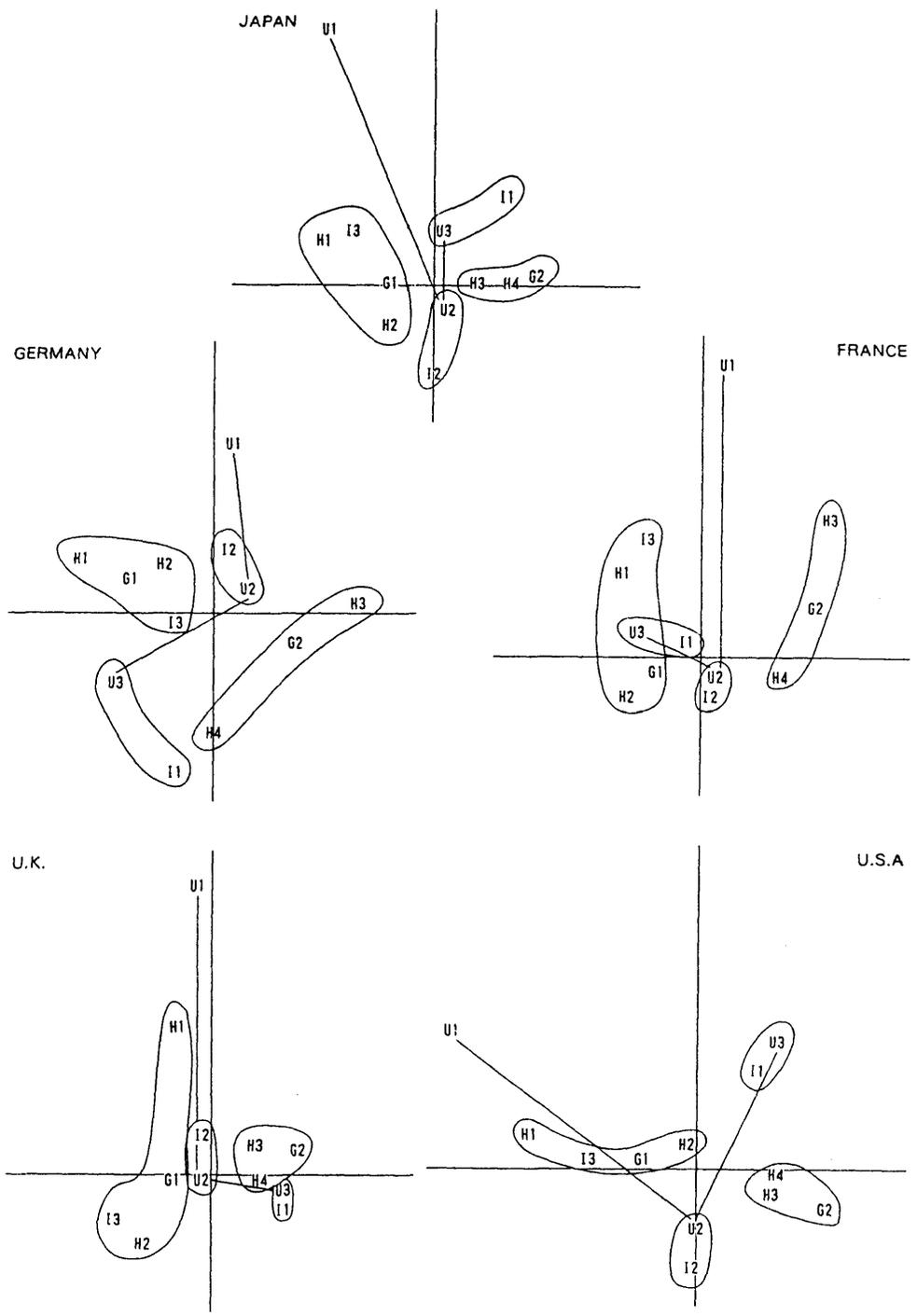


図 3 - 1
QOL と社会的態度

パタン分類の数量化を行ってみると図3-1の通りになる。G1（もっと収入）H1（よい給料）、H2（安全な仕事）、I3（住みやすさ不満足）つまり金志向・不満足が一つのクラスターを作り、G2（余暇）H3（気のあう仲間）H4（仕事をやりとげた充実感）、金以外を求める意見が一つのクラスターを作ることはどこの国でも同じである。U1（革命で変更）というのはどこの国でも離れているのも似た傾向である。I2（住やすさ中間）が二つのクラスターの間にくるのも同一である。I1（住みやすさ満足）というのが国により異っている。日本、ドイツ、アメリカ、イギリスは、I1が（G2、H3、H4）寄りであり、フランスのみ（G1、H1、H2、I3）寄りである。

U2（社会の変更徐々に）、U3（あくまで現社会を守る）との関係では（I1、U3）、（I2、U2）がそれぞれ近くにあるのは5カ国とも同一である。また（I2、U3）が上記二つのクラスターの間にくるのも似ている。日本では（I1、U3）と（I2、U2）と二つのクラスターが直交しており、これに近いのがアメリカ、ドイツである。イギリスは（I1、U3）---住みやすさ満足、あくまで現社会を守る---が金以外のものをもとめるクラスター（G2、H3、H4）に近く、フランスでは逆に金志向のクラスターに近いという異った傾向が示されている。このあたりは考えの筋道の違いと言ってよい。

形の上で似ているのは日本とアメリカであるということも興味ある点である。このような一般的と考えられる問題での考えの筋道でも微妙に違いが点、注意しなくてはならない。

§ 3.2 信頼感と仕事

質問文及びカテゴリーのコードは、質問表を参照されたいが、取り上げられているのは次の4問である。

- Q51（A）他人のためか自分のためか
- Q52（B）スキがあれば利用されるか
- Q53（C）人は信頼できるか
- Q20（D）就職の第1条件
- Q18（E）一生働くか

パタン分類の数量化を行ってみるとまず人間に対する信頼感（Q51、Q52、Q53）が第1軸となり、信頼・不信頼が両極を作っていることがわかる。第2軸にE（Q18）とD（Q20）が分極するという形が出て、どこの国もこの点は同じであると見ることが出来る。図3-2をみられたい。信頼感・不信頼感がこのような形になっていることはこの3問がきれいなスケールを作っていることを示している。

（E1、D4）、（E2、D1）が一つのクラスターをつくり、信頼感の軸と直交するという形もどこの国でも同じである。つまり、（E1 ずっと働く、D4 やりとげたという充実感のある仕事につく）、（E2 働くのをやめる、D1 よい給料のところが良い）がそれぞれクラスターを作り、人間に対する信頼感と独立だという形である。問題はこれにからめたD2、D3の位置である。

日本ではD3（気の合った仲間と働く）が信頼感のクラスターに近く、D2（倒産のおそ

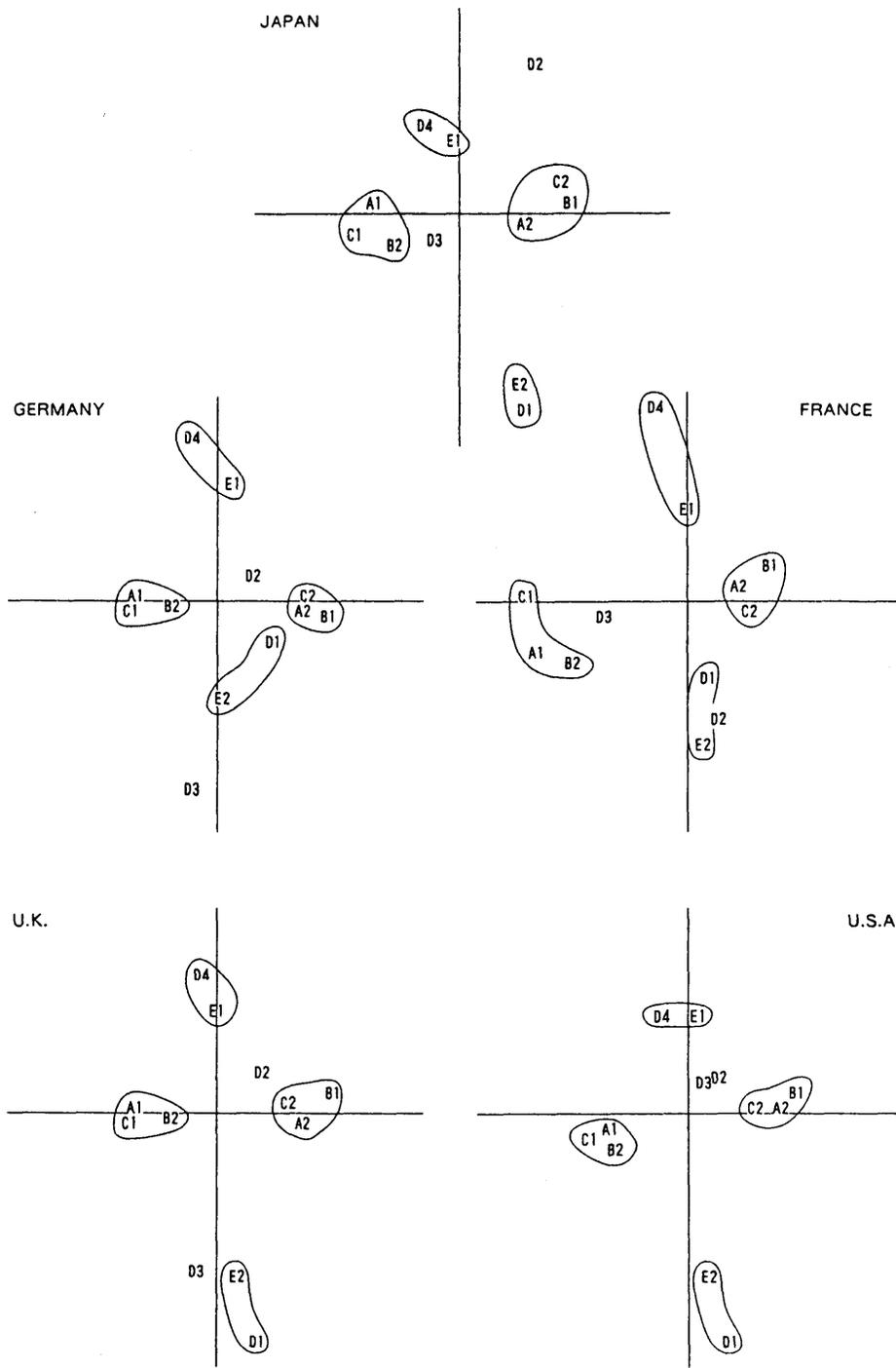


図 3 - 2
信頼感と仕事

れがない会社)から不信頼寄りで離れて位置する。ドイツではD2はやや不信頼寄り、D3は独立で(E2、D1)寄りで離れており、D3の意味が異っているようである。フランスはD3は信頼感寄りで日本に近いが、D2は信頼感と関係なく(給料がよい、働くのをやめる)というクラスターに属し、金志向というべきクラスターをなしている。イギリスはD2は不信頼に近く、D3は金志向のクラスターに属している。アメリカはD2とD3が近くにあり、やや不信頼寄りである。こうみてくるとD2、D3の意味が各国で異っているという大事な点に気がついてくる。これをまとめてみたのが表3-2である。

表3-2
D2, D3の位置

	信頼感に近い	不信頼感に近い	独立
ドイツ		D2	D3 (金志向より)
フランス	D3		D2 (金志向)
イギリス		D2	D3 (金志向)
アメリカ		D2D3	
日本	D3	D2	

D3がアメリカでは不信頼に近く、ドイツ、イギリスでは金志向に近く、いわゆる「よい」意味をもっていないが、日本とフランスでは信頼感に近いという形であり、言葉の意味する内包が国により異なる点は重要な知見であろう。

§ 3.3 金・仕事・国の目標

ここで分析した質問群は次の7問である。詳しくは質問表Ⅶにある。

- Q17 (A) 収入か余暇か
- Q18 (B) 一生働くか
- Q19 (C) お金と仕事
- Q20 (D) 就職の第1条件
- Q33 (F) 子供に「金は大切」と教えるか
- Q54-d (H) 現代生活の個人態度－収入より手段
- Q8 (I) 国家目標

これを用いて考えの筋道を探り出すため、パターン分類の数量化を行ってみたのが図3-3である。M+は金志向、M-は非金志向、W+は仕事志向、W-は非仕事志向である。この4つのクラスターが存在することはどの国でも同一であった。相対的な位置関係はみな同一ということである。しかしよく見ると、関連配置がやや異っている。

第1軸でW+とW-、第2軸でM+とM-がわかれるのが日本、ドイツであり、フランスは第1軸でM+とM-、第2軸でW+とW-がわかれ、第1軸と第2軸が逆転している。

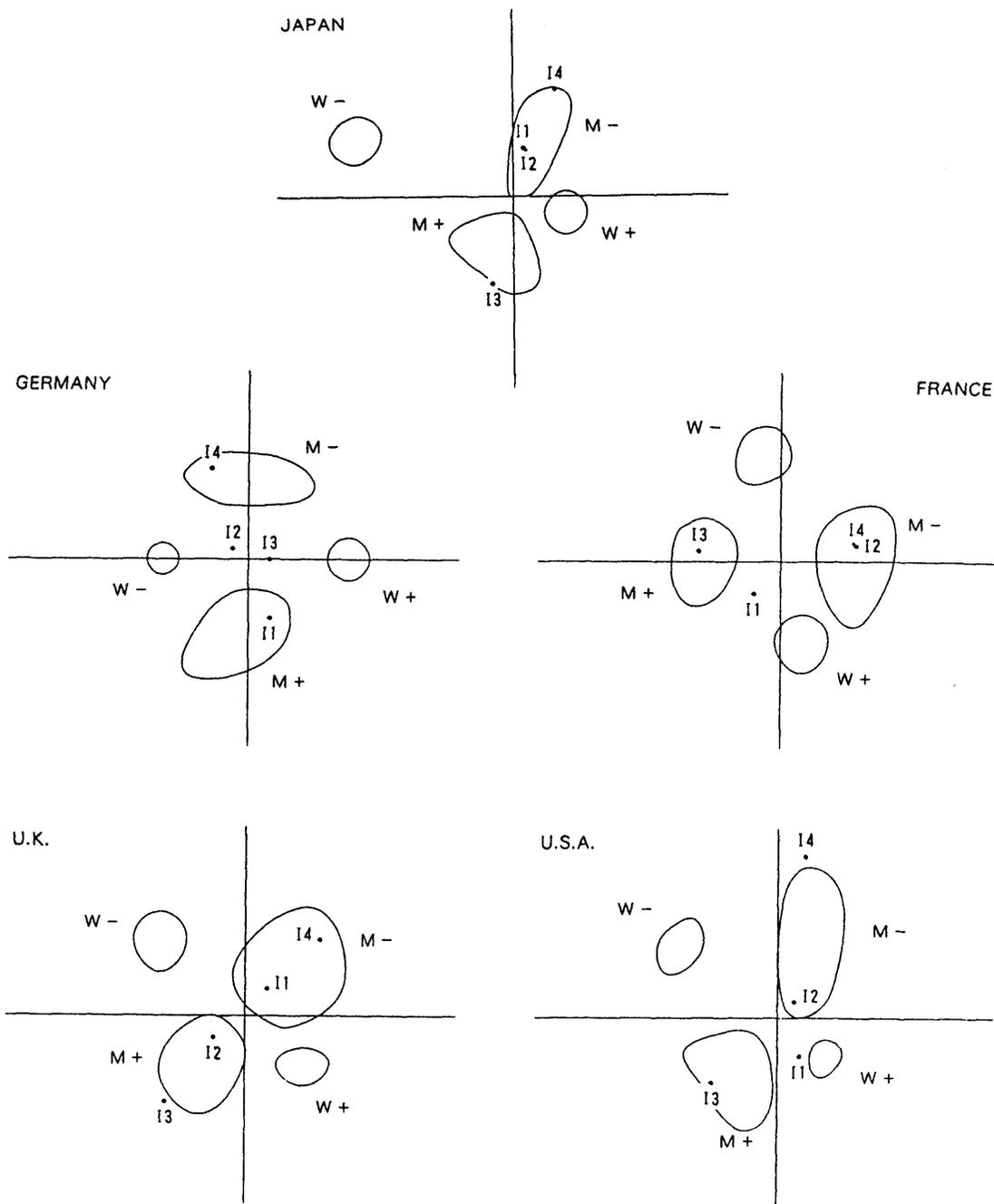


図 3-3
金・仕事・国家目標

分離の重点が前者では仕事であり、後者では金になっている。相互関係は似ているが、軸の出方が逆なのである。ここに多少の違いがある。しかし、両者とも仕事志向の軸と金志向の軸とが独立した関係を持っているということが出ている。

イギリス・アメリカでは(W+、M-)が第1軸で結びつき、その対極として(W-、M+)が結びついて第1軸の両極に分れ、(仕事志向、非金志向)、(非仕事志向、金志向)という明確で単純なWとMとのスケールを作っていることがわかる。第2軸で(M+、W+)、(M-、W-)という結びつき、つまり、(金、仕事)志向と非(金、仕事)志向が対極となるのである。日本、ドイツ、フランスはWとMとが独立なのであり、こうした微妙な違いが、誤解につながりかねない。金と仕事の分化と未分化の意味においてである。

さて次がI(国の目標)との関係である。Iはどこの国でもW+、W-と結びつかず、M+、M-の金の方に結び付くのである。この相互関係をみると次のようになる。

	M+クラスター	中間	M-クラスター
ドイツ	I 1	I 2 I 3	I 4
フランス	I 3	I 1	I 2 I 4
イギリス	I 2 I 3		I 1 I 4
アメリカ	I 3	I 1	I 2 I 4
日本	I 3		I 1 I 2 I 4

I 4(言論の自由)がすべてM-クラスターに属するのは同じであり、I 3(物価の上昇をくいとめる)がM+に殆ど属しているという点は、ドイツを除いて、異っていない。I 1(国家の秩序)とI 2(重要な政策への発言)の位置が様々あり、このあたり、国家目標の項目の意味が国により異っている可能性が示唆され、字面だけの単純な推論は誤解につながるおそれが十分ある。

以上の分析をみると核となる共通の構成を中心に、他の考えの筋道の異なるものが絡み合うという形が読みとれ、問題の所在を明確に描き出すことが出来たと言えよう。

§ 3.4 イソップ物語と関連する社会的態度

前にも述べたが、イソップ物語のセミとアリ(キリギリスとアリ)---あるいはアリとセミ・キリギリスという逆のもある---の話の結末として、食べものをやっさいさめる、嘲笑して追い返す、の二つのうちどちらが気持ちにじっくりするかをめぐる分析である。この結末を、怠けることへの訓戒の面を強調するか、やさしさから食物を与えるか、あるいは慈善(施し)の意味で食べものを与えるか、等の議論が様々な形でできる話題である。テキストの分析からは、いろいろ議論できるが、一般の人々の考えとしてどのようなものであるかを総合的に明らかにしようとしたものである。簡単にとりあげた質問をあげておけるが、質問文・カテゴリーコードは質問表Ⅷを参照されたい。各国の回答比率も質問のカテゴリーのところに記載があるのでこれも参考にされたい。

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| Q4 (A (123)) 幸福になるか | Q25 (S (12)) アリとキリギリス |
| Q5 (B (123)) 心の安らかさはますか | Q17 (U (12)) 収入か余暇か |
| Q9-c (C (23)) 不安感-失業 | Q18 (V (12)) 一生働くか |
| Q27 生活領域の重要性 | Q20 (W (234)) 就職の第1条件 |
| -d (D (26)) -友人、知人 | Q62 (X (12)) 宗教を信じるか |
| Q27-e (E (26)) -両親、兄弟、姉妹、親戚 | Q63 (Y (12)) 「宗教心」は大切か |
| Q27-f (F (26)) -宗教 | Q31 (Z (12)) 生活保護の考え方 |
| Q48 (G (12)) 入社試験 (親戚) | Q51 (L (12)) 他人のためか自分のためか |
| Q49 (H (12)) 入社試験 (恩人の子) | Q52 (M (12)) スキがあれば利用されるか |
| Q22 (I (1-5)) 暮らし方 | Q53 (N (12)) 人は信用できるか |
| Q47 (K (xo)) スジかまるくか | Q54 現代生活の個人態度 |
| Q46 (L (ox)) 他人との仲か仕事か | -a (A (ox)) -他人を助ける |
| Q28 (O (234)) 家庭に満足か | Q54-b (B (ox)) -共同体 |
| Q29 (P (234)) 生活に満足か | Q54-c (C (ox)) -その日その日 |
| Q30 (Q (12)) 才能か運か | Q54-d (D (ox)) -収入より手段 |
| Q33 (R (123)) 「金は大切」と教えるか | Q54-e (E (ox)) -孤独感 |
| | Q50 (F (xo)) めんどくみる課長 |

まず、すべてを含めて国別にパタン分類の数量化を行ってみたのが図3-4である。S1 (追いかえず)、S2 (食物を与えていさめる)、を中心に円が描いてある。S1、S2 クラスターの位置に着目しよう。日本とアメリカは第1、3象限にそれらがある。フランスとイギリスは第1軸に、ドイツは第2軸にそれが出ている。この点のニュアンスの差がまず注目される。

これにからめて、信頼感-不信感、宗教重視-非重視が関連してくる。これをT-U T、R-U Rと書くと、第1軸で(T、R) - (U T、U R)の傾向にあるのは日本、ドイツであり、イギリス、アメリカと続き、フランスは第1軸で T-U T、第2軸で R-U Rとなりこの両者が独立の形になる。

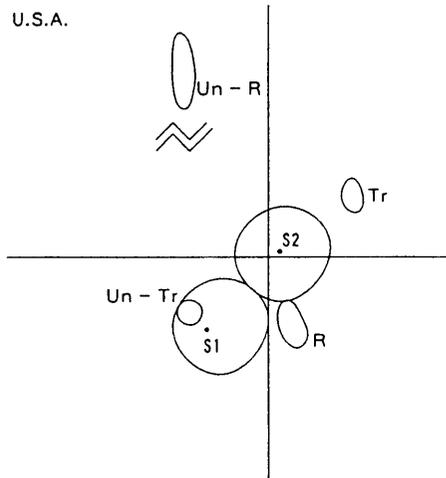
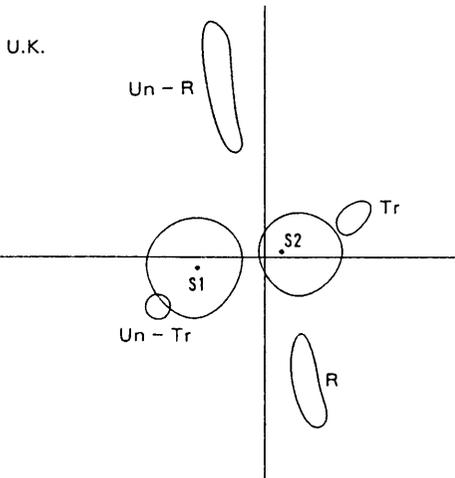
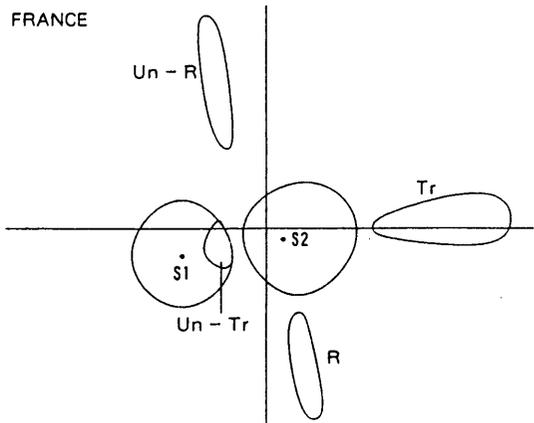
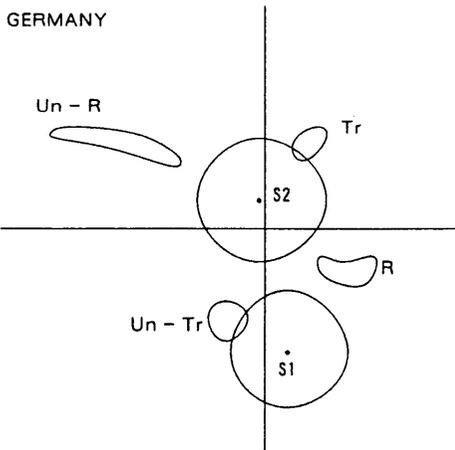
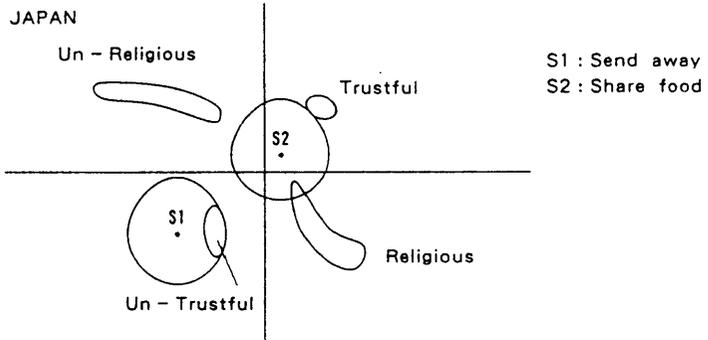
S1 と S2 との関係を見よう。

	S2	S1
ドイツ	T	U T
フランス	T (寄り)	U T
イギリス	T (寄り)	U T
アメリカ	T (寄り), R	U T
日本	T, R	U T

となり、全体的にS2の近くにTがあり、S1クラスターにU Tが入る。Rが他よりS2に近いのは日本とアメリカということになる。

ここまでみると、大局的に同じであるが、それぞれの間でニュアンスの差が少しあることがわかる。

次にS1クラスターに共通に入るものをみたのが表3-3-1である。大局的にまとめて



☒ 3 - 4

みると金志向、人間不信頼、孤独、ポジティブでない社会的態度というのが入るのはどこの国でも同じであるということになる。各国でみて、共通ではなくいくつかの国のみに入っている特色あるものを表3-3-2 に示してある。ある国のみに入っているものは、その国の特色であると言ってよい。これをまとめたのが表3-5 に集約されてある。これを詳しく読めばよいわけで、カテゴリーの記号とそれらの内容を要約した文章がそこにあげられている。

表3-3-1

Characteristics in the Cluster around S1

Common	W1	nearly	D2 (U.S.A. non)
	W2	common	Q2 (Germany non)
	L2		Eo (U.K. non)
	M1		I1 or I2 (U.S.A. non)
	N2		Ax (Japan non)

表3-3-2

Characteristics in the Cluster around S1

	Japan	U.S.A.	U.K.	Germany	France	
A2	○	○	-	-	○	
C2	○	○	○	-	-	
R1	-	○	○	○	-	
Lx	○	-	○	○	-	
Dx	-	○	-	○	-	
Co	-	○	-	-	○	注)
Fx	○	-	-	○	-	○印は 左の記号の回答
Z2	-	-	-	○	○	が S1 クラスターに入っ
Total	4	5	3	5	3	ていることを示す

Only	B2	Japan		
	U1	Germany	Bx	U.K.
	E2	U.K.	G1	France
	O4	France	H1	France
	P4	France		

さて S2 の方の特色であるが、共通なものは表3-4-1 に示してある。この共通の特色を大局的にまとめてみると

- 失業の不安を感じない、
- 満足、
- やりとげた感じのもてる仕事、

一般的な人間関係の重視、
 ポジティブな社会的態度とライフスタイル、
 孤独でなく関連の中にある生活を好む、
 温情主義的、
 非金志向

というのが大局的な傾向である。S1 の場合と同様に、S2 クラスターにある国のみ、その項目が属しているというのは一つの特色である。これは表3-4-2 に示してある。こうした関係を集約したものが表3-5であって、これによって共通するところと特殊であるところが理解できるはずである。

表3-4-1

Characteristics in the cluster around S2

Common	W4	Nearly	A3	(U. K. Non)
	D6	common	Do	(Japan Non)
	E6		Fo	(U. S. A. o and x)
	O2		Cx	(Germany Co)
	P2		C3	(France C2)
	Q1		R2	(Japan non)
	L1 M2 N1			
	Lo			
	I3 or 4			
	Ao			
	Bo			

表3-4-2

Characteristics in the cluster around S2

	Japan	U. S. A.	U. K.	Germany	France	
B	-	3	-	2	1, 2	
U	1, 2	1, 2	-	2	1	Scatered
V	1	1, 2	1, 2	2	1, 2	
K	o	o, x	o, x	o, x	o	注)
G	1, 2	-	1	2	2	数字は、左の記号の項目
H	1, 2	-	1	2	2	で S2クラスターに入る
Z	1, 2	1, 2	1	1	1	回答カテゴリーを示す
Only	W3	(Japan)				
	F2	(Germany)				
	Y1	(Japan)				

表 3 - 5

S 1、S 2 の共通の性格と国別の特色

	S 1	S 2
共通の もの	money-oriented, untrust, lonely, not positive social attitude	not anxious, satisfied, accomplishment of work, attaching importance to general human relations, positive social attitude and life style, not lonely(relational life), paternalistic leader, 'not-money'-oriented
各 国 に	Japanese somewhat pessimistic toward peace of mind, rational attitude B 2, F x	Japanese characteristics, continue to work, good harmony in interpersonal relations religious mind important <u>R 1, 2</u> , V 1, Ko, W 3, Y 1, <u>U 1, 2</u> , <u>G 1, 2</u> , <u>H 1, 2</u> , <u>Z 1, 2</u> non-existence of D o
固 有 の	American particularity no-characteristic D x, C o non-existence of D 2 and I 1, 2	particularly no-characteristics <u>F 1, 2</u> , B 3, <u>G 1, 2</u> , <u>H 1, 2</u> , <u>U 1, 2</u> , <u>V 1, 2</u> , <u>K x, o</u> , <u>Z 1, 2</u>
の も の	English these categories show isolate or deviate personality E 2, B x non-existence of E o	particularly no-characteristics, stereotyped answer in interpersonal questions, money help in social security 'is to be enable to live', G 1, H 1, Z 1, <u>V 1, 2</u> , <u>K x, o</u> non-existence of A 3, U 1
	German more-money oriented, severe in some point U 1, D x, F x, Z 2 non-existence of Q 2	easy going life style, relatively worm-hearted in interpersonal relations in some points, money help in social security 'is to be enable to live' C o, U 2, F 2, B 2, V 2, G 2, H 2, Z 1, <u>K x, o</u>
	French Unsatisfied, Unhelpful relatively cold-hearted in inter- personal relations in some points, severe in some points C o, O 4, P 4, A x, G 1, H 1, Z 2	money help in social security 'is to be enable to live' money oriented life style and relatively warm hearted in interpersonal relations in some points C 2, U 1, Ko, G 2, H 2, Z 1, <u>V 1, 2</u> , <u>B 1, 2</u>

注) アンダーラインはその項目がS 1, S 2と独立である(両選択肢が一方に偏在する)ことを表す

以上をまとめてみよう。全体的に構造を見れば同じ様な様相を示しながら、国によりニュアンスの異なるものが出てくる。さらに、S1、S2の内容をみると、これも大局的に同じ様相をみせながら、国によって相異なる特殊のものがそれぞれにむすびついている。このように、同じところと異ったところがみいだされ、ここでも、共通のところを鎖として特殊の項目が相互に結びついているという心の構図が、CLA（連鎖的比較分析方）によって描き出されたわけである。

共通の一面のみをとらえ、同じだとして特殊の面を切りすてて議論を進めれば、思わぬ違いに出会い、また特殊の一面をとらえてこれを強調し拡大するならば、大きな誤解に相対することになる。共通のものを鎖として特殊なものを絡ませて同異の姿をみるのが重要であることをこの分析は如実に示している。

次に、これまでと異った立場から分析を進めることとした。すなわち、それぞれの質問群では、見方によってスケールをなすとして単純化され、そのスケールを個人に当てはめることができるが、それら単純化されたもの同士の関係はどうなるか。ここにも結びつきの同異の姿が見られることが予想されたのである。

§ 3.5 スケール間の関連性、その1

§ 2.3において、ある領域の質問群に限定すれば、各国とも考えの筋道は同一でありスケールをなすと考えられ、国のスケール値をみて、ポジティブーネガティブ、伝統ー近代等の程度を比較することが出来ることを知った。また、このスケールの値を総合して、スケール値の関係により、国の鎖がどのように絡み合うかを知ることができた。

さてここでは、考えの筋道の同一な領域を総合したとき、果して同じ考えの筋道が見いだせるであろうか、を検討することにした。分析の手続きから始めよう。

いま述べたように、§ 2.3の分析で、各領域の1次元目、2次元目の数値で「スケールによる分類、または、意味の明確な分類ができる」ことを知ったのであるが、そこでとりあげた10の領域の質問群を、ここでもう一度あげると

- (ア) 経済と帰属階層意識
- (イ) 不安感
- (ウ) 先祖、家族、宗教
- (エ) 科学文明観
- (オ) 健康観と生活満足
- (カ) 金に対する態度
- (キ) 経済に対する態度、これからの見通し
- (ク) 信頼観
- (ケ) 家庭に対する近代・伝統
- (コ) 政治的主義主張

であったが、このうちアとキは構造が同じことがわかったので、アをとりやめ、9つのスケールになった。個人の9領域の反応（回答群）を9つのスケールに代表させ、それらを総合して、相互の関係をみようというのである。このため、各々の領域で、5カ国全ての

データを用いてパターン分類の数量化を行ない、得られた個人得点の分布を眺めた。個人得点はその人の示す各領域でのスケールを示すわけである。1次元目でスケールをなす7つについては、一応、分布の25%、50%、25%となるように（ポジティブ、非金志向、伝統等対ネガティブ、金志向、近代等のスケール値に基く区分）3区分に分類した。あとの2つ、経済観（キ）と主義（コ）については、1次元目と2次元目の数値を用い、それぞれの次元のプラス・マイナスで、すなわち、よい（明るい）－中間－わるい（暗い）、民主主義・資本主義好み－社会主義好み－中間、の3分類とした。

今後の分析を理解するため、これから用いる記号をまず示しておく。それぞれのスケールの名称、内容とコード、スケールの3区分のコードと意味である。また§2.3での領域との対応をカタカナで示してある。

スケール名と内容	スケールの3区分のコードと意味		
A（金志向スケール）カ.金志向か否か	A1 金志向	A2 中間	○A3 非金志向
B（信頼感スケール）ク.信頼感	○B1 あり	B2 中間	B3 なし
C（主義のスケール）コ.主義	○C1 民主主義 資本主義好み	C2 中間	C3 社会主義 好み
D（経済観スケール）キ.経済・将来の 明るさ	○D1 ポジティブ よい	D2 中間	D3 ネガティブ よくない
E（不安感スケール）イ.不安感	E1 不安あり	E2 中間	○E3 不安なし
F（家庭観スケール）ケ.家庭・結婚	F1 近代的	F2 中間	○F3 伝統的
J（先祖スケール）ウ.先祖・家	○J1 重んじる 伝統を重視	J2 中間	J3 重んじない 伝統重視しない
K（健康観スケール）オ.健康・健康観	○K1 ポジティブ よい	K2 中間	K3 ネガティブ よくない
N（科学文明観 スケール）エ.科学文明観	○N1 ポジティブ	N2 中間	N3 ネガティブ

ここで一つの方向を示すためある立場から○印をつけておいた。このことが、結果を見易くするために妥当であったことは、これからの分析で明らかになったことである。

これら9項目を用いて国別にパターン分類の数量化を用い、それらの間に存在する考えの筋道を明らかにすることにした。

理解し易くするために日本の分析から始めよう。図3-5である。

いまある立場から○印をつけたが、日本はこれらがX軸（第1軸）の右方、その対極（図中では㊦印）が左方、中間（図中では○印）が中央に一団となって固まるということが明らかになった。（この場合固有値は第1根0.20、第2根0.15で第1根はずい分ドミナントである）このある立場とは、いわば「そうなる」ことを予想した日本的発想であったのである。○印をつけたのを仮りにポジティブというニックネーム（内容的には十分正しくはないが）、対極をネガティブ、コード2であらわされているものを中間と名付けておく。簡単な構造である。ポジティブ側は不安なし（E3）と先祖・家を重んずる方の反応（J1）

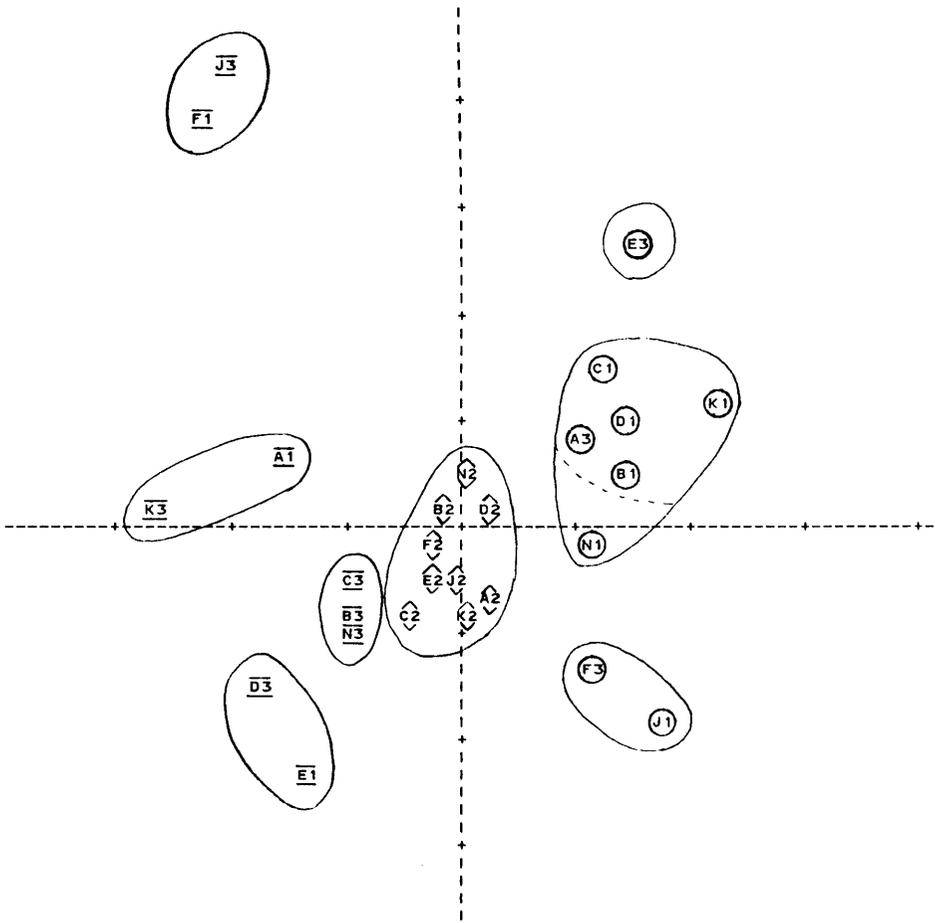


图 3-5
日本

、家庭観の伝統的な方の反応（F3）とがY軸（第2軸）で分離し、残りが一団となると言
ってよさそうである。不安と先祖・家庭は別として、未分化という形である。これと中間
が一団となり小さく固ったクラスターをなしているのも、日本好みの様相である。ネガテ
ィヴ側は（D3 経済わるく、E1 不安あり）、（J3 先祖・家を重んじない）とが両端、
その間に（A1 金志向、K3 健康よくない）、（B3 信頼感なし、C3 社会主義好み、
N3 科学文明観ネガティブ）があるというクラスター構成である。

これ以上論じる前にドイツの結果をみよう（図3-6）。ドイツの場合も、第1軸で○印
と対極がわかれることは日本と全く同じである（固有値は第1根 0.20、第2根 0.15 で差
があり、この点も日本と同様である）。しかし中間の回答がばらつき、ポジティブ側、ネ
ガティブ側に入りこんでおり、日本のように第1軸で中間の回答が中央に固って他と分離
するということはない。中間の反応は、たがいに他の領域ではポジティブ、ネガティブい
ずれかに寄るといことがわかる。経済スケール（D）の中間はポジティブ側に、主義ス
ケール（C）の中間はネガティブ側にとというのがはっきりしており、さらに健康（K）、
科学（N）、先祖（J）・家庭（F）の中間はポジティブ寄り、金志向（A）の中間、信
頼感（B）の中間、不安（E）の中間はネガティブ寄りという特色ある形が見える。この
ことは単純集計データを読むときの参考になると言ってもよかろう。ネガティブ側で、（金
志向、先祖・家庭の近代的な方の反応（A1、J3、F1））とその他が二つのクラスターを
作っており、ポジティブ側はその対極としてのクラスターである。○印、対極がわかれる
のは同じであるが、中間の布置、ポジティブ、ネガティブのクラスターに違いが見出せる。

フランスの場合をみよう（図3-7）。この場合は、またドイツと似て非なるところが見
られる。○印と対極が分離するのは第2軸であることに注目したい（固有値、第1軸
0.174、第2軸 0.165、でこの差は少ないが、第3軸とは差がはっきりしている）。

各スケールの中間がドイツと同様にポジティブ、ネガティブ両側にまたがってばらつい
ている。家庭、先祖を別にすれば、第1軸でポジティブ、ネガティブにきれいに分離する。
そして、家庭、先祖スケールの近代的な方（J3、F1）がそれ以外のもののポジティブと
結び付くという大事な差が出ている。ドイツとの差でもある。しかしこのFとJとが他と
別クラスターを作っているということは、日本・ドイツと同じである。

中間の反応の仕分けをすると経済（D）、信頼感（B）、不安（E）、健康（K）はポ
ジティブ寄りと見られる。フランスはこの方面の領域の中間の回答は（ネガティブ回答の
多いフランスでは）中間というよりポジティブ回答と見做した方がよいのかも知れない。
主義（C）、金志向（A）、家庭（F）、先祖（J）の中間の反応は中間的であるが強い
て言えばポジティブ寄り、ネガティブ寄りに分類できるし、科学文明観（N）の中間はネ
ガティブ寄りと見るのがよかろう。これも単純集計をみるとき参考になると考えられる。

つぎにクラスター構成をみよう。ポジティブ側では（B1 信頼感、K1 健康よし）、
（A1 非金志向、C1 民主主義好み、D1 経済よし、N1 科学文明観ポジティブ）、（E3
不安なし）、（F3 家庭伝統的、J1 先祖伝統的）という形でネガティブ側は（E1 不安
あり）（F1 家庭近代的、J3 先祖近代的）（残り全部）というクラスター構成である。

イギリスの場合は図3-8に示される。この場合まず注目されるのは先祖スケール（J）、
家庭観スケール（F）の伝統対近代が第2軸で両極に分離し、第1軸と独立になっている
という姿である。この家庭・先祖の伝統的反応、近代的反応がそれぞれのクラスターを形

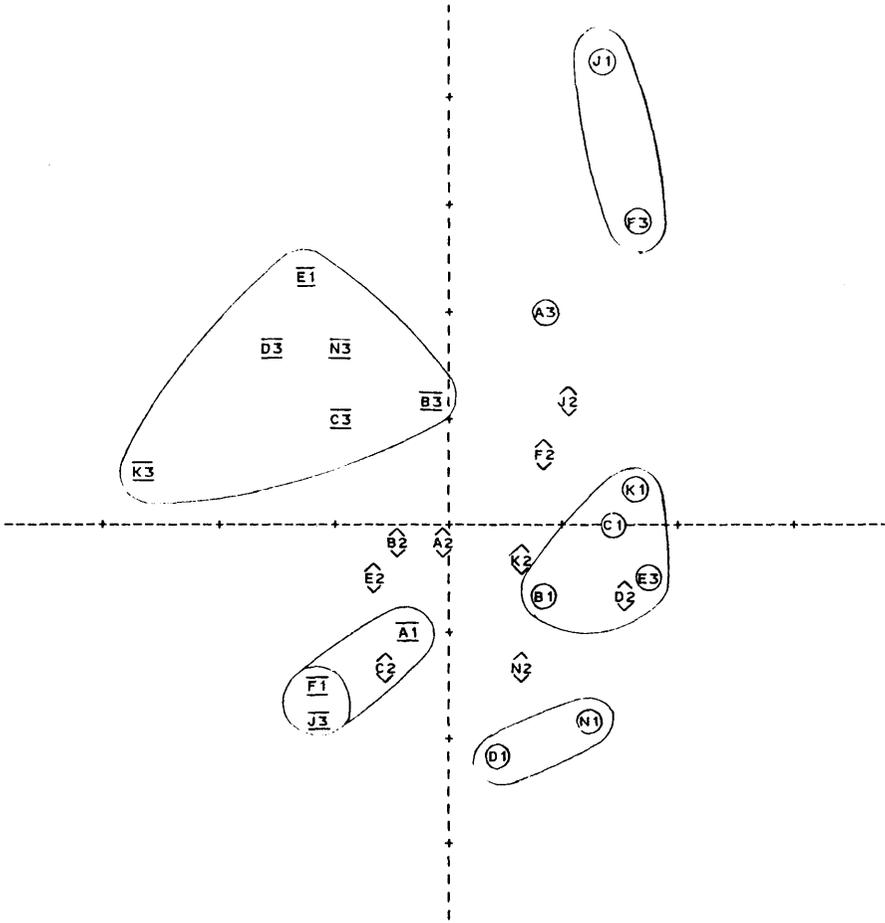


図 3-6
ドイツ

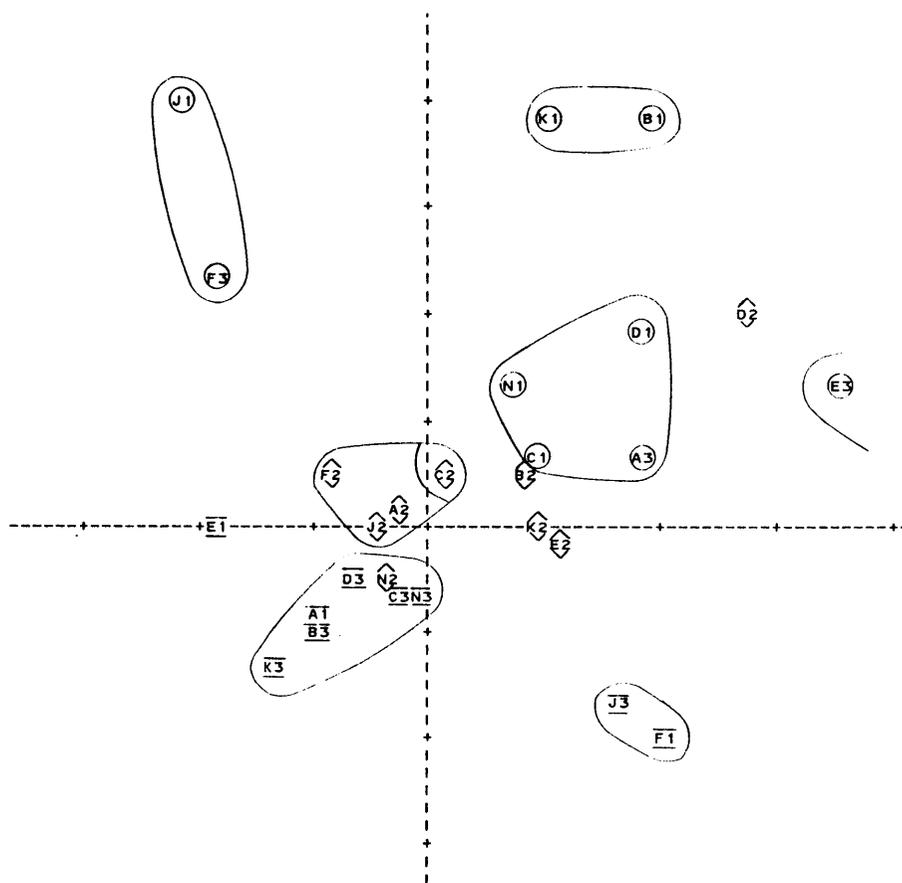


図 3-7
フランス

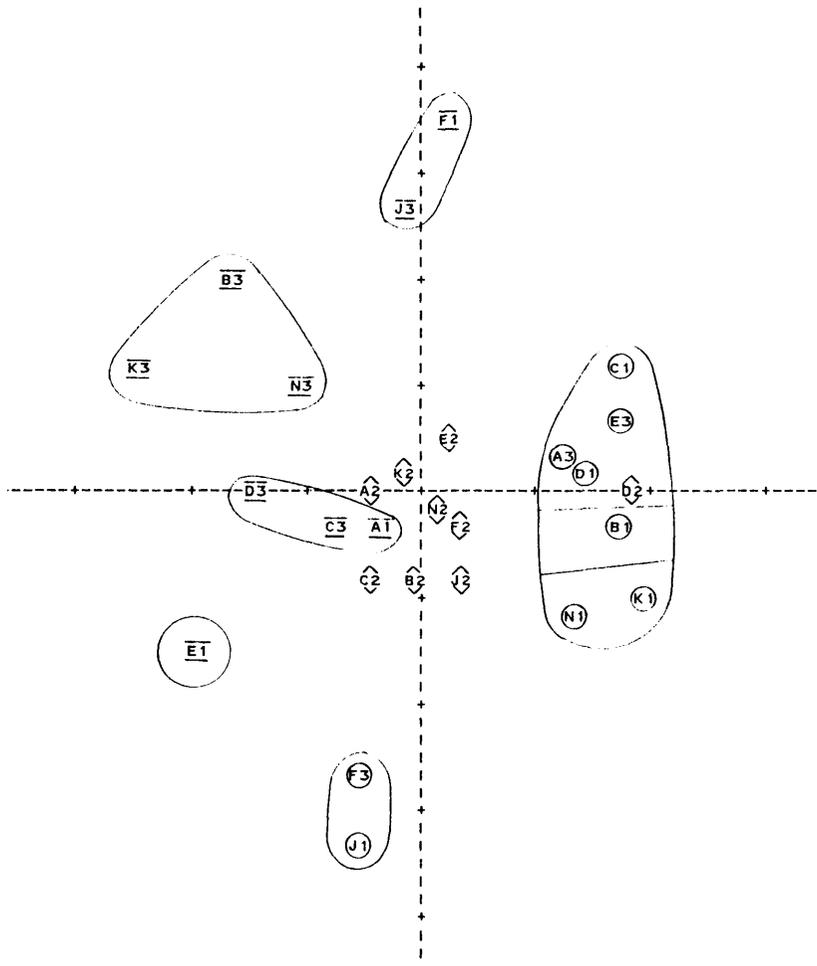


図 3-8
イギリス

成していることでは、これまでにみた3国と同じである。そして、このJとFを除けば、第1軸でポジティブ、ネガティブが分離することも、同様に明快である（固有値は0.21、0.16で第3軸のものにくらべても隔たりがある）。まず各スケールの間をみると（D 経済の間）は完全にポジティブのクラスターに入っており、その他は（A 金志向、C 主義、B 信頼感、K 健康観）の間はネガティブ寄り、残り（E 不安感、N 科学文明観、F 家庭、J 先祖）の間はどちらにも属さない全くの間と見てよい。これもイギリスの単純集計を読むときの注意である。

ポジティブのクラスターは一団とも見えるが強いてわけると（A3 非金志向、C1 民主主義、D1 経済よし、E1 不安なし）、（B1 信頼感、K1 健康観、N1 科学文明観のポジティブ）である。

ネガティブは（E1 不安あり）、（B3 信頼感なし、K3 健康わるい、N3 科学文明観ネガティブ）、（A1 金志向、C3 社会主義好み、D3 経済わるい）という形である。ネガティブはフランスと似たクラスター構成であるが、フランスに見られた1クラスターがここで2クラスターに分かれているという特色を示している。

アメリカの場合はどうか。図3-9に示そう。（固有値は第1軸0.19、第2軸0.16で第3軸との間はひらいている）。面白いことにイギリスと全く同じく第2軸で、先祖・家庭の伝統-近代が分離し、第1軸の、その他の項目のポジティブ、ネガティブの分離と独立になっていることである。

各スケールの間をみよう。経済の間がポジティブ側に入りこんでいるのもイギリスと似ている。しかし、アメリカでは家庭観の間がポジティブ側に近いことが異っている。主義の間がネガティブ側にあるというのはフランスと異り、ドイツ、イギリスと共にアメリカの特色となっているが、その他のスケールの間が固るという形が出ている。

ポジティブ側は一団となっているが、強いて分ければ（B1 信頼感あり、C1 民主主義、E3 不安なし、A1 非金志向）、（D1 経済よし、N1 科学文明観ポジティブ）、（K1 健康ポジティブ）というクラスターになっている。ネガティブは（E1 不安あり、C3 社会主義好み）という結び付きであり、これが（先祖・家庭の伝統的反応（J1、F1））の近くにくる。この結び付きはアメリカの特異な傾向であり、ここで始めてみられたのは注目してよい（第3軸をみても、このE1とC3の二つは他にくらべて近くにあるとみてよい）。のこりのネガティブは一団となっている。軸の関係はイギリスに近いのであるが個々の点の布置にずい分異った関係がみられたと言ってよかろう。

これらをまとめてみると、考え方の筋道の大きな枠組としては、全く異っているという姿はみられないが、似たところと異ったところがそれぞれ混ざりあって出てきていることがわかる。これらの考察を以下に要約しておこう。

1. 大局的な図柄の構成・

第1軸で○印（ポジティブ）と二印（ネガティブ）が分離するのは、日本、ドイツであり、イギリス、アメリカでは（先祖・家庭）を除いてこの形がみられ、こうした点では考えの筋道は異っていない。しかし、イギリスとアメリカでは第2軸で先祖・家庭の伝統-近代が分離するという形が出て第1軸と独立になっている点は重要な差

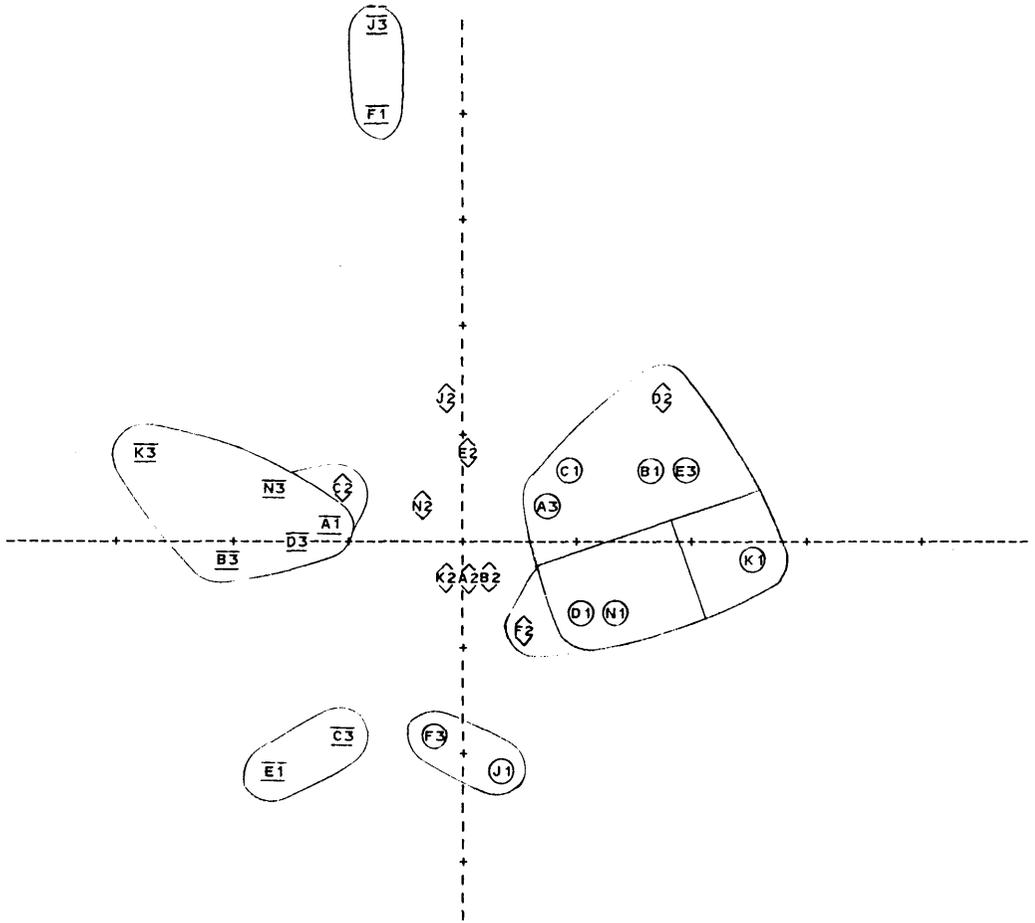


図 3-9
アメリカ

異点である。フランスにおいては、こういうことはなく、日本・ドイツと同じ傾向であるが、○印とそれ以外が第2軸できれいに分離するという事になり、考えの重点のおき所の差異が出ている。このことは第1軸の解釈に差が出ていることを示すものであり、家庭・先祖の近代的考えは他の項目のポジティブと、より強く結びつくという点で日本、ドイツとも異った傾向となっている。この点に着目すると（日本・ドイツ）、（イギリス・アメリカ）、（フランス）というクラスターの形になっている。日本・ドイツの軸を約45°回転するとイギリス・アメリカの関係が出る、90°回転するとフランスが出るという明確な大局的位置付がここで明らかになった。これは、似ていながら考えの筋道の異なる一つの差異のタイプを示しているとまとめられる。

2. ポジティブ・ネガティブ・クラスターの構成

ポジティブ（○印）・ネガティブ（二印、○印の対極）それぞれのクラスター構成において、国によって、似ているようで異なっているところがある。これを明確に掴んでおかないと誤解を生じてしまう。

まず、家庭に関する伝統的考えと先祖や家を重んずる傾向、家庭に関する近代的反応と先祖や家を重んじないという反応、のそれぞれの結びつきはどこの国でも全く同じである。これらのクラスター各々と他のスケールのポジティブ・ネガティブとの結びつきは、上述のように国によって必ずしも同一ではない。

以上のもの以外の領域におけるポジティブ側、ネガティブ側のクラスター構成は表3-6、表3-7に示すように、必ずしも同じではなく、似ているところと異なっているところが国々において相互にずれていることがわかる。

これらのクラスター構成の微妙な差を無視してものを考えるとき、社会構造の重大なギャップを見落してしまうと考えられる。たとえばドイツでは他の国と異なり、家庭・先祖の伝統の方に非金志向が加わり、近代の方に金志向が加わるというのは、一つのドイツ固有の社会の反映ではないか。また、アメリカの、不安を強く感じる方の反応が社会主義好みと結びつくというのは大きな特色で、他の国では見られない。不安感を強く感じる方が、日本とドイツでは経済のわるい方の反応と結びつくが、フランス・イギリスでは他と独立である。また、社会主義好みはアメリカ以外は一般のネガティブと結びついている。このようなことが見られるのである。

こうした形を表3-7から問題に応じて探り出してくることは興味あることである。

3. クラスターの特異な結び付き

前述のようにアメリカでのみ見られたことであるが特記すべきことと思われるので別項としておく。家庭・先祖の伝統的意見のクラスターが（不安あり、社会主義好み）のクラスターに近いことである。これはアメリカ社会の一つの特徴を示していると考えてよいと思われるが---第1軸で近いし、第2軸でも近い、第3軸でも近い---これも今後、検討に値することと考えてよい。

4. 各スケールの中間について

各スケールの中間（添字2であらわされている、ポジティブ（○印）と対極のネガティブの中間に区分されたもの）が、すべて、その言葉通りに中間なのか、あるいは、ポジティブ、ネガティブいずれかの意味をもつものか、という点に着目した分析である。結果をまとめてみたのが表3-8である。日本のみ、中間スケールはポジティブ、

ネガティブの中間に小さくしっかりと固まり、固有の意味を持っていることを示している。これまでも、中間回答は日本の特徴と述べてきたが、この分析においても中間の考え方という点においてもはっきり形を示している。ドイツ、フランスは、中間スケールがばらついて固有の中間は少く、ポジティブ、ネガティブのいずれかへ仕分けされることがわかる。アメリカは日本に次いで、中間が固有の意味をもち、イギリスはそれに次いでいる。他の領域との関係で、中間の回答の持つ意味がそれぞれ異なっていることが出ているのであって、表3-8にはデータを読むときの大事な知見が示されているのではないかと考えられる。

例えば、ドイツとフランスは中間の反応がいずれかへ振り分けられることが多いが、ドイツとフランスでは中間の反応の振り分けが逆になっているところが見出される（D2、K2 がポジティブ側、A2 がネガティブ側であることは同じであるが、F2、J2、N2 がドイツではポジティブ、フランスはネガティブ側、B2、C2、F2 はドイツではネガティブ側、フランスではポジティブ側にあるという反対傾向）。

また、これについて次のような考察もできる。アメリカは、ポジティブの回答をする好みがある（あるいは、そういう色メガネでものをみる）、日本は中間の回答をする好みがある（いつでもバランスをかけてものをみるという色メガネをもっている）、フランスはネガティブの回答する好みがある（あるいは、そういう色メガネでものをみる）、のではないかとこの考え方である。実態は同一でも色メガネのかけ方で回答が変わるという見方である。その点でスケールの中間が他の領域、反応との関係でどちら寄りにあるかということとは大きな情報を持っている。この点を以下に検討してみよう。

例えばフランスについてみると、科学文明（N）に対してはポジティブが多いのでN2 と言えばネガティブと思えるし、不安E3 が多いからE2 と言えばポジティブと見られる。いわばバランスである。健康K、経済D、主義C、信頼感Bについても同様である。しかし、金志向、家庭への近代的反応、先祖を重んじないという反応は多いが、中間回答のA2、F2、J2 がネガティブに入っているのはバランスの意味ではなく、この領域では実際にネガティブと見られるのである。アメリカでは主義C3 が少なくC1 が多いからC2 はネガティブに属するというのはバランス的であり、一方経済D、家庭FではD1、F3 が多いからこの中間（D2、F2）がポジティブに属するということから、実際にこの二つの領域ではポジティブと見做せるのであろう。このように、本来、各領域でいずれの反応（つまりポジティブ・ネガティブの反応）がドミナントであるかによって結論が変わってくるのであるが、中間が、ポジティブ・ネガティブのどちらに属する、あるいは近いかを調べることによってその意味を探ることができるのである。バランスという言葉で上に定義したことが極めて多い場合は、偏った色メガネで見ているということが出来よう。こうみえてくると、フランスもアメリカも上に言及したネガティブ、ポジティブの色メガネで全てのものを見ているとは必ずしも限らないと言った方がよい。領域によって色メガネを変えているという見方もあるが、こうなると領域ごとに見方が違うのだと考えた方がよい。色メガネという表現はすべての面で、偏った見方をしているということの意味するからである。日本の場合の中間が多く、すべて固るのは、そうした色メガネの傾向がある---そのようなも

のの見方が顕著である---と言ってよいように思う。

このようにみてくると、中間のスケールをどのように見るかは、表3-8を眺めて、それぞれの領域できめるほかはない。

表3-6
ポジティブのクラスター構成

第1軸	日本	E3	A3		F3	
			B1		J1	
			C1			
			D1			
			K1			
			N1			
第1軸	ドイツ		B1	D1	F3	
			C1	N1	J1	
			E3		A3	
			K1			
第2軸	フランス	E3	K1	D1	F3	
			B1	N1	J1	
				A3		
				C1		
イギリス			K1	B1	A3	F3
			N1		C1	J1
			D1			
					E3	
アメリカ			K1	D1	A3	F3
				N1	B1	J1
					C1	
					E3	

第2軸

第2軸

表 3-7
ネガティブのクラスター構成

日 本	D 3	B 3	Λ 1	F 1
	E 1	C 3	K 3	J 3
		N 3		
ドイツ		B 3	K 3	F 1
		C 3	N 3	J 3
		D 3		A 1
		E 1		
フランス	E 1	A 1	K 3	F 1
		B 3	N 3	J 3
		C 3		
		D 3		
イギリス	E 1	A 1	B 3	F 1
		B 3	K 3	J 3
		D 3	N 3	
アメリカ		E 1	Λ 1	K 3
		C 3	B 3	N 3
			D 3	F 1
				J 3

表 3-8
中間スケールのクラスター構成

	ポジティブ寄り	中間の意味	ネガティブ寄り
日 本		A 2	E 2
		B 2	F 2
		C 2	J 2
		D 2	K 2
			N 2
ドイツ	D 2	K 2	A 2
	F 2	N 2	B 2
	J 2		C 2
フランス	B 2	← C 2	A 2
	D 2		F 2 →
	E 2		J 2
	K 2		N 2
イギリス	D 2	E 2	A 2
		F 2	B 2
		J 2	C 2
		N 2	K 2
アメリカ	D 2	A 2	K 2
	F 2	B 2	N 2
		E 2	
		J 2	C 2

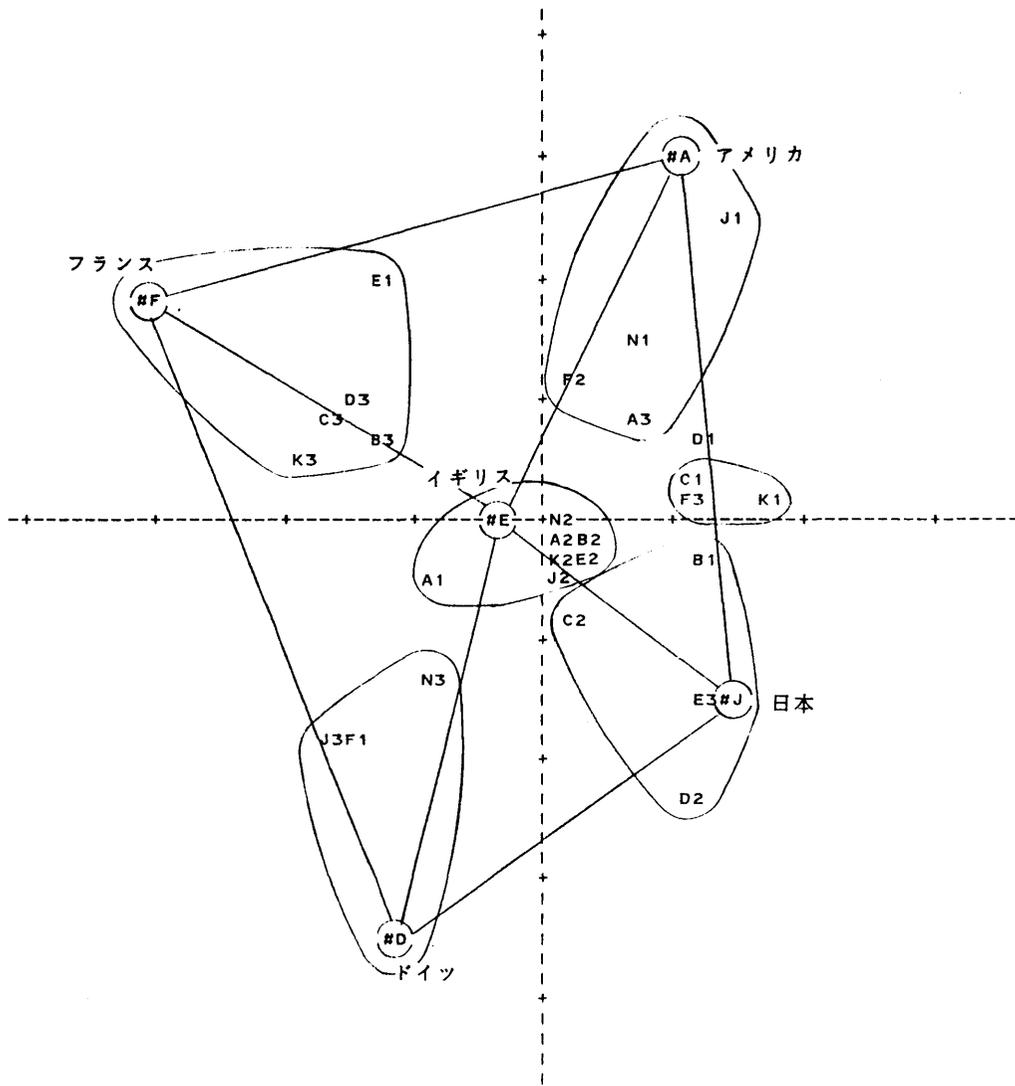


図 3-10
ボンド、国の位置

以上によって、各国別の考えの筋道を見た上での「似たところと異ったところ」が描き出されたと思う。小さな差異に見えたところも、実は大きな社会の違いを蔵していることもあるので、得られた知見を土台にして、さらに慎重にものを考えて行く必要があると考えられる。得られたものは、現象を探るための知恵となるべきものである。さて、考えの筋道の違いを一応不問に付して、ボンドしたサンプルにおいて、パタン分類の数量化を行ってみたらどうなるか。国そのものもデータの中に入れたとき、国と内容との結び付きが、回答相互の結び付きを超えて優勢に出てくるものであろうか。

結果は図3-10に示すが国の特色が明確に出てきた。国の分類が優勢で、その国のまわりにその国の特色ある回答（国との結び付きのとりわけ強いもの）が出ているという形になった。総合的国の布置は第1軸で（日本、アメリカ）（イギリス）（ドイツ、フランス）という形が出、第2軸で日本、アメリカが分離し、第2軸で日本寄りにドイツ、アメリカ寄りにフランスが分離し、イギリスは中央にとどまるという形である。いわば正方形の各点に日本、アメリカ、ドイツ、フランスが位置し、中心にイギリスがくるという形で、似た所と異った所の関係が、こうした質問群によるスケールの間に関連性のなかで浮かび上ってきたのである。各国のまわりにあつまるところは、

- 日 本（信頼感あり、主義中間、経済中間、不安なし）
- アメリカ（先祖を重んじる、科学文明観ポジティブ、非金志向、家庭中間）
- ドイツ（家庭近代的、先祖重んじない、科学文明観ネガティブ）
- フランス（不信感、社会主義好み、経済わるい、不安大、健康悪い）
- イギリス（金志向、中間の考え方）

というのが出ており、一応国の相対的特色となっている。大まかに言えば、フランス、ドイツはネガティブが、アメリカ・日本はポジティブが特色であり、イギリスはそれらの間にあるというのが特色となっている。

§ 3.6 スケール間の関連性 その2

§ 3.5 で大綱をつかんだ上でさらに次のものを加え、より一層総合的なものにした。自然観・宗教・イソップ物語アリとキリギリス、環境・エネルギーに関する態度である。これらがどう絡み合ってくるかがここでの関心事である。

追加したものは、スケールではなく、普通の質問の回答である。まず、これらの質問番号、コード、カテゴリーの特色をあげておく。

O. Q32 人間らしさ	O1 へる	O2 へらない	O3 中間
P. Q36 心の豊さ	P1 へらない	P2 へる	P3 中間
Q. Q43 自然と人間	Q1 従う	Q2 利用	Q3 征服
R. Q59 省エネルギー大切か	R1 非常に大切	R2 中間	R3 大切でない
S. Q60 環境	S1 非常に大切	S2 中間	S3 大切でない

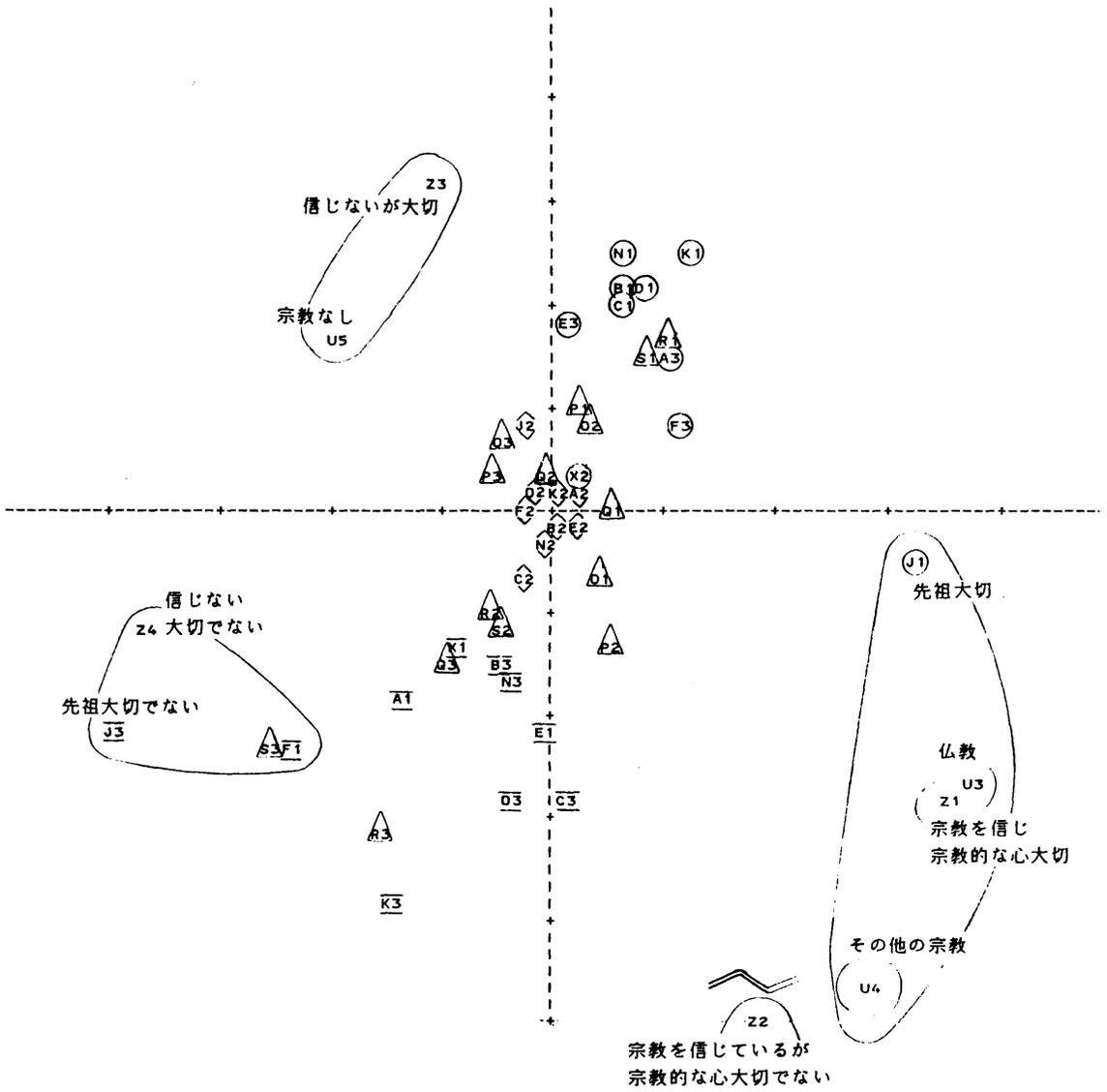


図 3-1 1
日本

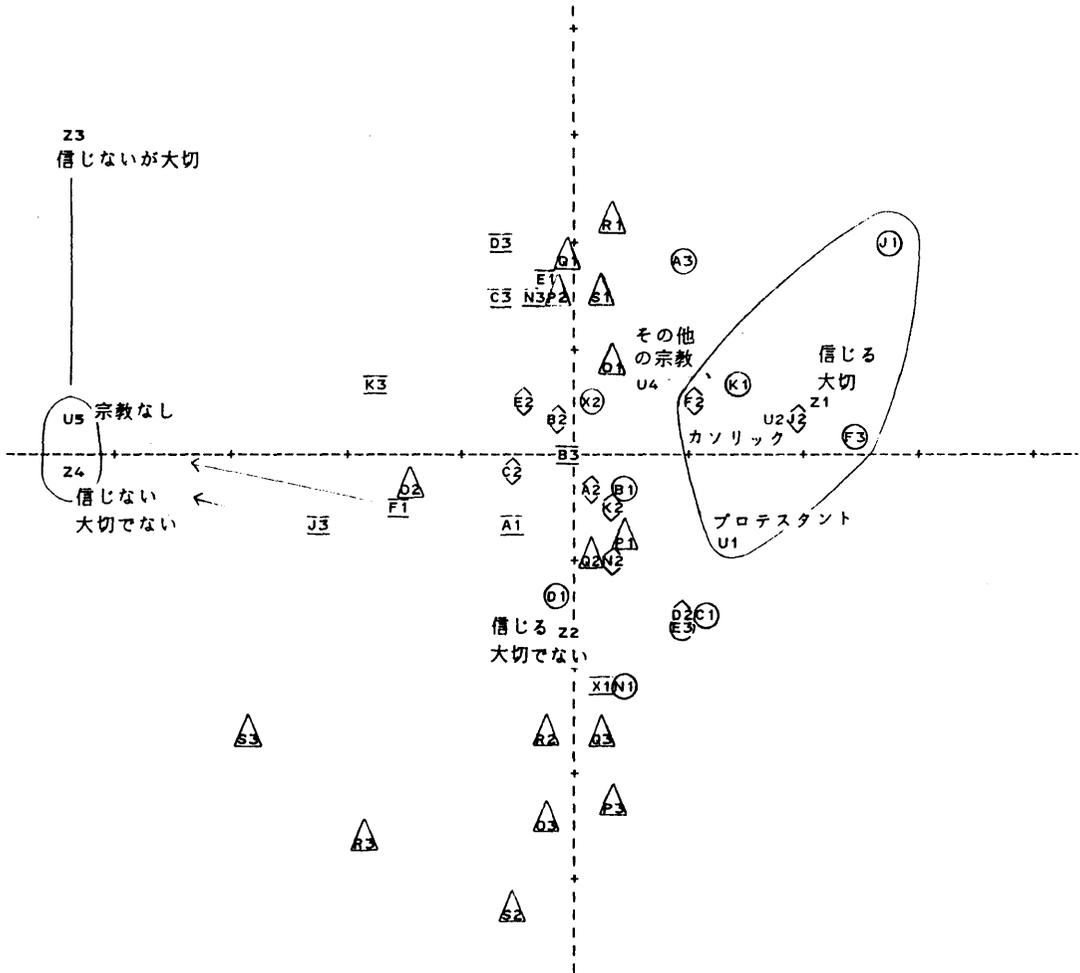


図 3-1 2
ドイツ

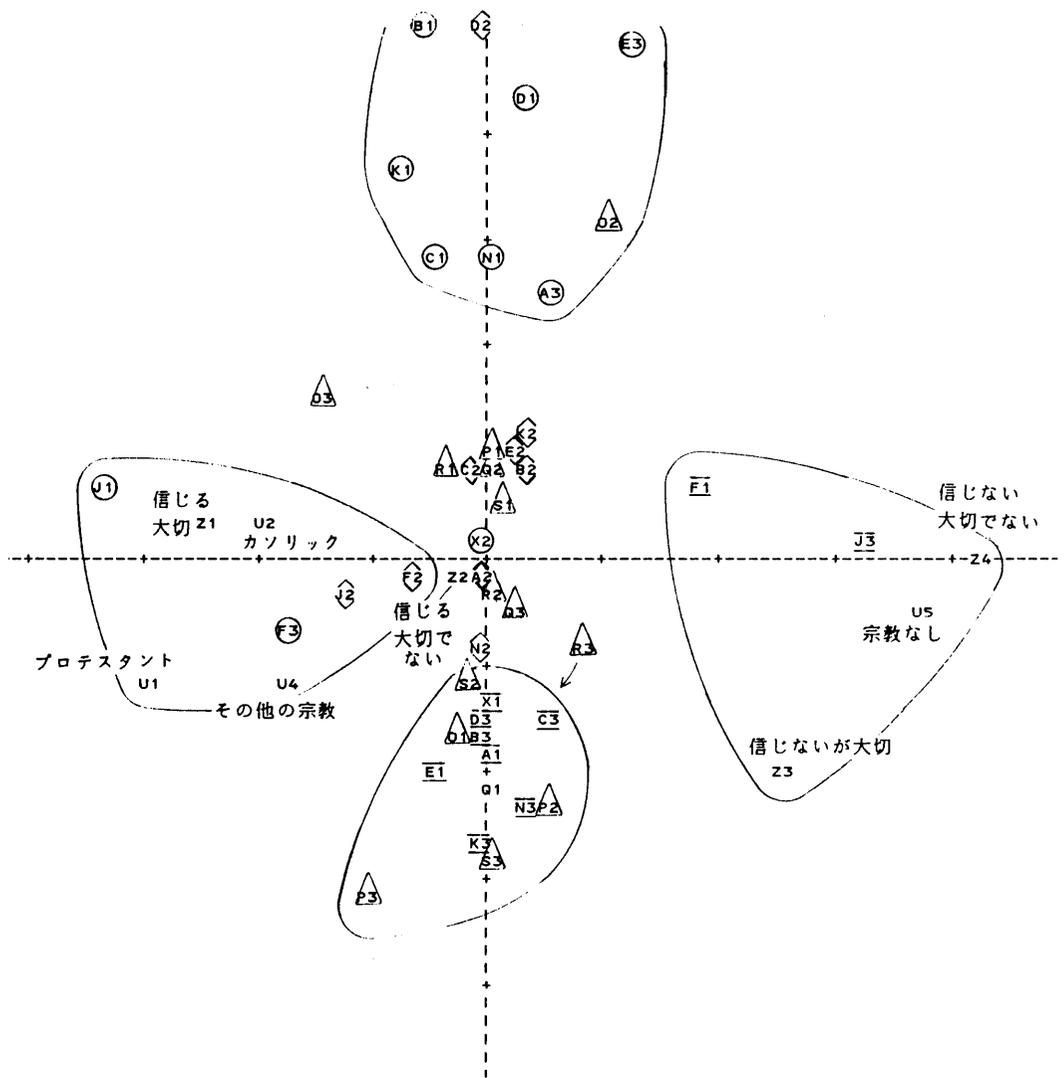


図 3-1 3
フランス

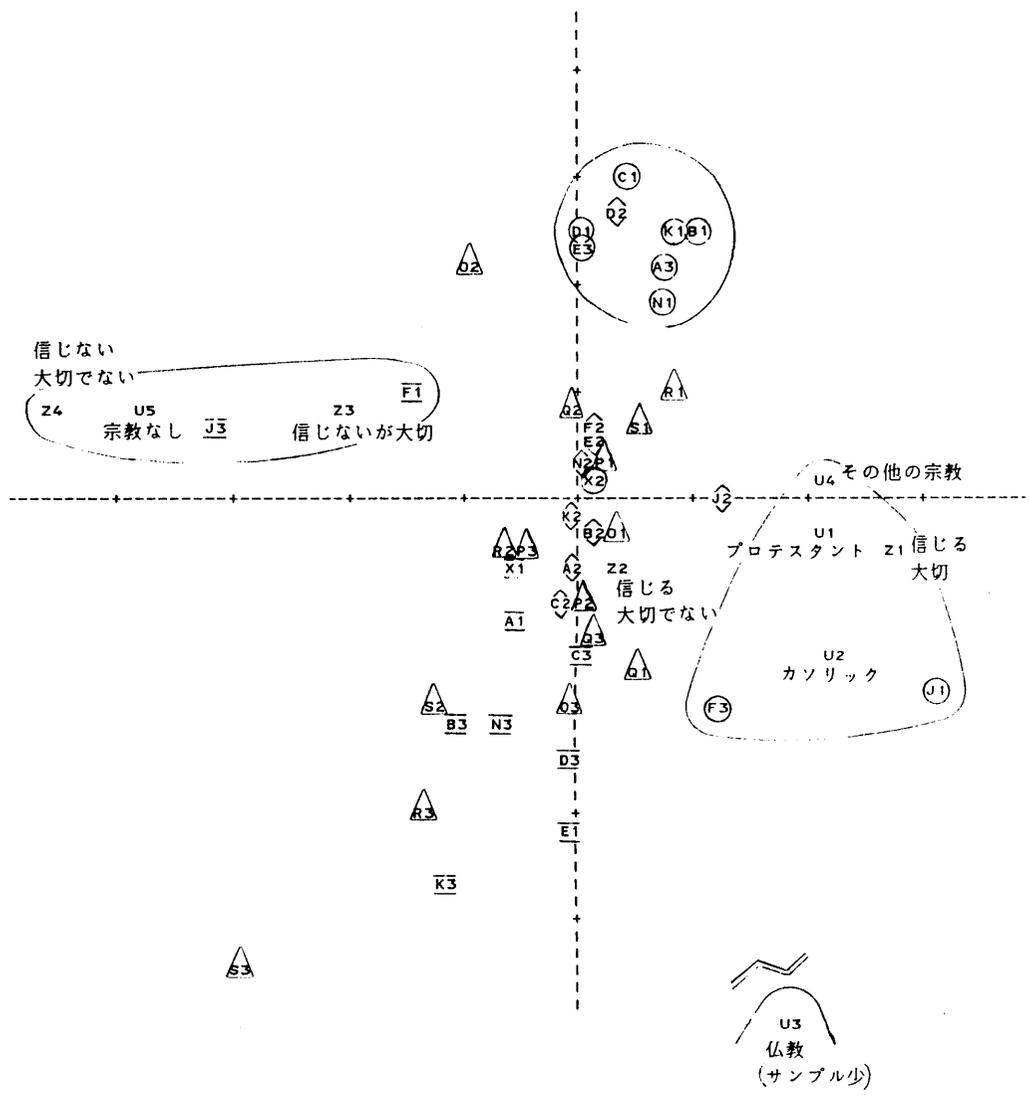


図 3-1 4
イギリス

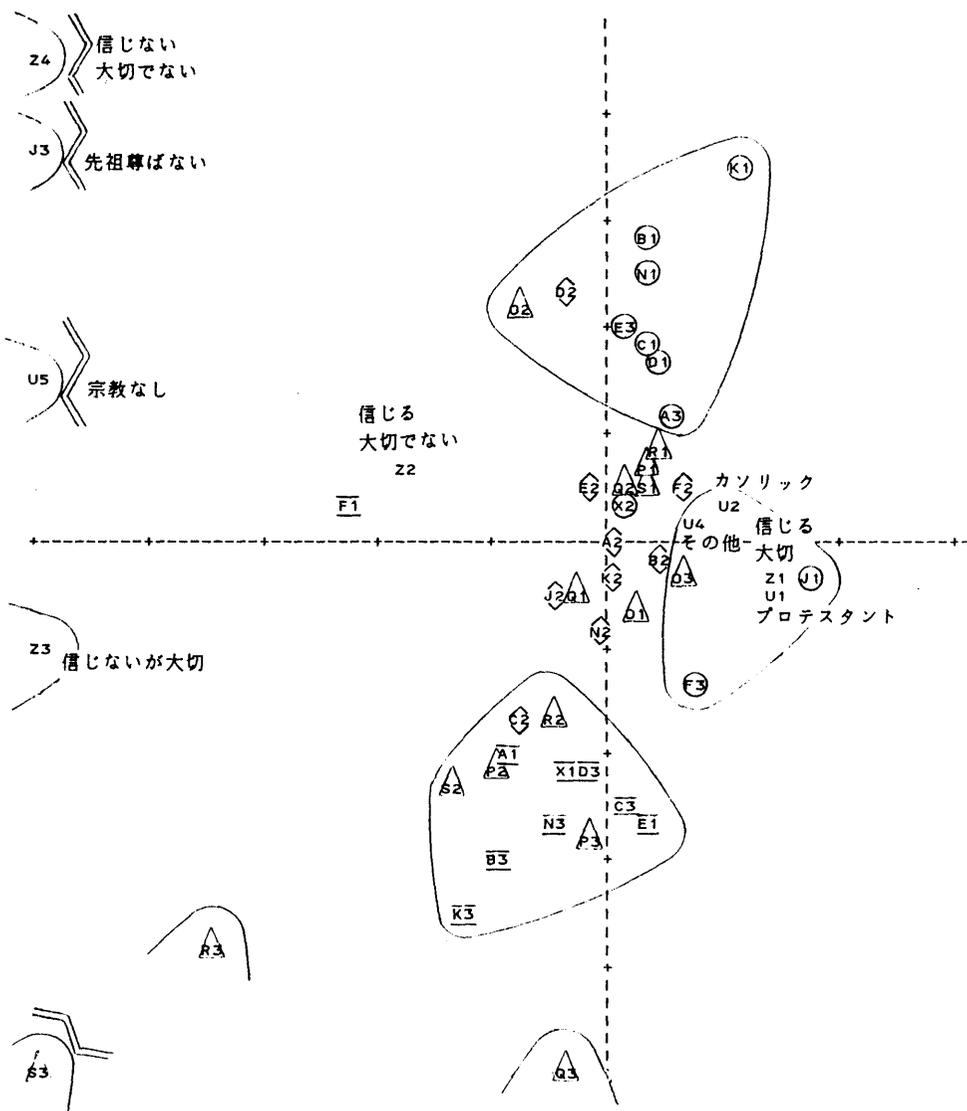


図3-15
アメリカ

X. Q 25	アリとキリギリス	X1 おいかえす	X2 たべものを与えて いさめる
Z. Q 62a× Q 63	宗教×宗教的な心	Z1 信じる 宗教的な心大切	Z2 信じる 心大切でない
		Z3 信じない 心大切	Z4 信じない 心大切でない
U. Q 62b	宗教	U1 プロテスタント	U2 カトリック
		U3 仏教	U4 その他の宗教
		U5 なし	

ここでは、スケールをなすもの（ポジティブ---ここでは○印を用いる---とネガティブ）と新しくつけ加えたものとの関係に重点をおいて考えてみることにしよう。

全部の項目を用い、国別に考えの筋道を出すために、パタン分離の数量化を用いてみると、図3-1 1、1 2、1 3、1 4、1 5を得た。全体を通して言えることは宗教に関する回答が周辺に位置するということ、ここでも前§ 3.5 で述べた項目のポジティブ（図中○印）、中間（図中◇印）、ネガティブ（図中□印）を分離する軸のあること（ドイツは第1軸、あとの図は第2軸に出ている）、第1軸はすべての国で宗教を信じる・信じないというものがあらわれていることである。宗教を信じるという回答の近くにあるものに、先祖スケールの重んじる方があることも各国共通、家庭スケールの伝統的なものも日本を除き共通してその近くにある。信じない回答の方に、先祖スケールの重んじない方、家庭スケールの近代的な方がくるのは日本も含めて共通している。但し、日本のみ「信じないが宗教的な心が大切」と（「宗教なし」、「信じないし大切でない」）が第2軸で分離し、後者が他の4国の宗教を信じないという回答の特色を示している。これらの関係をまとめたのが表3-9である。アメリカ・ヨーロッパは宗教を信じるというとき、ほとんど同じ傾向で家庭・先祖の伝統的意見をもつことがわかる。宗教を信じない方に家庭・先祖に対して近代的な考え方がついてくるのはヨーロッパの3国であり、Z3（宗教は信じないが、宗教的な心は大切）がZ4（信じない、宗教的な心大切でない）の近くにあるのもヨーロッパ3国である。アメリカはこの点異り、宗教を信じないネガティブな意見はZ3と共に大きく離れるし、宗教を信じるが宗教的な心は大切でないというのに家庭スケールでの近代的考え方が近くにあり、全体的に宗教的にネガティブな方に位置する。日本はこれらと異なる構造をしており、先祖スケールで重んじる方は宗教を信じる方にあり、家庭スケールの伝統（F3）はこれと離れて一般ポジティブに入る。宗教を信じず宗教的な心は大切でない方に、家庭・先祖のスケールで近代的な方が入るという形で、この点はヨーロッパ3国と同一である。しかし、Z2（宗教を信じるが、宗教的な心は大切でない）は独特の考え方として大きく離れるし、Z3（信じないが心大切）という日本での多数意見は、U5（宗教なし）に近く、宗教に関係なくむしろ他のポジティブ（○印）の意見の近くにある。一般的に言っていささか異なる様相が示されている。なお前述したように、宗教を信じない・宗教的な心も大切でないというのは、ヨーロッパと同じ内容を持っている。

さきに第2軸（あるいはドイツのみ第1軸）において、ポジティブ（前述の○印）、中間、ネガティブにほぼ3クラスターの出来ることを述べたが、スケール以外の残りの科学文明

観、環境・エネルギーへの態度がどう絡むかをみるために表3-10をつくった。これは各国の3クラスターに何が属するかをみたものである（なお、ドイツのみ様相が異なるため表の最終にかかげた）。

表3-9
宗教クラスターの意味

	宗教信じる 宗教心大切 Z1		宗教信じるが 宗教心大切でない Z2	信じないが 宗教心大切 Z3	信じないし 大切でない Z4
日本	U3 J1	U4	大きく 離れる	他の ポジティブ側 U5	J3 F1
ドイツ	U1 F3 F2	U2 J1	第2軸の上 他のものの 中間		Z3 U5 F1 J3 K3
フランス	U1 U4 F2 J1	U2 F3 J2	中間にくる		Z3 U5 F1 J3
イギリス	U1 U4 F3	U2 J1	中間にくる		Z3 U5 F1 J3
アメリカ	U1 U4 F3	U2 J1	信じない方 近くに F1がある	大きく 離れる	大きく離れる U5 J3 大きく 離れる

表 3-10
 クラスターと他の意見との関係の意味

	ポジティブ	中間	ネガティブ	関係なし
日 本	R1 S1	← O2 ← P1 O3 P3 Q1 O1 X2	Q3 ← R2, R3 ← S2, S3 ← P2 X1	
フランス	O2	← R1 ← S1 ← P1 ← O2, O3 X2	O1 P2, P3 Q1 S2, S3 R3 X1	O3
イギリス	O2	← R1, R2 ← S1 ← P1, P2, P3 ← Q2 O1 X1, X2	Q1, Q3 O3 S2, S3 R3	
アメリカ	O2	← R1 ← S1 ← P1 ← Q2	O1, O3 Q1 X2 P2, P3 R2 S2 X1 Q3 この側 R3 で S3 離れる	
ドイツ		R1 は P1 S1 な Q2 Q1 れ O1 る P2	X2	O2 O3, P3, Q3 R2, S2 R3, S3 X1 この2つは やや対立が寄り

まず、いずれもスケールに入れず、ここで新しく追加した質問に対する回答は、宗教に関する問題とほとんど無関係ということである。しかし、日本では、環境問題大事でないというのが、宗教を信じない・宗教的な心は大切でない、のに近くあり、アメリカでは宗教を信じる意見の近くに人間らしさいちがいと言えぬという中間の回答があり、さらに中間的意見と共に近くに環境エネルギー問題が非常に大切というもの、科学文明に悲観的なもの、自然に従う・利用するという前向きな回答と、人間らしさはへる、という回答がきているのが大きな特色と言える。

表3-10をみながら国別に特色あるものを拾い出してみよう。ドイツを除きポジティブ（○印）、中間（◇）の付近に新しく追加した問題でのいわば明るい意見、ポジティブな意見が位置するのは似た傾向である。ネガティブには、環境エネルギー問題で大切でないとする方向、科学文明に悲観的な方向、自然を征服するという意見が来ている。但し、例外としてフランス・イギリスで自然に従うがこのネガティブクラスターに属するという傾向は興味がある。イギリス・アメリカで人間らしさがへるというのが中間クラスターにあり、日本・フランスではネガティブクラスターに入るという点は異っている。上に示したように、ドイツのみ特異であり、ポジティブ、ネガティブ、中間に関係のないもの、両者の中間に入るものがあり、むしろこうした問題では、これまでのポジティブーネガティブ、宗教に無関係の第2軸として科学文明観のポジティブ、ネガティブ、環境エネルギー問題の大切、大切でないが出ていると見た方がよいと考える方が妥当であろうと思う。また、ドイツの場合、付加した問題において他の国と異った結び付きが出ているのである。これを次の表にまとめてみよう。

ドイツ	R1	S1	Q1	O1	P2	
他の国	R1	S1	Q2	O2	P1	注 日本ではQ1はQ2の近くにあり、 O1、P2の近くにもあると言える。

ドイツと他の国とでR1、S1と科学文明観の結び付きが逆転しており、自然観と共にドイツはドイツなりにナチュラルな発想---環境エネルギー問題大切、科学文明に対し（人間らしさ、心の豊さへる、自然に従う）---であり、現在の科学を反省した上での環境エネルギー、自然への対応という深刻な形が出ている。他の国は日本を含めて、明るい前向きの発想---環境エネルギー問題大切、科学文明人間らしさ、心の豊さへらぬ、自然を利用する---であり、現在の科学を肯定した上での対処を示していると見ることができ、考えの筋道の差を示していると言える。しかし、上の表の注に示したように、よくみると日本はドイツ流の考え方も存在することがデータからみられ、二つの異った考え方が混在している（ドイツ流の考え方は弱い）と見ることができるのである。以上の分析をみると、前節と少し異なり、こんどはアメリカ、イギリス、フランスとドイツの中間に日本があるという形になっていると見做すことができる。

アリとキリギリスの質問での回答をみよう。まず、先祖・家庭の伝統-近代とはどこの国でも関係がないということがいえる。さて、嘲笑して追いかえず（X1）は、日本、フランス、アメリカ、ではネガティブの方、イギリスでは中間、ドイツは無関係もしくはポジティブな方に属するという異った様相がみられる。食物をやって諫めるというのが、ドイツを除きすべての国で中間のクラスターに属するが、ドイツでは中間もしくはネガティブ

寄りにあるのも特異であり、この点も考察に値しよう。ドイツは、本節 § 3.6 で分析したところ、他の国と異った考えの筋道・発想があることは注目してよい所であろう。

このようにして考えの筋道の似ているところと異っているところが剔出されたと見ることができた。この綾模様は、文化の異なる諸社会の深い面を探り出しているように思えるのである。

さて、こんどは、このくらいの違いを認めた上で各国をボンドし、パタン分類の数量化をしてみると、これらの質問群の関連性の上に立った心の構図に基いて、国の差異がどのように出てくるかを見てみたい。きめの粗い分析であるが、その結果は図 3-16 に示すように、実に面白い三極構造が得られた。このうちイギリスはアメリカの方により近い点も面白い。つまりアメリカ、ヨーロッパ、日本という形である。それぞれの近くにある回答をみると、その包括的にみた相対的な特色を大掴みに現すことが出来る。これを表 3-11 に示そう。一言で各国の特性を言うならば、日本の中間回答好み、アメリカは先祖を重んじ宗教を信じ、宗教的な心は大切、プロテスタントとの関係はより密接、ヨーロッパは一般に暗いイメージで家庭観の近代的な方により関係深く、より社会主義好み、カソリックとの関係がより密接、という形が描き出されたことになる。

表 3. 11
国別の特色

日本	主義 中間 経済 中間 人間らしさ いちがいにいけない 心の豊かさ いちがいにいけない 宗教は信じないが宗教的な心は大切 環境問題 やや大切	(同じ側に仏教)
アメリカ	先祖重んじる プロテスタント 宗教を信じ、宗教的な心大切	
ヨーロッパ	カソリック 宗教信じるが宗教的な心大切でない 社会主義好み 経済暗い 不安大きい 先祖重んじない 健康ネガティブ 家庭観近代的 不信頼感 人間らしさへらぬ 省エネ大切でない	

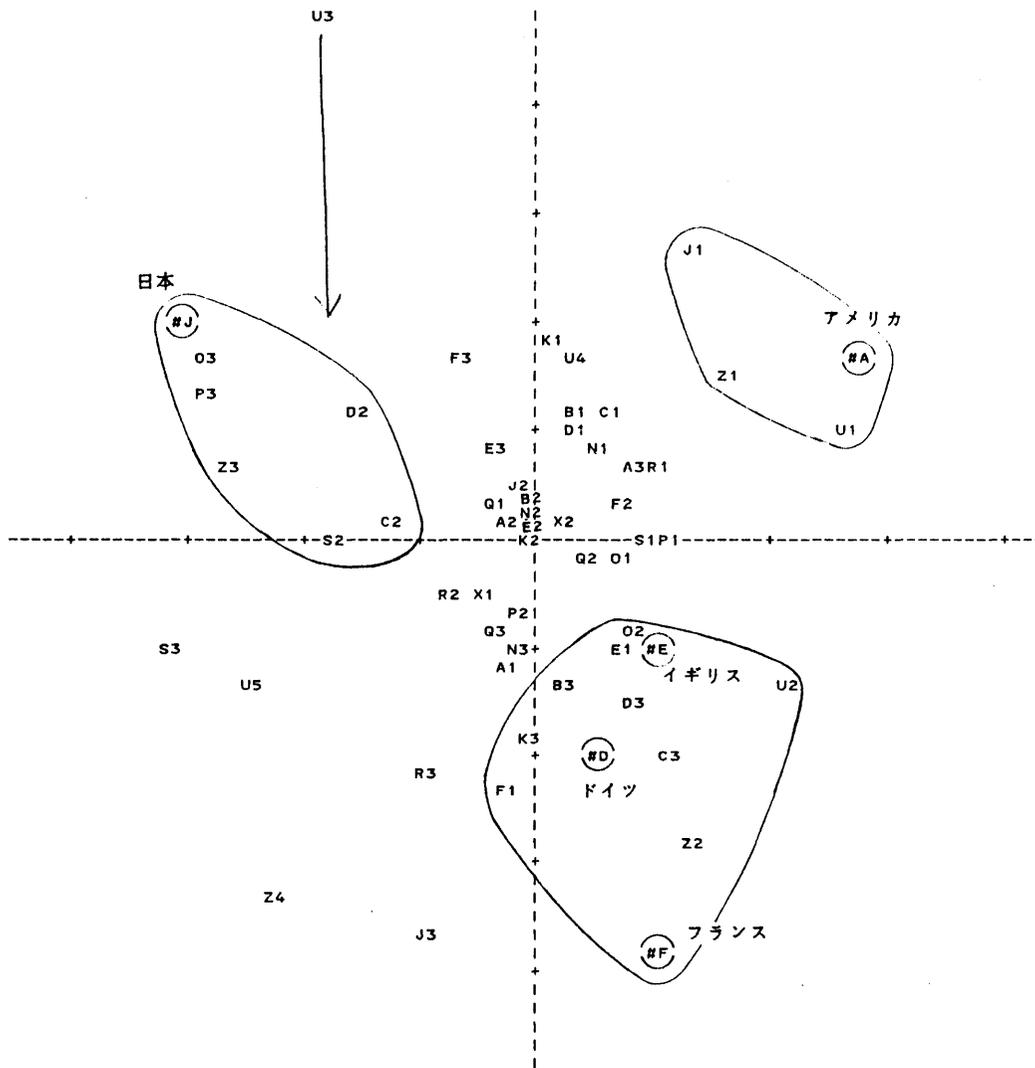


図 3-16
ボンド、国の布置

結果が出てみれば、首肯できる形であるがいかにも粗いものである。ほとんどすべての質問を入れてその関連の上に立って、国の特色を細い点を抜きにして纏むと、このようになったということである。詳しい事を知った上での要約としては面白いものである。しかし、これだけでは、ニックネームができ、レッテルが貼られても、大雑把過ぎ、立ち入ってみれば内容的には何の意味もない。これまで述べてきた、より突込んだ分析が大事であって、その同異の綾を読むことが、人間理解・社会理解・文化理解に大切なことである。

§ 3.7 まとめ

これまで質問のCLAを通してみえてくると、さまざまな姿が浮かび上がってきた。

まず前章 § 2.1 で日系人が日本人とアメリカ人の鎖となるという知見である。本章で出てきたことは、それぞれの国はそれぞれの特色を示し、日本、ヨーロッパ、アメリカの三極構造を示すこともあるし、日本とアメリカが近く、イギリスが間に入り、ドイツ、フランスが離れるという形もあるし、ドイツ、フランスもまた相互に異った姿を示すということも出てきた。このあたりのキメの細い分析が、いかに重要であることを示してきたことになる。これらが、一見日本的と見られる質問ではなく、より一般的と思われる質問においても、こうした関係が出てきたのである。質問群の構成次第ですべての国で共通にスケールをなすものを見出すことは可能であり、その限りにおいて比較可能であるが、スケール間の関連性、考えの筋道には、微妙なズレを見出すことが出来、さらにこれに質問を付加するとさらに異った面が描き出されてきた。分析に取り上げる質問群の構成を変えることによって相互に示す同異の相が異り、鎖のあり方が異なったものになるという点は興味あることである。

日本のみが特殊でなく各国とも特殊であり、かつまた同じ所もあるわけであって、この同異のダイナミックスが、これまで述べてきたようにして探り出されてくるわけである。これを単純に比較したのでは、大変な誤りを犯す可能性が多いことを、これまでの分析が示していると言いうことが出来る。

さらにまた、人間関係の質問を加えてみると、かなりの部分で近くにみえたこともある日本とアメリカの関係が最も遠いものになり、むしろ他の質問で遠かった日本とヨーロッパの方がより近くにくるということも見えてきたのである。日本の特色である中間回答をする傾向をとりあげても、人間関係と全く同じ形をしており、日本とアメリカの間は最も離れて、ヨーロッパの方がより日本の方に寄ってくることも出てきた。

第I部で述べた方法論のところを思い出していただきたい。単純な仮説をおいて、これを検証するにはあまりにも、現実には複雑である。万華鏡とも見える質問群を用い、日本の手なれた質問も加えて、角度を変えて分析してみると、いろいろの国での考えの筋道や相互の関係が、同じところ、似ているところ、異なるところ、似ていないところを見せつつ、さまざまな綾文様を以て現れてきたのである。ここでは、行動計量という科学的な考え方の中で、異った文化の中での心の風景のさまざまを描いてきたと言ってもよい。このように、質問構成の多様性に基く調査データ、そのさまざまな角度からする分析を通して、つ

まり、対象をいわば捻くりまわして眺めて行くことが、国際比較で重要であるという一面をここに示した積りである。これは、第Ⅰ部で述べた「データとデータ分析によって語らしめる」「データ主導でものごとを探る」ことを可能にしようとする立場によって始めてできたことと考えている。

§ 4 時間における C L A

---Chronological Link Analysis の立場から---

これまで、グループの性質について、また質問の性質について、C L A の立場からのべてきた。ここでは、一つの国における時間的な意味における C L A を述べてみよう。これは、時系列による継続調査のほかはない。日本人の国民性調査（1953-1988、5年毎8回）を用いてそれをのべてみたい。この調査結果の細目は、「第5日本人の国民性」、統計理研究所国民性調査委員会編、出光書店（1991）、ほか、「第4日本人の国民性」（1980）までの諸文献に発表されている。

まず、全体的な意見変化というものが考えられる。これには、大きな変化（一方向の変化）を示すもの、小さな変化、変化のないものが見出される。この移り行く姿、あるいは変らぬ姿が鎖の形ということが出来る。変化の中にこれに盛りきれぬ U 字型、∩ 字型の変化、その他、特異な変化をするものも見出され、時代の変化に応じた姿が順次あらわれるところに、一時点のデータがそれぞれ鎖になって続いているのがわかる。一つだけ飛び離れて変化しているというものはなく、ある時点で始まり、順次その変化が波及し、またある時から変化しそれが続くという形が見出される。ある時点の調査が続けて抜けていると意味が判然としないものも出てくる。その点で少なくとも5年間隔の調査ということが鎖の意味として重大であることが解ってきた。

さらにそうした変化がどのようにしておこるかを分析することも意味がある。年齢と時期による変化、年齢によるが時期では変らぬ変化、時期にのみよって変るが年齢によっては変らないもの、年齢にも時期にもよらぬ変化、生れ年によってのみ変化するもの、などが現象的にはっきりつかみうるのである。これは、年齢コーホート分析によって一層はっきりする。つまり、意見は生年（世代）、時期、年齢（加齢による影響、年をとることによる変化）というものをデータから推定する分析法によって明らかにすることができるのである。これについては、林・鈴木、「社会調査と数量化」、岩波書店（1986）に詳しいのでそれに譲るとしよう。

ここでは、いくつかの話題について、時系列変化、時期の C L A について話を進めてみよう。

§ 4.1 大多数意見

この定義は前に述べた通りであるが、安定して大多数意見となっている質問は質問表 I の通りである。回答は第2表のようになるが大多数意見を示すものは、時間的にも安定し、諸外国にくらべても多めの結果を示し^{*)}、集団的にみた日本人の特色とみてよいものである。表4-1に日本の結果、表4-2に外国における結果を示そう。

* 宗教に関しては、信仰をもつものは少ないが宗教的な心を持つものが多いという形で特徴的である。#5.1C(問1)についてはアメリカ、イギリス、ハワイは日本に近い。

表4-1 大多数意見と安定性（％）

	問1 (#5.1c1) 採用試験 一番の人を 採用	問2 (#5.6) 使われたい課長 めんどろを みる課長	問3 (#9.3) 日本の庭と 外国の庭 日本の庭	問4 × 問5 (#3.1・#3.2) 宗教を信じる＋ 信じないが 宗教的な心は大切
1988	70	88	-	74
1983	71	89	-	82
1978	72	87	-	83
1973	73	81	90	79
1968	78	84	91	83
1963	75	82	84	84
1958	-	78	78	82
1953	-	85	79	-

表4-2 外国との比較（％）

	問1 (#5.1c1) 採用試験 一番の人を 採用	問2 (#5.6) 使われたい課長 めんどろを みる課長	問3 (#9.3) 日本の庭と 外国の庭 日本の庭	問4 × 問5 (#3.1・#3.2) 宗教を信じる＋ 信じないが 宗教的な心は大切
日系(ハワイ)	(68, 62, 64)*	(58, 63, 58)*	(71, 66, 66)*	(90, 91, 82)*
非日系(ハワイ)	(-, 62, 73)*	(-, 57, 54)*	(-, 73, 77)*	(-, 88, 83)*
アメリカ	66(72)**	51(50)**	85(93)**	87(85)**
イギリス	73	57	64	59
ドイツ	45	69	75	58
フランス	59	64	64	63
日 本	70	88	31	72

注) * 括弧内は(1971年, 1978年, 1983年調査)の比率、-は調査なし

** 括弧内は 1978調査

その他は 1988, 1989年国際比較調査

これで集団の特色をみたが、このような特色ある意見のみを示す日本人個人を考えてみよう。いわば典型的日本人ということになろう。この比率を表4-3に示すが、ほぼ半数程度になって、大多数意見の様相を示していないのである。集団における見方と個人単位にみる見方とは異った面が見えてくるのである。

なお、各回答のランダムマッチングの比率も表4-3に示したが、実際の調査の結果とよく類似しており、大多数意見の間に強い関連性を認めることは困難であると考えてよい。つまり、それらの大多数意見を貫流する---あるいは底に流れている---ものを想定する根拠はうすいと思われる。それぞれ単独に大多数意見というべきで、それらを結びつけて構造（思想）を考えることは妥当ではないと考えるのがよい。

表4-3 大多数意見のみを示す日本人の比率

1. 問1、問2、問4×問5による

1988年	47%	(46%)
1983	52	(51)
1978	53	(52)
1973	47	(45)

2. 上記のものに問3（日本の庭・外国の庭）の質問を加えたもの

1973年	46%	(44%)
1968	52	(49)
1963	44	(41)

注) 括弧内の%はランダム・マッチングとして各質問の回答比率の積をとったものである。

§4.2 意見構造の安定性、特異性

各質問別の回答により意見分布を知ることが出来るが、質問群を通しての意見の構造を明らかにすることの重要性は多くの機会でも論じてきたので繰返さないが、これを「考えの筋道」と名づけ、意見分布を超えた深い意味を我々は与えている。質問群を貫流して見出される「考えの筋道」すなわち「思想」をとらえるために、ボタン分類の数量化（数量化Ⅲ類、フランス流に言えば、コレスポネンス・アナリシス）を用い、そのデータ構造をさぐり出すことになる。データ構造による日本人の集団構造---心の構図---の顕在化ということができる。

日本人における大きな特色と言われている人間関係に関するもののうち義理人情に関係するものをとりあげるが、この質問群は質問表Ⅱに示す通りである。一つの質問の一つの回答だけみると人情的、あるいは義理人情的と思われるものとそうでないものにわかれる。義理人情的と言い切るには、後述するように回答をくみあわせてみる必要がおこってくる。なお、ここでとりあげた質問群は、典型的な義理人情に関する質問ばかりでなく、それに

深く関係すると考えられるものも含めてある。ここで一言付加えると、義理と人情とを対比させるのではなく、両者を考えあわせる考え方を見ようとするのであり、義理人情的と義理人情的でないという立場で考えているということである。

質問表Ⅱの質問群に対してパタン分類の数量化を用いてみるのである。この論議は第3部〔Ⅰ〕の§2.1と重複するが、時間的な関連の分析というここでの視点で、もう一度論議したい。読む便宜のため、数量化の結果を図4-1に再掲したが、25年間全く安定した構造を示している。第1軸（X軸）で、人間的・義理人情的の回答とそうでない回答が左右にきれいにわかれ、こうした考え方の存在の安定性が認められたと言ってよい。第2軸（Y軸）をみると、これは問2、問3および問4、問5の関係で、ともに会社の場面設定の差異であり、この両者の回答をわけることになっている。両場面は、それぞれ第二次的には異なる考え方が働くことを意味しており、人情的・義理人情的（人情的・義理人情的でない）考え方の中での差異ということが出来る。

このように安定した構造、つまり人情的・義理人情的とそうでないものを対比させて考える考え方の根深さ、根強さ、が示されているということが出来る。

これは全体的傾向だけではなく、年齢別にみる時、20歳台の年齢層や他の年齢層で、間々90°以内の回転している図柄も見られるが、年が経つと（加齢により）通常の形になる。大局的に言えば各年齢層で抜本的な差異がないのは注目すべきであり、上に述べた根深さ、根強さを裏書きするものがあると言えよう。第8回国民性調査（1988）について分析した結果を図4-2にかかげておくと、同じような形がみられる。このなかで、20歳代の前半・後半ともに90°回転した図柄がみられ（1983年も同様）ことが注目されるが、30歳以上では全体と同じ構図である。前述した義理人情スケール値の分布では第7回調査までとくらべて特に違いはないので、従来と同じく一時的とも思われるが、一応注意はしておきたい。

時系列的安定性をみたので、こんどは、空間的な広がり、つまり国際比較の立場も含めてみてみよう。

これをハワイ住民（1988年調査）*、アメリカ人（1978年調査と1988年調査）、イギリス、ドイツ、フランス（いずれも1987年調査）のデータについてみるとかなり異った構図が得られる。点の相対的位置がどう異なるかみるために、相互に図柄を回転してみても最も距離が小さくなる所をとり、この距離の総和を求め図柄の非親近性マトリックスをつくった。しかし、この測度のファジー性から、3段階に分類したマトリックスを作った表4-4（再掲）、これを基にMDA-OR（多次元尺度解析法MDSの一方法で、ランクのついた群分けにもとづくもの）を用いると図4-3（再掲）のようになり日本、アメリカにおけるデータの安定性他図との関係が明瞭となり、日系人が第3部〔Ⅰ〕§2.1で詳しく述べたように日本とアメリカとの間にきているという姿が出ている。ここでの論点で重要なのは、こうした心の構図のある意味の安定した動きが示されていること、これと比較される諸地域との混ざり合わない関係ということである。

*）日系人の標本数が少なく、日系人、非日系人それぞれの分析結果が不安定なため、両者を合わせたものを用いた。

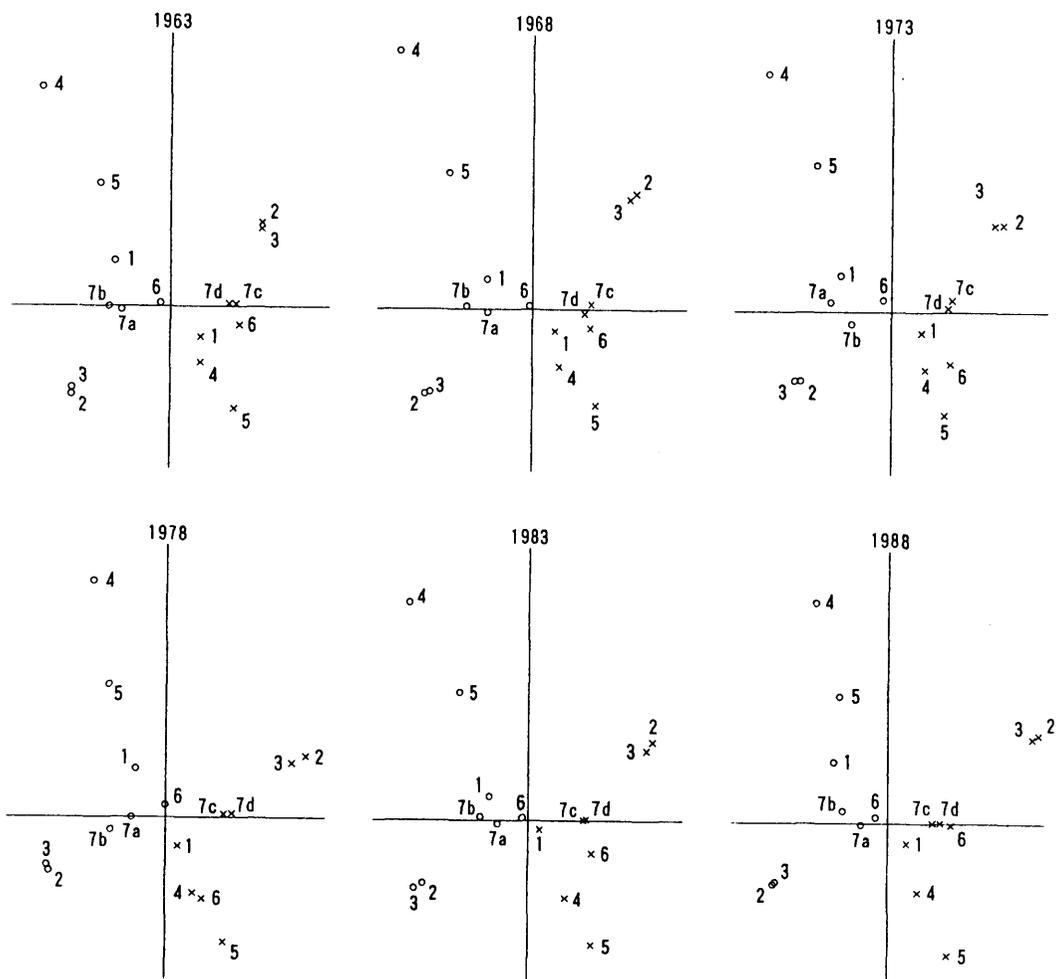


図 4 - 1
義理人情構造の安定性

その1 20代

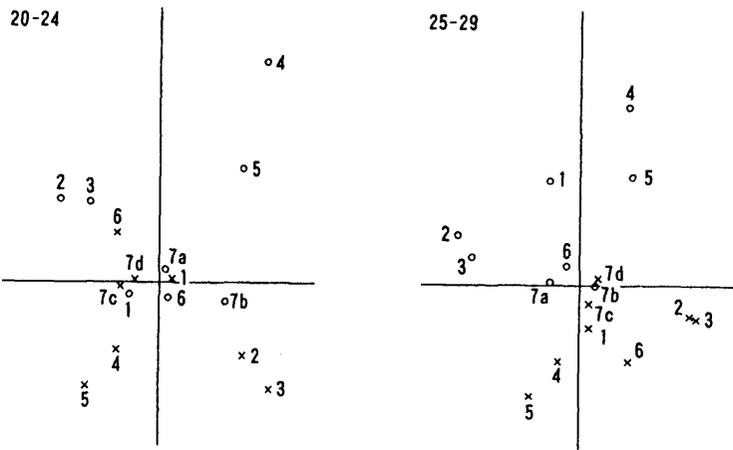


図 4-2-1

義理人情の構造 その1 20歳代

その2 年齢別

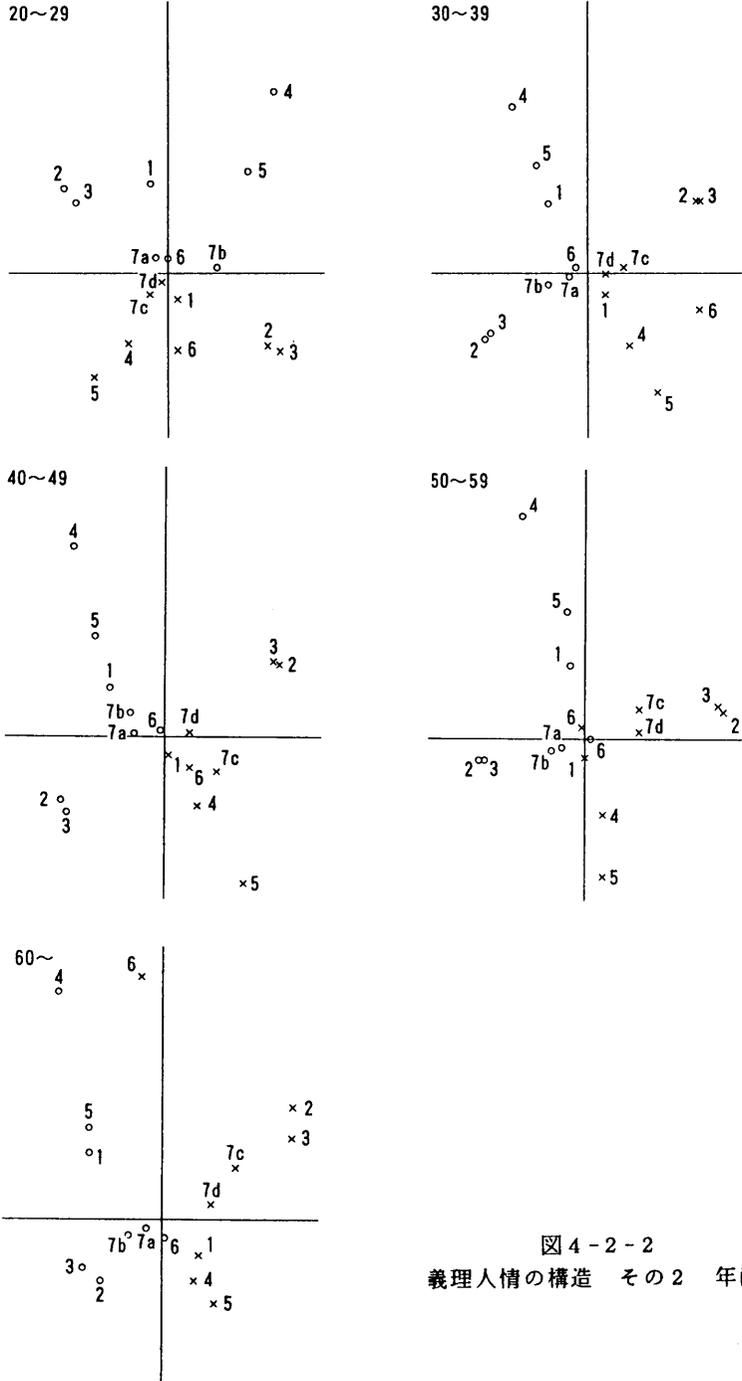


図4-2-2
義理人情の構造 その2 年齢別

表 4 - 4
図柄の非親近性マトリックス

D	0												
F	3	0											
E	3	2	0										
A	2	3	1	0									
K8	3	3	3	3	0								
H8	3	1	2	1	3	0							
K5	3	3	2	3	1	3	0						
K3	3	3	3	3	1	3	1	0					
A7	2	2	1	1	3	1	3	3	0				
H0	3	1	2	2	2	1	1	1	2	0			
H2	2	1	2	2	3	1	3	3	2	1	0		
H4	2	3	3	1	2	2	2	2	2	2	2	0	
	D	F	E	A	K8	H8	K5	K3	A7	H0	H2	H4	

- 1 : 近い
2 : 中位
3 : 遠い

- | | |
|-------------------|-----------------|
| D : ドイツ | K5 : 国民性調査1973 |
| F : フランス | K3 : 国民性調査1963 |
| E : イギリス | A7 : アメリカ1978 |
| A : アメリカ | H0 : ハワイ日系人1971 |
| J : 日本 (A 調査票による) | H2 : ハワイ日系人1978 |
| K8 : 国民性調査1988 | H4 : ハワイ日系人1983 |
| H8 : ハワイ住民1988 | |

§ 4.3 意見構造の安定性、変化と特異性

ここでとりあげる質問群は、伝統対近代に関するものである。いろいろの領域における伝統的・近代的とみられる回答を含む質問群で、前に述べた人間関係に関するものは除いてある。質問は質問表Ⅲの通りである。

ボタン分類の数量化を行ってみると、図 4-4 のようになる。図中の●印がいわゆる伝統的回答、○印が近代的回答、△印が中間的回答である。図をよくみると、1953年から1973年の20年間は、伝統的回答が強固に固まり、右下に近代的回答が集まり、右上に中間回答が付置されるという構造が読み取れる。ここにとりあげた質問をみたとき、回答の構造からみると、伝統的回答と近代的回答を常に対比させる考えの筋道のあることがわか

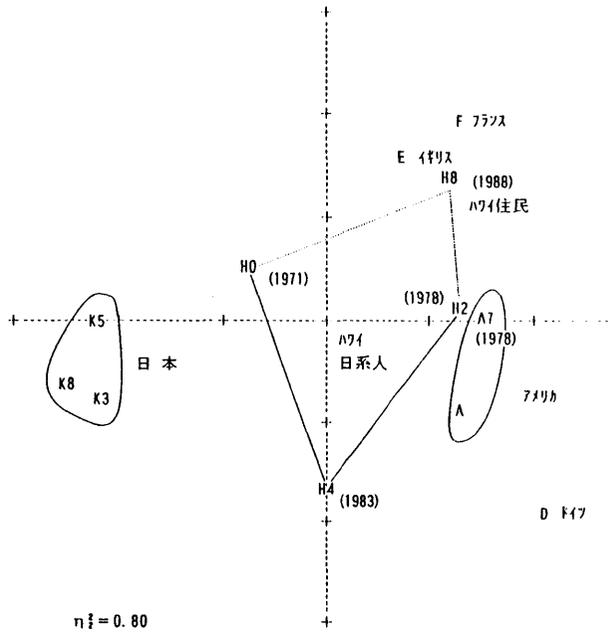
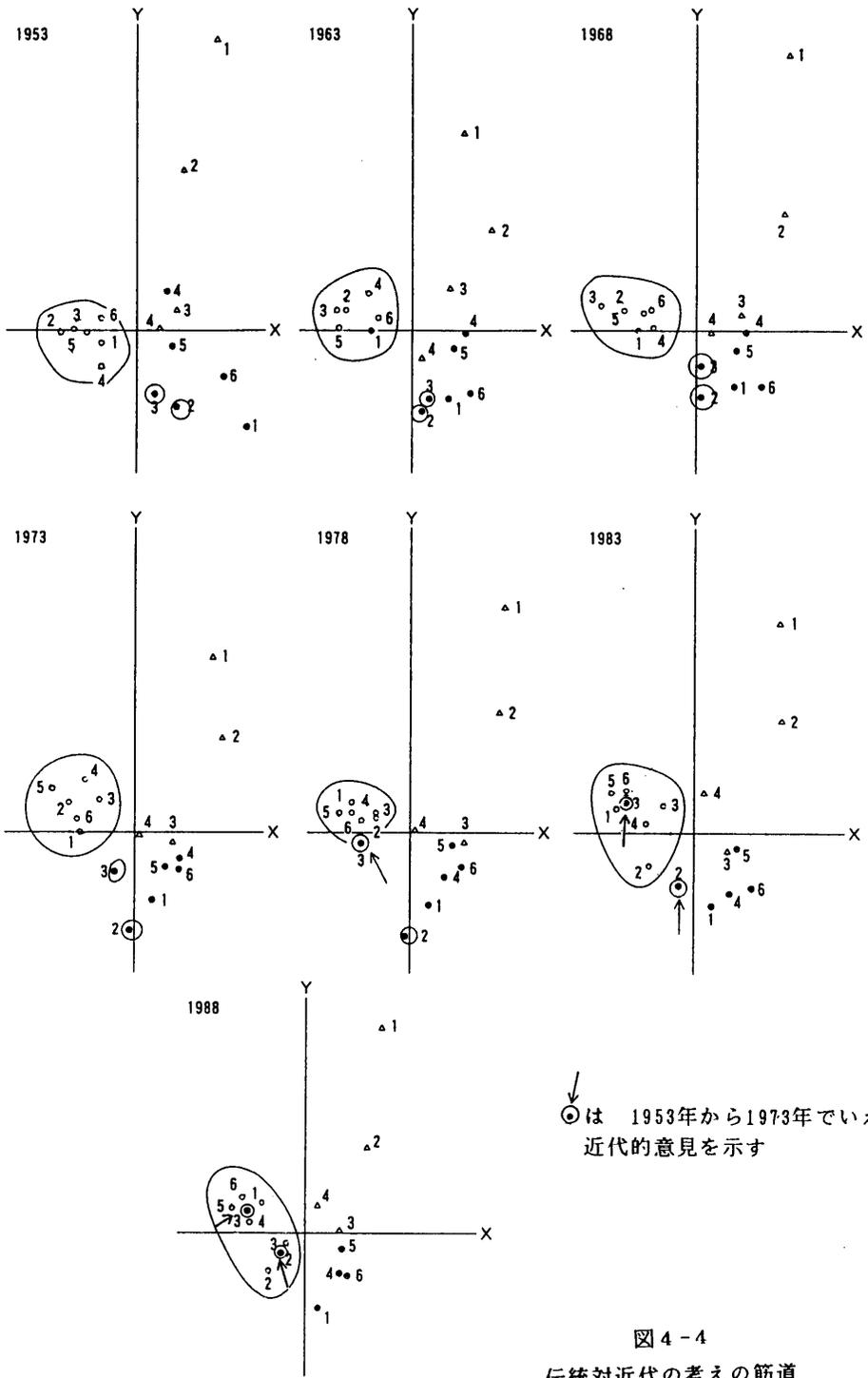


図 4 - 3
 諸国の位置づけ



⊙は 1953年から1973年でいえば
近代的意見を示す

図4-4
伝統対近代の考えの筋道

る。根強い考え方の筋道が見出されるのである。しかし、1978年になると近代的な回答とみなされるものが、伝統的回答群に入りこんできて、考え方の様相に異なるものが現れ始めたのを読みとることができる。全体におけるこの変化は、大きな兆しを現わしていることがこれから述べる分析でよく解ってくる。

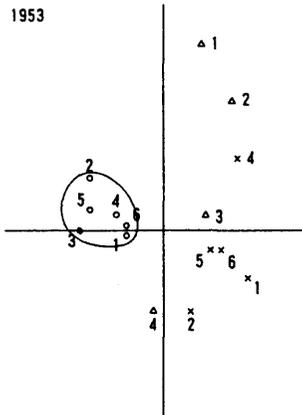
さて、1983年になると一層この傾向が顕著になり、伝統的意見の固まりの範囲が広がり、1988年においても一層この傾向が明確になってきた。1973年の兆候は見のがしてはならないのである。1953年以来データ構造として見出されたいろいろの事象に対して、それらをひっくり返して、伝統と近代を対比させる考え方が、崩壊し始めたのは日本人の心の大きな変化である。1973年以前では、伝統的意見の定義は、高年齢層ほど支持することが多い意見、若い年齢層ほど支持することの少ない意見というように言ってよかった。一方近代的意見は、若い年齢層ほど支持する比率が多く、高年齢層ほど支持することが少ない意見というように定義することが出来た。そして、意見の時系列をみると、変化しないが、変化するとすれば伝統的意見が減り、近代的意見が増加するという「近代化」の単純な傾向がみられた。それが1973年で少しくずれ出し、1978年で大きく崩れ、そのような定義が成立しなくなった。若い年齢層に伝統的な意見が多く支持されるものが出てきたのである。これをみて、若者の保守化、伝統回帰という説明がなされることもあった。しかし、これは見当外れの意見であることが以下の分析で明らかになる。

1978年の段階で、伝統対近代という対比の考えの筋道が崩れ出したので、年齢別に回答パタンの分析を行ってみた。この結果をみると、どの年齢層でも、1973年までは全体と全く同じような、伝統対近代という考えの筋道が強固に現われていた。比率の上における近代化志向の傾向も上述の通りであった。つまり、伝統と近代とを諸事象において対比させて考えた上で---古い、新しいという発想の上に立って---近代化の方向を辿る、という構図である。これが1978年の20歳代の前半、つまり20～24歳において崩れ始めたのである。図4-5にこの形を示そう。伝統的回答の固りがゆるくなり、近代的回答がその中に入りこんできたのである。この傾向は、1983、1988年と継続して見られる、あれほど強固であった考えの筋道が崩れ出したのである。これと時を同じくして伝統的回答が全体でも若い層でも増えてきたのである。若い層は、単なる回帰ではなく、伝統対近代という考えの筋道が崩れ出し上での伝統的回答が増えたということであって、伝統回帰という旧来の考え方そのものが通用しなくなっていると言うことができる。さらに、20～24歳の層が25～29歳の層より伝統的回答の比率が高くなる質問が数多く見られるようになってきた。

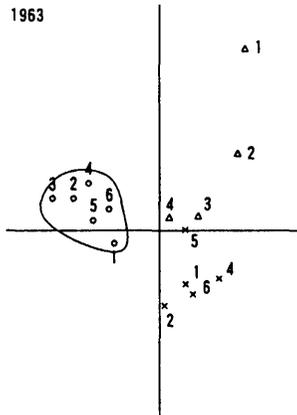
1988年の年齢別パターン分類の結果を示すが(図4-6)面白い形が出ている。34歳までをみるといわゆる伝統と近代との回答が入りまざり、伝統的回答が大きくなることとなる。30～34歳の層は1978年では、20～24歳であり、はじめて、伝統対近代の考えの筋道の崩壊の兆しを見せ始めた層である。35歳以上になると伝統対近代の考えの筋道がやはり存在するとみられる。伝統的意見群がかなり狭い範囲に固まっている。しかし、問3の近代的回答(自然を征服)が伝統的回答の中に入りこんでいるのが一つの特徴となっている。45～54歳になると問3の伝統的・近代的回答が同時に伝統的回答群の中に入りこみ、他の質問回答と無関係な様相を示している。55歳以上になると、全く従来と同じく伝統的回答群が狭い範囲に固まり、従来 of 考えの筋道、伝統的近代を対比して考え

20~24

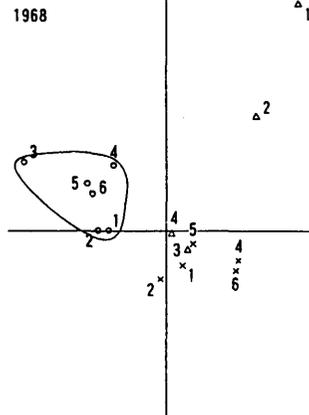
1953



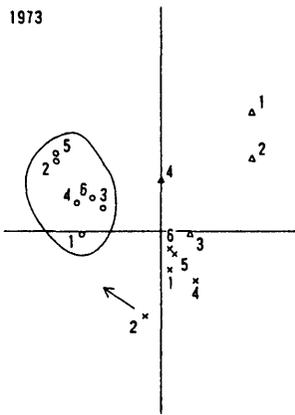
1963



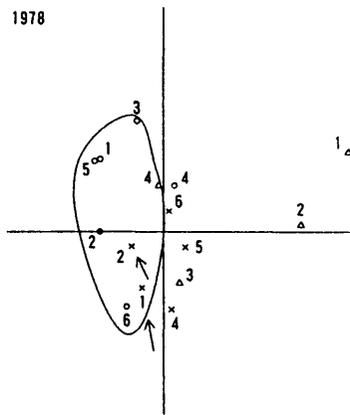
1968



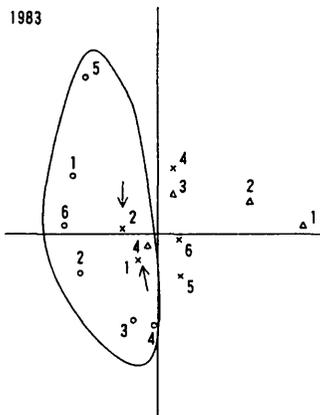
1973



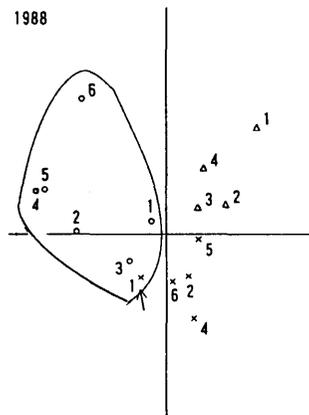
1978



1983



1988

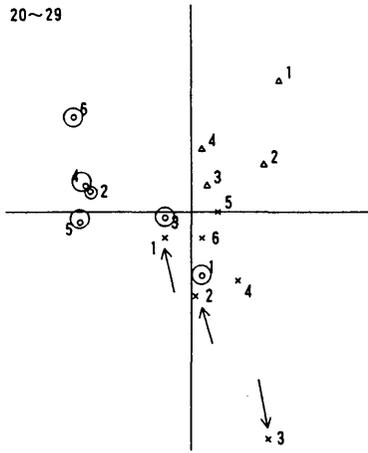


3x は標本数過少のため除外

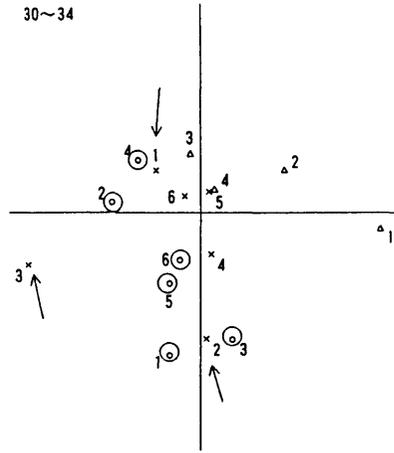
図 4-5

若年層の考えの筋道の変化

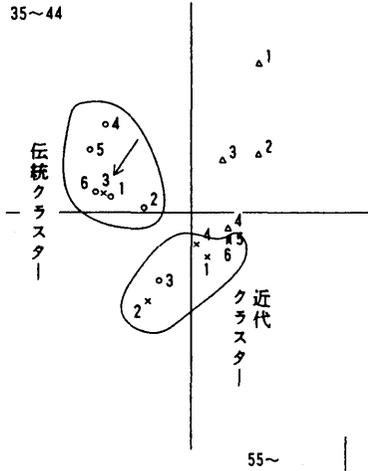
20~29



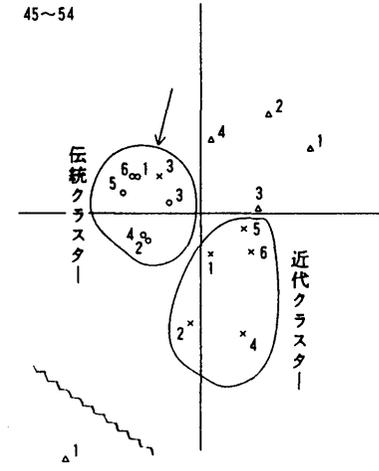
30~34



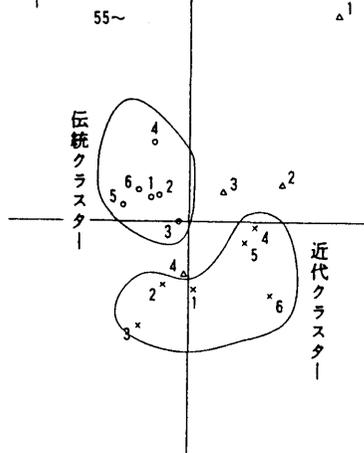
35~44



45~54



55~



○ 近代的回答
x いわゆる伝統的の回答

図4-6
年齢別考えの筋道(1988年)

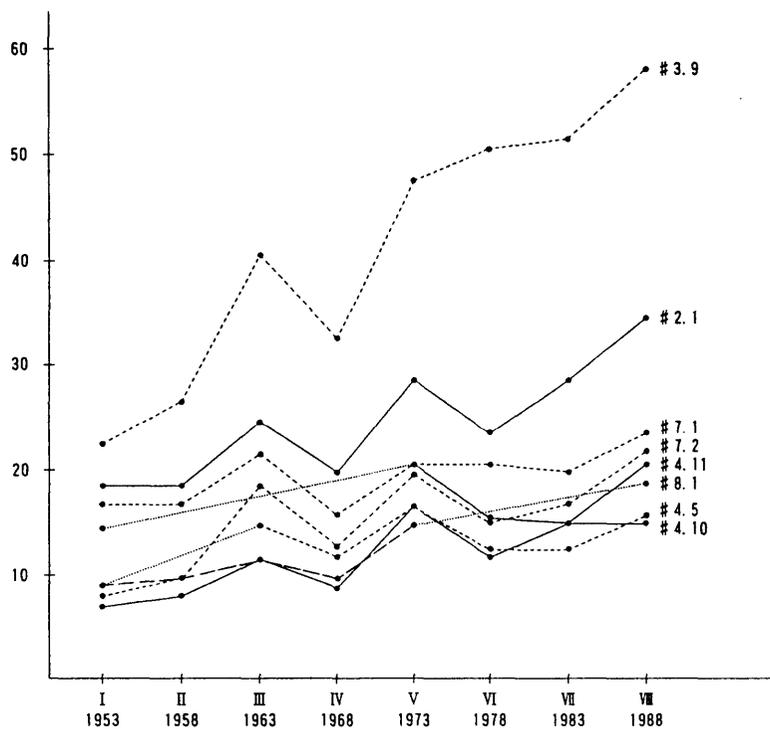
る考え方がしっかり根を下していることがわかる。ここに、考えの筋道の上での年代のギャップがあらわれているのである。

高年齢層が若い年齢層をみるときの問題がここにあり、すれ違いの様相を呈する可能性、ピント外れの解釈の可能性を示唆しているといえることができる。

以上、日本における強固な考えの筋道とその前提の様相を示してきたが、このような強固であった伝統対近代の考えの筋道は外国ではどうであろうか。国際比較のデータによれば、ハワイの日系人も含めて、こうした形は全く現れていないのである（1978年、1988年のアメリカ、ハワイの日系・非日系、1987年のイギリス、ドイツ、フランス）。これは図4-8に示してある。なお、アメリカでは1978年、ハワイでは1971年、1978年、1983年のデータもあるがこれと同様の傾向であった。各質問それぞれにおいて、考え方の上で伝統と近代というわけ方ができたとしても、それらを統轄した形で伝統対近代というものの見方をしていないということである。日本における1つの特殊な見方であったといえることができるが、これが崩壊しつつあることに注目する必要がある。

§ 4.4 中間回答の増大

中間回答が日本的なものであることは§ 2.1、§ 2.2 ですでに述べたが、中間回答のある質問群をとりあげ、その中での中間回答が時系列的にどうなっているかをみたのが図4-7である。質問の内容については煩雑になるので述べないが---このいくつかは質問表IVに示してあるものに含まれている---、減少傾向にはなく、むしろ増加する傾向にあるものが多いことは注目される。それらが順次増加するという姿は、日本の特色の一層の顕在化とみることができる。



注 # 8.1 は V までは中間回答があったが以後はない。図のデータは V までの質問文を用いた国際比較調査のデータである。
 図中の # . . は国民性調査を見るときに質問の固有番号である。
 ここでは無視していただいてよい。

図 4-7
 中間回答の変遷

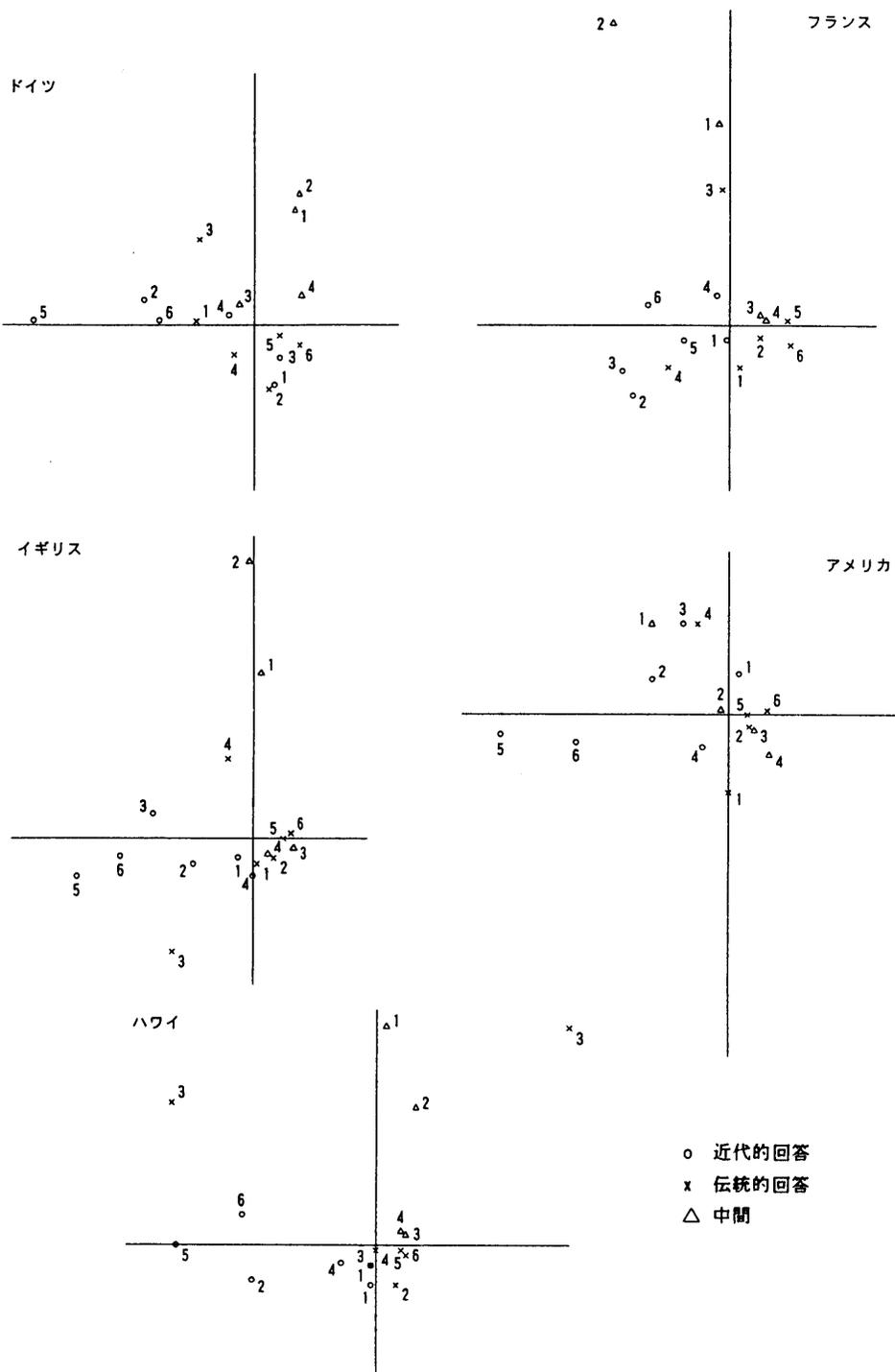


図4-8
 各国のパタン

質 問 表

内 容

- I. 大多数意見
- II. 義理人情関連質問
- III. 伝統対近代関連質問
- IV. 中間回答のある質問
- V. 社会的態度
- VI. 信頼感と仕事
- VII. 金、仕事、目標の関連質問
- VIII. イソップ物語と関連する社会的態度

I、II、IIIは、「日本人の国民性」の質問であり、5カ国の国際比較の調査でも使われているものは、その日本調査で用いた調査票での質問番号を括弧内のQつきの番号で示してある（質問文が一部異なるものには*印）。IVから後は国際比較の日本調査（A調査）調査の質問番号と質問文である。

1. 大多数意見

- 問1 (Q48) あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思えますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。あなたはどちらをとれ（採用しろ）といえますか。
1. 1番の人を採用するようにいう
 2. 親戚を採用するようにいう
- 問2 (Q50) ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長に使われる方がよいと思えますか。どちらか1つあげて下さい。
1. 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどろを見ません。
 2. 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもあります。仕事以外でも人のめんどろをよく見ます。
- 問3 (--) あなたはつぎのうち、どちらが好きですか。
1. 日本のほう（桂離宮の庭の写真）
 2. 外国のほう（ヴェルサイユ宮殿の庭の写真）
- 問4 (Q62) 宗教についておききたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。
1. もっている、信じている
 2. もっていない、信じていない、関心がない
- 問5 (Q63) それでは、いままでの宗教にはかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思えますか、それとも大切だとは思いませんか。
1. 大 切
 2. 大切でない

- 問6 つぎのような2つの会社があるとします。もしあなたがつとめるとしたら、どちらの会社のほうがよいですか。
- (--)
1. 給料は多いが、レクリエーションのための運動会や旅行などしない会社
 2. 給料はいくらか少ないが、運動会や旅行などして、家族的な雰囲気のある会社

II. 義理人情関連質問

数字は 1963/1968/1973/1978/1983/1988 の各年の国民性調査における回答%

- 問1 「先生が何か悪いことをした」というような話を、子供が聞いてきて、親にたずねたとき、親はそれが本当であることを知っている場合、子供には、「そんなことはない」といった方がよいと思いますか、それとも「それはほんとうだ」といった方がよいと思いますか。
- (Q40)
1. そんなことはないという 33/29/31/27/26/23
 2. ほんとうだという 50/52/54/57/59/62
- 問2 南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という電報を受け取ったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を1つだけえらんで下さい。
- (Q41)
1. なにをおいても、すぐ故郷に帰る 46/46/51/51/52/52
 2. 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する 46/47/40/42/41/41
- 問3 いまの質問では、恩人が死にそうなときを、うかがいましたが、もしキトクなのが恩人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい。
- (Q42)
1. なにをおいても、すぐ故郷に帰る 45/44/51/49/49/53
 2. 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する 47/49/41/44/45/41
- 問4 あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。あなたはどちらをとれ(採用しろ)といえますか。
- (Q48)
1. 1番の人を採用するようにいう 75/78/73/72/70/70
 2. 親戚を採用するようにいう 19/17/19/23/23/24
- 問5 それでは、この場合2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたの恩人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか？(どちらをとれといえますか？)
- (Q49*)
1. 1番の人を採用するようにいう 48/54/52/47/46/45
 2. 恩人の子供を採用するようにいう 44/39/38/46/47/49

問6 ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長(Q50)に使われる方がよいと思いますか。どちらか1つあげてください。

1. 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどろを見ません。 …… 13/12/13/10/ 9/10
2. 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見ます。 …… 82/84/81/87/89/87

問7 つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか？

- (B調査 Q45)
1. 親孝行をすること …… 60/61/63/70/73/71
 2. 恩返しをすること …… 43/45/43/47/50/47
 3. 個人の権利を尊重すること …… 49/44/45/38/36/36
 4. 自由を尊重すること …… 40/46/43/39/37/42

(国際比較用A調査

Q45) つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

- a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬 …… 55/52/63/69/78 (78/70)
- b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する …… 15/38/50/28/57 (23/16)
- c. 個人の権利を尊重すること …… 66/48/46/62/25 (72/78)
- d. 個人の自由を尊重すると …… 57/58/36/33/33 (27/34)

数字は、西ドイツ/フランス/イギリス/アメリカ/日本 の回答%
括弧内は参考としてハワイの日系/非日系の回答%

Ⅲ. 伝統対近代関連質問

数字は 1953/1958/1963/1968/1973/1978/1983/1988 の各年の国民性調査における回答%

問1 子供がないときは、血のつながりがない他人の子供でも、養子にとって家をつがせた方がよい(Q12*) と思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

1. つがせた方がよい …… 73/63/51/43/36/33/27/28
2. つがせる必要はない …… 16/21/32/41/41/48/51/52
3. 場合による …… 7/ 8/12/ 9/17/12/15/15

問2 あなたは、自分が正しいと思えば世間のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思います(Q35*) ですか、それとも世間のしきたりに、従った方がまちがいないと思いますか。

1. おし通せ …… 41/41/40/42/36/30/29/27
2. 従え …… 35/35/32/34/32/42/39/36
3. 場合による …… 19/19/25/20/29/24/29/35

問3 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い(Q43) (ほんとうのことに近い) と思うものを、1つだけ選んでください。

1. 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない …… 27/20/19/19/31/33/36/42
2. 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない …… 41/38/40/40/45/44/47/44
3. 人間が幸福になるためには、自然を征服してゆかなければならない …… 23/28/30/34/17/16/11/ 9

問4 あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。1つだけあげてください。

- (Q44*)
1. 個人が幸福になって、はじめて国全体がよくなる
..... 25/-/30/27/30/27/25/29
 2. 国がよくなって、はじめて個人が幸福になる
..... 37/-/30/32/26/27/30/25
 3. 国がよくなることも、個人が幸福になることも同じである
..... 31/-/34/36/37/41/40/42

問5 こういう意見があります。

(Q34*) 「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりはその人にまかせる方がよい」というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

1. 賛成 (まかせる) 43/35/29/30/23/(32/33)/30
2. 反対 (まかせっきりはいけない) 38/44/47/51/51/(58/60)/61
3. いちがいにはいえない 9/10/12/10/15/(-/-)/-

問6 小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。

(Q33) 「小さいときから、お金は人にとって、とても大切なものだと教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1. 賛成 65/-/60/57/44/45/43/35
2. 反対 24/-/23/28/38/40/42/47
3. いちがいにはいえない 9/-/15/12/17/13/13/16

IV. 中間回答のある質問

数字は、西ドイツ/フランス/イギリス/アメリカ/日本(A調査)の回答%である。
以下の質問群についても同様である。

Q12 子供がないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

1. つがせた方がよい 40/64/34/52/19
2. つがせる必要はない 29/21/45/35/42
3. 場合による 24/10/12/ 8/31

Q32 こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなって行く」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

1. 賛成 (人間らしさはへる) 69/61/70/69/45
2. いちがいにはいえない 13/ 7/ 7/ 6/39
3. 反対 (人間らしさ、不変、ふえる) 15/29/20/24/10

- Q33 小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。
「小さいときから、お金は人にとって、最も大切なものの1つだと教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。
1. 賛成 …… 26/41/21/17/48
 2. 反対 …… 56/53/74/78/19
 3. いちがいにはいけない …… 15/ 3/ 4/ 4/31
- Q34 こういう意見があります。
「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりはその人達にまかせる方がよい」というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。
1. 賛成(まかせる) …… 8/38/13/ 7/13
 2. 反対(まかせつきりはいけない) …… 73/42/80/88/62
 3. いちがいにはいけない …… 16/12/ 5/ 3/19
- Q35 あなたは、自分が正しいと思えば世間の慣習に反しても、それをおし通すべきだと思いますか、それとも世間の慣習に従った方がまちがいないと思いますか。
1. おし通せ …… 53/75/69/70/19
 2. 従え …… 17/15/21/19/26
 3. 場合による …… 27/ 6/ 8/10/52
- Q36 こういう意見があります。
「どんなに世の中が機械化しても、人の心の豊かさ(人間らしさ)はへりはしない」というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。
1. 反対(へる) …… 21/69/72/76/30
 2. いちがいにはいけない …… 53/22/20/19/31
 3. 賛成(へらない) …… 19/ 5/ 6/ 4/32
- Q67 a. [カード39] あなたは「民主主義」について、どう思いますか。
このうち、あなたの意見に一番近いのはどれですか。
1. よい …… 86/71/66/84/52
 2. 時と場合による …… 11/17/22/11/38
 3. よくない …… 2/ 5/ 5/ 3/ 2
- b. カード39] では、「資本主義」についてはどうですか。
1. よい …… 19/14/23/42/27
 2. 時と場合による …… 43/37/38/31/48
 3. よくない …… 32/43/30/21/10
- c. [カード39] では、「社会主義」についてはどうですか。
1. よい …… 14/30/22/11/ 6
 2. 時と場合による …… 38/42/39/32/54
 3. よくない …… 41/20/31/50/21
- d. [カード39] では、「自由主義」についてはどうですか。
1. よい …… 21/49/22/17/34
 2. 時と場合による …… 47/34/47/44/47
 3. よくない …… 18/10/21/29/ 6

- Q 71 [カード43] 次にわれわれが住んでいる社会についての考え方が3つ挙げてあります。あなたの意見に最も近いものを1つ選んでください。
1. われわれの社会の仕組みは、革命によって根本的に変えなければならない
..... 4/ 5/ 4/ 4/ 3
 2. われわれの社会は、改革によって徐々に変えていかなければならない
..... 55/63/70/66/59
 3. われわれの現在の社会は、あらゆる破壊的勢力に対して断固防衛されなければならない
..... 28/29/20/25/15

V. 社会的態度

注 以下 (F) 及び (F2) (F3) (F4) (G1) (G2) . . . などは、分析に用いたときの項目、カテゴリーをあらわす記号である。以下の質問群においても全く同様である。

- Q 16 [カード8] かりに現在の日本社会全体を、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、(F) お宅はこのどれにはいると思いますか。
- | | | | | | |
|--|------|--------|-------|----------------|---------|
| | (F2) | 1. 上 | | | |
| | | 2. 中の上 | | 17/13/ | 8/18/12 |
| | (F3) | 3. 中の中 | | 54/61/54/55/54 | |
| | (F4) | 4. 中の下 | | 25/25/36/27/32 | |
| | | 5. 下 | | | |
- Q 17 [カード9] あなたは次のうちどちらが好ましいと思いますか。
- | | | | | | |
|--|-----|------|--------------------|-------|----------------|
| | (G) | (G1) | 1. 収入が増えること | | |
| | | (G2) | 2. 余暇(自由な時間)が増えること | | 44/67/66/65/61 |
| | | | | | 41/25/27/30/33 |
- Q 20 [カード11] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。(H) あなたは、どれに一番関心がありますか。
- | | | | | | |
|--|------|---------------------------|-------|----------------|--|
| | (H1) | 1. お金のことを気にしないですむ程よい給料... | | | |
| | (H2) | 2. 倒産や失業の恐れがない仕事 | | 36/40/29/22/15 | |
| | (H3) | 3. 気の合った人たちと働くこと | | 20/ 7/15/11/29 | |
| | (H4) | 4. やりとげたいという感じがもてる仕事 | | 23/35/37/44/29 | |
- Q 23 [カード13] お宅の付近の環境や住みやすさについて、全体としてどう思っていますか。(I)
- | | | | | | |
|--|------|---------------|-------|----------------|--|
| | (I1) | 1. 満足している | | | |
| | (I2) | 2. やや満足している | | 22/24/28/40/36 | |
| | | 3. あまり満足していない | | 66/60/58/46/43 | |
| | (I3) | 4. 満足していない | | 10/12/ 9/ 9/15 | |
| | | | | 1/ 4/ 5/ 4/ 4 | |
- Q 71 [カード43] 次にわれわれが住んでいる社会についての考え方が3つ挙げてあります。(U) あなたの意見に最も近いものを1つ選んでください。
- | | | | | | |
|--|------|--|-------|----------------|--|
| | (U1) | 1. われわれの社会の仕組みは、革命によって根本的に変えなければならない | | | |
| | | | | 4/ 5/ 4/ 4/ 3 | |
| | (U2) | 2. われわれの社会は、改革によって徐々に変えていかなければならない | | 55/63/70/66/59 | |
| | (U3) | 3. われわれの現在の社会は、あらゆる破壊的勢力に対して断固防衛されなければならない | | 28/29/20/25/15 | |

VI. 信頼感と仕事

- Q51 たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。
 (A) (A1) 1. 他人の役にたとうとしてる …… 43/19/53/54/31
 (A2) 2. 自分のことだけ考えている …… 48/77/43/44/54
- Q52 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。
 (B) (B1) 1. 他人は機会があれば利用しようとしていると思う …… 30/58/38/40/32
 (B2) 2. そんなことはないと思う …… 55/36/58/56/53
- Q53 たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。
 (C) (C1) 1. 信頼できると思う …… 38/23/36/42/39
 (C2) 2. 常に用心した方がよい …… 47/74/60/55/46
- Q20 [カード11] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。
 (D) あなたは、どれに一番関心がありますか。
 (D1) 1. お金のことを気にしないですむ程よい給料 …… 13/17/17/21/20
 (D2) 2. 倒産や失業の恐れがない仕事 …… 36/40/29/22/15
 (D3) 3. 気の合った人たちと働くこと …… 20/ 7/15/11/29
 (D4) 4. やりとげたいという感じもてる仕事 …… 23/35/37/44/29
- Q18 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。
 (E) (E1) 1. ずっと働く …… 39/55/56/58/64
 (E2) 2. 働くのをやめる …… 48/34/34/30/24

VII. 金、仕事、国の目標の関連質問

- Q17 [カード9] あなたは次のうちどちらが好ましいと思いますか。
 (A) (A1) 1. 収入が増えること …… 44/67/66/65/61
 (A2) 2. 余暇(自由な時間)が増えること …… 41/25/27/30/33
- Q18 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。
 (B) (B1) 1. ずっと働く …… 39/55/56/58/64
 (B2) 2. 働くのをやめる …… 48/34/34/30/24
- Q19 [カード10] 仕事について、次の2つの意見があります。どちらがあなたの気持ちに近いですか。
 (C) (C1) 1. いくらお金があっても、仕事があれば、人生はつまらない …… 40/51/54/65/73
 (C2) 2. お金があれば、仕事がなくとも、人生がつまらないとは思わない …… 53/43/38/32/20

- Q 20 [カード11] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。
 (D) あなたは、どれが一番関心がありますか。
 (D1) 1. お金のことを気にしないですむ程よい給料… 13/17/17/21/20
 (D2) 2. 倒産や失業の恐れがない仕事 …… 36/40/29/22/15
 (D3) 3. 気の合った人たちと働くこと …… 20/ 7/15/11/29
 (D4) 4. やりとげたいという感じもてる仕事 …… 23/35/37/44/29
- Q 33 小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。
 (F) 「小さいときから、お金は人にとって、最も大切なものの1つだと教えるのがよい」というのです。
 あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。
 (F1) 1. 賛成 …… 26/41/21/17/48
 (F2) 2. 反対 …… 56/53/74/78/19
 (F3) 3. いちがいいにはいえない …… 15/ 3/ 4/ 4/31
- Q 54 [カード31] 次のような意見がいくつかあります。ご自分の立場や個人的な感情を考えて、「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」のいずれかで答えて下さい。
 d. 収入を得るための手段の方が、得られる収入よりも大切である。
 (H) (H1) 1. 賛成 …… 31/37/30/41/19
 (H2) 2. やや賛成 …… 41/40/45/35/32
 (H3) 3. やや反対 …… 18/12/14/13/21
 (H4) 4. 反対 …… 6/ 8/ 7/ 9/11
- Q 8 [カード3] わが国の向こう10年から15年間の国家目標をどう設定したらよいかについて、最近盛んに議論されています。ここにいろいろな人が最も重視する目標がいくつかあげてあります。あなたはこれらの中で何が最も重要だと思いますか。(○は1つ)
 (I1) 1. 国家の秩序を維持すること …… 38/36/40/29/21
 (I2) 2. 重要な政策を決める時、人々にもっと発言させること …… 30/15/31/33/27
 (I3) 3. 物価の上昇をくいとめること …… 9/22/14/23/35
 (I4) 4. 言論の自由を守ること …… 19/22/11/11/ 8

Ⅷ. イソップ物語と関連する社会的態度

- Q 4 これから先、ひとびとは幸福になると思いますか、不幸になると思いますか。
 (A) (A1) 1. 幸福に …… 13/16/18/29/22
 (A2) 2. 不幸に …… 34/55/51/37/12
 (A3) 3. 変わらない …… 43/19/21/25/48
- Q 5 これから先、心のやすらかさは、ますといますか、へるといますか。
 (B) (B1) 1. ます …… 11/15/17/31/17
 (B2) 2. へる …… 47/57/59/47/37
 (B3) 3. 変わらない …… 33/17/16/16/36

Q 9 [カード4] ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがあります。あなたは、次のような危険について不安を感じることがありますか。

	非常に 感じる	かなり 感じる	少しは 感じる	全く 感じない
a. 「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。 ……	(1 39/75/49/66/47	2) 66/47	(3 61/25/50/34/52	4) 52
b. 「交通事故」についてはどうでしょうか。 ……	(1 22/71/40/51/57	2) 51/57	(3 76/29/60/49/42	4) 42
(C) c. 「失業」についてはどうでしょうか。 ……	(C2) (1 29/74/45/42/23	2) 42/23	(C3) (3 68/25/54/57/72	4) 72
d. 「戦争」についてはどうでしょうか。 ……	(1 40/48/40/47/25	2) 47/25	(3 59/52/59/52/69	4) 69
e. 「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか。 ……	(1 59/42/53/50/44	2) 50/44	(3 40/55/47/48/50	4) 50

Q 27 [カード16] 次における生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思う程度に従って1～7の評価をつけてください。

	重要でない				重要		
a. 「家族や子供」についてはどうですか。 ……	(1 8/5/3/2/4	2) 3/2/4	3) 2/4	4) 4	(5 87/93/96/98/95	6) 96/98/95	7) 95
b. 「職業や仕事」についてはどうですか。 ……	(1 47/13/38/30/12	2) 38/30/12	3) 30/12	4) 12	(5 51/85/57/65/85	6) 57/65/85	7) 85
c. では、「自由になる時間とくつろぎ」についてはどうですか。 ……	(1 17/26/32/25/22	2) 32/25/22	3) 25/22	4) 22	(5 83/73/66/74/76	6) 66/74/76	7) 76
(D) d. では、「友人、知人」については ……	(D2) (1 15/27/24/17/11	2) 24/17/11	3) 17/11	4) 11	(D6) (5 84/73/76/83/87	6) 76/83/87	7) 87
(E) e. では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については ……	(E2) (1 18/17/16/9/7	2) 16/9/7	3) 9/7	4) 7	(E6) (5 81/83/83/90/91	6) 83/90/91	7) 91
(F) f. では、「宗教」については ……	(F2) (1 61/65/64/24/59	2) 64/24/59	3) 24/59	4) 59	(F6) (5 38/35/36/76/38	6) 36/76/38	7) 38
g. では、「政治」については ……	(1 59/76/74/54/43	2) 74/54/43	3) 54/43	4) 43	(5 40/23/26/46/54	6) 26/46/54	7) 54

- Q48 あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、
 (G) 「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」
 と社長のあなたに報告しました。あなたはどちらをとれ(採用しろ)といますか。
 (G1) 1. 1番の人を採用するようという …… 45/59/73/66/60
 (G2) 2. 親戚を採用するようという …… 40/35/21/30/23
- Q49 それでは、この場合2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたの昔世話になった人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか？(どちらをとれといますか)
 (H) (H1) 1. 1番の人を採用するようという …… 36/50/69/65/41
 (H2) 2. 昔世話になった人の子供を採用するようという …… 47/43/24/30/42
- Q22 [カード12] 人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、つぎにあげるもののうちで、どれが一番、あなた自身の気持ちに近いものですか。
 (I) (I1) 1. 一生けんめい働き、金持ちになること …… 3/ 8/ 7/ 6/14
 (I2) 2. まじめに勉強して、名をあげること …… 16/ 6/ 4/ 7/ 2
 (I3) 3. 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をすること …… 32/37/38/33/37
 (I4) 4. その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと …… 22/29/42/37/32
 (I5) 5. 世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しくくらすこと …… 16/ 9/ 5/11/ 6
 6. 自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと …… 2/ 4/ 2/ 3/ 3
- Q47 [カード27] 物事を決定する時に「一定の原則に従うこと」に重点をおく人と、他人との調和をはかることに重点をおく人では、どちらがあなたの好きな“ひとがら”ですか。
 (K) (Kx) 1. 物事を決定するときに一定の原則に従うことに重点をおく人 …… 28/29/44/48/20
 (Ko) 2. 物事を決定するときに他人との調和をはかることに重点をおく人 …… 62/66/52/47/68
- Q46 [カード26] つぎのうち、あなたはどちらが人間として望ましいとお考えですか。
 (L) (Lo) 1. 他人と仲がよく、なにかと頼りになるが、仕事はあまりできない人 …… 78/63/85/79/62
 (Lx) 2. 仕事はよくできるが、他人の事情や心配事には無関心な人 …… 13/31/11/15/11
- Q28 [カード17] あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。
 (O) (O2) 1. 満足 …… 30/41/50/43/44
 2. やや満足 …… 51/27/39/38/39
 (O3) 3. どちらともいえない …… 13/17/ 6/11/10
 4. やや不満 …… 3/ 8/ 2/ 6/ 5
 (O4) 5. 不満 …… 0/ 7/ 1/ 1/ 1

- Q 29 [カード17] あなたの生活についておききします。ひとくちについてあなたは今の生活に満足していますか、それとも不満がありますか。
- (P) 1. 満足 …… 17/21/31/31/33
 (P 2) 2. やや満足 …… 59/31/55/49/41
 (P 3) 3. どちらともいえない …… 17/32/ 8/12/13
 (P 4) 4. やや不満 …… 4/10/ 5/ 7/10
 5. 不満 …… 1/ 6/ 2/ 1/ 3
- Q 30 いまの社会で成功している人を見て、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンスのどちらが大きな役割をはたしていると思いますか。
- (Q) (Q1) 1. 個人の才能や努力 …… 57/64/56/70/53
 (Q2) 2. 運やチャンス …… 28/21/32/23/35
- Q 33 小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。
- (R) 「小さいときから、お金は人にとって、最も大切なものの1つだと教えるのがよい」というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。
- (R1) 1. 賛成 …… 26/41/21/17/48
 (R2) 2. 反対 …… 56/53/74/78/19
 (R3) 3. いちがいにはいえない …… 15/ 3/ 4/ 4/31
- Q 25 [カード15] イソップの童話の中に、怠け者のキリギリスと、働き者のアリの話があります。夏の間歌をうたっていたキリギリスが、冬になって、食べる物がなくなり困ってしまい、夏の間働いていたアリのところにやって来ました。この時のアリの答えには、次のような2つの型があります。
- あなたは、このお話のむすびとして、この中のどちらがご自分の気持ちにじっくりしますか。
- (S1) 1. 夏の間怠けていたのだから、困るのが当然だと追い返してしまう …… 13/14/13/12/15
 (S2) 2. 怠けていたのはいけないけれども、これからはちゃんと働くのですよ、といさめた上で、食べ物を見せてあげる …… 78/79/83/85/75
- Q 17 [カード9] あなたは次のうちどちらが好ましいと思いますか。
- (U) (U1) 1. 収入が増えること …… 44/67/66/65/61
 (U2) 2. 余暇(自由な時間)が増えること …… 41/25/27/30/33
- Q 18 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。
- (V) (V1) 1. ずっと働く …… 39/55/56/58/64
 (V2) 2. 働くのをやめる …… 48/34/34/30/24
- Q 20 [カード11] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。
- (W) あなたは、どれが一番関心がありますか。
- (W1) 1. お金のことを気にしないですむ程よい給料… 13/17/17/21/20
 (W2) 2. 倒産や失業の恐れがない仕事 …… 36/40/29/22/15
 (W3) 3. 気の合った人たちと働くこと …… 20/ 7/15/11/29
 (W4) 4. やりとげたいという感じもてる仕事 …… 23/35/37/44/29

- Q 62 宗教についておききたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。
(X)
- (X1) 1. もっている、信じている …… 75/64/64/85/37
(X2) 2. もっていない、信じていない、関心がない… 22/35/34/14/64
- Q 63 それでは、いままでの宗教にはかかわりなく、「宗教的な心」というものを、大切だと思いますか、それとも大切だとは思いませんか。
(Y)
- (Y1) 1. 大切 …… 58/63/59/87/76
(Y2) 2. 大切でない …… 34/33/36/10/11
- Q 31 [カード18] 次の二つの意見のうち、どちらがあなたの意見に近いですか。
(Z)
- 甲：収入が不十分な世帯を国が経済的に面倒をみることは、その世帯に生活の道を与えることになる
乙：収入が不十分な世帯を国が経済的に面倒をみることは、その世帯から責任感を全く奪うことになる
- (Z1) 1. 甲の意見 …… 58/50/59/47/53
(Z2) 2. 乙の意見 …… 26/35/29/42/27
- Q 51 たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。
(L)
- (L1) 1. 他人の役にたとうとして …… 43/19/53/54/31
(L2) 2. 自分のことだけ考えている …… 48/77/43/44/54
- Q 52 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。
(M)
- (M1) 1. 他人は機会があれば利用しようとしていると思う …… 30/58/38/40/32
(M2) 2. そんなことはないと思う …… 55/36/58/56/53
- Q 53 たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。
(N)
- (N1) 1. 信頼できると思う …… 38/23/36/42/39
(N2) 2. 常に用心した方がよい …… 47/74/60/55/46
- Q 54 [カード31] 次のような意見がいくつかあります。ご自分の立場や個人的な感情を考えて、「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」のいずれかで答えて下さい。
a. まず、「たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる」というのですが、あなたのお考えに近いのはどれですか。
(以下同様に b～e を聞く)
- (A) a. たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる。
- (Ao) 1. 賛成 …… 47/73/81/75/89
2. やや賛成
(Ax) 3. やや反対 …… 49/27/19/24/ 6
4. 反対
- (B) b. 結びつきが強い地域社会に自分が属していると思う
- (Bo) 1. 賛成 …… 68/48/55/67/71
2. やや賛成
(Bx) 3. やや反対 …… 29/48/43/31/18
4. 反対

- (C) c. 今日、人は明日のことを心配しないでその日その日を生きざるを得ない
- (Co) 1. 賛成 39/25/72/55/43
 2. やや賛成
- (Cx) 3. やや反対 59/73/28/44/47
 4. 反対
- (D) d. 収入を得るための手段の方が、得られる収入よりも大切である。
- (Do) 1. 賛成 72/77/76/76/51
 2. やや賛成
- (Dx) 3. やや反対 24/20/21/23/32
 4. 反対
- (E) e. 現代は、自分も含めて、人々は孤独で他人から切り離されていると感じることが多い。
- (Eo) 1. 賛成 31/40/32/35/39
 2. やや賛成
- (Ex) 3. やや反対 66/59/67/64/50
 4. 反対
- Q50 ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長
- (F) に使われる方がよいと思いますか。どちらか1つあげてください。
- (Fx) 1. 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことでは人のめんどろを見ません。 23/31/40/45/ 9
- (Fo) 2. 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもあります。仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見ます。 69/64/57/51/80

注) 括弧付きのルファベットの記号がついていない質問は分析に用いていないが、質問の構成上の位置を知ることができるよう共にあげておいた。

〔Ⅱ〕 社会的態度と国民の意識（国民性）

§ 1 政治意識と国民意識（国民性）の国際比較

---政治的態度の構造---

本調査には多くの政治的態度項目が含まれている。厳密には「政治的」といえないまでも、多少とも政治的含意をもつ項目は多数に上る。そのすべてについての分析は次の段階とし、まず、代表的な変数をいくつか選んで、国際比較を試みたい。ここで取り扱う項目は以下の通りである。

- 1) Q 27-#5.81G 生活領域の重要性—政治、公的生活
- 2) Q 66-#8.82 政治関心
- 3) Q 34-#8.1B 政治家にまかせるか
- 4) Q 68-#8.83 民主主義に満足か
- 5) Q 69-#8.84 裁判制度は機能しているか
- 6) Q 74-#8.86 政党支持（強度）
- 7) Q 67-#8.2H 「社会主義」はよいか
- 8) Q 70-#7.87 労働者階級と資本家階級
- 9) Q 72-#8.85 社会の根本改革は必要か
- 10) Q 73-#8.7 政党支持
- 11) Q 75-#8.87 主要政党への好嫌度
- 12) Q 65-#8.81 保守か革新か

これらの政治的態度は、政治学的ジャーゴンによると、政治的関与と党派的態度の二群に大別される。上記の 1) から 6) まだが前者に属し、7) 以降が後者である。党派的態度はいうまでもなく、保守—革新、左—右、〇〇政党支持という党派・イデオロギーの方向性をもった態度群である。これに対し「政治的関与」は党派性とは一応独立の、政治に対する心理的関与をいう。この区分は厳格には可能ではなく、政治不満のような項目、ここでは 4) と 5) は政治関与にいれているが、与党支持者か、野党支持者かで不満度が異なるから、党派的影響を受けている。このような項目は両群で分析されることになる。

分析を容易にするため、この二分類に従って二群別に分析を進める。

§ 1.1 政治的関与の国別分布

単純分布の国際比較は往々にして適当でないとされている。言語、状況の違いが大きいからである。そこで国際比較では単純分布の比較を放棄し、変数間の関連パターンの比較に限るのが普通である。しかし、単純分布の大小はそれが真であれば比較すべき第一の情報であり、その情報を無視することは重要な情報を棄てることになる。とくに本稿はデータ分析の最初の報告であるから、単純分布の比較から始める必要がある。

図1が、1) Q 27-#5.81G 生活領域の重要性—政治、公的生活 の分布図である。重要性の度合は、高い方から、日本、アメリカ、ドイツ、イギリス、フランスである。この中で、日本とアメリカが「重要」の側で山が高くなり、フランスとイギリスが「重要でない」側で山が高い逆のパターンで、対照的である。ドイツはこの中間で、五カ国のカーブの中で最もベル型に近い。

図2が、2) Q 66-#8.82 政治関心 の五カ国データの比較である。一目でフランスが特殊であることがわかる。他の四カ国は「まあ関心がある」の頻度がとくに高い、三角形の分布になっているが、アメリカが最も高く、その他の三カ国、日本、イギリス、ドイツの間の差はほとんどないようである。

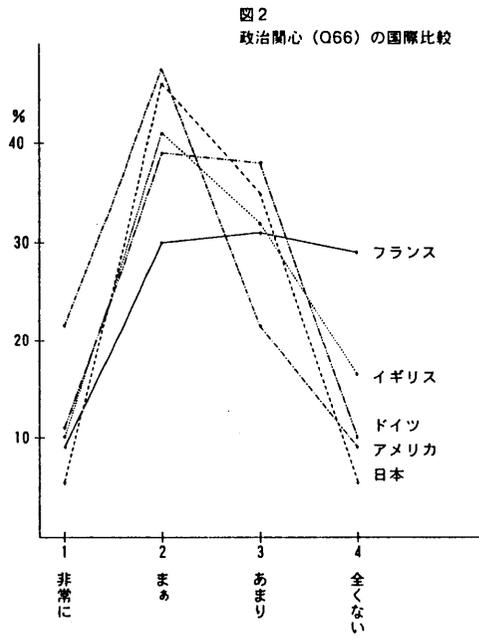
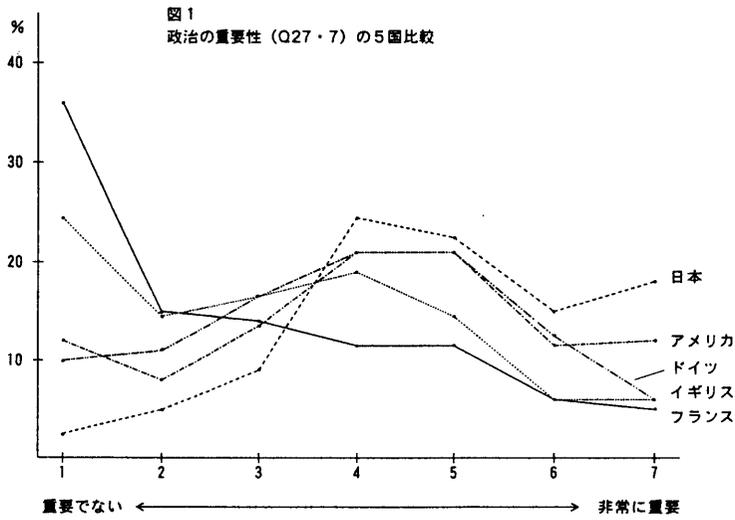
政党支持の有無とその強度 (6) Q 74-#8.86 政党支持 (強度) は、国によってわずかに質問文が異なるので、比較はより多くの注意を必要とするように見えるものの、政党支持では質問文の小さい相違は大きな影響力をもたらさないとされている。だが、ドイツの質問は他と全く異なるので比較不可能である。ドイツではまず、「あなたの考えに近い政党があるか」と聞き、「ある」と答えた人のみに対して「それは何党か」と尋ねている。この形式の質問は日本でも行なわれたことがあり、政党支持率を大きく下げることが明かである。図3で、ドイツの「支持政党なし」が他の国より異常に大きいのはこの質問形式の故であろう。政党支持でも、アメリカとドイツは両極であるが、日本とイギリスの地位が、政治関心とは逆になっているのが異なる。ここではイギリスはアメリカに近く、「支持なし」が少なく、強い支持が全サンプルの半数に達する。「民主政治の運営に満足」しているかどうかというような政治満足度は、関心とは異なる。それは図4における日本の位置に現われている。アメリカ、次いでイギリスで満足がかなり多く、フランスで少ないのは、関心度と同様だが、関心度で比較的高かった日本では「非常に満足」が2%ときわめて少なく、「かなり満足」と合わせても三分の一に達しない。「裁判制度の機能」については、国別に裁判制度の違いがあって単純分布を示すだけでは意味が薄く、ここでの説明は省略する。

「政治家にまかせるか」は、「まかせる」と答えるのが「伝統的・前近代的」で、「まかせない」と答えるのが「民主的・近代的」な模範回答だということになっているが、ここでもフランスが特徴である。日本はイギリス並みだが、「一概に言えない」という回答が比較的多いので、「まかせない」の率はイギリスの80%に対し62%であった。

通観すると、すべての項目でアメリカとフランスが両極にあって対象的である。日本は政治関心度では高いが、政治満足度と政治支持強度で低い。これはこれ迄知られてきたことである。ドイツ(支持強度は除外する)とイギリスはすべてにおいて中間にある。

§ 1.2 政治関与の構造

次に、政治関与6項目間の構造を見よう。一般に、この6項目間には相関があって、関心が高ければ、支持度は強く、満足度も高く、「政治家にまかせない」という回答もより多くなる。だが、「政治満足度は政治の現状(スキャンダルの暴露など)や与党支持か野



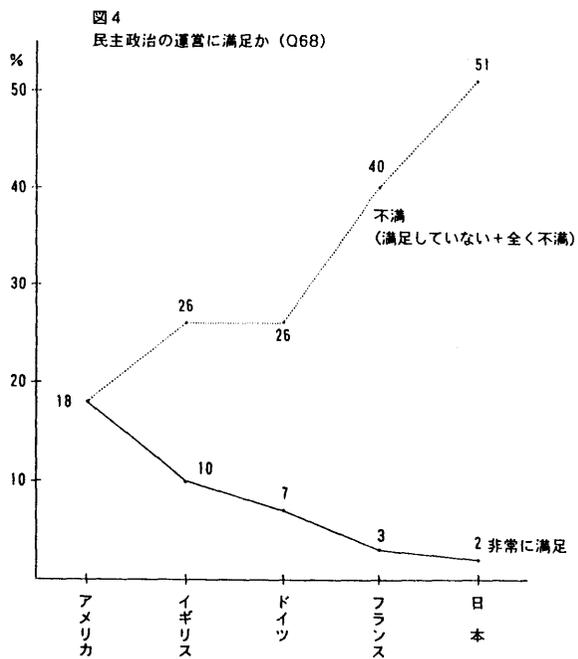
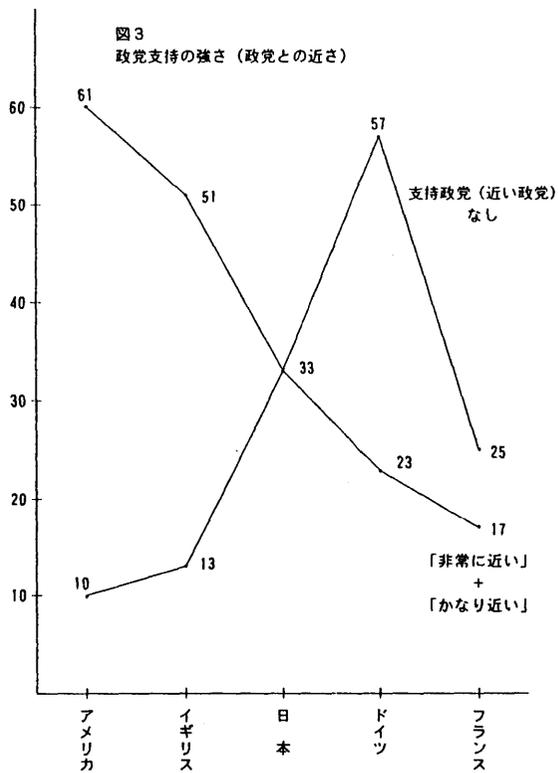
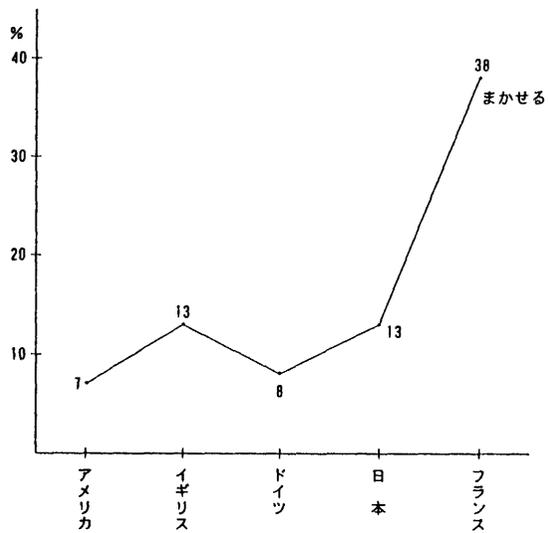


図5
政治家にまかせるか (Q34)



党支持かによって異なるところが大きいから、政治関心度とは部分的に独立しているのではないかと考えられる。国別に6項目の数量化Ⅲ類分析を行なったところ、フランスと他の四ヶ国とは違ったパターンが見られた。最も一般的ですっきりしたパターンの例としてのドイツと、特殊例のフランスの分析結果を図示する。国には「政治関心(Q66)」「政党支持強度(Q74)」「政治満足(Q68)」「政治家にまかせるか(Q34)」だけをプロットし、他は省略した。

図6の横軸(第Ⅰ次元)は高-低、強-弱を代表する次元であるのは言うまでもない。縦軸(ドイツは第Ⅱ次元、他の国は第Ⅲ次元)は政治満足(民主主義の運営)不満足を弁別しているが、それだけでなく、政治満足と高い政治関心(および強い政党支持)を分けている。つまり、第一次元では両者は結びつくが、第二次元では両者は離反し、高い政治関心(および強い政党支持)はむしろ政治不満と近い。「政治家にまかせるか」はまた別の次元のようである(これについては省略)。日本はこのドイツのパターンに近いが、イギリスは少し異なる。イギリスでは、政治満足度の他項目からの独立性が強い。アメリカはドイツ型とイギリス型の中間である。

ドイツ、日本、アメリカ、イギリス四国のパターンに多少の違いは見られ、さらに詳しく分析を必要とするが、次の第7図のフランスのパターンは、はっきりと異なるものである。フランスでも横軸は高-低、強-弱の次元であるが、縦軸の政治満足度の分化は不明確である。さらに、高い政治関心と政治満足との結びつきはなお強く残っている。

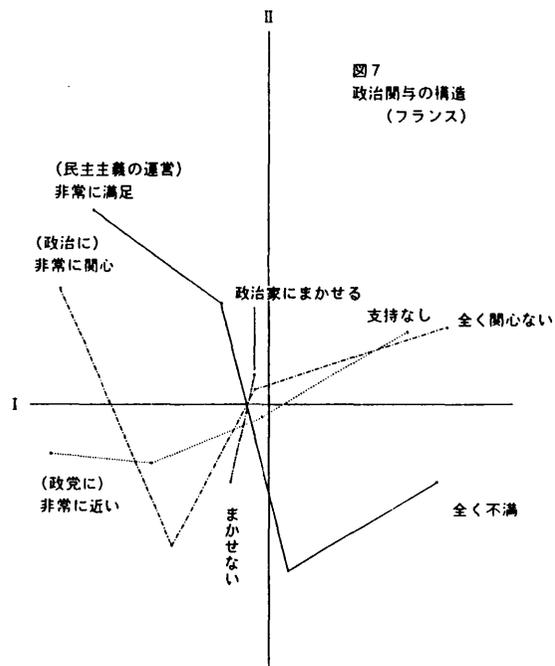
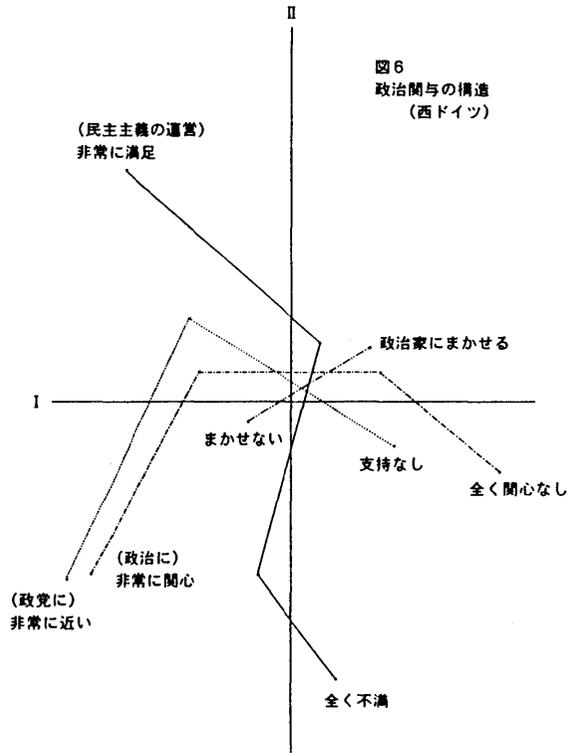
§ 1.3 党派性の国別分布

まず、政党支持分布から始める。図8は五カ国の政党支持分布である。支持なし、NA、DKを除いてパーセントを計算したが、これはドイツのように質問の構成上支持なしが異常に多くなった国があるからである。イギリスとドイツは左右の二大政党支持者が多く、均整のとれた分布である。ドイツのその他にはNPDとDKPの両極政党が含まれているが、ともに1%以下である。イギリスの「その他」はSPP、Alliance、民族政党、環境政党などで中間政党か左-右の次元にはなじまない政党である。アメリカの政党対立次元は、左-右ではなく、保守-リベラルと呼ばれている。日本は保守党が圧倒的に強い一党優位の分布であるのに対し、フランスでは逆に左翼が大きく、右派は比較的小さい。五国の中で左翼政党が与党であるのはフランスだけである。

この政党支持分布から、その他の党派的項目でも、日本とアメリカが保守的、フランスが革新的、イギリス、ドイツはその中間と一応推定できる。「社会主義はよいか」では、図9のように、「よい」が「よくない」を上回るのはフランスだけである。日本のパターンが特殊なのは、「一概に言えない」という回答が54%もあったからで、「よくない」と「よい」の比率でいうと、アメリカとドイツの中間あたりになる。

政治意識論で保革自己イメージと呼ばれる10点尺度の「革新か保守か」の分布は、図10の通りである。フランスは左が高く、右が低い。イギリスは逆に右が高く、左が低い分布である。ドイツは左右の均衡のとれたベル型に最も近い。図を別にしたが、アメリカと日本は右側が高いイギリス型の分布である。

「社会の根本改革は必要か」でも、「必要」が「必要なし」を上回るのはフランスだけ



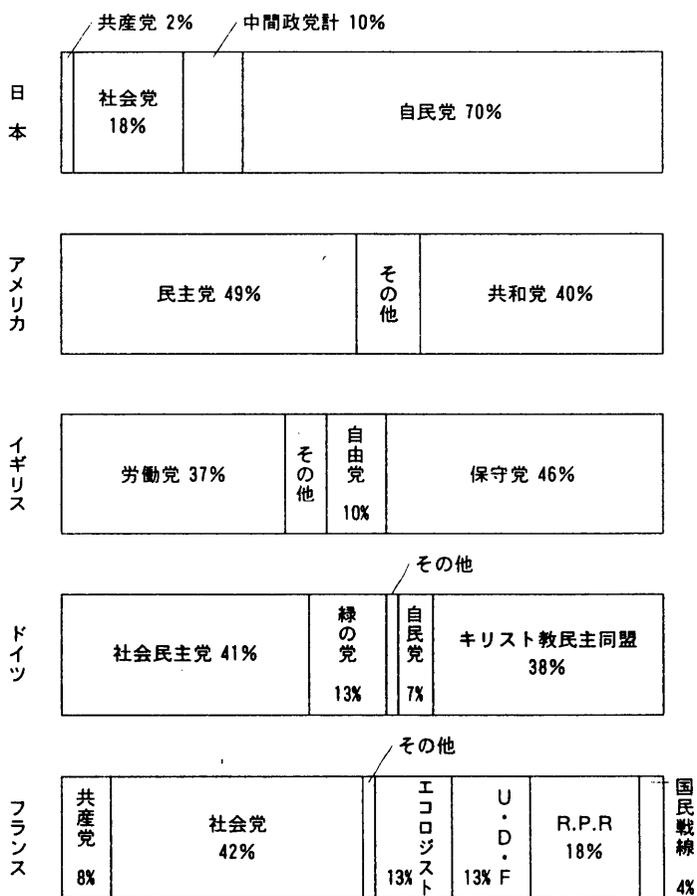
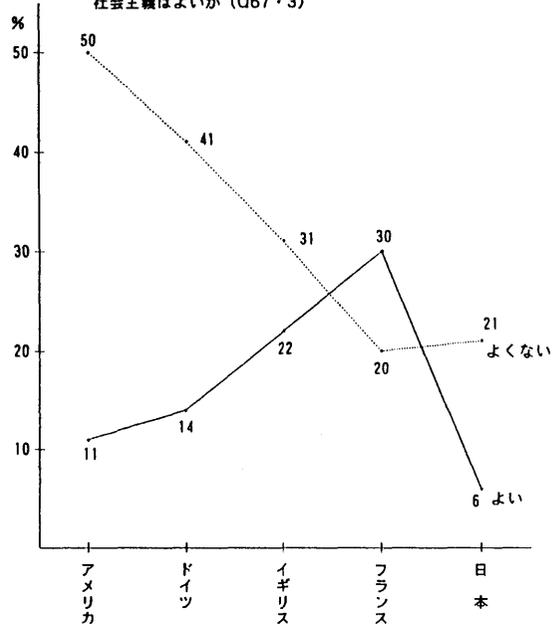
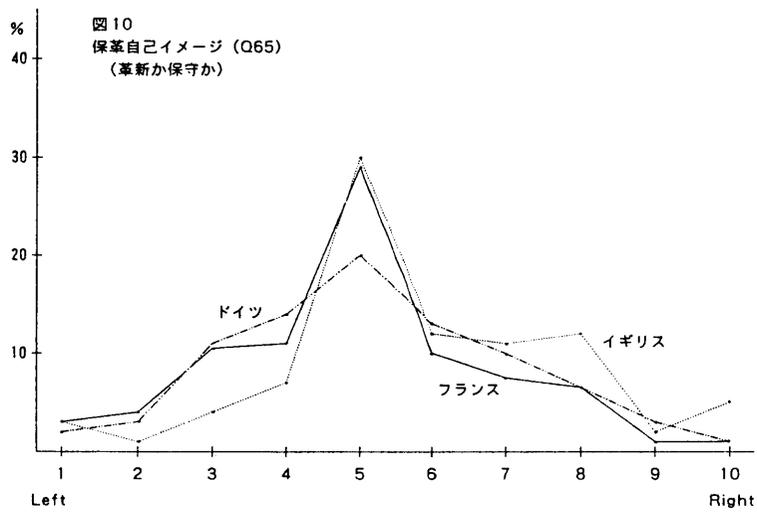


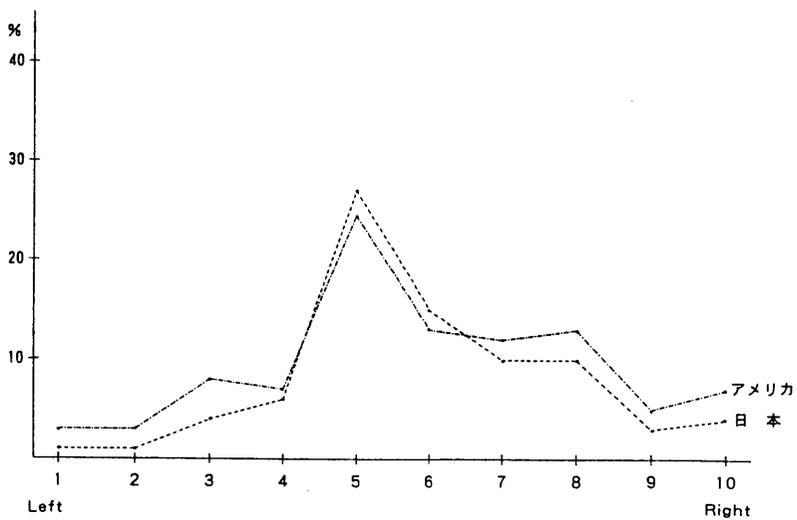
図8 政党支持分布（支持なし、DKを除く）

図9
社会主義はよいか (Q67・3)





(A) ヨーロッパ三国



(B) アメリカと日本

である。図11は「必要なし」の数字のみ揚げたが（「必要」のパーセント値を見るには「急激な改革」と「漸進的改革」を足すとよい）、フランスでの「必要」のパーセントは58%である。この間に続けて「必要」と回答した人に対し、その改革は漸進的であるべきか、急激にやるべきかを尋ねている。フランスでも「急激」という回答は少ない。日本はわずか1%にすぎない。

§ 1.4 党派性の構造

本調査では、政党支持の構造を比較するために、主要な政党のそれぞれについて好き嫌いの度合を聞いている（主要政党への好嫌度、Q75-#8.87）。これは、いわゆる感情温度計という方式の質問による。文言は次の通り。「政党についてお伺いします。もし好意も反感も持たない時には50度として下さい。もし好意的な気持ちがあれば、その強さに応じて50度から100度のどこかを指して下さい。また、もし好意を感じていなければ、やはりその強さに応じて0度から50度のどこかを指して下さい。」

1) 対立する主要二大政党（主要与党と野党中最大の党）への好嫌度間の相関およびこれらの好嫌度と保革自己イメージ間の相関、2) 支持政党別の好嫌度尺度平均値の比較、の両面から叙述してゆく。

1) 最初は相関係数である。表1を見られたい。与野党第一党間の相関は、一つの政党に好意を抱くともう一つの政党には好意をもたないことが多いから、当然マイナスの相関となる。相関はイギリス、アメリカで高く、フランス、ドイツでこれに次ぎ、日本はとくに低い。日本は自民党と社会党の相関で、社会党は中間政党と見なされているからであって、自民党と共産党の相関をとると相関は上がるかも知れない。だがその値は-0.20でやはりどの国よりも低い。

与党好嫌度と保革自己イメージとの相関係数は、アメリカを例外としていずれも高い。日本の場合も0.53である。アメリカの政党はイデオロギー政党といえないのであろう。野党好嫌度と自己イメージ間の相関はフランスを除きやや低い。フランス野党は保守党であるから、保守党対革新政党の比較とすると、保守党との相関係数が比較的高い。保革の自己認知は保守党との対置で決まるのであろうか。以上から、日本は政党感情は対立がゆるやかであること、アメリカは対立感はきびしいが、それが保守（保守-リベラル）自己イメージと結びついていないことがわかる。

2) 与野党好嫌度の与野党支持集団別比較

どの国でもまた与野党のいずれに拘らず、自分の支持政党に対しては70点かそれ以上の高い好嫌度（平均値）を示しており、逆に対立政党に対しては49点以下の「嫌い」に属する反応をしている。しかし、それにも国別に若干の違いが見られる。日本での反対政党に対する評価はそれほど厳しくはない。自分の支持政党への評価と対立政党への評価の差は日本では30ポイントほどであるが、その他の国では40ポイント以上存在する。

党派性の性格から見て、日本とアメリカは他の三国と異なることがわかった。日本は党派間の対立のゆるい、軟らかい支持構造をもっている。アメリカはこの面ではヨーロッパ三国と同じだが、党派性とイデオロギー（保革自己イメージ）の間に相関のない非イデオロギー的な党派性である。

図11
社会の根本改革 (Q72a,b)

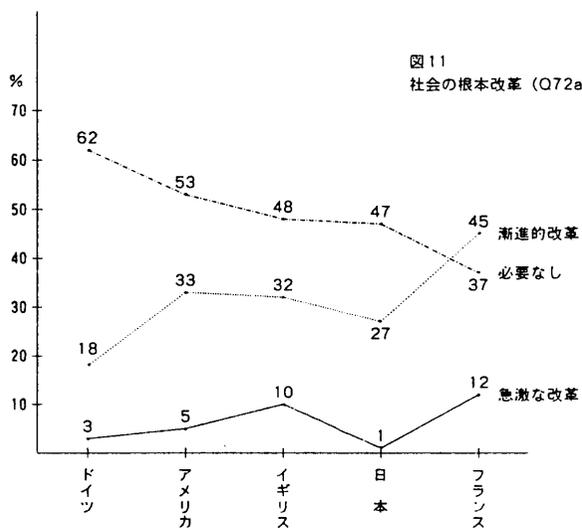


表1 政党性項目間の相関係数

	二大政党好嫌度 相互間	与党好嫌度と 保革自己イメージ	野党好嫌度と 保革自己イメージ
日本	-0.09	0.53	-0.23
アメリカ	-0.51	0.19	-0.14
ドイツ	-0.35	0.63	-0.39
イギリス	-0.58	0.60	-0.41
フランス	-0.39	-0.51	0.57

表2 与野党好嫌度の与野党別比較（政党支持者別好嫌度尺度平均値）

	与野党第一党	与党への好嫌度	野党への好嫌度
日本	自民党支持者	72 (962)	39 (960)
	社会党支持者	42 (250)	70 (250)
	平均値の差	30	-31
アメリカ	共和党	75 (507)	34 (517)
	民主党	32 (616)	74 (602)
	平均値の差	43	-40
イギリス	保守党	76 (309)	27 (248)
	労働党	29 (172)	70 (250)
	平均値の差	47	-43
ドイツ	C P U	80 (153)	32 (146)
	S P D	25 (157)	81 (162)
	平均値の差	55	-49
フランス	社会党支持者	72(298)	28(225)
	R P R支持者	29(112)	74(130)
	平均値の差	43	-46

注) 括弧内はケース数

§ 2 宗教意識と国民意識（国民性）の国際比較

各国の宗教意識と国民意識の関連を調べ、かつ5ヶ国の比較を行うためにMultivariate Descriptive Statistical Analysisの分析方法とSPADというプログラムを使用する。

宗教と関連の強い質問項目について国別に関連の強いものから10項目ずつだけ述べる。

日本の場合

宗教をもっている者について

1) 先祖を尊ぶこと 2) 養子に家をつがせる 3) 「宗教にはいろいろあり、それぞれ独自の教えを説いているがそうした教えは結局は同じものだ」に賛成 4) 離婚はすべきでない 5) 結びつきが高い地域社会に自分は属している 6) 病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうがよいものもある 7) 望ましい子供の人数は2人 8) 家庭はこちよく、くつろげるただ1つの場所であると思う 9) 社会での成功は個人の才能や努力 10) 個人が幸福になって、はじめて国全体がよくなる

無宗教の者について

1) 先祖を普通に尊ぶか普通より尊ばない方 2) 養子に家をつがせる必要はない 3) 望ましい子供の人数は1人 4) 自宅付近の環境や住みやすさにあまり満足していない 5) ここ1ヶ月の間に背中のはなはなかつた 6) 家庭はこちよくくつろげる、ただ1つの場所であるとは思わない 7) 5年間に宇宙ステーションでの生活は充分実現すると思う 8) 「重い病気」の不安を少しは感じる 9) 「失業」の不安を少しは感じる 10) 人のくらし方について「金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をすること」

西ドイツの場合

宗教をもっている者について

1) 自分の家庭に満足 2) 会社がもうかれれば労働者の賃金も上がるというように、労働者と経営者の利害は結局において一致するのだから労働者と経営者は協力しなければならない 3) 親孝行、親に対する愛情と尊敬が大切 4) 家庭はこちよく、くつろげるただ1つの場所であると思う 5) 最も重視する国の目標は国家の秩序を維持すること 6) 先祖を普通に尊ぶ 7) ひどい場合は離婚してもよい 8) 社会での成功は個人の才能や努力 9) 離婚はすべきではない 10) 「失業」の不安は全く感じない

無宗教の者について

1) 家庭はこちよく、くつろげる、ただ1つの場所であるとは思わない 2) 先祖を普通より尊ばない方 3) 労働者と経営者の利害は全く反しているから、労働者と経営者はあくまで戦わなければならない 4) 個人の権利を尊重すること 5) 二人の合意さえあ

れば、いつ離婚してもよい 6) 「失業」の不安をかなり感じる 7) 収入より余暇（自由な時間）が増えること 8) これから先人間の自由はへる 9) 一生楽に生活できるお金がたまったら働くのをやめる 10) 同じ年の人と比べ健康状態にまあまあ満足している

フランスの場合

宗教をもっている者について

1) ひどい場合には、離婚してもよい 2) 家庭はこちよく、くつろげるただ1つの場所である 3) 親孝行・親に対する愛情と尊敬が大切 4) 先祖を普通より尊ぶ方 5) 家事や子供の世話のいくつかは女性の仕事である 6) 最も重視する国家目標は国家の秩序を維持すること 7) 「収入を得るための手数の方が、得られる収入の額よりも大切である」ことにやや賛成 8) 離婚はすべきではない 9) 望ましい子供の数は2人 10) 車の費用を節約しない

無宗教の者について

1) 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい 2) 先祖を普通より尊ばない方 3) 家庭はこちよく、くつろげるただ1つの場所であるとは思わない 4) 個人の権利を尊重する 5) 家事や子供の世話についてのすべての仕事は男性、女性の区別なくやるべきだ 6) タバコ・酒を節約する 7) 結びつきが強い地域社会に自分が属しているとは思わない 8) 「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るがそれにつれて人間らしさがなくなって行く」かはいちがいにいえない 9) 「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりはその人達にまかせの方がよい」に反対 10) 車の費用の節約

イギリスの場合

宗教をもっている者

1) 人のくらし方は世の中正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと 2) 離婚はすべきではない 3) 望ましい子供の数は3人 4) 親孝行・親に対する愛情と尊敬は大切 5) 先祖を普通より尊ぶ方 6) 自宅の付近の環境や住みやすさに満足している 7) 生活水準はこの10年間で変わらない 8) 最も重視する国家目標は国家の秩序を維持すること 9) エネルギーの節約は非常に重要である 10) 環境の保護は非常に重要である

無宗教の者について

1) 「宗教的な心」は大切でない 2) 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい 3) 今日、人は明日のことを心配しないでその日その日を生きざるを得ない 4) 先祖を普通よりは尊ばない方 5) 「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくなって行く」とはいちがいにいえない 6) 結び

つきが強い地域社会に自分が属しているとは思わない 7) 自宅の付近の環境や住みやすさについてあまり満足していない 8) たいていの人には常に用心していた方がよい 9) 望ましい子供の数は1人 10) 家庭はこちよく、くつろげるただ1つの場所であるとは思わない

アメリカの場合

宗教をもっている者について

1) 「宗教的心」は大切 2) 親孝行・親に対する愛情と尊敬は大切 3) 人のくらし方は世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくらすこと 4) 離婚はすべきでない 5) 結びつきが強い地域社会に自分は属していると思う 6) 「宗教にはいろいろあり、それぞれ独自の教えを説いているが、そうした教えはけっきょくは同じものだ」に反対 7) 「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりはその人たちにまかせる方がよい」に反対 8) 自分の家庭に満足 9) 同じ年の人と比べて健康状態に非常に満足 10) 他人は機会があれば自分を利用しているとは思わない

無宗教の者について

1) 「宗教的心」は大切ではない 2) 結びつきが強い地域社会に自分は属しているとは思わない 3) 自宅の付近の環境や住みやすさについてやや満足 4) 今後25年間に原子力廃棄物の安全な処理方法は実現しない 5) 国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりはその人たちにまかせる方がよい」に賛成 6) 二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい 7) 「宗教にはいろいろあり、それぞれ独自の教えを説いているが、そうした教えは、けっきょく同じものだ」に賛成 8) 他人は機会があれば自分を利用していると思う 9) 個人の権利を尊重すること 10) 環境保護は自分にとってあまり重要ではない

以上各国の宗教をもっている者と無宗教の者にとって重要な項目について述べたが、それでは各国にとって宗教は他の項目と比べてどれ程重要かを問27の生活領域に焦点をあてて、SPADを使い分析した。その結果は以下のとおりである。国別に述べる。

日本の場合

- 1) 職業や仕事
- 2) 政治
- 3) 友人・知人
- 4) 両親・兄弟・姉妹・親戚
- 5) 自由になる時間とくつろぎ
- 6) 宗教

西ドイツの場合

- 1) 自由になる時間とくつろぎ
- 2) 宗教
- 3) 両親・兄弟・姉妹・親戚
- 4) 家族や子供
- 5) 職業や仕事

フランスの場合

- 1) 職業や仕事
- 2) 家族や子供
- 3) 両親・兄弟・姉妹・親戚
- 4) 友人・知人
- 5) 宗教
- 6) 政治

イギリスの場合

- 1) 家族や子供
- 2) 両親・兄弟・姉妹・親戚
- 3) 友人・知人
- 4) 宗教
- 5) 自由になる時間とくつろぎ
- 6) 政治
- 7) 職業や仕事

アメリカの場合

- 1) 宗教
- 2) 家族や子供
- 3) 両親・兄弟・姉妹・親戚

- 4) 政治
- 5) 職業や仕事

各国を比較してみるとアメリカと西ドイツにおいては宗教が生活領域で重要とされているが、日本、フランスにおいては重要とは思われていないことがわかる。

次に5ヶ国をあわせて宗教をもつ者と無宗教の者の間で同じ質問（問27）についてSPADを使って分析してみると以下の通りである。

宗教をもっている者

- 1) 宗教
- 2) 家族や子供
- 3) 両親・兄弟・姉妹・親戚
- 4) 自由な時間とくつろぎ
- 5) 職業や仕事

無宗教の者

- 1) 職業や仕事
- 2) 自由な時間とくつろぎ
- 3) 両親・兄弟・姉妹・親戚
- 4) 家族や仕事
- 5) 宗教

この結果をみると重要度の順位が宗教をもっている者と無宗教の間で逆転していることがわかった。

[Ⅲ] 属性別態度の国際比較

§ 1 年齢の意味の国際比較

それぞれの質問の選択肢への回答の様子が年齢別に異なってくる様子を、各国でどう違うか比較してみた。年齢による回答の差は、大きくは次の4つの型にまとめられよう。すなわち、1. 年齢が高いほど回答が多い、2. 年齢が高いほど回答が少ない、3. 年齢が低いところと高いところで回答が多く中間の年齢で少ない(U字型)、4. 年齢が高いところと低いところで回答が少なく中間の年齢が多い(逆U字型)である。1. と2. は回答が2者選択ならば、どちらかがどちらかの型を示すことになるから、一方の選択肢について考えればよい。3. と4. についても同様である。このほか、5. W字型、M字型ともいふべきもので、10歳毎に上下するもの、6. 差のないものがある。

差の内容は、各個人が生活してきた時代によるもの、加齢によるもの、その両方によるものがあり、また、各国の違いは、古くからの習慣に根ざすもの、近代的な社会機構に根ざすものを含んでいる。直接にこの内容を知ることは出来ないが、どの国でも同じ年齢差の型ならば、その質問に対する回答はどの国でも年齢に対して同じように回答選択が変化しているのであり、ある国での常識から他の国の回答の様子をみて年齢が予想され得る。年齢の意味が同じとすることができる。一方、異なる型を示す質問では、各国の年齢の意味が異なると考えることができる。特徴がつかめてくることになるだろう。

比較した年齢層別の集計は10歳刻みの層である。ただし、20歳以下は20歳代に包括、60歳以上はひとまとめとし、5つの年齢層で比較している。

まず、各質問の年齢別の回答の様子を質問の内容別に従ってみていく。

経済状態に関する質問では、#7.30B ‘生活水準’でこの10年間で自分の生活水準が‘よくなった’という考え方は、ほとんど年齢と無関係である。‘非常に’と‘やや’に分ければ‘非常に’の方が多少高年齢に多いが、あわせればほとんど同じと言える。#7.30Bの自分の国全体の‘生活水準10年の変化’での‘よくなった’方の回答は、ドイツ、アメリカ、イギリスがよく似ており、年齢に対し中の膨らんだ減少傾向を示す。フランスは40歳代から少ない。日本は年齢にほとんど関係が無い。この‘非常に悪くなった’はフランスのみ高率で50歳代に特に多い。#7.31 ‘今後の生活水準’は‘よくなる’方の回答が年齢と共に減少する。これはどの国でも同様である。ただしイギリスは40歳代までは変わらず50、60歳代が下がるだけである。アメリカの‘やや’の回答もこのパターンである。

生活に対する満足感としては #2.82 ‘生活に満足か’ #2.3F ‘生活環境に満足か’ #2.3C ‘家庭に満足か’があるがどれも高年齢に満足の回答が多い傾向である。特に‘非常に’という回答は高年齢に多い。また #2.3G ‘健康状態に満足か’でも同様である。病気の経験を個々に尋ねた #2.80A-E をみると、‘背中の痛み’ ‘不眠症’が年齢と共に多くなり、‘歯病’もドイツ、フランス、イギリスでは高年齢に多い傾向がある。‘頭痛・偏頭痛’

‘神経の興奮’はそうではない。いくつかの‘不安感’(#2.30)での‘重い病気’は各国まちまちである。‘不安感’として‘交通事故’‘失業’は中間の年齢で不安感の大きい傾向があり、‘戦争’‘原子力施設の事故’に対する不安感は若い年齢で大きい傾向がある。ついでに #5.80 ‘近所の治安’の重要性をみると‘強盗にはいられること’も‘急に襲われて身の危険を感じる’もほとんど‘非常に重要な問題’は少なく、‘問題’とあわせれば、年齢に関係が無い。フランスの‘強盗’のみ‘非常に’が多く、しかも年齢が高いほど多い。

家計の問題として‘家計の節約’を何に対してするか(#7.80)がある。日本以外では、実際にその年齢層で何に消費しているかに対応しているとみることができる。従って、ほとんどが若いほど節約するが多く、‘子供の養育’は30歳代に多い。ところが、日本ではどの項目も30、40歳代に‘節約する’が最も多く、他の国と消費の型あるいは節約の考え方が異なるようである。

経済ばかりでない将来の見通しとして、#7.18e ‘幸福になるか’があるが、‘幸福になる’がアメリカ、イギリス、フランスで年齢と共に減少、日本はわずかに40歳代の低いU字型、ドイツは年齢とほぼ無関係である。#7.18B ‘心の安らかさはますか’の‘ます’もほぼこれと同じ傾向を示す。#7.18 ‘人間の健康の面’が‘よくなる’はアメリカ、イギリス、ドイツは年齢と全く無関係、日本は40歳代が、フランスは60歳以上に少ないがあとは同じである。#7.18C ‘自由はふえるか’の‘ふえる’は日本では50歳代に、アメリカ、イギリス、フランスでは20歳代に多い。日本的な質問で #7.1 ‘人間らしさはへるか’をみると‘へらない’がアメリカ、フランス、イギリスで20歳代30歳代に多いが、日本とドイツでは年齢によらない。同様の #7.2 ‘心の豊かさはへらないか’で‘へる’の回答はフランス、イギリスで40歳代に多く、日本も僅かだがこの傾向があるが、アメリカ、ドイツでは年齢は無関係である。これら二つの質問の意味するところは少し異なるのである。

では、科学技術に関する質問ではどうか。#7.36 ‘科学上の発見・利用は生活に役立つか’では30歳代40歳代で‘役だっている’回答が最も多い。‘少しは’になると20歳代に多く、控え目は判断を示す。#7.33 ‘コンピュータ社会は望ましいか’では‘望ましい’は若い年齢ほど多いが、逆の‘困ったこと’とするものは全体に少なく僅かに高年齢に多い程度である。科学技術の限界を問うものとして #7.83 ‘病気の治療’ #7.84 ‘人間の心の中の解明’ #7.85 ‘経済的・社会的問題の解決’がある。どれもどの国でも多少若い方に限界を感じる回答が多い程度である。では #7.86 ‘今後の25年間’の見通しとして、どの国でも‘宇宙ステーションでの生活’に対しては若い年齢ほど‘実現可能’と考えている。しかし‘原子力廃棄物の安全な処理方法’はイギリスで高年齢に‘実現’派が多く、‘可能性が低い’とするものが日本、イギリスで若い年齢に多い他は年齢は無関係である。‘ガン治療方法の解明’と‘老人性痴呆の治療方法の解明’はレベルが異なるだけで似た傾向であるが、フランスで強い実現可能支持が若い年齢に多いほかは中間の年齢で多い傾向がある。科学技術と関連する‘省エネルギー’‘環境の保護’の重要性(#7.34,35)は国により年齢別の回答の様子が異なる。しかし、どこも‘非常に重要’と‘重要’はほぼ逆の様子で、あわせると年齢傾向に差がほとんどなくなる。#2.5 ‘自然と人間の関係’の質問でも‘従う’がドイツで50歳代に少なく、イギリスで40歳代に多く、このほかは

どこでも60歳以上で僅かに多い傾向がみられるが、年齢との関係はあまり大きくない。

次に、家族や家庭、女性に関する質問項目を見ることにする。#2.30 ‘家庭に満足か’ についての回答は ‘非常に満足’ と ‘まあ満足’ を合わせると年齢はあまり関係が無く、 ‘非常に’ が高齢に多いことは前にも述べた。家庭について #4.30 ‘家庭はくつろげるただ一つの場所か’ に ‘そう思う’ とするものは、どの国でも明らかに年齢が高いほど多い。特にドイツとイギリスでは20歳代の30%台から60歳以上70%台にほぼ一直線に増加しているのが注目される。日本、アメリカ、フランスもかなりはっきりしている（参考データではあるがハワイでは60歳以上には多いが40歳代が最も少ないという特殊な傾向を示す）。結婚について #4.32 ‘離婚はすべきでないか’ にたいする ‘すべきではない’ の回答も高齢程多い。日本とイギリスに顕著であり、アメリカは40歳代が少なくドイツは20歳代から40歳代まで等しく少ない。‘合意さえあれば離婚してよい’ がこれと逆の傾向であり、 ‘ひどい場合にはよい’ というのは、イギリスでは40歳以上で少なくなり、日本でも60歳以上には支持されないが、ドイツでは高齢ほど（60歳以上は50歳代よりは少ない）多く、フランスも高齢に支持される傾向がある。また #4.31 ‘家事や子供の世話’ を ‘すべてが女性の仕事’ とするのはどの国も少数であるが、高齢ほど多い。日本では ‘いくつかは女性の仕事’ とするが若い程多く、 ‘全ての仕事を男女区別なくやるべき’ は年齢に関係ない。アメリカとドイツでは若い程 ‘全て’ が多い。フランスとイギリス、さらに日本も ‘すべて’ が20歳代に多いことは同じである。若い年代に支持される考えが新しい考え方とするならば、日本とイギリスで最も古い考えが残っており、家庭における女性の役割については日本が最も古いといえそうである。

#4.80 ‘望ましい子供の数’ は日本とフランスで若いほど2人以下を望んでいるが、その他の国では必ずしもそうではなく、望む子供の多さと古い家族感と必ずしも一致していない。そして #4.10 ‘他人の子供を養子にするか’ は日本だけが年齢が高いほど ‘つがせる’ が多く、イギリスはあまり年齢差が無いが、その他は日本と逆に若い年齢ほど ‘つがせる’ 回答である。全く考え方が異なっているといえる。先祖に対してはどうか。#4.11 ‘先祖を尊ぶか’ ではどの国でも高齢程 ‘普通より尊ぶ’ が多い。特に日本では20歳代（27%）と60歳以上（71%）に大きな差がある。アメリカは若い年齢も ‘普通より尊ぶ’ のであり、ドイツは高齢でも ‘普通’ の回答が多い。 ‘尊ばない’ というのが全体に少なく若いほど多いのはどの国でも同じである。

家族などまわりの人々とのつながりとして、#5.81 ‘生活領域の重要性’ の ‘あなた自身の家族と子供’ 等がある。これに対する重要性はほとんど最高の尺度7が与えられているが、アメリカ、イギリスでは90%以上の大多数意見である。ドイツでは比較的強く特に20歳代が約半数にすぎないのが目立つ程である。 ‘両親、兄弟、姉妹、親戚’ にたいしては20歳代に最高の重要度7が多いが、日本はそれほどでない。 ‘友人・知人’ も20歳代に7が多いが、これは高齢も多い。

人間関係に関する質問項目についてみると、まず、信頼感のスケールをなす質問がある。#2.12 ‘他人のためか自分のためか’ #2.12B ‘スキがあれば利用されるか’ #2.12C ‘人は信用できるか’ である。アメリカ、イギリスでは3問とも年齢の高い方に信頼の方の回答が多い傾向がある。他の国ではほとんど無関係である。フランスの質問、#2.83 ‘現代生活の個人態度’ で ‘他人を助ける’ ‘共同体’ では高齢ほど信頼感があり、共同体の一員で

あると感じながら、‘孤独感’では孤独という傾向も高年齢に多い。#7.82 ‘アリとキリギリス’の質問では年齢はほとんど関係が無い。‘追い返す’回答がアメリカとイギリスで40歳代に少なく、ドイツとフランスで年齢が高い方に多い傾向は多少ある。#4.81 ‘生活保護の考え方’では‘責任感を奪う’というきびしい考え方が、日本を除き、高年齢に多い傾向がある。日本とフランスでは40歳代に多い。「日本人の国民性」からの質問 #5.1 ‘恩人がキトクするとき’ #5.1B ‘親がキトクするとき’両方ともほとんど同じ型を示す。すなわち‘帰る’の回答がアメリカ、イギリス、ドイツは50歳代で少なく、フランスと日本は40歳代で少ない。この年齢が会社で最も抜けがたい重要な地位にいる事によるのではないだろうか。人間関係の考え方の差というより社会的現実の影響の方が大きいようにも取れる。#5.1C1, #5.1C2 ‘入社試験’の二つの場合、すなわち‘親戚’と‘恩人の子’の場合も、どちらもあまり違わない。しかも年齢による差はあまり大きくなく、日本、イギリスはほとんど年齢に無関係、アメリカは60歳以上、ドイツは40歳代、フランスは30歳代で‘一番採用’が多く40歳代で少ない、といった様子である。#5.6 ‘めんどうみる課長’は日本では大多数意見として、年齢によらないものの一つであるが、ドイツ、フランス、イギリスでも同様に、年齢差が無い。アメリカだけ高年齢ほど人情課長支持が少ない傾向がある。日本でも多少高年齢に少ないのは‘わからない’が多いためである。#5.6H ‘他人との仲か仕事か’でも年齢別の差はほとんど無い。ここでは日本だけ‘他人との仲’を大切に考える方が40歳代に少ない。強いていえば、イギリスもその傾向があるが、日本の40歳代が仕事人間といわれる中核をなす由縁かもしれない。しかし #2.2B ‘スジかまるくか’はあまり年齢に関係が無い。‘まるくおさめる’が日本では若いほど、アメリカ、ドイツでは高年齢ほど多く、フランス、イギリスは40歳代、30歳代で最も少ない。

仕事と個人の関係ではどうだろうか。#2.81 ‘仕事と個人生活’が‘ぶつかる’との回答はどの国でも20歳代あるいは30歳代にピークがあり、60歳以上はほとんど無い。これは、すでに仕事から引退しているからである。最も仕事で活躍する年代に最も多いのは当然である。#5.81 ‘生活領域の重要性’でみる。‘職業や仕事’で高い重要度を与えるのは当然、若いほど多い。また、‘自由になる時間とくつろぎ’も若い年齢に多い傾向である。‘政治、公的生活’となると年齢にあまり関係なく、日本だけかえって高年齢ほど重要視しているのである。では #7.4 ‘国と個人の幸福’でみると‘個人から国’が日本では若いほど多く、アメリカもこの傾向であるが、あとの国は年齢による傾向がつかめない。

つぎに、働く意味について見てみる。#7.81 ‘収入か余暇か’で‘収入が増えること’をあげる人はアメリカ、イギリス、ドイツでは40歳代が少ないV字型、日本、フランスは20歳代と60歳以上が少ない。フランスは40歳代も少ない形をしている。20歳代の意識の違いが注目される。また #7.25 ‘お金と仕事’の質問ではやはり40歳代に‘いくらお金があっても仕事がなければ人生はつまらない’とするものが多い。日本とドイツ、フランスでは60歳以上にも少なくないことがアメリカ、イギリスと異なるところである。#2.83 ‘現代生活の個人的態度’における‘収入の額よりも手段が大切’への‘賛成’は年齢に余り関係が無いが、アメリカ、フランス、イギリスで多少高年齢に多い傾向はある。では #7.24 ‘就職の第一条件’はどうか。‘給料に関心がある’が少ないのは、日本では

60歳以上、アメリカ、ドイツは50歳代、フランスは40歳代、イギリスは50歳以上と国毎に多少異なる。‘倒産や失業の恐れのない仕事’は日本ドイツはよく似ており60歳以上を除いて年齢と共に多い傾向、フランスは60歳代も多い。アメリカは逆に年齢に従って減少、イギリスは40歳代で少ない傾向が僅かにある程度である。‘気のあった人と’はどの国でも20歳代に多く選ばれているがその他はいろいろである。‘やりとげた感じ’は30歳代あるいは40歳代に多い。ドイツだけ50歳代が多い。では、#2.8 ‘一生働くか’で ‘働く’の回答はアメリカ、フランス、イギリスは年齢と共に少なくなる。日本とドイツでは40、50代をトップに逆U字型である。#7.19 社会での成功は ‘才能か運か’では ‘個人の才能や努力’をあげるものが日本、ドイツでは高年齢にフランスは逆に若い年齢ほど多い。アメリカ、イギリスはあまり年齢は関係がない。

内容的にいろいろになるが、日常のことを尋ねた「日本人の国民性」の質問をみる。#2.1 ‘しきたりに従うか’は ‘従え’が日本、ドイツでは高年齢ほど高いが、アメリカ、イギリス、フランスでは年齢と無関係である。#4.4 ‘先生が悪いことをした’とき子どもに ‘本当のことをいう’のは若いほど多い傾向がある。アメリカ、イギリスは年齢差がない。#4.5 ‘子供に「金は大切」と教えるか’は、日本では年齢増加とともに全く直線的に増加する。アメリカでは年齢に関係なく支持率が低く、フランス、ドイツは多少上下するが年齢と共に増加傾向、イギリスは50歳以上に多少多い程度である。#2.4 人生の ‘くらし方’は ‘金持ち’がドイツを除き若いほど多く、 ‘名をあげる’も日本、ドイツを除き20歳代に多い。‘趣味にあった’は日本とドイツで20歳代に多く、年齢と共に減少するが、他は20歳代と60歳以上で低い傾向を示す。それに対して ‘のんきに’はドイツ、フランスで20歳代に多い他は、高年齢ほど多い。‘清く正しく’はどれも少数であるが高年齢に多い傾向がみられる。‘社会につくす’は全く少数である。もう一つ #5.1D ‘大切な道徳’では ‘親孝行’はドイツ、フランスで高年齢に多いほかは年齢は無関係である。‘恩返し’はアメリカを除き高年齢に多い。‘権利’は逆に高年齢に少なく、‘自由’も同様である。

宗教は年齢差の最も大きいものである。#3.1A ‘宗教を信じるか’で ‘宗教を持っている’はどの国でも高年齢ほど多い。日本は20歳代の ‘持っている’率が非常に少ないのでその差はなお顕著である。#5.81 ‘生活領域の重要性’における ‘宗教’でも年齢が高いほど重要視していることがみられる。#3.2 ‘「宗教心」は大切か’も同様に年齢との関係が大きい。#3.3 ‘宗教は一つか’では日本は年齢が高いほど ‘一つ’が多いが、他の国では年齢の傾向はないようである。

政治に関する項目を見よう。まず、#8.1B ‘政治家にまかせるか’は ‘まかせきりはいけない’がアメリカにおいては大多数意見で年齢差も無いが、その他の国では若いほど多い。#8.82 ‘政治関心’は ‘非常に’は日本、アメリカ、イギリスで高年齢に多いが、 ‘まあ’は30、40歳代が多い。#8.80 ‘国家目標’についての4項目からの選択は ‘国家の秩序’と ‘重要な政策への自由な発言’がほぼ逆の傾向を示し、後者は若い年齢ほど多い。‘言論の自由’はドイツ、フランス、イギリスで若い方に選ばれている。‘物価の上昇をくいとめる’は日本で30歳以上に特に多い。#8.2 ‘民主主義」はよいか’で ‘よい’はどれも20歳代で少なく、 ‘時と場合による’が多い傾向がある。イギリスで特にそうである。「資本主義」については ‘よい’は40歳代に多い。「社会主義」はアメリカでも ‘

よい’が10%程度あり、若いほど多い。ドイツも同じである。イギリスとフランスは、60歳以上に少し多い程度で差が少ない。日本も年齢差がないが、‘よくない’は多少高年齢ほど多い。「自由主義」は日本、アメリカでは若いほど‘よい’が多い。ドイツ、フランスも差は小さいがこの傾向である。イギリスは少し異なり60歳代に‘よくない’が少ない。#8.83 ‘民主政治に満足か’で‘非常に満足’は少ないが高年齢に多い傾向はある。‘かなり満足’をあわせて見ると、日本、ドイツは高年齢に多いが、アメリカ、イギリスは年齢別の差があまりない。#8.84 ‘裁判制度は機能しているか’は‘非常によく’は少なく‘かなり’とあわせてみるが、ドイツで40、50歳代に多いほか、年齢のこれといった傾向が無い。#7.87 ‘労働者階級と資本家階級’で‘あくまで戦うべき’とするものはドイツ、フランス以外は少ない。‘協力すべき’はアメリカ、イギリス、日本で大多数意見である。ドイツの20、30歳代に少ないのが目立つ。さて #8.8 ‘社会はかえるべきか’では各国似ており、‘根本的改革’は全く少なく、‘改革によって徐々に’と‘断固防御’が相対し、後者が高年齢ほど多い。ところが #8.85A ‘社会の根本的改革は必要か’では‘必要と思う’もかなりあり、特にフランスでは年齢に無関係に半数以上である。アメリカ、イギリス、フランスも年齢と関係が無い。日本は30歳代、ドイツは20歳代から年齢と共に少なくなっている。支持政党と年齢との関係も政党によってかなりあるものもあるが、省略する。‘政党支持の強度’も高年齢ほど強い傾向がある。

以上見てくると、年齢による回答の差が、各国で似ている項目も多いが、それぞれの国によって異なる傾向のものもかなりある。ここで、年齢別の回答差の型別にまとめておく。はじめに示した4つの変化の型の5カ国の組合せは膨大だが、実際はほぼ似た型を示す国が多く、特徴的なものがある国に現れるといった様相を示しているので、3カ国以上である同じ型を示すものでまとめ、以下の表に示す。

なお、ハワイのデータはサンプル数が少ないので参考程度にしておく。ただ、注目すべきは、日本とアメリカの中間の型を示す項目が多いということである。

以下の表の見方

各質問に対して(数字)で示した選択肢についての年齢別支持率の変化の様子を次の記号で示している。質問文と選択肢の内容は[IV]の調査票(A)を見ていただきたい。一列ずつ各国のデータであるが、左からドイツ(G)、フランス(F)、イギリス(E)、アメリカ(A)、ハワイ(H)、日本(J)の順序になっている。

なお、ハワイでは全ての質問が調査されてはいない。記号のないものがそれである。

記号の説明：

1. > 年齢が若いほど支持率が高い >> その傾向が強い
2. < 年齢が高いほど支持率が高い << その傾向が強い
3. ^ 中間の年齢で支持率が高い
 ^> 中間の年齢で支持率が高いが高年齢に較べて若いほうが支持率が高い
 ^< 中間の年齢で支持率が高いが若い年齢に較べて高年齢の方が支持率が高い
4. V 中間の年齢で支持率が低い
 V> 中間の年齢で支持率が低いが高年齢に較べて若いほうが支持率が高い
 V< 中間の年齢で支持率が低いが若い年齢に較べて高年齢の方が支持率が高い
5. M、W 各年齢層で上下している
6. それぞれ後ろに - の符号はその特徴があまり顕著でない場合。

(1) 年齢と共に増加あるいは減少するもの

			G	F	E	A	H	J	
3 #7.31	今後の生活水準	(1+2)	>	>	>	>	>	>	図1 参照
4 #7.18E	幸福になるか	(1)	^-	>	>	>	M>	V-	
5 #7.18B	心の安らぎはますか	(1)	0	>	>	>	V	V-	
8 #8.80	国家目標	(1)	<	<	<	^	^	0	
8 #8.80	国家目標	(2)	>	>	>	>	>	>	
9 #2.30F	不安感 戦争	(1+2)	0	V	M	>	>-	0	
		(1)	>	V	>	>	W	0	
9 #2.30G	不安感 原子力施設の事故	(1+2)	>	0	0	^-	W	^>	
		(1)	>	V	>-	>	W	^	
11 #4.11	先祖を尊ぶか	(1)	<-	<	<	<-	W	<<	
12 #4.10	他人の子供を養子にするか	(1)	>	>	0	>	W>	<	図2 参照
14 #2.80B	病気 背中の傷み	(1)	<	M	<<	^			
14 #2.80E	病気 不眠症	(1)	<<	<	<	<		<	
18 #2.8	一生働くか	(1)	^	>>	>>	>>	>>	^	図3 参照
22 #2.4	くらし方 金持ち	(1)	0	>-	>-	>-	0	>-	
	名をあげる	(2)	0	0	0	>	>	0	20
	趣味にあった	(3)	>	^	M	^	^	>	
	のんきに	(4)	>	>	<	<	<	<	
	清く正しく	(5)	<-	0	<-	<-	M-	<-	
23 #2.3F	生活環境満足か	(1)	<-	<-	<	<	W	<	
		(1+2)	^	<	0	0	0	0	
27 #5.81B	生活領域の重要性 職業や仕事	(7)	>-	V	>	>	W>	^	
		(6+7)	>	>-	>	>	>	^	
27 #5.81C	生活領域の重要性 自由になる時間とくつろぎ	(6+7)	>	>	>	^-	0	>	

27 #5. 81E	生活領域の重要性 両親、兄弟、姉妹、親戚	(7)	>- V > > V V-	
		(6+7)	0 V > > V> 0	
27 #5. 81F	生活領域の重要性 宗教	(6+7)	< < < < < <	50
29 #2. 82	生活に満足か	(1+2)	< 0 <- M- < <	図4 参照
		(1)	<- <- < < M< <	
31 #4. 81	生活保護の考え方	(2)	< ^ W< < ^	
33 #4. 5	子供に「金は大切」と教えるか	(1)	< < < 0 <- <<	
34 #8. 1B	政治家にまかせるか	(1)	0 < < 0 M <	
		(2)	> > > 0 > >	
37 #4. 30	家庭はくつろぐ場所	(1)	<< < << < V< <	図5 参照
38 #4. 32	離婚はすべきでないか	(1)	< < < V W <	
38 #4. 32	離婚はすべきでないか	(3)	> > > ^> ^ >	
39 #4. 31	家事や子供の世話	(3)	>> V> V > > W	
40 #4. 4	先生が悪いことをした	(1)	> > ^ 0 > >	
44 #7. 4	国と個人の幸福	(1)	W >- V- > > >	
45 #5. 1D-2	大切な道徳 恩返しをすること	(1)	< < < 0 < <	
45 #5. 1D-3	大切な道徳 個人の権利を尊重すること	(1)	> > ^> ^ > >	
45 #5. 1D-4	大切な道徳 自由を尊重すること	(1)	> > >- ^ ^ >	
54 #2. 83A	現代生活の個人態度 他人を助ける	(1+2)	< 0 0 0 0 0	
		(1)	0 0 < < < 0	
54 #2. 83B	現代生活の個人態度 共同体	(1)	<- <- < < < <	
54 #2. 83E	現代生活の個人態度 孤独感	(1)	0 0 0 0 0	
		(1+2)	< < 0 < >-	
56 #7. 33	コンピュータ社会は望ましいか	(1)	^- > > > > >-	
58 #7. 86D	今後の25年 宇宙ステーションでの生活	(1)	^> > M ^> >	
62 #3. 1A	宗教を信じるか	(1)	< < < < W <<	図6 参照
63 #3. 2	「宗教心」は大切か	(1)	< < << < M <<	
65 #8. 81	革新か保守か	(8+9+10)	^ ^ < < <	
67 #8. 2G	「自由主義」はよいか	(1)	>- > 0 > > >-	
68 #8. 83	民主政治に満足か	(1)	<- 0 < < 0	
		(1+2)	< W < 0 <	
70 #7. 87	労働者階級と資本家階級	(1)	> >- 0 >- >-	
71 #8. 8	社会は変えるべきか	(3)	< <- < < < <-	
74 #8. 86	政党支持(強度)	(1+2)	< < < < <	

各国とも宗教観や家庭観に関する質問で年齢差が大きい。養子の問題では日本だけ関係が逆である。社会への満足感には各国共通の年齢差がみられる。仕事やお金に関するものは日本だけ様子が異なる傾向がある。

(2) 中間の年齢層で最も高く(あるいは最も低く)になっているもの(U字型、逆U字型)

			G	F	E	A	H	J	
2 #7.30A	自分の生活水準 10 年の変化	(1+2)	^>	v>	^>	^>	^	0	図 7 参照
9 #2.30D	不安感 交通事故	(1+2)	^>	M	0	^>	0	^	
		(1)	^	M	^	>	<	^	
9 #2.30E	不安感 失業	(1+2)	^>	^	M>	>	0	^	
		(1)	^	^	^	>	^	^	
16 #1.8	社会的階層	(1+2)	^	0	0	^	^	0	
17 #7.81	収入か余暇か	(1)	V	M	V	V	V	^	図 8 参照
20 #7.24	就職の第一条件	(2)	^	<-	0	>-	<	^	
20 #7.24	就職の第一条件	(4)	0	>	0	^-	^-	^-	
21 #2.81	仕事と個人生活	(1)	^>	^>	^>	^>		^>	
27 #5.81A	生活領域の重要性 あなた自身の家族と子供	(7)	<	^-	^-	^-	0	^-	
27 #5.81D	生活領域の重要性 友人、知人	(7)	V>	V	V<	V<	W	V	
		(6+7)	>	V-	V	<	V	V-	
36 #7.2	心の豊かさはへらないか	(1)	0	^	^	0	^	^	
41 #5.1	恩人がキトクするとき	(1)	>	V	V>	>	V>	V-	
42 #5.1B	親がキトクするとき	(1)	V	V	V	V	V	V	図 9 参照
45 #5.1D-1	大切な道徳 親孝行をすること	(1)	<	V<	0	V	V	0	
53 #2.12C	人は信用できるか	(1)	^	^	^<	^<	^	0	
55 #7.36	科学上の発見・利用は生活に役立つか	(1)	0	^	M	^	^	^	
58 #7.86B	今後の 25 年 ガンの治療方法の解明	(1)	^	>	^	^		0	
67 #8.2F	「資本主義」はよいか	(1)	<-	>-	^-	^-	^-	^-	

仕事や家族構成など実際の生活上で重要な役割をする年齢が40歳代中心であることに関係して、仕事観や生活領域の重要度が異なってくるものが、この型に属する。恩人キトク・親キトクの問題もこの意味を含んでいるともいえる。「収入か余暇か」は日本が他の国と凹凸が異なり、(1)での年齢差の違いのあらわれと見られる。

(3) 年齢による差のほとんどないもの

			G	F	E	A	H	J
1 #7.30B	国の生活水準 10 年間の変化	(1+2)	0	>-	^	>-	0	0
7 #7.18	人間の健康の面はよくなるか	(1)	0	^	0	0	V	V
		(2)	0	0	0	>	^	^
8 #8.80	国家目標	(4)	>-	>	>-	0	0	0
15 #2.3G	健康状態満足か	(1+2)	^>	>	0	0	0	0
20 #7.24	就職の第一条件	(1)	0	0	0	0	0	>
20 #7.24	就職の第一条件	(3)	>	0	0	0	0	V
23 #2.3F	生活環境満足か	(1)	<-	<-	<	<	W	<
		(1+2)	^	<	0	0	0	0
24 #5.80A	近所の治安 強盗にはいられること	(1+2)	0	0	^	0		0
		(1)	0	<	<	0		0
24 #5.80B	近所の治安 急に襲われて身の危険を感じる	(1+2)	0	0	0	0		0
25 #7.82	アリとキリギリス	(1)	<-	<-	V-	V-	<-	0
27 #5.81G	生活領域の重要性 政治、公的生活	(6+7)	0	0	<-	0	V	<
28 #2.3C	家庭に満足か	(1+2)	0	0	0	0	0	0
		(1)	^	-	V-	V<	<	V<
35 #2.1	しきたりに従うか	(1)	>	>-	0	>-	0	0
		(2)	0	0	0	0	>-	>
39 #4.31	家事や子供の世話	(1)	<	0	0	0	W-	<
43 #2.5	自然と人間の関係	(1)	V	0	^	0	>-	0
50 #5.6	めんどろみる課長	(1)	0	>-	0	<	M^	0
54 #2.83C	現代生活の個人態度 その日その日	(1)	0	>	W<	0	<	<
54 #2.83D	現代生活の個人態度 収入より手段	(1)	0	<-	W<	<	0	0
58 #7.86A	今後の 25 年 原子力廃棄物の安全な処理方法	(1)	^	0	<	0		0
58 #7.86C	今後の 25 年 老人性痴呆の治療方法の解明	(1)	^	0	0	^		0

図10参照

身のまわりの満足感は段階の回答をまとめると年齢差が無くなる傾向がどの国にもある。このほかは、‘めんどろみる課長’はアメリカのみ年齢差がみられる。

(4) 分類しがたいもの

			G	F	E	A	H	J	
6 #7.18C	人間の自由はふえるか	(1)	^	>	^	>		^	<
8 #8.80	国家目標	(3)	<-	0	<-	M-	M	^	
9 #2.30	不安感 重い病気	(1+2)	<	0	M	^	W	<	
		(1)	<	>	0	V	V	^	
13 #4.80	望ましい子供の数	(0, 1, 2)	^	>-	0	^		>	
14 #2.80A	病気 頭痛、偏頭痛	(1)	<	^	>	^	>		0
14 #2.80C	病気 神経の興奮	(1)	^	^	0	>		>	
14 #2.80D	病気 鬱病	(1)	<	<	<	>		0	-
15 #2.3G	健康状態満足か	(1)	>	>	<	>	<	0	
19 #7.25	お金と仕事	(1)	<	<	M	W	0	0	
30 #7.19	才能か運か	(1)	<	>	0	0		<	
32 #7.1	人間らしさはへるか	(1)	V	^	^	<	^	^	
38 #4.32	離婚はすべきでないか	(2)	<	<	>	^	W	^	>
46 #5.6H	他人との仲か仕事か	(1)	0	^	M-	0	^	V	
47 #2.2B	スジかまるくか	(1)	>-	>-	^	^	>-	<-	
48 #5.1C1	入社試験(親戚)	(1)	^	<	M	<	0	V	<
49 #5.1C2	入社試験(恩人の子)	(1)	^	M	0	<	<	0	
		(2)	0	W	>	>	>-	>	0
51 #2.12	他人のためか自分のためか	(1)	0	<-	0	^	^	^	
52 #2.12B	スキがあれば利用されるか	(2)	V-	V	^	^	<	<	0
		(1)	0	0	>	>	V	0	
57 #7.83	科学技術 病気の治療	(1)	>	>	W	0		<	
57 #7.84	科学技術 科学技術の発達と人間の心	(4)	<	V	^	0		>	-
57 #7.85	科学技術 経済的・社会的問題の解決	(3+4)	0	^	^	>	0		>
		(1)	>	>	^	^	<	<	
59 #7.34	省エネルギーは重要か	(1)	>	^	^	0	<	^	
60 #7.35	環境の保護は重要か	(1)	^	<	V-	^	<	0	
64 #3.3	宗教は一つか	(1)	0	0	^	<	^	^	
66 #8.82	政治関心	(1+2)	0	^	<	^	^		
67 #8.2E	「民主主義」はよいか	(1)	0	^	<	<	^	0	20S
67 #8.2H	「社会主義」はよいか	(1)	>	<	<-	>	>-	0	
67 #8.2H	「社会主義」はよいか	(3)	<	>-	0	<	M	<	
69 #8.84	裁判制度は機能しているか	(1+2)	^	W	M	0	M	0	
72 #8.85A	社会の根本改革は必要か	(1)	>	<-	0	0		>	

図11参照

図12参照

図13参照

図14参照

年齢差は比較的少なく、差の少ない型に入れるべきものもある。ここには社会の影響の多い項目が含まれている。そのほか各国の微妙な差のある項目である。

(5) 特別なものとして次の家計の節約の項目をあげておく

これは意識の問題であると同時に何にお金をかけているかを示すものであり、年齢に大いに関係があって当然と思われるが、それも国によって異なっている。とくに日本ではどれも中間の年齢で高いのが特徴的である。

			G	F	E	A	H	J
10 #7.80A	家計の節約	医療	(1)	0	0	^	V	^
10 #7.80B	家計の節約	車	(1)	>	>	^	>	^
10 #7.80C	家計の節約	家庭用品	(1)	>	M	>	^	^
10 #7.80D	家計の節約	食料品	(1)	>	-	M	0	^
10 #7.80E	家計の節約	美容	(1)	>	>	>	>	^30
10 #7.80F	家計の節約	バカンス、休暇	(1)	>	M	>	>	^30
10 #7.80G	家計の節約	衣服	(1)	>	^	>	>	^
10 #7.80H	家計の節約	住居	(1)	>	>	>	>	^
10 #7.80I	家計の節約	子供の養育	(1)	^	^	^	^	^30
10 #7.80J	家計の節約	タバコ、アルコール	(1)	>	>	>	>	^

図1

Q3 #7.31 今後の生活水準

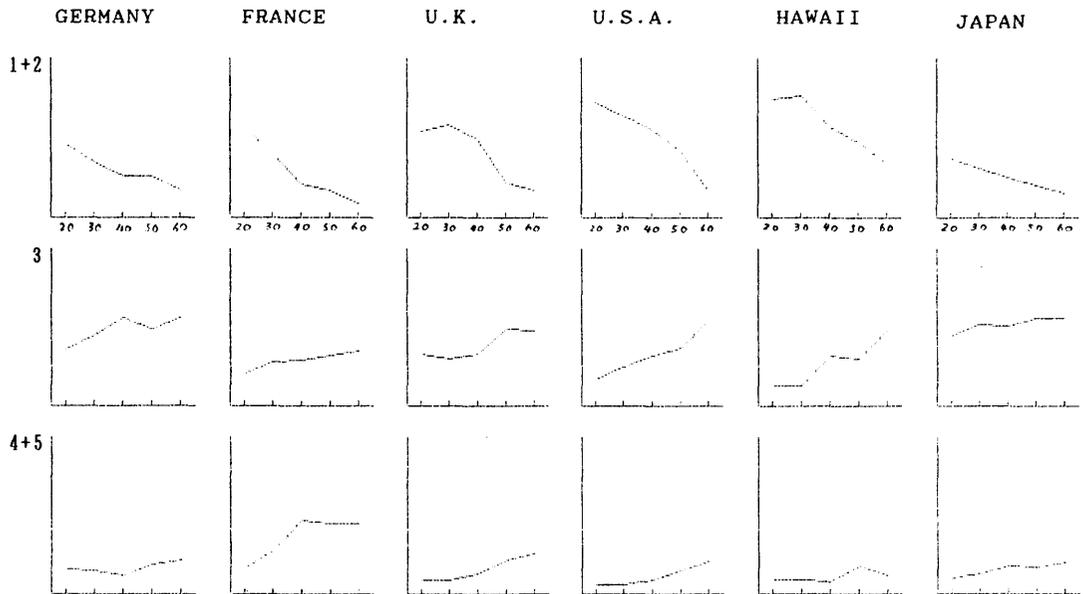


図 2

Q12 #4.10 他人の子供を養子にするか

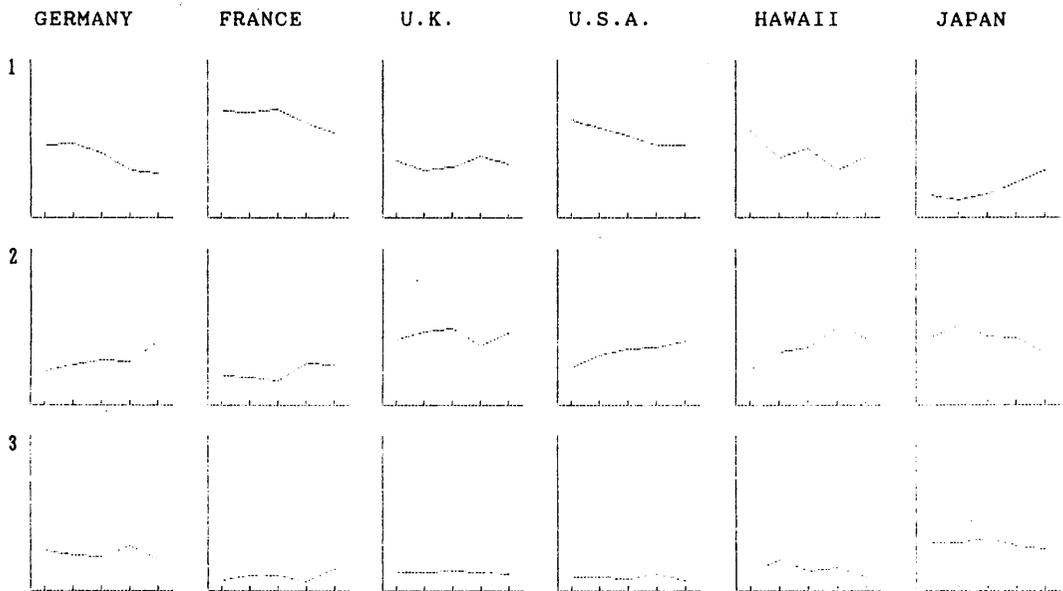


図 3

Q18 #2.8 一生働くか

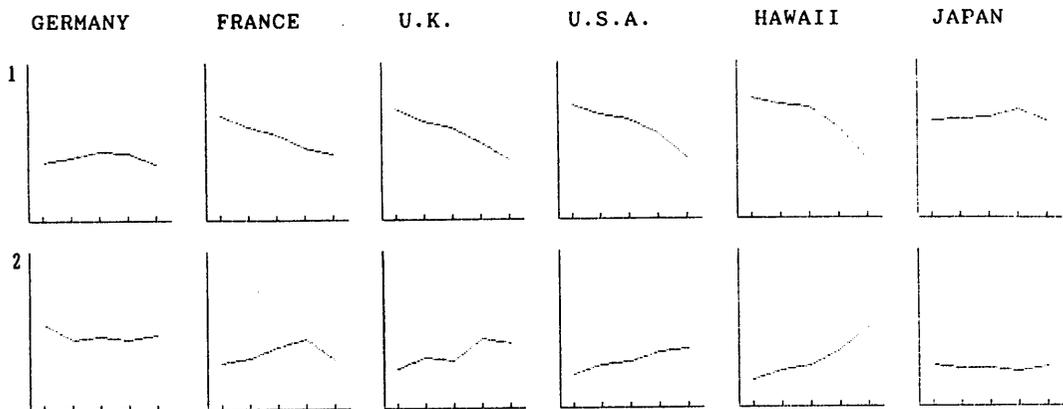


図4

Q29 #2.82 生活に満足か

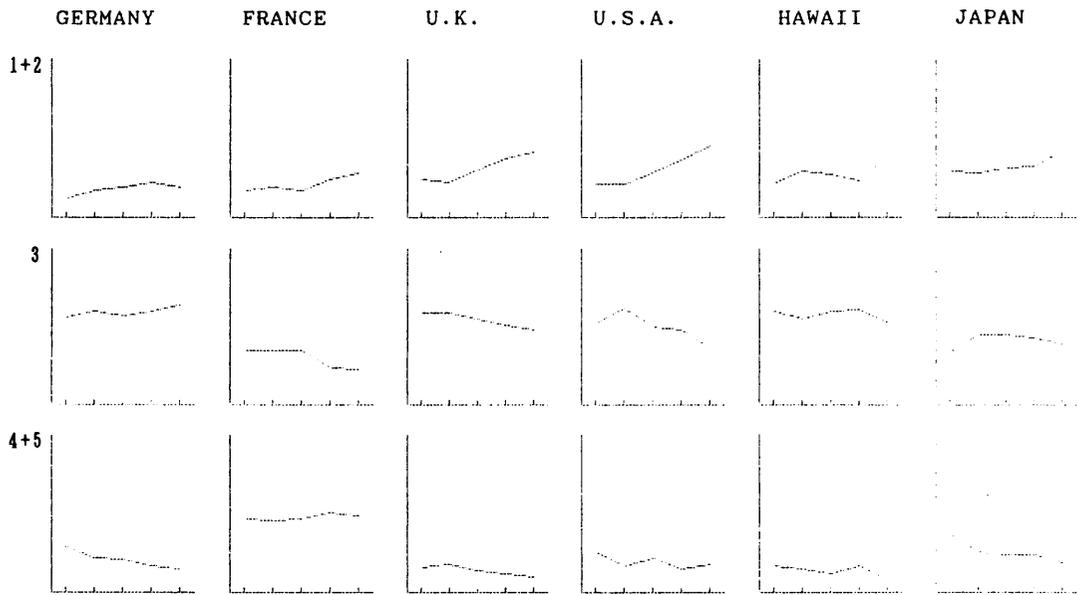


図5

Q37 #4.30 家庭はくつろぐ場所

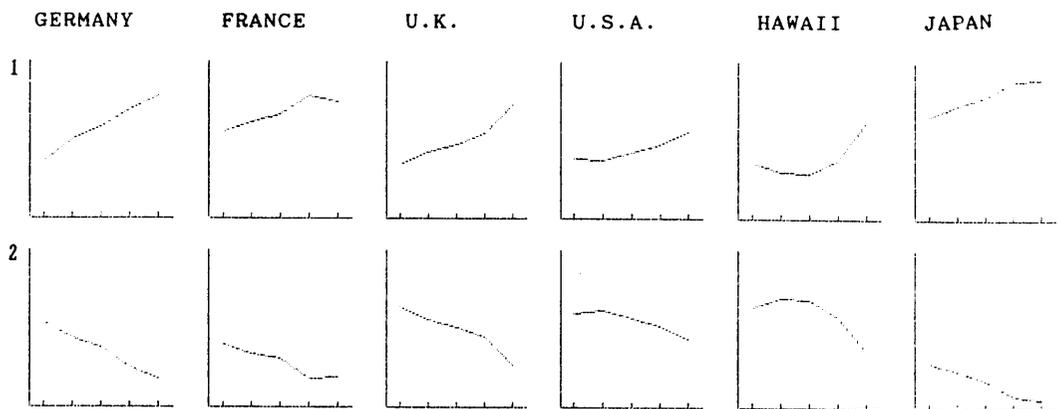


図6

Q621 #3.1 宗教を信じるか

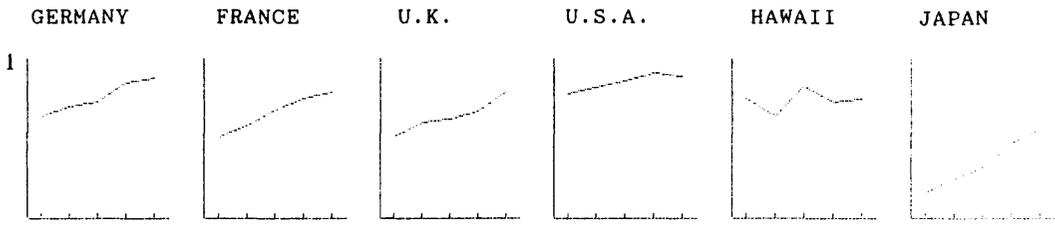


図7

Q2 #7.30A あなたの生活水準10年の変化

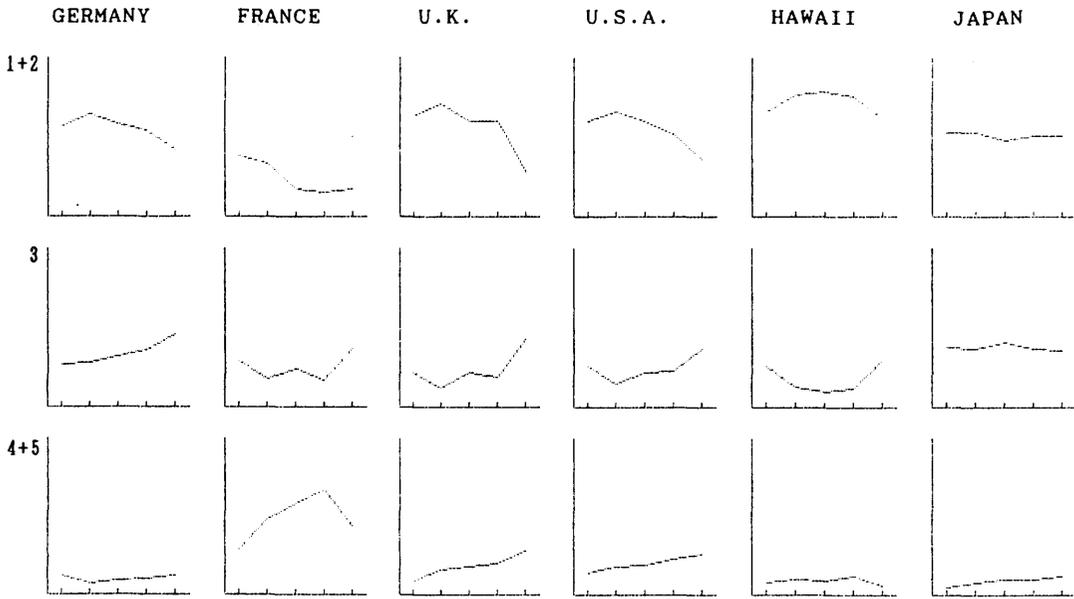


図 8

Q17 #7.81 収入か余暇か

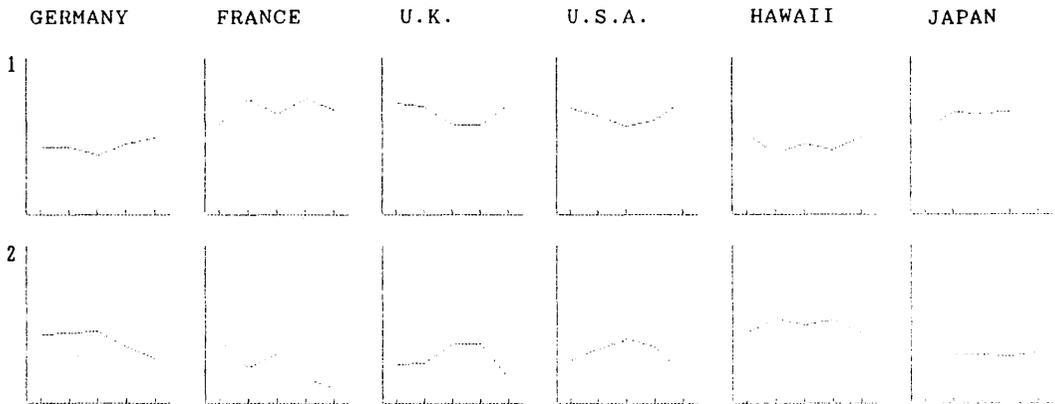


図 9

Q42 #5.1B 親がキトクするとき

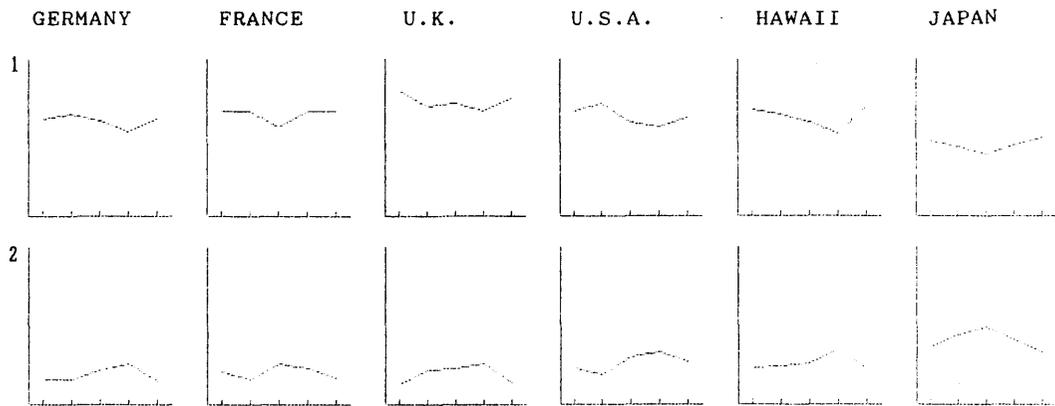


図 10

Q50 #5.6 めんどうをみる課長

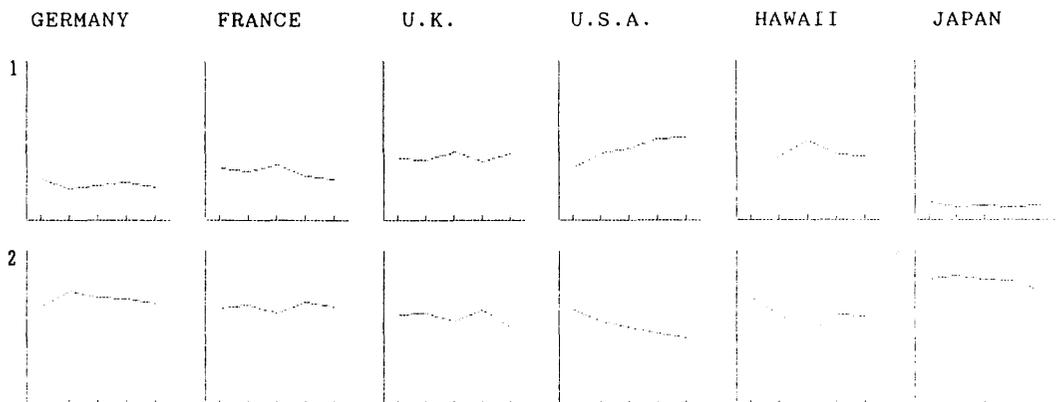


図 1 1

Q30 #7.19 才能か運か

336

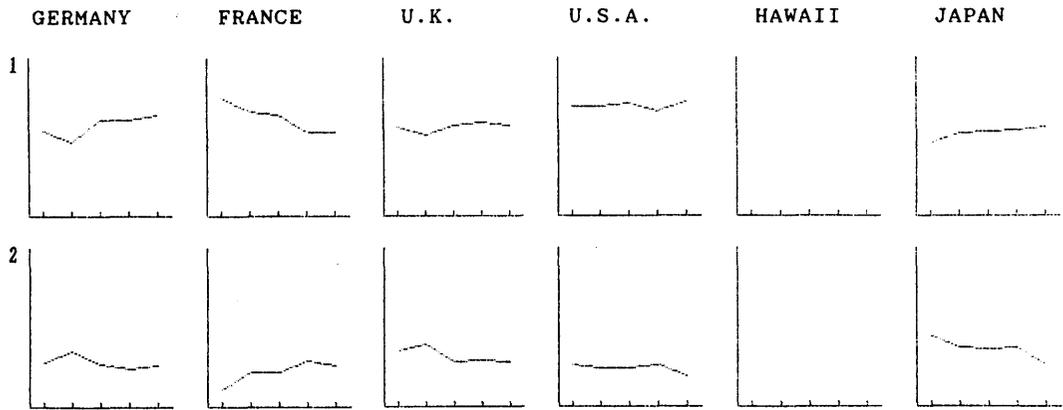


図 1 2

Q59 #7.34 省エネルギーは重要か

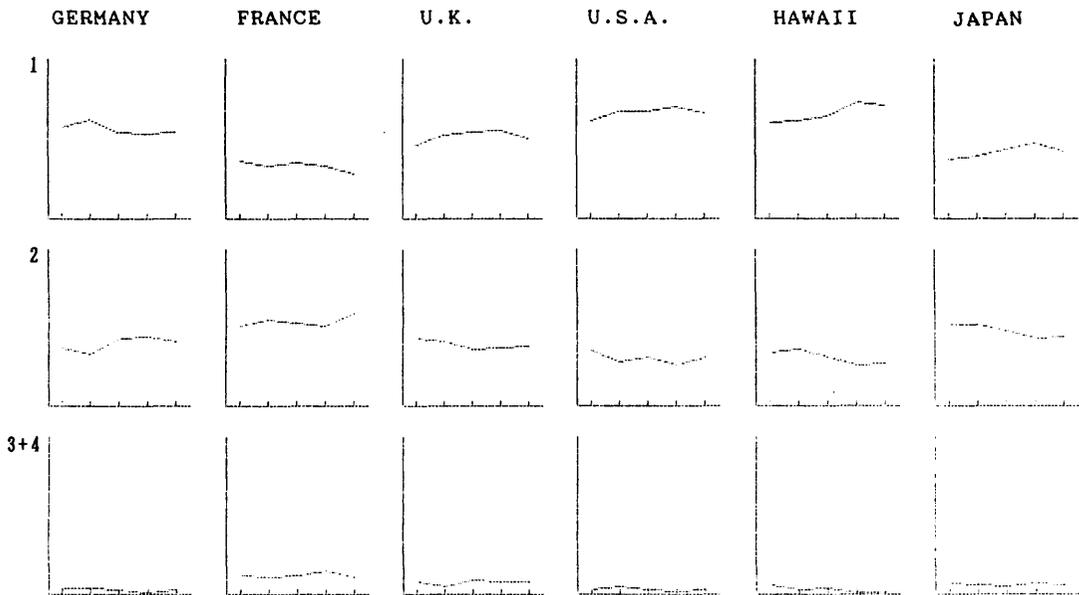


図 1 3

Q67 #8.2H 「社会主義」はよいか

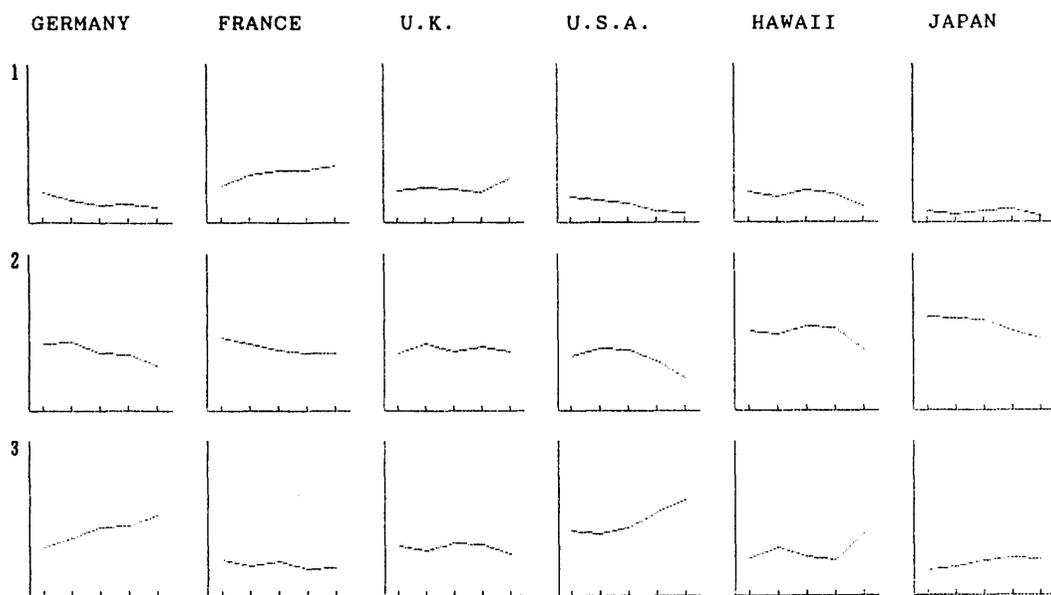
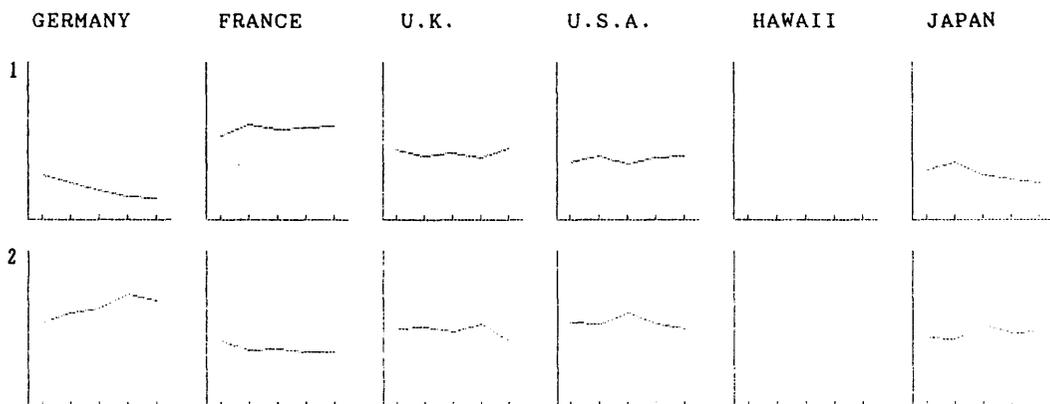


図 1 4

Q721 #8.85A 社会の根本改革は必要か



§ 2 男の意見と女の意見の国際比較

性別によってどの様に回答が異なるか、それが国別で異なるのかをみることにする。国によって回答の率が異なっているが、それはここでは問題にせず、それぞれの国の中で男と女の回答率を比較して、どちらが多いかだけに注目している。また、その中でも年齢により異なることも考えられるが、単純に全ての年齢を含めた男と女の差を考えることにする。まず、どの国でも同じ様な傾向を示すもの、すなわち、1) 男における回答率が女における回答率を上回っているもの、2) 女における回答率が上回っているもの、3) 差が認められないもの、である。1)と2)は、二者択一回答の質問では一方が1)ならば他方が2)であることが多いが、無回答もあるため必ずしもそうではない。多肢選択の場合は複雑になる。そのような場合は、特徴的な選択肢をおもに取り上げてみた。このほか、各国で様子の異なるものはその違いを示すことにする。年齢別をみたのと同様に、まず、問題の内容的性質にしたがって特徴をみていく。

はじめに質問票の最初にある経済状態の見方からはじめるが、これは男女で差があまり大きくはない。国民の生活水準の変化に対して、男の方がよい評価を与えている傾向がある。自分の生活水準も同様だが、フランスだけ少し女の方が高い。又今後の予想はドイツも女が高い。つづいて生活領域の満足感といったものをみてみよう。生活環境に対しても満足感には男女で差が少ないが、アメリカは男に満足が多い。具体的なことでは、近所の治安‘強盗にはいられること’‘おそわれて身の危険を感じること’へはどこでも女の方が重大な問題だと回答している。健康に対しては、‘頭痛・偏頭痛’‘背中の傷み’‘神経の興奮’‘鬱病’‘不眠症’どれも女の方が悩んだことがある率が高い。そしてこれと矛盾なく‘健康状態に満足’しているのは男に多い。実生活の面でたずねた項目では、‘自分の家庭に満足か’は男女で差がなく、‘今の生活に満足か’では女の方が満足している。ただし、日本とアメリカは男の方が少し満足が多い傾向がある。‘社会的階層’がこれに関連しているのか、男の方に低い階層と答える率が高く、アメリカは男女差がない。

将来の見通しについて‘幸福’‘心のやすらぎ’‘健康の面’への悲観的な見方は女に多い。‘自由’だけは男の方が悲観的である。日本的な質問‘人間らしさはへるか’でも‘へらない’は、日本とドイツ以外は男の方に多い。ところが‘心の豊かさは減らないか’では男女で差がほとんどない。不安感、失業に対してのみ日本ドイツで男に多いが、病気の不安も交通事故の不安も、どこでも女性に多く、特に戦争や原子力施設の事故に対して、男よりかなり大きな不安をもっているのである。

科学技術に対する考え方はどうか。‘科学上の発見・利用は生活に役立つか’‘コンピュータ社会は望ましいか’に対する肯定的回答は男に多い。‘病気の治療’や‘人間の心の中の解明’や‘経済的・社会的問題の解決’でたずねた科学の発達の限界に対する考え方では、病気の治療は女に否定的回答が多い傾向があり、あとの2問に対して男に否定的見方が多い傾向がある。これと逆に、今後の25年の実現の見通しでは男の方が実現できると言う見方が多い。宇宙ステーションでの生活についてことに顕著である。ガンや老人性痴呆の治療法はドイツ、フランスの女性は明るい見通しが少し多い。‘省エネルギー’‘環境の保護’の重要性は‘非常に重要’と‘重要’を合わせるとどの国でも男女同じであるが、‘非常に’はドイツを除いて男に多い傾向がある。ドイツは女の方が重要視しているのが注目される。これらの項目の回答はその国々での報道による知識の与えられ方に

よることも大きいのではないだろうか。また、‘自然と人間の関係’は‘従え’が女に、‘利用’が男に、多い傾向である。日本では差が大きく、アメリカでは差が小さい。

家族・家庭と女性に関する項目を見てみたい。‘家庭に満足か’は生活の満足と同様に日本、アメリカで男に満足の多い傾向が少しある程度である。‘家庭はくつろげるただ一つの場所か’に‘そう思う’との回答はどこも少し女性に多い。これは実際、女の方が多く家庭にいることと関連していよう。‘生活領域の重要性’で‘あなた自身の家族や子供’‘両親、兄弟、姉妹、親戚’も女の方が重要度が高く思っている。‘離婚はすべきでないか’は日本とアメリカで‘すべきでない’が男の方に多く、ドイツ、フランス、イギリスでは‘二人の合意さえあれば’が男に多い。女はどこでも‘ひどい場合には’の現実的中間の回答が多い。また‘家事や子供の世話’は‘女性の仕事’が女に、‘平等に’が男に少し多い傾向がある。ことにイギリスでこの傾向が強いことは注目される。また‘望ましい子供の数’はアメリカで男女差のない他は女の方が多い傾向があるが、特にイギリスで4人以上とする回答に男女差があり、女に多いのは同様の傾向を示すものである。養子の問題は、日本だけ男の方に‘つがせる’が多い。日本とその他の4国で養子の考え方に違いがあるようである。先祖に対する考えも各国異なる。‘普通より尊ぶ’が日本、フランスは男に、ドイツ、イギリスでは女に多く、アメリカは男女差がない。家族に対する考えは国ごとの長い伝統にもとづくものであり、近代社会でも簡単には変わらず、各国考え方が異なるのであろう。

次に人間関係に関する項目についてである。‘他人のためか自分のためか’‘スキがあれば利用されるか’‘人は信用できるか’の信頼感のスケールとなるものについては、3つめの項目は男女差がほとんどなく、前2項目は信頼の方の回答が女に少し多い。フランスは3項目とも男女差がない。日本は2番目の‘スキあれば’で女に‘そんなことはない’の信頼側回答が男よりかなり多いのが注目される。この設問から受ける状況がそれぞれ多少異なるのかもしれない。‘アリとキリギリス’の質問ではどの国でも‘追い返す’は男の方に多い。‘生活保護の考え方’でもフランスを除き‘責任感をうばう’というきびしい見方が男に多い。日本的質問ではどうか。‘恩人がキトクするとき’‘親がキトクするとき’共に女の方が‘帰る’が多い。ただし日本とフランスは多少男の方に多い傾向があるがほとんど差がないといってよい。また、‘入社試験’は‘親戚’との比較でも‘恩人の子’との比較でも‘一番採用’が日本、ドイツで男に、アメリカで女に多いというように異なる。

‘めんどろみる課長’でも、日本、アメリカは男女で差がないが、ドイツ、イギリスは‘めんどろみない課長’が男に多く、フランスは女に多い。というような差がある。‘他人との仲か仕事か’ではアメリカ、ドイツで‘仕事より仲’が女により好まれるが、他の国では男女の差は見られない。‘スジかまるくか’の質問で‘スジを通すこと（一定の原則に従うこと）に重点をおく人’を望ましいとするのは男に多い。仕事と個人の関係では‘仕事と個人生活’で‘ぶつかる’が男に多いというように、仕事に男に多い事によるものもある。‘生活領域の重要性’で‘職業や仕事’あるいは‘政治・公的生活’も男に重要度が高い。これと同時に‘自由になる時間とくつろぎ’も男の方に多く、‘国と個人の幸福’で‘個人から国’を選ぶのも男に多い。

つづいて、働く意味について見よう。‘収入と余暇’どちらが好ましいかでは、ドイツで男に‘収入が増えることの方が好ましい’が多いが、その他の国ではその回答は女に多

い傾向がある。‘お金と仕事’の質問での‘お金があっても仕事がなければつまらない’や‘一生働くか’で‘働く’という回答は男に多い。また‘就職の第一条件’として‘よい給料’や‘倒産失業の恐れがないこと’は男の方が多く選択している。‘気のあった人と’というのはどちらかという女に多い。‘やりとげた感じ’は日本、ドイツは男に、アメリカ、イギリスは女に多く選択されている。社会での成功が‘才能か運か’は日本で‘才能’をあげるのが男に多い他は、男女差が見られない。

このほかの日本的質問で、‘大切な道徳’として‘親孝行’をあげるのは女に多く、‘個人の権利’と‘自由の尊重’は男に多い。‘恩返し’は日本、ドイツでは女に多い傾向がある。‘しきたりに従うか’はアメリカを除き‘従う’が女に多い。アメリカは男女差がない。子供への教育として‘先生がわるいことをした’の質問では各国どこも‘ほんとうのことをいう’のが男に多い傾向がある。‘子供に「金は大切」と教えるか’ではそうだというものが男に多い。これもドイツの男女差なしを除き各国似ている。‘くらし方’では‘金持ち’‘名をあげる’‘趣味にあったくらし’が男に多く、‘のんきに’‘清く正しく’が女に多い傾向がある。‘社会のためにつくす’は全体に数が少なく男女別に特徴が見いだせない。

‘宗教を信じるか’については、男女差が大きい。信じるという回答の男女差が日本では無いが、ほかは圧倒的に女に多い。‘「宗教心」は大切か’も‘大切’が女に多い。‘宗教は一つか’では‘賛成’はわずかだが男に多い。

政治に関するものは男女差の傾向がまちまちである。女に無回答がかなり多い傾向はどの国にもあるが、日本では特に差が大きい。‘政治家にまかせるか’の無回答は男女で差がないが‘まかせきりはいけない’で日本とフランスに男女差があり、男に多い。‘政治関心’の質問でも‘関心あり’の方が男に多い。内容をみると‘保守か革新か’でスケール値6と7の間を境に革新的な方の値を示すものが女に多い傾向がどの国にもある。いろいろな主義に対する見方では、‘民主主義」「資本主義’を‘よい’、‘民主政治に満足か’に‘満足’の回答が、ドイツで男女差がないほかは、男に多い。‘自由主義’もほとんど男女差がないが、日本だけ男に‘よい’の回答が多いのが目立つ。‘社会主義’に対しては少し複雑である。‘裁判制度’に対して、日本、ドイツ、フランスでは男の方に満足が多い。‘労働者階級と資本家階級’‘社会は変えるべきか’は男女差がない。‘社会の根本改革は必要か’で‘必要でない’はどの国でも男に多い。日本、ドイツは女に無回答が多く、‘必要’が女に多いのが顕著なのはアメリカとイギリスである。政党支持の強度は‘非常に近い’‘かなり近い’あわせて、日本では男の方がかなり多いが、アメリカ、フランスでは男女差が見られない。政治に関するすることは、日本の男の政治好きと女の無関心が極端に目立つ。

以下に、それぞれの項目の主な回答で男女どちらが多いかをまとめておく。

右からドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、ハワイ、日本(A)の順に次のような符号で示してある。

記号の説明：

M 男の方に回答が多い

F 女の方に回答が多い

= 男女ほぼ同じ

M、Fの後ろの+の記号は差が顕著な事を示す(ほぼ10%以上)。

			G	F	E	A	H	J	
1	#7.30B	国民の生活水準10年の変化	(1+2)	M	M	=	M	M	=
2	#7.30A	自分の生活水準10年の変化	(1+2)	M	F	=	M	M	=
3	#7.31	今後の生活水準	(1+2)	=	=	M	=	=	=
4	#7.18E	幸福になるか	(1)	=	=	M	=	M	M
			(2)	F	=	F	F	F	F
5	#7.18B	心の安らぎはますか	(1)	=	M	M	M	M	=
			(2)	F	F	F	F	F	=
6	#7.18C	人間の自由はふえるか	(1)	=	F	F	=	=	=
			(2)	M	M	M+	=	=	=
7	#7.18	人間の健康の面はよくなるか	(1)	=	=	=	M	=	M+
			(2)	F	F	=	F	=	F
8	#8.80	国家目標	(1)	=	F	=	=	=	F+
			(2)	M	M	=	=	M	M
			(3)	=	F	F	=	F+	M+
			(4)	F	M	M	=	=	M
9	#2.30	不安感 重い病気	(1+2)	F	F	F	F	F	= F(1)F>>M
9	#2.30D	不安感 交通事故	(1+2)	F	F+	F	F	F	F F(1)F>>M
9	#2.30E	不安感 失業	(1+2)	M	F	F	=	F	=
9	#2.30F	不安感 戦争	(1+2)	F+	F+	F+	F+	F+	F
9	#2.30G	不安感 原子力施設の事故	(1+2)	F	F	F	F+	F+	F
10	#7.80A	家計の節約 医療	(1)	=	=	=	=	=	=
10	#7.80B	家計の節約 車	(1)	=	=	=	M	=	=
10	#7.80C	家計の節約 家庭用品	(1)	F	F	F	F	F+	F+
10	#7.80D	家計の節約 食料品	(1)	F	F	F	F	F+	F+
10	#7.80E	家計の節約 美容	(1)	F+	F+	F+	F+	F+	F+
10	#7.80F	家計の節約 バカンス、休暇	(1)	=	F	=	F	F+	F+
10	#7.80G	家計の節約 衣服	(1)	F	F+	F	F	F+	(+)
10	#7.80H	家計の節約 住居	(1)	F	=	F	=	=	=
10	#7.80I	家計の節約 子供の養育	(1)	=	F	F	F	=	=
10	#7.80J	家計の節約 タバコ、アルコール	(1)	=	=	=	=	=	=
11	#4.11	先祖を尊ぶか	(1)	F	=	=	=	M	=
12	#4.10	他人の子供を養子にするか	(1)	F+	F	F	=	F	M
13	#4.80	望ましい子供の数	(3+)	=	F	M	M	F	E(4-)F
14	#2.80A	病気 頭痛、偏頭痛	(1)	F+	F+	F+	F+	F+	F+
14	#2.80B	病気 背中の傷み	(1)	F+	F+	F+	F+	-	-
14	#2.80C	病気 神経の興奮	(1)	F+	F+	F+	F+	F	F
14	#2.80D	病気 鬱病	(1)	F	F+	F	F	F	F
14	#2.80E	病気 不眠症	(1)	F	F+	F+	F	F	F
15	#2.3G	健康状態満足か	(1+2)	M	=	=	M	M	M

			G	F	E	A	H	J
16 #1.8	社会的階層	(4+5)	M	M	M	=	=	M
17 #7.81	収入か余暇か	(2)	=	=	M	M	=	M
		(1)	M	=	=	F	=	=
18 #2.8	一生働くか	(1)	=	M	M	M+	=	M+
19 #7.25	お金と仕事	(1)	M	=	M	M	=	M
20 #7.24	就職の第一条件	(1)	M	M	M	=	=	M
		(2)	M	F	M	M	M+	M
		(3)	F	=	F	=	=	F
		(4)	=	=	F	F	F	M
21 #2.81	仕事と個人生活	(1)	M+	=	M+	M		M
		(3)	F>>M(except J)					
22 #2.4	くらし方 (金持ち)	(1)	=	=	M	M	=	M
	(名をあげる)	(2)	M	M	=	M	M	=
	(趣味にあったくらし)	(3)	=	M	=	=	M	=
	(のんきに)	(4)	=	F	F	F	F	F
	(清く正しく)	(5)	=	F	=	F	F	=
	(社会につくす)	(6)	F	M	M	M	F	M (-)
23 #2.3F	生活環境満足か	(1+2)	=	=	=	M	=	=
		(1)	M	F	F	=	F	=
24 #5.80A	近所の治安 強盗にはいられること	(1+2)	F	F	F	=		F
25 #5.80B	近所の治安 急に襲われて身の危険を感じる	(1+2)	=	F	F	=		F
		(1)		F+				
26 #7.82	アリとキリギリス	(1)	M	M	M	M	M	M
27 #5.81A	生活領域の重要性 自分の家族と子供	(7)	F	F	F	F	F+	F
27 #5.81B	生活領域の重要性 職業や仕事	(7)	M	F	M+	M+	=	M+
		(1-3)	F		F	F		
27 #5.81C	生活領域の重要性 自由になる時間とくつろぎ	(7)	M	M	M	=	F	M
27 #5.81D	生活領域の重要性 友人、知人	(6+7)	M	=	F+	F	F	M
27 #5.81E	生活領域の重要性 両親、兄弟、姉妹、親戚	(6+7)	F+	=	F+	F	F	=
27 #5.81F	生活領域の重要性 宗教	(6+7)	F	F	F+	M+	F+	=
27 #5.81G	生活領域の重要性 政治、公的生活	(5-)	M+	=	M	=	=	M+
28 #2.3C	家庭に満足か	(1)	=	=	=	=	=	=
		(1+2)	F	=	F	=	=	=
29 #2.82	生活に満足か	(1)	=	F	F	=	=	=
		(1+2)	=	=	=	M	M	F
30 #7.19	才能か運か	(1)	=	=	=	=		M
31 #4.81	生活保護の考え方	(2)	M	=	=	=		M

			G	F	E	A	H	J
32 #7.1	人間らしさはへるか	(1)	=	=	=	F	F	M
		(2)	=	M	M	M	M	=
33 #4.5	子供に「金は大切」と教えるか	(1)	=	F	M	M	=	M
34 #8.1B	政治家にまかせるか	(2)	=	M	=	F	=	M
35 #2.1	しきたりに従うか	(1)	M	M	M	=	M	M
36 #7.2	心の豊かさはへらないか	(1)	=	=	=	=	F	=
37 #4.30	家庭はくつろぐ場所	(1)	F	=	F+	F	=	=
38 #4.32	離婚はすべきでないか	(1)	=	=	=	M	M+	M
		(2)	F	F	=	=	F	F
		(3)	M	M	M	=	F	=
39 #4.31	家事や子供の世話	(1)	=	=	F	=	F	=
		(3)	=	=	=	=	M	=
40 #4.4	先生が悪いことをした	(1)	=	=	=	=	M	M
41 #5.1	恩人がキトクするとき	(1)	F	=	F	=	F	=
42 #5.1B	親がキトクするとき	(1)	F	M	F	F	=	=
43 #2.5	自然と人間の関係	(1)	=	=	=	=	F	F
		(2)	M	M	M	=	M+	M+
44 #7.4	国と個人の幸福	(1)	=	M	M	M	=	M
		(2)	M	=	=	F	F	=
		(3)	=	=	=	=	M	=
45 #5.1D-1	大切な道徳 (親孝行をすること)		F+	F	F+	=	=	F
45 #5.1D-2	大切な道徳 (恩返しをすること)		=	=	F	=	M	F
45 #5.1D-3	大切な道徳 (個人の権利を尊重すること)		M	M	M	=	=	M
45 #5.1D-4	大切な道徳 (自由を尊重すること)		M	M	M	=	=	M
46 #5.6H	他人との仲か仕事か	(1)	F	=	=	F	M	=
47 #2.2B	スジかまるくか	(1)	M	M	M	=	=	M
48 #5.1C1	入社試験 (親戚)	(1)	M	=	F	F	F	M
49 #5.1C2	入社試験 (恩人の子)	(1)	M	M	=	F	F	M
50 #5.6	めんどろみる課長	(1)	M	F	=	=	=	=
		(2)	F	M	=	=	=	M
51 #2.12	他人のためか自分のためか	(1)	=	=	F	F	F	=
52 #2.12B	スキがあれば利用されるか	(1)	M	=	M	M	M+	M+
		(2)	F	=	F	F	F+	F+
53 #2.12C	人は信用できるか	(1)	=	M	=	=	=	=
54 #2.83A	現代生活の個人態度 他人を助ける	(1+2)	=	=	F	F	F	=
54 #2.83B	現代生活の個人態度 共同体	(1+2)	=	=	F	=	M	M
54 #2.83C	現代生活の個人態度 その日その日	(1+2)	=	F	F+	F	F	=
54 #2.83D	現代生活の個人態度 収入より手段	(1)	F	F	=	=	=	M
		(1+2)	=	=	F	=	=	M

			G	F	E	A	II	J	
54 #2.83E	現代生活の個人態度 孤独感	(1+2)	=	F+	F+	F	=	=	
55 #7.36	科学上の発見・利用は生活に役立つか	(1)	M	M	M	=	=	M+	
56 #7.33	コンピュータ社会は望ましいか	(1)	M	=	M	M	M	M+	
57 #7.83	科学技術 病気の治療	(1)	F	F	=	=	=	=	
57 #7.84	科学技術 人間の心の中の解明	(3+4)	F+	M	M	=	=	=	
57 #7.85	科学技術 経済的・社会的問題の解決	(4)	F	M	M	M	M	M	
58 #7.86A	今後の25年 原子力廃棄物の安全な 処理方法	(1)	=	M	M	M	M	M	
		(2)	=	F	F+	F	=	=	
58 #7.86B	今後の25年 ガンの治療方法の解明	(1)	F	=	=	=	=	M	
58 #7.86C	今後の25年 老人性痴呆の治療方法 の解明	(1)	=	=	=	=	=	M	
58 #7.86D	今後の25年 宇宙ステーションでの 生活	(1)	M+	M+	M+	M+	M+	M	
59 #7.34	省エネルギーは重要か	(1)	F	=	M+	=	=	M	
60 #7.35	環境の保護は重要か	(1)	F	M	M	=	=	M	
62 #3.1A	宗教を信じるか	(1)	F+	F	F	F	F+	=	
63 #3.2	「宗教心」は大切か	(1)	F+	F	F	F	F	=	
64 #3.3	宗教は一つか	(1)	=	=	M	=	=	M	
65 #8.81	革新か保守か	(7+)	M	=	M	M	M	M	J:(DK)F+
66 #8.82	政治関心	(1+2)	M+	M+	M+	=	M	M+	J:(DK)F+
67 #8.2E	「民主主義」はよいか	(1)	=	M+	M	M+	M	M+	J:(DK)F+
67 #8.2F	「資本主義」はよいか	(1)	=	M	M	M+	M+	M+	J:(DK)F+
67 #8.2H	「社会主義」はよいか	(1)	=	M	M	=	=	=	J:(DK)F+
		(3)	=	=	=	M	M+	M	
67 #8.2G	「自由主義」はよいか	(1)	=	F	=	=	=	M+	J:(DK)F+
		(3)	=	M	M	M	M	=	
68 #8.83	民主政治に満足か	(1+2)	=	M+	=	=	=	M+	J:(DK)F+
		(1)	=	=	M	M	=	=	
69 #8.84	裁判制度は機能しているか	(1+2)	M	M	=	=	M	M+	J:(DK)F+
		(1)	=	=	=	=	=	M	
70 #7.87	労働者階級と資本家階級	(1)	M	M	=	=	M	M	J:(DK)F+
71 #8.8	社会は変えるべきか	(1+2)	M	M	=	=	=	M	J:(DK)F+
		(3)	=	F	=	=	=	M	
72 #8.85A	社会の根本改革は必要か	(1)	M	=	F+	F	=	=	J:(DK)F+
74 #8.86	政党支持(強度)	(1+2)	M	M	M	M+	=	=	J:(DK)F+

§ 3 宗教による意見差の国際比較

所属宗教による意見差の国際比較には、各国の調査した回答者の一、二番に頻度の多い宗教、宗派（キリスト教の場合）、又は無宗教（又は無信仰）を選び、それぞれの質問項に対する二つのカテゴリーのパーセントの比較を行った。そしてその比較により有意差の有るものを中心に、それぞれの質問項目について、各国の比較を行った。以下、質問項目順に述べるが、それぞれの項目と各国のパーセントは〔IV〕の集計一覧を参照していただきたい。

問 1. 自国民全体の生活水準は、この10年間でどう変わったと思いますか

日本において“ややわるくなった”が仏教系の回答者に多く、無宗教（以下無信仰も含め無宗教とする）の回答者との間で有意差がみられた。

西ドイツにおいても、“やや良くなった”がプロテスタント系の回答者（以下プロテスタント系とする）に多く、逆に“変わらない”がカソリックの回答者（以下カトリックとする）に多く、いずれも10%前後の有意差がみられた。

他の3ヶ国には有意差がみられなかった。

問 2. あなたの生活水準は、この10年間でどう変わりましたか

日本において、“非常によくなった”については仏教系が無宗教よりやや高く、“変わらない”が無宗教にやや高く、“ややわるくなった”は仏教系にやや高く、これらの3つの選択肢について仏教系と無宗教の間に有意差がみられた。

アメリカにおいて、“非常によくなった”はプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“変わらない”と“非常にわるくなった”はプロテスタント系に多くみられた。

イギリスにおいては、“変わらない”がプロテスタント系に多く、無宗教との間に有意差がみられた。

他の2ヶ国については、有意差がみられなかった。

問 3. これから先の5年間に、あなたの生活状態はよくなると思いますか、それとも悪くなると思いますか

日本において、“ややよくなるだろう”については無宗教に多く、また“変わらない”が逆に仏教系に多く、共に仏教系と無宗教の間に有意差がみられた。

フランスにおいて、“非常によくなるだろう”はパーセントが少ないものの、無宗教の方がカソリックに比べ2倍強多く、この選択肢においてのみ有意差がみられた。

イギリスにおいて、“変わらないだろう”と“非常に悪くなるだろう”が無宗教に多く、プロテスタントとの間に有意差がみられた。

他の2ヶ国については有意差がみられなかった。

問 4. これから先、ひとびとは幸福になれると思いますか、不幸になると思いますか

この質問については各国とも宗教、宗派、そして無宗教の間に有意差がみられなかった。ただ、頻度が一、二番に高いという関係で日本、フランス、イギリスにおいて、所属宗教のある回答者（日本は仏教系で、イギリスはプロテスタント系）と無宗教の回答者との比較

を行っており、他の2ヶ国においても同様の比較を行うと、この質問の内容からして、有意差がみられるとは考えられる。

問5. これから先、心の安らかさは、ますと思いませんか、へると思いませんか
アメリカにおいては、“へる”がプロテスタント系に多く、カソリックとの間に有意差がみられた。

他の4ヶ国においては、有意差がみられなかったが、質問4と同様、この質問の内容からして、無宗教との比較において、有意差がみられるとは考えられる。

問6. では、人間の自由はふえると思いませんか、へると思いませんか
日本においては、“へる”が仏教系より無宗教にやや多く、有意差がみられた。
フランスにおいては、“変わらない”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。
イギリスにおいては、“へる”が日本と同様プロテスタント系より無宗教に多く有意差がみられた。
アメリカにおいては、“ふえる”がプロテスタント系よりカソリックに、“へる”が逆にカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。
西ドイツにおいては、プロテスタントとカソリックの間において有意差はみられなかった。

問7. これから先、人間の健康の面はよくなってゆくと思いませんか、わるくなると思いませんか
西ドイツにおいては、“よくなる”と“変わらない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。
イギリスにおいては、“よくなる”が無宗教よりプロテスタントに、“わるくなった”が逆にプロテスタントより無宗教に多く、有意差がみられた。
他の3ヶ国については、有意差がみられなかった。

問8. 自国の向こう10年から15年間の重視する国家目標として
日本においては、“国家の秩序を維持すること”が無宗教より仏教系に多く、有意差がみられた。
フランスにおいては、“国家の秩序を維持すること”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“重要な政策を決める時、人々にもっと発言させること”と“言論の自由を守ること”がカソリックより無宗教に多く、それぞれ有意差がみられた。
イギリスにおいては、“国家の秩序を維持すること”が無宗教よりプロテスタント系に多く、“重要な政策を決める時、人々にもっと発言させること”が逆にプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。
他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問9. ときどき自分自身のことや家族のことで不安になることがあると思いませんか
「重い病気の不安」について
日本においては、“かなり感じる”が無宗教より仏教系が多く、逆に“少しは感じる”が仏

教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“全く感じない”がカソリックより無宗教にやや多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“非常に感じる”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“全く感じない”はカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

「交通事故」について

フランスにおいては、“かなり感じる”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“少しは感じる”と“全く感じない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“少しは感じる”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“非常に感じる”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“全く感じない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

「失業」について

日本においては、“少しは感じる”が仏教系より無宗教に多く、逆に“全く感じない”が無宗教より仏教系に多く、それぞれ有意差がみられた。

イギリスにおいては、“非常に感じる”がプロテスタント系より無宗教に多く、逆に“全く感じない”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“少しは感じる”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“全く感じない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、それぞれ有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

「戦争」について

日本においては、“非常に感じる”が無宗教より仏教系に多く、有意差がみられた。

西ドイツにおいては、“少しは感じる”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

フランスにおいては、“かなり感じる”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

「原子力施設の事故」について

アメリカにおいては、“非常に感じる”がプロテスタント系よりカソリックにやや多く、逆に“少しは感じる”がカソリックよりプロテスタント系にやや多く、それぞれ有意差がみられた。

他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問10. 家計のやりくりをしなければならぬことがありますか

フランスにおいては、“ある”がカソリックより無宗教に多く、逆に“ない”が無宗教より

カソリックに多く、有意差がみられた。
他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりで医療費を節約することについて
アメリカにおいては、“あり”がカソリックよりプロテスタント系に多く、逆に“なし”がプロテスタント系よりカトリックに多く、それぞれ有意差がみられた。
他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりで車の費用を節約することについて
西ドイツにおいては、“あり”がカソリックよりプロテスタント系に多く、逆に“なし”がプロテスタント系よりカソリックが多く、有意差がみられた。
フランスにおいては“あり”がカソリックより無宗教に多く、逆に“なし”がプロテスタント系よりカソリック系に多く、それぞれ有意差がみられた。
他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりで家庭用品を節約することについて
イギリスにおいては“あり”がプロテスタント系より無宗教に多く、逆に“なし”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。
他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりで食糧品を節約することについて
日本においては、“あり”が仏教系より無宗教系がやや多く、逆に“なし”が無宗教より仏教系がやや多く有意差がみられた。
他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりで美容を節約することについて
5ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりでレジャー、休暇を節約することについて
日本においては、“あり”が仏教系より無宗教がやや多く、逆に“なし”が無宗教より仏教系がやや多く、共に有意差がみられた。
フランスにおいても、“あり”がカソリックより無宗教が多く有意差がみられた。

家計のやりくりで衣料費を節約することについて
フランスにおいては、“なし”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。
アメリカにおいても、“なし”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。
他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりで住居費を節約することについて

フランスにおいては、“あり”がカソリックより無宗教に多く、逆に“なし”が無宗教よりカソリックに多く、共に有意差がみとめられた。

イギリスにおいては“あり”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりで子供の養育費を節約することについて

5ヶ国においては、有意差がみられなかった。

家計のやりくりでタバコ・酒を節約することについて

西ドイツにおいては、“あり”がカソリックよりプロテスタント系にやや多く、逆に“なし”がプロテスタン系よりカソリックに多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいても、“あり”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

その他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問11. あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか

日本においては、“普通より尊ぶ方”が無宗教より仏教系にかなり多く、逆に“普通より尊ばない方”が仏教系より無宗教にかなり多く、共に有意差がみられた。また、“普通”が仏教系より無宗教にかなり多く、これも有意差がみられた。

フランスにおいては、“普通より尊ぶ方”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“普通より尊ばない方”がカソリックより無宗教にかなり（3倍弱）多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“普通より尊ぶ方”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“普通より尊ばない方”がプロテスタント系より無宗教にかなり（3倍弱）多く、共に有意差がみられた。

日本、フランス、そしてイギリスを比較してみると、この質問について、フランスとイギリスが類似の傾向を示しているのに対して、日本は無宗教と仏教系の間にかなりのパーセントのひらきがみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問12. 子供がないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それともつがせる必要はないと思いますか

日本においては、“つがせた方がよい”が無宗教より仏教系に2倍も多く、逆に“つがせる必要はない”が仏教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。この結果を質問11の日本の結果を比較すると“普通より先祖を尊ぶ方”が無宗教より仏教系にかなり多く、存在しても先祖と家の後継者の間には血のつながりが必要ということにかならずしもこだわらないことが窺えた。

フランスにおいては、“つがせる必要はない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“つがせた方がよい”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆

に“うがせる必要はない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

“うがせる必要はない”について、日本・フランスそしてアメリカの3ヶ国を比較してみると、日本とフランスでは宗教を信じている人々より無宗教の人々にこの意見が多く、アメリカにおいては、宗教を信じている人々でも、カソリックよりプロテスタント系に多いことが判かり、この項目は進歩的・近代的考え方と結びついていることが考えられる。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問13. 現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思えますか

日本においては、2人が仏教系より無宗教に多く、3人が逆に無宗教より仏教系に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、1人がカソリックより無宗教に多く、3人が逆に無宗教よりカソリックに多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、4人が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられるものの、プロテスタント系で4人と回答したものは10%にすぎない。

アメリカにおいては、2人がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。しかし、カソリック信者について、フランスとアメリカを比較してみると、いずれも3人以上の子供の数が望ましいと回答した者の数が2人以下と回答した者の数より多い。

西ドイツにおいては、有意差がみられなかった。

問14. ここ1ヶ月の病気に関する悩みとして

日本においては、“背中の痛み”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

西ドイツにおいては、“うつ状態”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“不眠症”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆になかったことがない者がプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

その他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問15. あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか

日本においては、“非常に満足”が無宗教より仏教系にやや多く、有意差がみられた。その他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問16. 社会的階層について

フランスにおいては、“中の下”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“中の中”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

しかし、フランスとアメリカにおいては、全体としてカソリックと無宗教の間及びプロテスタント系とカソリックの間におけるパーセントの差はあまりない。

その他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問17. 収入か余暇かについて

フランスにおいては、“余暇”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。しかし、アメリカにおいては“余暇”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられ、フランスとアメリカのカソリック信者の、この質問に対する相違がみられた。その他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問18. 一生働くかについて

日本においては、“ずっと働く”が無宗教より仏教系に多く、有意差がみられた。その他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問19. お金か仕事かについて

日本においては、“仕事”が無宗教より仏教系に多く、逆に“お金”が仏教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。西ドイツにおいては、“仕事”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“お金”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。フランスにおいては、“仕事”がカソリックより無宗教に多く、逆に“お金”が無宗教よりカソリックに多く、共に有意差がみられた。アメリカにおいては、“お金”が、プロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。この質問に対しては、西ドイツ、フランス、そしてアメリカの間で一般的傾向がみられない。イギリスにおいては、有意差がみられなかった。

問20. 就職の第1の条件として

日本においては、“お金のことを気にしないですむ程よい給料”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。西ドイツにおいては、“倒産や失業の恐れがない仕事”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。フランスにおいては、やはり“倒産や失業の恐れがない仕事”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。イギリスにおいては、日本と同じく“お金のことを気にしないですむ程よい給料”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。アメリカにおいては、有意差がみられなかった。

問21. 仕事と個人生活や家庭生活とのコンフリクトについて

フランスにおいては、“ある”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。その他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問22. 暮らし方について

日本においては、“金や名譽を考えずに、自分の趣味にあった暮らし方をする”が仏教

系より無宗教にやや多く、“世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと”と“自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと”がパーセントが低いものの、無宗教より仏教系に多く、有意差がみられた。

西ドイツにおいては、“自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと”がカソリックよりプロテスタント系にかなり多く（5倍強）、有意差がみられた。

フランスにおいては、日本と同じく“世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと”と“自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと”が無宗教よりカソリックに2倍前後と多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“一生けんめい働き、金持ちになること”がプロテスタント系より無宗教に2倍弱と多く、逆に“世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと”が無宗教よりプロテスタント系に5倍多く、共に有意差がみられた。

アメリカにおいては、“金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をする”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと”がパーセントがあまり高くないものの、カソリックよりプロテスタント系に2.5倍と多く、共に有意差がみられた。

この質問に関しては、日本とアメリカよりヨーロッパの3ヶ国に宗教と無宗教との間、又は宗派の間に顕著な差がみられ、宗教のインパクトが大きいことが判明した。

問23. 生活環境の満足度について

日本においては、“満足”が無宗教より仏教系に多く、逆に“あまり満足していない”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

フランスにおいては“満足”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“あまり満足していない”と“満足していない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“満足”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“あまり満足していない”と“満足していない”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問24. 近所の治安について

日本においては、「強盗にはいられること」に関し、“重大な問題になっている”が無宗教より仏教系にパーセントが低いものの2倍多く、逆に“大して問題にはなっていない”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

また、「急に襲われて身の危険を感じること」に関して、“重大な問題になっている”がパーセントが低いものの無宗教より仏教系に多く、有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問25. アリとキリギリスについては、各国とも有意差がみられなかった。

問27. 生活領域の重要性について

日本においては、「家族や子供」に関し、“重要”が無宗教より仏教系に多く、有意差がみ

られた。

「職業や仕事」に関し、“やや重要”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

「友人・知人」に関し、“やや重要”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

「両親・兄弟・姉妹・親戚」に関し、“どちらともいえない”が仏教系より無宗教に多く、逆に“重要”が無宗教より仏教系に多く、共に有意差がみられた。

また「宗教」に関し、“重要でない”が仏教系より無宗教に9倍弱多く、逆に“重要”が無宗教より仏教系に6.5倍多く、有意差がみられた。

最後に「政治」に関し、パーセントは低いものの“重要でない”が仏教系より無宗教に2倍多く、逆に“重要”が無宗教より仏教系に2倍弱多く、共に有意差がみられた。

西ドイツにおいては、「家族や子供」に関し、“やや重要”がパーセントが低いもののカソリックよりプロテスタント系に2倍多く有意差がみられた。

「友人・知人」に関し、“やや重要”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

「両親・兄弟・姉妹・親戚」に関し、“あまり重要でない”と“やや重要”がカソリックよりプロテスタント系に多く、逆に“重要”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

「宗教」に関し、“あまり重要でない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、逆に“重要”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

最後に「政治」に関し、“やや重要”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

フランスにおいては、「職業や仕事」に関し“あまり重要でない”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“やや重要”がカソリックより無宗教に多く、共に有意差がみられた。

「自由になる時間とくつろぎ」に関し、“どちらともいえない”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。

「両親・兄弟・姉妹・親戚」に関し、“重要でない”がカソリックより無宗教に多く、逆に“重要”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。

「政治」に関し、“重要でない”がカソリックより無宗教に多く、逆に“あまり重要でない”は無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、「家族や子供」に関し、“やや重要”がプロテスタント系より無宗教に多く、“重要”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

「職業や仕事」に関し、“重要でない”が無宗教よりプロテスタント系に2倍以上多く、逆に“やや重要”がプロテスタント系より無宗教に多く、また“重要”がプロテスタント系より無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

「自由になる時間とくつろぎ」に関し、“やや重要”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

「宗教」に関し、“重要でない”がプロテスタント系より無宗教に6.5倍弱多く、逆に“重要”が無宗教よりプロテスタント系に8倍弱多く、有意差がみられた。

「政治」に関し、“重要でない”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、「職業や仕事」に関し、“あまり重要でない”がプロテスタント系よりカソリックにやや多く、有意差がみられた。

「両親・兄弟・姉妹・親戚」に関し、“それほど重要でない”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

「宗教」に関し、“あまり重要でない”がパーセントが低いものの、プロテスタント系よりカソリックに2倍多く、逆に“重要”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

問28. 家族への満足度について

日本においては、“やや不満”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

フランスにおいては、“満足”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“満足”が無宗教よりプロテスタント系に多く、また“どちらともいえない”がプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問29. 今の生活への満足度について

日本においては、“満足”が無宗教より仏教系に多く、逆に“どちらともいえない”と“やや不満”が仏教系より無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

フランスにおいては、“満足”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“やや不満”がパーセントが低いもののプロテスタント系より無宗教に2倍多く、有意差がみられた。

その他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問30. 人の成功には、個人の才能や努力か、運やチャンスかについて

日本においては、“個人の才能や努力”が無宗教より仏教系に多く、逆に“運やチャンス”が仏教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

アメリカにおいては、“運やチャンス”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問31. 生活保護の考え方については、各国とも有意差がみられなかった。

問32. 科学や技術の発展によって、人間らしさがなくなっていくという考え方について
フランスにおいては、“いちがいにはいえない”がカソリックより無宗教に多く、逆に“反対”が無宗教よりカソリックに多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“賛成”が無宗教よりプロテスタント系に多く、“いちがいにはいえない”がプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問33. 子供に「金は大切」と教えることについて

日本においては、“賛成”が無宗教より仏教系に多く、逆に“反対”が仏教系より無宗教に多く、さらに“いちがいにはいえない”が仏教系より無宗教に多く、いずれも有意差がみ

られた。

他の4ヶ国においては、有意差がみられず、この質問への宗教のインパクトは日本においてのみみられる。

問34. 政治をすぐれた政治家にまかせる方がよいかについて

日本においては、“賛成”が無宗教より仏教系に多く、逆に“反対”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

フランスにおいては、“反対”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“賛成”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“反対”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

この質問について、日本・フランスそしてアメリカを比較すると、無宗教より所属宗教を持っている者の方が、しかもプロテスタント系よりカソリックが賛成する傾向にあるとみることができる。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問35. 自分の考えをおし通すべきか、世間の慣習に従うべきかについて

日本においては、“従え”が無宗教より仏教系に多く、“場合による”が逆に仏教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“場合による”が無宗教よりカソリックに多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“おし通せ”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問36. 世の中が機械化しても、心の豊かさ（人間らしさ）はへらないかについて、各国とも有意差はみられなかった。

問37. 家庭はくつろぐただ1つの場所かについて

日本においては、“そう思う”が無宗教より仏教系に多く、逆に“そうは思わない”が仏教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“そう思う”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“そうは思わない”がカソリックより無宗教に多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“そう思う”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“そうは思わない”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“そうは思わない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

西ドイツにおいては、有意差がみられなかった。

問38. 離婚はすべきかについて

日本においては、“離婚すべきでない”が無宗教より仏教系に多く、逆に“ひどい場合には離婚してもよい”が仏教系より無宗教に多く、“二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよ

い”が仏教系より無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

西ドイツにおいては、“離婚すべきでない”がプロテスタント系よりカソリックに多く、“二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“離婚すべきでない”と“ひどい場合には離婚してもよい”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい”がカソリックより無宗教に2倍弱多く、いずれも有意差がみられた。

イギリスにおいては、“離婚はすべきでない”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“二人の合意さえあれば、いつ離婚してもよい”がプロテスタント系より無宗教に2倍弱多く、共に有意差がみられる。

アメリカにおいては、有意差がみられなかった。

問39. 家事や子供の世話について

日本においては、“すべて女性の仕事である”が無宗教より仏教系にやや多く、有意差がみられた。

西ドイツにおいては、“すべて女性の仕事である”がプロテスタント系よりカソリックに2倍多く、“すべての仕事は男性、女性の区別なくやるべきだ”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“いくつかは女性の仕事である”が無宗教よりカソリックに多く、“すべての仕事は男性、女性の区別なくやるべきだ”がカソリックより無宗教に多く、共に有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問40. 先生が何か悪いことをしたのを親が知った場合、子供に対してどういうかについて、各国とも有意差がみられなかった。

問41. 恩人が危篤の場合に、すぐ故郷に帰るか、それとも大事な会議に出席するかについて

日本においては、“なにをおいてもすぐ故郷に帰る”が無宗教より仏教系に多く、逆に“故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

問42. それでは親が危篤の場合に、すぐ故郷へ帰るか、それとも大事な会議に出席するかについて

日本においては、“なにをおいてもすぐ故郷に帰る”が無宗教より仏教系に多く、有意差がみられた。

他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問43. 自然と人間との関係については、各国とも有意差がみられなかった。

問44. 国と個人の幸福について、各国とも有意差がみられなかった。

問45. 大切な道徳と民主主義について

日本においては、“親孝行、親に対する愛情と尊敬”と“助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する”が無宗教より仏教系に多く、逆に“個人の権利を尊重すること”と“個人の自由を尊重すること”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。

この質問に関する日本の特色は、仏教系と無宗教のいずれもが、“親孝行、親に対する愛情と尊敬”を最も大切なものとして評価（仏教系は82.0%で無宗教は75.9%）し、“個人の権利を尊重する”は大切なものとしては一番低く評価（仏教系は22.8%で無宗教は25.5%）していることと、大切なものとしての項目のランクは、仏教系も無宗教も同じであることである。

西ドイツにおいては、“親孝行、親に対する愛情と尊敬”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“個人の自由を尊重すること”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

フランスにおいては、“親孝行、親に対する愛情と尊敬”と“助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“個人の権利を尊重すること”と“個人の自由を尊重すること”がカソリックより無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

イギリスにおいては、“親孝行、親に対する愛情と尊敬”と“助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“個人の権利を尊重すること”と“個人の自由を尊重すること”がプロテスタント系より無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

アメリカにおいては、“個人の権利を尊重すること”がプロテスタント系よりカソリックにやや多く、有意差がみられた。

この質問については、各国において所属宗教をもつ者と無宗教の間、ないしはプロテスタント系とカソリック間で、しかもアメリカの項目と西ドイツの2項目以外、3ヶ国に共通して4項目に有意差がみられ、道徳や民主主義にとって要である個人の権利と自由の尊重がそれぞれ宗教と関連していることが理解できる。

問46. 他人との仲か仕事かについて

フランスにおいては、“仕事はよくできるが、他人の事情や心配事には無関心な人”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

他の5ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問47. 物事を決定する時に一定の原則に従うことに重点をおく人と、他人の調和をはかることに重点をおく人とではどちらが好きかについては、各国において有意差がみられなかった。

問48. 新入社員を1人採用する時に、入社試験で一番できた人と親戚とではどちらを採用するかについて

西ドイツにおいては、“親戚を採用するようにいう”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

その他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問49. 新入社員を1人採用する時に、入社試験で一番できた人と昔世話になった人の子供とではどちらを採用するかについて

西ドイツにおいては、“昔世話になった人の子供を採用するようにいう”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

前の質問とあわせ、西ドイツのカソリック信者には、採用に関して縁故や温情主義的要素がみられる。

その他の4ヶ国においては、前問と同様、有意差がみられなかった。

問50. 使われるとしたら、規則を重視する課長と、めんどろをよく見る課長とではどちらがよいかについて

西ドイツにおいては、“時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもありますが、仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見る”がプロテスタント系よりカソリックが多く、有意差がみられた。

これも、西ドイツだけが有意差がみられ、他の4ヶ国においては有意差がみられなかった。

問51. たいていの人は他人の役にたとうとしているか、自分のことだけを考えているかについて

イギリスにおいては、“他人の役にたとうとしている”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問52. 他人は機会があれば利用しようとしているかについて

イギリスにおいては、“他人は機会があれば（自分）利用しようとしていると思う”がプロテスタント系より無宗教に多く、逆に“そんなことはないと思う”がプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

前問の結果と同様、他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問53. たいていの人は信頼できるかについて

西ドイツにおいては、“常に用心をした方がよい”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“信頼できると思う”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“常に用心した方がよい”がプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

その他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問54. 現代生活の個人の態度に関する意見について

日本においては、「たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる」に関し、“賛成”が無宗教より仏教系にやや多く、逆に“やや賛成”が仏教系より無宗教にやや多く、有意差がみられた。

「結びつきが強い地域社会に自分が属していると思う」に関し、“賛成”が無宗教より仏教系に多く、逆に“やや賛成”と“反対”が仏教系より無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

「現代は、自分も含めて、人々は孤独で他人から切り離されていると感じることが多い」に関し、“やや反対”が仏教系より無宗教に多く、逆に“反対”が無宗教より仏教系に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、「たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる」に関し、“やや賛成”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“やや反対”と“反対”がカソリックより無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

「結びつきが強い地域社会に自分が属していると思う」に関し、“賛成”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“反対”がカソリックより無宗教に多く、共に有意差がみられた。

「今日、人は明日のことを心配しないでその日その日を生きざるを得ない」に関し、“賛成”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

「収入を得るための手段の方が、得られる収入の額よりも大切である」に関し、“やや賛成”が無宗教よりカソリックに多く、“やや反対”がカソリックより無宗教に多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、「たいていの人は他人を助けるために多少の努力をすることができる」に関し、“やや反対”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

「結びつきが強い地域社会に自分が属していると思う」に関し、“賛成”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“反対”がプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

「今日、人は明日のことを心配しないでその日その日を生きざるを得ない」に関し、“賛成”がプロテスタント系より無宗教に多く、逆に“反対”が無宗教よりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

「収入を得るための手段の方が、得られる収入の額よりも大切である」に関し、“反対”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

問55. 科学上の発見とその利用は、日常生活に役立つかについて

西ドイツにおいては、“役立っている”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“少しは役立っている”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“役立っていない”がカソリックより無宗教に2倍多く、有意差がみられた。

他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問56. コンピュータ社会は望ましいかについては、各国とも有意差がみられなかった。

問57. 科学技術の発展について

日本においては、「病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうがよいものもある」に関し、“全くそのとおりだと思う”が無宗教より仏教系に多く、逆に“そうは思わない”と“決してそうは思わない”が仏教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

「今日、我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される」に関し、“全くそのとおりだと思う”と“そう思う”が無宗教より仏教系に多く、逆に“そうは思わない”が仏教系より無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

フランスにおいては、「科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる」に関し、“決してそうは思わない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

「今日我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される」に関し、“決してそうは思わない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、「科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる」に関し、“全くそのとおりだと思う”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“決してそうは思わない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

「今日我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される」に関し、“全くそのとおりだと思う”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

西ドイツとイギリスにおいては、有意差がみられなかった。

問58. 今後25年の間に実現することについて

「宇宙ステーションでの生活」に関し、日本においては“多分実現する”が仏教系より無宗教に多く、逆に“実現しない”が無宗教より仏教系に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、「老人性痴呆症（ぼけ）の治療方法の解明」に関し、“実現しない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

「宇宙ステーションでの生活」に関し、“多分実現する”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、「原子力廃棄物の安全な処理方法」に関し、“多分実現する”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

「ガンの治療方法の解明」に関し、“多分実現する”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“実現する可能性は低い”がプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

他の3ヶ国においては、有意差はみられなかった。

問59. 省エネルギーは重要かについて

西ドイツにおいては、“非常に重要である”がプロテスタント系よりカソリックに多く、“重要である”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“重要ではない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“非常に重要である”が無宗教よりプロテスタント系に多く、“重要である”がプロテスタント系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問60. 環境の保護の重要性について

日本においては、“あまり重要でない”が仏教系より無宗教に多く、有意差がみられた。イギリスにおいては、“非常に重要である”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問63. 「宗教心」は大切かについて

日本においては、“大切”が無宗教より仏教系に多く、逆に“大切でない”が仏教系より無宗教に実に9.5倍も多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“大切”が無宗教よりカソリックに2.1倍多く、逆に“大切でない”がカソリックより無宗教に3.6倍多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“大切”が無宗教よりプロテスタント系に2.4倍多く、逆に“大切でない”がプロテスタント系より無宗教に2.9倍多く、共に有意差がみられた。

アメリカにおいては、“大切”がカソリックよりプロテスタント系に多く、逆に“大切でない”がプロテスタント系よりカソリックに2.3倍多く、共に有意差がみられた。

西ドイツにおいては、有意差がみられなかった。

問64. 宗教は1つかについて

日本においては、“賛成”が無宗教より仏教系に多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“反対”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“賛成”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“反対”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問65. 革新か保守かについて

日本においては、“革新”がパーセントは低いものの無宗教より仏教系に3倍多く、また“保守”も無宗教より仏教系に2倍多く、有意差がみられた。このことは無宗教は一般に革新的であるという通念を否定することになる。

西ドイツにおいては、中間に近い“微少の革新”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

フランスにおいては、“革新”の度合いが高くなるにしたがって、カソリックに対する無宗教の割合が増大し、最も革新の度合いの高い場合には、カソリックより無宗教が4倍強多く、逆に保守の度合いが高くなるにしたがって、革新の場合のように割合の程度は高くないものの、無宗教に対するカソリックの割合が増大し、最も保守の度合いの高い場合は、無宗教よりカソリックが2倍多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“微少の革新”と“中間（つまりどちらでもない）”がプロテスタント系より無宗教に多く、逆に“微少の保守”と“やや保守”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

しかし、無宗教とプロテスタント系とのパーセントのひらきはフランス程ではない。

アメリカにおいては、“やや革新”がプロテスタント系よりカソリックに2倍強多く、逆に

“保守”がカソリックよりプロテスタント系に2倍弱多く、有意差がみられた。
この結果からアメリカのカソリック信者はプロテスタント系信者より革新的と言える。

問66. 政治への関心について

日本においては、“非常に関心がある”が無宗教より仏教系に2倍多く、逆に“全く関心がない”が仏教系より無宗教に2倍強多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“全く関心がない”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問67-a. 民主主義はよいかについて

日本においては、“よい”が無宗教より仏教系に多く、逆に“時と場合による”が仏教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“よい”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“よくない”がプロテスタント系より無宗教に2倍強多く、共に有意差がみられた。

アメリカにおいては、“時と場合による”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問67-b. 資本主義はよいかについて

フランスにおいては、“よくない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問67-c. 社会主義はよいかについて

日本において、“時と場合による”が仏教系より無宗教に多く、逆に“よくない”が無宗教より仏教系に多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“よくない”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“時と場合による”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問67-d. 自由主義はよいかについて

フランスにおいては、“よくない”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“時と場合による”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“よくない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問68. 自国の民主政治の運営のしかたについて

日本においては、“非常に満足”と“かなり満足”が無宗教より仏教系に多く、逆に“あま

り満足でない”が仏教系より無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

フランスにおいては、“かなり満足”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“あまり満足していない”と“全く不満”がカソリックより無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。イギリスにおいては、“かなり満足”が無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“あまり満足していない”と“全く不満”がプロテスタント系より無宗教に多く、いずれも有意差がみられた。

アメリカにおいては、“あまり満足していない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

西ドイツにおいては、有意差がみられなかった。

問69. 自国の裁判制度の機能について

日本においては、“非常によく機能している”が無宗教より仏教系に多く、逆に“あまりよく機能していない”が仏教系より無宗教に多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“かなりよく機能している”が無宗教よりカソリックに多く、逆に“全然よく機能していない”がカソリックより無宗教に2倍多く、共に有意差がみられた。

イギリスにおいては、“かなりよく機能している”が無宗教よりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、“かなりよく機能している”がプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“あまりよく機能していない”と“全然よく機能していない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、いずれも有意差がみられた。

西ドイツにおいては、有意差がみられなかった。

問70. 労働者と経営者について

日本においては、「会社がもうかれれば労働者の賃金も上がるというように、労働者と経営者の利害は結局において一致するのだから労働者と経営者は協力しなければならない」に“賛成”が無宗教より仏教系に多く、有意差がみられた。

フランスにおいては「労働者と経営者の利害は、全くあい反しているから、労働者と経営者はあくまで戦わなければならない」に“賛成”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、「労働者と経営者の利害は、全くあい反しているから、労働者と経営者はあくまで戦わなければならない」に“賛成”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいては、「労働者と経営者の利害は、全くあい反しているから、労働者と経営者はあくまで戦わなければならない」に“賛成”がプロテスタント系よりカソリック系に2倍強多く、逆に「会社がもうかれれば労働者の賃金も上がるというように、労働者と経営者の利害は結局において一致するのだから、労働者と経営者は協力しなければならない。」に“賛成”がカソリックよりプロテスタント系に多く、共に有意差がみられた。

西ドイツにおいては、有意差がみられなかった。

問71. 我々が住んでいる社会を変えるべきかについて

イギリスにおいては、“われわれの社会の仕組みは、革命によって根本的に変えなければならない”がプロテスタント系より無宗教に2倍多く、有意差がみられた。

その他の4ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問72-a. 自国の社会の根本改革の必要性について

西ドイツにおいては、“思う”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

アメリカにおいても、“思う”がカソリックよりプロテスタント系に多く、有意差がみられた。

他の3ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問72-b. 問72-aで“思う”と回答した人に対し、その変革は漸進的なものか急激なものかについて

西ドイツにおいては、“漸進的な改革がよい”がカソリックよりプロテスタント系に多く、逆に“急激な改革がよい”がプロテスタント系よりカソリックに多く、共に有意差がみられた。

フランスにおいては、“急激な改革がよい”がカソリックより無宗教に多く、有意差がみられた。

イギリスにおいては、“急激な改革がよい”がプロテスタント系より無宗教に多く、有意差がみられた。

他の2ヶ国においては、有意差がみられなかった。

問74. 自分の考えと支持政党との近さの度合いについて

日本においては、“非常に近い”が無宗教より仏教系に3倍強、そして“かなり近い”も無宗教より仏教系に多く、共に有意差がみられた。

西ドイツにおいては、“かなり近い”がプロテスタント系よりカソリックに多く、有意差がみられた。

次に、質問に対して、宗派をもつ者と無宗教の者の中で、又は宗派（プロテスタント系とカソリック）の間で、有意差がみられるものを5ヶ国について比較してみると、日本が、59の質問について有意差があり、西ドイツは28、フランスは57、イギリスは50、アメリカは57である。5ヶ国のうち日本、フランスそしてイギリスに数が多いのは、これら3ヶ国において、宗教をもつ者と無宗教の者との比較を行ったことによると考えられる。もし、西ドイツとアメリカにおいても宗派間ではなく、宗教をもつ者と無宗教の者との間の比較を行うと、他の3ヶ国と類似の結果がみられたかもしれない。

まず最初に、宗教を持っている者同士の比較として、西ドイツとアメリカのプロテスタント系とカソリックの間に共通して有意差のある質問項目を番号順にみる。

問19. お金か仕事かについて

“いくらお金があっても、仕事がなければ人生はつまらない”が西ドイツにおいてプロテスタント系よりカソリックに多く、逆に“お金があれば、仕事がなくとも人生がつまらないとは思わない”が西ドイツにおいては、カソリックよりプロテスタント系に多く、アメリカにおいては、プロテスタント系よりカソリックに多くみられた。

この質問に関しては、アメリカのカソリックと西ドイツのプロテスタント系がお金重視で物質的、そしてアメリカのプロテスタント系と西ドイツのカソリックが仕事重視で、それぞれ類似の意識を、もっていることがわかる。

問22. 暮らし方について

“自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと”が西ドイツではパーセントが低いものの、カソリックよりプロテスタント系に8倍強多く、“金や名誉を考えずに、自分の趣味にあった暮らし方をする”がアメリカではプロテスタント系よりカソリックに多く、また“世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しくくらすこと”がカソリックよりプロテスタント系に2.5倍多く、アメリカにおいてビュートニックな考え方が依然としてプロテスタント系の人々に息づいていることがわかる。

問27-e. 「両親・兄弟・姉妹・親戚の生活領域での重要性」について

西ドイツでは、重要でない方がプロテスタント系に多く、重要である方がカソリックに多い。アメリカでは、重要でない方がプロテスタント系にやや多いものの、重要である方はプロテスタント系もカソリックも同じで、両国において生活領域での身内の重要性はどちらかというカソリックに多くみられると言ってよい。

問27-f. 宗教の生活領域での重要性について

西ドイツにおいては、“あまり重要でない”がカソリックよりプロテスタント系に多く、逆に“重要である”がプロテスタント系よりカソリックに多いが、アメリカにおいては“あまり重要でない”がプロテスタント系よりカソリックに多く、この質問でも質問19と同様、西ドイツとアメリカの間で、プロテスタント系とカソリックが逆転している。

問45. 大切なことについて

“親孝行、親に対する愛情と尊敬”が西ドイツにおいてプロテスタント系よりカソリックに多く、“個人の権利を尊重すること”がアメリカにおいてプロテスタント系よりカソリックに多く、“個人の自由を尊重すること”が西ドイツにおいてカソリックよりプロテスタント系に多かった。しかし、大切なことの3つの項目が、一方の国で有意差がみられても他方の国でみられなかったことにより、この質問に関し、2ヶ国を比較することはできなかった。

問65. 自分は政治に対する考え方が革新的か保守的かについて

プロテスタント系に関し、西ドイツよりアメリカの方がより保守的と考えている人の割合が多く、カソリックに関しても、西ドイツよりアメリカの方がより保守的と考えている人の割合が多い。つまり、アメリカのプロテスタント系とカソリックの信者はいずれも、西

ドイツと比べ保守的であるといえる。

また、アメリカのプロテスタント系とカソリックの間では、プロテスタント系がカソリックより保守的で、カソリックがプロテスタント系より革新的と言える。これに対し西ドイツでは、プロテスタント系がカソリックよりやや革新的といえる。

いずれにしても、この結果からではこの質問について、一般的傾向はみいだせなかった。

問72. 自国の社会は根本的な改革を必要としていると思うかについて

西ドイツもアメリカも“思う”がカソリックよりプロテスタント系に多く、同じ傾向がみられる。

しかし割合からすると、アメリカが西ドイツと比べ、思う者の割合が2.5倍近く多くなっている。

この結果を前問65の結果と比べると、西ドイツとアメリカに関し、政治に対する考え方の革新性が、社会の根本的改革の必要性とかならずしも関連しないことがわかる。

それでは次に、宗教をもっている者と無宗教の者との比較として、日本、フランスそしてイギリスの間に共通して（2ヶ国間も含む）有為差のある質問項目を番号順にみってみる。

問2. 自分の生活水準が、この10年間でどう変わったかについて

“非常によくなった”が日本においては無宗教より仏教系に多く、“変わらない”が日本において仏教系より無宗教に多く、イギリスでは無宗教よりプロテスタント系に多く、“やや悪くなった”が日本において無宗教より仏教系に多いことが明らかとなったが一般的傾向はみられなかった。

問3. これから先の5年間の生活状態について

“非常によくなるだろう”がフランスにおいてはカソリックより無宗教に多く、“ややよくなるだろう”が日本においては仏教系より無宗教に多く、“変わらないだろう”が日本において無宗教より仏教系に多く、イギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系に多く、この質問に関しては、やや宗教との関連がみられた。

問6. これから先、人間の自由はふえるかについて

“へる”が日本においては仏教系より無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多く、“変わらない”がフランスにおいて無宗教よりカソリックに多く、日本とイギリスに関し、この質問について悲観的な見方が無宗教の者に多いことがわかる。

問8. 向こう10年から15年間の国家目標の設定について

“国家の秩序を維持すること”が日本においては、無宗教より仏教系に多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに多く、イギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系に多く、宗教をもつ者が無宗教の者より国家の秩序を維持することを国家目標として重視していることがわかる。

問9-a. 自分の「重い病気」の不安について

“かなり感じる”が日本において無宗教より仏教系に多く、“少しは感じる”が仏教系より無宗教に多く、“全く感じない”がフランスにおいてカソリックより無宗教に多く、日本とフランスにおいて病気の不安は宗教をもっている者に感じる程度といえる。

問9-b. 自分の「交通事故」の不安について

“かなり感じる”がフランスにおいて無宗教よりカソリックに多く、“少しは感じる”がフランスにおいては、カソリックより無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多く、“全く感じない”がフランスにおいてカソリックより無宗教に多く、この不安についてもフランスにおいて、宗教をもっている者がかなり感じているといえる。

問9-c. 自分の失業の不安について

“非常に感じる”がイギリスにおいてプロテスタント系より無宗教に多く、“少しは感じる”が日本においては仏教系より無宗教に多く、“全く感じない”が日本においては無宗教より仏教系に多く、イギリスでも無宗教よりプロテスタント系に多く、日本とイギリスでは、失業の不安は宗教をもつ者より無宗教の者に多くみられる。

問9-d. 戦争の不安について

“非常に感じる”が日本において無宗教より仏教系に多く、“かなり感じる”がフランスにおいて無宗教よりカソリックに多く、この質問に関し、日本とフランスにおいては宗教をもつ者に不安がみられる。

問10-h. 住居費の節約について

“あり”がフランスではカソリックより無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多く、“なし”がフランスでは無宗教よりカソリックに多くみられ、フランスとイギリスにおいて無宗教の者が宗教をもつ者と比べ、家計が豊かではないことをうかがわせる。

問11. 先祖を尊ぶかについて

“普通より尊ぶ方”が日本では無宗教より仏教系に2倍近く多く、フランスでは無宗教よりカソリックに1.5倍弱近く多く、イギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系に1.3倍多くみられ、逆に、“普通より尊ばない方”が仏教系より無宗教に6.1倍も多く、フランスにおいてはカソリックより無宗教に3倍弱多く、イギリスにおいても、プロテスタント系より無宗教に3倍弱多くみられた。これらの結果から、先祖を尊ぶことは宗教をもっている者とかなり関連していることがわかる。特に日本においては顕著にみられる。

問12. 子供がないとき他人の子供を養子にするかについて

“つかせた方がよい”が日本においては無宗教より仏教系に2倍多く、“つかせる必要がない”が日本においては仏教系より無宗教に多く、フランスにおいてはカソリックより無宗教に

多く、この質問に関し、日本とフランスでは無宗教の者がつかせる必要がないと思っていることが判明した。

問13. 一般的家庭にとって望ましい子供の数について

日本においては“2人”が仏教系より無宗教に多く、“3人”が無宗教より仏教系に多く、フランスにおいては“1人”がカソリックより無宗教に多く“3人”が無宗教よりカソリックに多く、イギリスにおいては“4人”が無宗教よりプロテスタント系に2倍多く、いずれの国も無宗教の者より宗教をもつの方が多産を望む傾向にあるといえる。

問19. お金と仕事について

“いくらお金があっても、仕事がないと人生はつまらない”が日本においては無宗教より仏教系に多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに多くみられた。また、“お金があれば、仕事がなくとも、人生がつまらないとは思わない”が日本においては仏教系より無宗教に多くみられ、日本とフランスにおいて、宗教をもつ者が無宗教の者より仕事を重視する傾向にあることが判る。

問20. 仕事の関心について

“お金のことを気にしないですむ程よい給料”が日本においては仏教系より無宗教に多く、フランスにおいてもカソリックより無宗教に多く、さらにイギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多く、いずれの国においても無宗教の者が宗教をもつ者よりよい給料に関心があることが判明した。

問22. 人のくらし方について

“世の中の正しくないことを押しのけて、どこまでも清く正しくくらすこと”が日本においては、無宗教より仏教系に2倍弱多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに2倍弱多く、イギリスにおいても、無宗教よりプロテスタント系に3倍多く、いずれの国においても清く正しくくらすことに宗教が深く関連していることがわかる。また、“自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと”が日本においては無宗教より仏教系に2倍弱多く、フランスにおいてもカソリックに2倍弱多く、社会のための奉仕に関して、日本とフランスにおいて、宗教との深い関連がみられる。

問23. 生活環境について

“満足している”が日本においては無宗教より仏教系に多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに多く、さらにイギリスにおいても、無宗教よりプロテスタント系に多くみられた。逆に、“あまり満足していない”が日本においては仏教系より無宗教に、フランスにおいてもカソリックより無宗教に多く、またイギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。さらに“満足していない”がフランスとイギリスにおいてのみ、カソリック又はプロテスタント系より無宗教に多くみられ、生活環境についての満足、不満足は宗教と関連していることが明らかとなった。

問24. 「強盗にはいられること」の問題について
“重大”が日本においては無宗教より仏教系に多く、“大して問題になっていない”が日本においては、仏教系より無宗教に多く、フランスにおいても、カソリックより無宗教に多い。日本とフランスにおいては宗教をもつ者がこの問題を重大とうけとめていることがわかった。

問27-a. 生活領域の「家族や子供」について
“重要”が日本においては無宗教より仏教系に多く、イギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系に多く、この項目についても日本とイギリスにおいて宗教との関連がみられた。

問27-b. 生活領域の「職業や仕事」について
“重要でない”がイギリスでは無宗教よりプロテスタント系に2倍強多く、“あまり重要でない”がフランスでは無宗教よりカソリックに多く。逆に、“やや重要”が日本では仏教系より無宗教に多く、フランスでもカソリックより無宗教に多く、“重要”がイギリスではプロテスタント系より無宗教に多くみられた。これらの結果から職業や仕事の生活領域での重要性はすべての国において無宗教の者に多くみられることが明らかとなった。

問27-c. 生活領域の「自由になる時間とくつろぎ」について
“やや重要”がイギリスにおいては無宗教よりプロテスタント系に多く、“どちらともいえない”がフランスにおいて無宗教よりカソリックに多く、この2つの結果からだけではイギリスとフランスの間での宗教との関連がはっきり判らない。

問27-e. 生活領域の「両親・兄弟・姉妹・親戚」について
“どちらともいえない”が日本においては仏教系より無宗教に多く、“重要”が日本においては無宗教より仏教系に多く、フランスでは無宗教よりカソリックに多く、日本とフランスにおいて身内の生活領域での重要性と宗教が関連していることがわかった。

問27-f. 生活領域の「宗教」について
“重要でない”が日本においては仏教系より無宗教に9倍弱多く、フランスにおいてもカソリックより無宗教に9倍弱多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に6.5倍多くみられた。逆に、“重要”が日本においては無宗教より仏教系に6.5倍多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに11.2倍多く、イギリスでは無宗教よりプロテスタント系に8倍弱多くみられた。これらの結果はいずれも予想通りと言える。

問27-g. 生活領域の「政治」について
“重要でない”が日本においては仏教系より無宗教に多く、フランスにおいてはカソリックより無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。しかし、“それ程重要でない”は日本においては仏教系より無宗教に多いもののフランスでは逆に無宗教よりカソリックに多くみられた。また、“重要”が日本においてのみ無宗教より仏教系に2倍弱多くみられた。したがって3ヶ国とも無宗教の者に生活領域に政治が重要で

ないと思う者がいないが、日本の仏教系の多くの者だけが生活領域に政治は重要であると思っていることがわかった。

問28. 自分の家庭に満足しているかについて

“満足”がフランスにおいては無宗教よりカソリックに多く、イギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系に多くみられた。“どちらともいえない”がイギリスにおいてはプロテスタント系より無宗教に多く、“やや不満”が日本においてはパーセントが低いものの仏教系より無宗教に多くみられた。したがって家庭の満足に関し、宗教は日本よりフランスとイギリスにより大きなインパクトをあたえていることがわかった。

問29. 今の生活に対する満足度について

“満足”が日本においては、無宗教より仏教系に多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに多くみられた。“どちらともいえない”が日本において仏教系より無宗教に多く、“やや不満”が日本において仏教系より無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。したがってこの項目も宗教との関連がみとめられた。

問32. 科学や技術の発展により、人間らしさはへるかについて

“へる”がイギリスでは無宗教よりプロテスタント系に多く、“いちがいいにはいえない”がフランスではカソリックより無宗教に多く、“ふえる”がフランスでは無宗教よりカソリックに多くみられた。しかし、“へる”と“ふえる”についてイギリスとフランスに比較できる共通の有為差がみられなかったため、これらの結果だけでは宗教との関連の有無が確認できない。

問34. 政治を政治家にまかせるかについて

“賛成”が日本においては無宗教より仏教系に多く、“反対”が日本においては仏教系より無宗教に多く、フランスにおいてもカソリックより無宗教に多く、この項目に関し、日本とフランスにおいて宗教との関連がみとめられた。

問35. 正しいと思うことをおし通すか、世間の慣習に従うかについて

“おし通せ”がイギリスにおいては、プロテスタント系より無宗教に多く、“世間の慣習に従え”が日本においては無宗教より仏教系に多く、“場合による”が日本においては仏教系より無宗教に多く、フランスにおいては無宗教よりカソリックに多くみられた。これらの結果から3ヶ国におけるはっきりした傾向はみられなかった。

問37. 家庭はくつろげる場所かについて

“そう思う”が日本では無宗教より仏教系に多く、フランスでも無宗教よりカソリックに多く、さらにイギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系に多くみられた。逆に、“そうは思わない”が日本においては仏教系より無宗教に多く、フランスにおいてもカソリックより無宗教に、さらにイギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。これらの結果から無宗教の者より宗教をもっている者の方が家庭はくつろげる場所と思っ

ていることがわかった。

問38. 離婚について

“離婚はすべきでない”が日本においては無宗教より仏教系に多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに1.6倍多く、さらにイギリスでも無宗教よりプロテスタント系に多くみられた。“ひどい場合は離婚してもよい”が日本においては仏教系より無宗教に多く、フランスにおいては無宗教よりカソリックに多くみられた。“合意さえあれば、いつ離婚してもよい”が日本では仏教系より無宗教に多く、フランスでもカソリックより無宗教に多く、さらにイギリスでもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。

これらの結果から、離婚については日本とフランスにおいて宗教をもっている者が無宗教の者と比べ反対する者が多いことがわかった。しかしフランスにおいて、カソリック信者は離婚に反対しているものの、ひどい場合は離婚してもよいと思っている者が多く、反対も強固なものではないこともわかった。

問39. 家事や子供の世話について

“すべて女性の仕事”が日本では無宗教より仏教系に多く、“いくつかは女性の仕事”がフランスにおいては無宗教よりカソリックに多く、“すべての仕事は、男性女性の区別なくやるべきだ”がフランスにおいてはカソリックより無宗教に多くみられた。これらの結果から日本においては仏教系信者が性役割には保守的でフランスにおいてはカソリック信者がやや保守的といえる。

問45. 大切なこととして

a.“親孝行、親に対する愛情と尊敬”が日本においては無宗教より仏教系に多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに多く、さらにイギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系に多くみられ、この質問に対する宗教のインパクトは各国いずれにもみられた。

b.“助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する”が日本においては無宗教より仏教系に多く、フランスにおいてはカソリックに、そしてイギリスにおいてはプロテスタント系にそれぞれ無宗教より多くみられた。これも前問aと同じく宗教のインパクトが各国いずれにもみられた。

c.“個人の権利を尊重すること”が日本においては仏教系より無宗教に多くみられた。フランスにおいてはカソリックより無宗教に、そしてイギリスでもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。ただ日本のパーセントは仏教系も無宗教も、イギリスとフランスのプロテスタント系又はカソリックと無宗教と、それぞれ比べて半分程度であった。

d.“個人の自由を尊重すること”が、日本において仏教系より無宗教に多くみられ、フランスにおいてもカソリックより無宗教に、さらにイギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。ただ日本のパーセントは仏教系も無宗教もフランスのカソリックと無宗教のそれぞれ半分程度であった。

これらの結果から、個人の権利と自由の尊重は通常言われている民主主義との関連だけでなく宗教との関連もあることが判明した。

問54-a. 現代生活の個人態度（他人を助ける）について

「たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる」に関し、“賛成”が日本においては無宗教より仏教系に多く、逆に“やや賛成”が日本において仏教系より無宗教に多く、フランスにおいては無宗教よりカソリックに多くみられた。“やや反対”がフランスにおいて、カソリックより無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。これらの結果から3ヶ国いずれにおいても宗教をもっている者が程度の差があるものの、この項目に賛成していることが明らかとなった。

問54-b. 現代生活の個人的態度（共同体）について

「結びつきが強い地域社会に自分が属していると思う」に関し、“賛成”が日本においては無宗教より仏教系に多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに多く、さらにイギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系に多くみられた。“やや賛成”が日本においては仏教系より無宗教に多く、“反対”が日本においては仏教系より無宗教に多く、フランスにおいてもカソリックより無宗教に多く、さらにイギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多くみられた。これらの結果から3ヶ国いずれにおいても宗教をもっている者が無宗教の者より共同体への帰属意識が強いことがわかった。

問54-c. 現代生活の個人態度（その日その日）について

「今日、人は明日のことを心配しないでその日その日を生きざるを得ない」に関し、“賛成”がフランスにおいてはカソリックより無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多くみられ、逆に“反対”がイギリスにおいて無宗教よりプロテスタント系に多くみられた。したがってフランスとイギリスにおいては無宗教の者の方が宗教をもっている者よりその日その日を生きざるを得ないと思っていることがうかがえる。

問54-d. 現代生活の個人態度（収入より手段）について

「収入を得るための手段の方が、得られる収入の額よりも大切である」に関し、“やや賛成”がフランスにおいて無宗教よりカソリックに多くみられ、逆に“やや反対”がフランスにおいてカソリックより無宗教に多く、“反対”がプロテスタント系より無宗教に多くみられた。これらの結果から、問22の清く正しくくらすことと同様、日本を除いて宗教をもっている者の方が無宗教の者より、収入を得るための手段の方が、得られる収入の額よりも大切であると思っっていることが明らかとなった。

問57-c. 科学技術（経済的、社会的問題の解決）について

“全くそのとおりだと思う”と“そう思う”が日本において無宗教より仏教系に多くみられた。“そうは思わない”が日本において仏教系より無宗教に多く、“決してそうは思わない”がフランスにおいてカソリックより無宗教に多くみられた。これらの結果から日本の方がフランスよりこの質問に関し、宗教のインパクトが大きいことがわかった。

問58-d. 今後の25年について

「宇宙ステーションでの生活」の実現に関し、“多分実現する”が日本においては仏教系よ

り無宗教に多く、逆にフランスにおいては、無宗教よりカソリックに多くみられた。“実現しない”が日本では無宗教より仏教系に多くみられた。これらの結果からこの項目は日本においてのみ宗教のインパクトがあるように思われる。

問59. エネルギーの節約について

“非常に重要である”がイギリスでは無宗教よりプロテスタント系に多く、逆に“重要である”がイギリスではプロテスタント系より無宗教に多くみられ、“重要でない”がフランスではカソリックより無宗教に多くみられた。したがってこの項目と宗教との関連はイギリスとフランスで逆転していることがわかった。

問60. 環境保護の重要性について

“非常に重要である”がイギリスにおいて無宗教よりプロテスタント系に多く、“あまり重要でない”が日本において仏教より無宗教に多くみられた。これらの結果だけでは宗教との関連がはっきりわからない。

問63. 今までの宗教にかかわりなく「宗教的な心」が大切について

“大切”が日本においては無宗教より仏教系に多く、フランスにおいても無宗教よりカソリックに2.5倍多く、さらにイギリスにおいても、無宗教よりプロテスタント系に2.4倍多くみられた。逆に“大切でない”が日本においては仏教系より無宗教に9.5倍多く、フランスにおいては、カソリックより無宗教に3.6倍多く、イギリスにおいては、プロテスタント系より無宗教に3倍弱多くみられた。これらの結果は予想されたものである。

問64. 宗教は1つかについて

“1つだ”が日本においては無宗教より仏教系に多く、“反対”がイギリスにおいては無宗教よりプロテスタント系に多くみられた。この結果は日本の宗教の表層性とプロテスタントの排他性と関連しているものと思われる。

問65. 自分の政治の立場について

日本では仏教系が革新的と保守的にわかれているものの、保守が革新と比べ4倍多く、無宗教も革新と保守にわかれているものの、保守の割合が仏教系に比べ少ない。このことから日本において、無宗教の者がかならずとも仏教系信者より革新的とはいえないことがわかった。フランスにおいては、無宗教が革新的でカソリックが保守的である。イギリスにおいては、プロテスタント系が無宗教より保守的であるが無宗教がプロテスタント系よりかなり革新的ともいえない。したがって一般にフランスとイギリスにおいては無宗教の者が革新的で宗教をもっている者が保守的傾向があるといえるが、日本においてはこのことがいえない。

問66. 政治の関心について

“関心あり”が日本においては無宗教より仏教系に2倍多く、“全く関心がない”がイギリスにおいてはプロテスタント系より無宗教に多くみられた。したがって、これらの結果から

だけでは政治の関心と宗教との関連はあまりはっきり判明しない。

問68. 自国の民主主義に満足かについて

“非常に満足”と“かなり満足”が日本において無宗教より仏教系に多く、“あまり満足でない”が日本において仏教系より無宗教に多く、フランスにおいてもカソリックより無宗教に多く、さらにイギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多い。また、“全く不満”はフランスにおいてカソリックより無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多く、自国の民主主義を満足しているのは宗教を持っている者に多いことがわかった。

問69. 裁判制度はよく機能していると思うかについて

“非常によく機能している”が日本においては無宗教より仏教系に多く、“かなりよく機能している”がフランスにおいては無宗教よりカソリックに多く、イギリスにおいては無宗教よりプロテスタント系に多くみられた。“あまりよく機能していない”が日本においては、仏教系より無宗教に多く、“全然よく機能していない”がフランスにおいてカソリックより無宗教に2倍多くみられた。裁判制度については宗教をもっている者が機能していると思いい、無宗教の者が思っていないという傾向がみられた。

問70. 労働者と経営者の関係について

「労働者と経営者の利害は全くあい反しているから労働者と経営者はあくまで戦わなければならない」に、“賛成”がフランスではカソリックより無宗教に多く、イギリスでもプロテスタント系より無宗教に多い。また、「会社がもうかれば労働者の賃金も上がるというように労働者と経営者の利害は結局において一致するのだから労働者は協力しなければならない」に、“賛成”が日本では無宗教より仏教系に多くみられた。これらの結果からフランスとイギリスにおいては無宗教の者が労働者と経営者は対立するという意見に賛成し、日本では仏教系の者が労働者と経営者は協力するという意見に賛成することがわかった。

問72-b. 社会の根本的な改革は斬新的なのがいいのか急激なのがいいのかについて

“急激な改革がよい”がフランスにおいてはカソリックより無宗教に多く、イギリスにおいてもプロテスタント系より無宗教に多く、両国において無宗教の者は宗教をもっている者より急激な改革をよしとする傾向にある。

問74. 自分の考えは支持政党に近いかについて

“非常に近い”が日本においては無宗教より仏教系に3倍多く、イギリスにおいても無宗教よりプロテスタント系が2倍多くみられた。“かなり近い”が日本においてはやはり無宗教より仏教系に多くみられた。これらの結果から日本とイギリスにおいて、この項目の宗教との関連がみられた。

全体をまとめると以下のことがいえる。

宗教による意見差のある質問、項目に関し、3ヶ国（日本、フランス、イギリス）間で、無宗教の者と宗教をもっている者の比較、そして2ヶ国（西ドイツとアメリカ）間で、宗教をもっている者どうしの比較を行った。

その結果アメリカのプロテスタント系はその他の4ヶ国の宗教をもっている者（フランスのカソリックに近く）、またカソリックは無宗教の者に相当することと、西ドイツのプロテスタント系は他の4ヶ国の無宗教の者に、またカソリックは宗教をもっている者に相当することが判明した。このことは各国のいずれにも宗教による意見差がみられる項目の間27-f、45そして65さらに西ドイツとアメリカにおいては共通に意見差がみられる間17を比較してみると一層明らかとなる。

次に宗教による意見差のある質問項目を国別にみても日本においてのみ有意差がみられるものが6項目、西ドイツのみが3項目、フランスのみが5項目、イギリスのみが7項目、そしてアメリカのみが3項目となっており、全体の質問数からみると、比較的少ないといってよい。そこで有意差において最も頻度の高い国の組み合わせをみると、日本、フランス、イギリス、アメリカの9項目であるが、9項目に共通する際立った特色はない。さらにほかの属性と宗教による意見差のある質問項目を国別にみても日本においては、意見差のある質問項目の70%が年令又は学歴（部分的なものを含め）で有意差がみられた。

しかも、年令と宗教そして学歴と宗教に有意差がみられ、仏教系と低学歴の考え方は若年層より高年層に近い傾向がみられた。

その他都市・農村の相違による意見差が宗教による意見差のある質問項目の40%にみられた。

ドイツにおいては宗教による意見差のある質問項目の57%が年令又は学歴による有意差とみられたものの、部分的有意差がほとんどであった。また年令と宗教そして学歴と宗教には、有意差がみられなかった。

フランスにおいては、宗教による意見差のある質問項目の63%が年令そして62%が学歴による有意差とみられるものの、部分的有意差がほとんどであった。年令と宗教そして学歴と宗教の間に有意差がみられ、高年層と低学歴にカソリックが多く無宗教はそれらの逆であった。

その他都市・農村の相違による意見差が宗教による意見差のある質問項目の52%にみられ、他の4ヶ国と比べ際立っている。

イギリスにおいては、宗教による意見差のある質問項目の66%が年令そして56%が学歴による有意差とみられたものの部分的有意差がほとんどであった。年令と宗教そして学歴と宗教の間に有意差がみられ、高年層と低学歴にプロテスタント系が多く、無宗教はそれらの逆であった。

その他農村・都市の相違による意見差が宗教による意見差のある質問項目の32%にみられた。

アメリカにおいては、宗教による意見差のある項目の57%が年令そして62%が学歴による有意差とまとめられたもののやはりほとんどが部分的有意差であった。

年令と宗教には部分的有意差しかないが学歴と宗教には有意差がみられ、プロテスタント

系に低学歴カソリックに高学歴がみられた。

その他農村・都市の相違による意見差が宗教による意見差のある質問項目の25%にみられた。

第 3 部 [IV] 調査票と総括表

第 3 部 [IV] 調査票と総括表

調査票（日本語 A、B）

各質問のニックネーム

単純集計国別一覧

質問項目履歴一覧

調査票 A

〔対象番号が3の倍数でない人に〕

生活と文化に関する世論調査

〔調査票 A〕

(No1893)

昭和63年10月

観新情報センター

(国)	(地点No)	(対象No)	調査日時	調査員氏名	点検者名
5	□ □ □ □ □	□ □	日 時		
①	② ③ ④ ⑤	⑥ ⑦			

新情報センターから世論調査に伺いました。

突然で恐れ入りますが、よろしくご協力下さいますようお願いいたします。

〔性・年齢〕 〔訪問する前に記入しておきサンプルを確認する〕

あなたのお生まれは、

1	2	3									
明治	大正	昭和	年	月							

⑧~⑫

1 男 2 女

⑬

1	2	3									
その通りだ	否 →	1	2	3	年	月	生まれだ				
		明治	大正	昭和							

⑭~⑰

〔該当する生年の上の数字を○でかこむ〕

1	2	3	4	5	
昭和38年	昭和33年	昭和28年	昭和23年	昭和18年	⑳
以 降	}	}	}	}	
	昭和37年	昭和32年	昭和27年	昭和22年	
6	7	8	9	10	
昭和13年	昭和 8年	昭和 3年	大正12年	大正11年	
}	}	}	}	}	
昭和17年	昭和12年	昭和 7年	昭和 2年	(明治も含む)	

問1 [カード1] 日本人全体の生活水準は、この10年間でどう変わったと思いますか。

- ⑳
- | | |
|------------|-------------|
| 1 非常によくなった | 5 非常にわるくなった |
| 2 ややよくなった | 6 その他(記入) |
| 3 変わらない | 7 わからない |
| 4 ややわるくなった | |

問2 [カード1] あなたの生活水準は、この10年間でどう変わりましたか。

- ㉑
- | | |
|------------|-------------|
| 1 非常によくなった | 5 非常にわるくなった |
| 2 ややよくなった | 6 その他(記入) |
| 3 変わらない | 7 わからない |
| 4 ややわるくなった | |

問3 [カード2] これから先の5年間に、あなたの生活状態はよくなると思いますか、それとも悪くなると思いますか。

- ㉒
- | | |
|--------------|---------------|
| 1 非常によくなるだろう | 5 非常にわるくなるだろう |
| 2 ややよくなるだろう | 6 その他(記入) |
| 3 変わらないだろう | 7 わからない |
| 4 ややわるくなるだろう | |

問4 これから先、ひとびとは幸福になるとと思いますか、不幸になるとと思いますか。

- ㉓
- | | | | | |
|-----|-----|-------|----------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 幸福に | 不幸に | 変わらない | その他(記入) | わからない |

問5 これから先、心のやすらかさは、ますと思いますか、へると思いますか。

- ㉔
- | | | | | |
|----|----|-------|----------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ます | へる | 変わらない | その他(記入) | わからない |

問6 では、人間の自由は、ふえると思いますか、へると思いますか。

- ㉕
- | | | | | |
|-----|----|-------|----------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ふえる | へる | 変わらない | その他(記入) | わからない |

問7 これから先、人間の健康の面はよくなってゆくと思いますか、わるくなると思いますか。

- ㉖
- | | | | | |
|------|-------|-------|----------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| よくなる | わるくなる | 変わらない | その他(記入) | わからない |

問8 [カード3] わが国の向こう10年から15年間の国家目標をどう設定したらよいかについて、最近盛んに議論されています。ここにいろいろな人が最も重視する目標がいくつかあげてあります。あなたはこれらの中で何が最も重要だと思いますか。(○は1つ)

- ㉗
- | |
|----------------------------|
| 1 国家の秩序を維持すること |
| 2 重要な政策を決める時、人々にもっと発言させること |
| 3 物価の上昇をくいとめること |
| 4 言論の自由を守ること |
| 5 その他(記入) |
| 6 わからない |

問9 [カード4] ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがあります。あなたは、次のような危険について不安を感じるがありますか。

	非感 常じ にる	か感 なじ りる	少感 しじ はる	全じ くな 感い	そ 他	わな かい ら	
a. まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉔
b. では、「交通事故」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉕
c. では、「失業」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉖
d. では、「戦争」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉗
e. では、「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか。…	1	2	3	4	5	6	㉘

問10

a. 家計のやりくりをしなければならないことがありますか。

1	2	3	4	
あ る	な い	その他(記入)	わ かり ない	㉙
↓		↓(問11へ)		

b. [カード5] 特にどこを節約しますか。下記のうちからいくつでも上げて下さい。

	あ り	な し	
a. 医 療 ……………	1	0	㉚
b. 車 の 費 用 ……………	1	0	㉛
c. 家 庭 用 品 ……………	1	0	㉜
d. 食 料 品 ……………	1	0	㉝
e. 美 容 ……………	1	0	㉞
f. レジャー・休暇 ……………	1	0	㉟
g. 衣 料 費 ……………	1	0	㊱
h. 住 居 費 ……………	1	0	㊲
i. 子 供 の 養 育 費 ……………	1	0	㊳
j. タバコ・酒 ……………	1	0	㊴
8. そ の 他			㊵
9. わ かり ない			㊶

問11 あなたはどちらかといえば、普通より先祖を尊ぶ方ですか、それとも普通より尊ばない方ですか。

1	2	3	4	5	
普通より 尊ぶ方	普通より 尊ばない方	普 通	その他(記入)	わ かり ない	㊷

問12 子供がないときは、血のつながりがない他人の子供を、養子にとって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

1	2	3	4	5	
つがせた方 がよい	つがせる必要は ない	場 合 による	その他(記入)	わ かり ない	㊸

問13 現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思いますか。

④ 人 9
わからない

問14 [カード6] ここ1ヶ月の間に次にあげるものに悩みましたか。(かかりましたか。)

		かかったことあり	なし
④	a. 頭痛、偏頭痛 <small>へんずつう</small>	1	0
⑤	b. 背中 の 痛み	1	0
⑥	c. いらいら	1	0
⑦	d. うつ状態	1	0
⑧	e. 不眠症	1	0
	8. その他		
	9. わからない		

問15 [カード7] あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

	1 非常に満足している	4 満足していない
④	2 満足している	5 その他(記入)
	3 あまり満足していない	6 わからない

問16 [カード8] かりに現在の日本社会全体を、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅はこのどれにはいると思いますか。

	1	2	3	4	5	6	7
⑤	上	中の上	中の中	中の下	下	その他(記入)	わからない

問17 [カード9] あなたは次のうちどちらが好ましいと思いますか。

	1 収入が増えること	
⑥	2 余暇(自由な時間)が増えること	
	3 その他(記入)	
	4 わからない	

問18 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。

	1	2	3	4
⑦	ずっと働く	働くのをやめる	その他(記入)	わからない

問19 [カード10] 仕事について、次の2つの意見があります。どちらがあなたの気持ちに近いですか。

	1 いくらお金があっても、仕事が無ければ、人生はつまらない	
⑧	2 お金があれば、仕事が無くても、人生がつまらないとは思わない	
	3 その他(記入)	
	4 わからない	

問20 [カード11] ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。
あなたは、どれに一番関心がありますか。

- 1 お金のことを気にしないですむ程よい給料 ㉞
- 2 倒産や失業の恐れがない仕事
- 3 気の合った人たちと働くこと
- 4 やりとげたいという感じがもてる仕事
- 5 その他(記入))
- 6 わからない

問21 現在、あなたの一週間の予定を立てるとき、仕事上のことがあなたの個人生活や家庭生活とよくぶつかりますか。

- | | | | | |
|----|-----|---------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | ㉟ |
| はい | いいえ | その他(記入) |) | わからない |

問22 [カード12] 人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、つきにあげるもののうちで、どれが一番、あなた自身の気持ちに近いものですか。

- 1 一生けんめい働き、金持ちになること ㊱
- 2 まじめに勉強して、名をあげること
- 3 金や名誉を考えずに、自分の趣味にあったくらし方をすること
- 4 その日その日を、のんきにクヨクヨしないでくらすこと
- 5 世の中の正しくないことを押しつけて、どこまでも清く正しくくらすこと
- 6 自分の一身のことを考えずに、社会のためにすべてを捧げてくらすこと
- 7 その他(記入))
- 8 わからない

問23 [カード13] お宅の付近の環境や住みやすさについて、全体としてどう思っていますか。

- | | | |
|--------------|-----------|---|
| 1 満足している | 4 満足していない | ㊲ |
| 2 やや満足している | 5 その他(記入) |) |
| 3 あまり満足していない | 6 わからない | |

問24 [カード14] 近所の治安についておうかがいします。次に挙げるようなことで問題になっていることがありますか。

- | | | | | | | | |
|---|---|---|--------------------------------------|---------------------------------|-------------|-----------------------|---|
| | 重
大
な
問
題
に
な
っ
て | 問
い
る
問
題
に
な
っ
て | 大
し
て
問
題
に
は
い | 全
然
問
題
に
は
い | そ
の
他 | わ
か
ら
な
い | |
| a. 「強盗にはいられること」については、どうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | ㊳ |
| b. 「急に襲 <small>おそ</small> われて身の危険を感じる事」については、どうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | ㊴ |

問25 [カード15] イソップの童話の中に、怠け者のキリギリスと、働き者のアリの話があります。夏の間歌をうたっていたキリギリスが、冬になって、食べる物がなくなり困ってしまい、夏の間働いていたアリのところにやって来ました。この時のアリの答えには、次のような2つの型があります。あなたは、このお話のむすびとして、この中のどちらがご自分の気持ちにしっかりとしますか。

- ⑥5
- 1 夏の間怠けていたのだから、困るのが当然だと追い返してしまう
 - 2 怠けていたのはいけないけれども、これからはちゃんと働くですよ、といきめた上で、食べ物をわけてあげる
 - 3 その他(記入)
 - 4 わからない

問26 あなたにとって一番大切と思うものはなんですか。1つだけあげてください。

⑥6

(記入)	9 わからない
------	------------

問26b そのほか、非常に大切と思うものをいくつでもあげてください。

⑥7

(記入)	9 わからない
------	------------

問27 [カード16] 次にあげる生活領域のそれぞれについて、あなたが重要だと思う程度に従って1~7の評価をつけてください。

			重 要 で な い					重 要	そ の 他	わ か ら な い	
⑥8	a.	まず、「家族や子供」についてはどうですか...	1	2	3	4	5	6	7	8	9
⑥9	b.	では、「職業や仕事」についてはどうですか...	1	2	3	4	5	6	7	8	9
⑦0	c.	では、「自由になる時間とくつろぎ」についてはどうですか。	1	2	3	4	5	6	7	8	9
⑦1	d.	では、「友人、知人」については.....	1	2	3	4	5	6	7	8	9
⑦2	e.	では、「両親、兄弟、姉妹、親戚」については...	1	2	3	4	5	6	7	8	9
⑦3	f.	では、「宗教」については.....	1	2	3	4	5	6	7	8	9
⑦4	g.	では、「政治」については.....	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問28 [カード17] あなたは自分の家庭に満足していますか、それとも不満がありますか。

- ⑦5
- | | | | | | | |
|----|------|-----------|------|----|----------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 満足 | やや満足 | どちらともいえない | やや不満 | 不満 | その他(記入) | わからない |

問29 [カード17] あなたの生活についておききします。ひとくちにとってあなたは今の生活に満足して
いますか、それとも不満がありますか。

- | | | | | | | | |
|----|----------|---------------|----------|----|-------------|-------|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | ⑩ |
| 満足 | やや
満足 | どちらとも
いえない | やや
不満 | 不満 | その他(記入
) | わからない | |

問30 いまの社会で成功している人を見て、その人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンスのど
ちらが大きな役割をはたしていると思いますか。

- | | | | | |
|----------|--------|-------------|-------|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | ⑦ |
| 個人の才能や努力 | 運やチャンス | その他(記入
) | わからない | |

問31 [カード18] 次の二つの意見のうち、どちらがあなたの意見に近いですか。

- 甲：収入が不十分な世帯を国が経済的に面倒をみることは、その世帯に生活の道を与えること
になる
- 乙：収入が不十分な世帯を国が経済的に面倒をみることは、その世帯から責任感を全く奪うこ
とになる

- | | | | | |
|------|------|-------------|-------|---------------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | (1)~(7)= 1D
(8)~(13)= b
⑭ |
| 甲の意見 | 乙の意見 | その他(記入
) | わからない | |

問32 こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなく
なっていく」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | |
|--------------------|---------------|---|
| 1 賛成(人間らしさはへる) | 4 その他(記入
) | ⑮ |
| 2 いちがいいはいえない | 5 わからない | |
| 3 反対(人間らしさ、不変、ふえる) | | |

問33 小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。

「小さいときから、お金は人にとって、最も大切なものの1つだと教えるのがよい」

というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | | | | |
|------|------|--------------|---------------|---------|---|
| 1 賛成 | 2 反対 | 3 いちがいいはいえない | 4 その他(記入
) | 5 わからない | ⑯ |
|------|------|--------------|---------------|---------|---|

問34 こういう意見があります。

「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは
その人達にまかせの方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | |
|-------------------|---------------|---|
| 1 賛成(まかせ) | 4 その他(記入
) | ⑰ |
| 2 反対(まかせっきりはいけない) | 5 わからない | |
| 3 いちがいいはいえない | | |

問41 [カード22] 南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という電報を受け取ったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を1つだけえらんで下さい。

- 1 なにをおいても、すぐ故郷に帰る 24
- 2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する
- 3 その他(記入))
- 4 わからない

問42 [カード22] いまの質問では、悪人が死にそうなときを、うかがいでしたが、もしキトクなのが悪人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい。

- 1 なにをおいても、すぐ故郷に帰る 25
- 2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する
- 3 その他(記入))
- 4 わからない

問43 [カード23] 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い(ほんとうのことに近い)と思うものを、1つだけ選んでください。

- 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない 26
- 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
- 3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない
- 4 その他(記入))
- 5 わからない

問44 [カード24] あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。1つだけあげてください。

- 1 個人が幸福になって、はじめて国全体がよくなる 27
- 2 国がよくなって、はじめて個人が幸福になる
- 3 国がよくなることも、個人が幸福になることも同じである
- 4 その他(記入))
- 5 わからない

問45 [カード25] つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

		あ り	な し
08	a. 親孝行、親に対する愛情と尊敬	1	0
09	b. 助けてくれた人に感謝し、必要があれば援助する	1	0
00	c. 個人の権利を尊重すること	1	0
01	d. 個人の自由を尊重すること	1	0
02	5. その他(記入)		
	6. わからない		

03~09=b

(上の質問では、2つの項目をあげてもらうこと)

問46 [カード26] つぎのうち、あなたはどちらが人間として望ましいとお考えですか。

- 09
- 1 他人と仲がよく、なにかと頼りになるが、仕事はあまりできない人
 - 2 仕事はよくできるが、他人の事情や心配事には無関心な人
 - 3 そ の 他(記入)
 - 4 わからない

問47 [カード27] 物事を決定する時に「一定の原則に従うこと」に重点をおく人と、「他人との調和をはかること」に重点をおく人では、どちらがあなたの好きな“ひとがら”ですか。

- 07
- 1 物事を決定するとき一定の原則に従うことに重点をおく人
 - 2 物事を決定するとき他人との調和をはかることに重点をおく人
 - 3 そ の 他(記入)
 - 4 わからない

問48 [カード28] あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、
「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますどうしましょうか」
と社長のあなたに報告しました。
あなたはどちらをとれ(採用しろ)といえますか。

- 08
- 1 1番の人を採用するようという
 - 2 親戚を採用するようという
 - 3 そ の 他(記入)
 - 4 わからない

問49 [カード29] それでは、この場合2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたが昔世話になった人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか。(どちらをとれといえますか)

- 09
- 1 1番の人を採用するようという
 - 2 昔世話になった人の子供を採用するようという
 - 3 そ の 他(記入)
 - 4 わからない

問50 [カード30] ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長に使われる方がよいと思いますか。どちらか1つあげて下さい。

- 1 規則をまげてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことで人のめんどろを見ません 40
- 2 時には規則をまげて、無理な仕事をさせることもあります。仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見ます
- 3 その他(記入)
- 4 わからない

問51 たいていの方は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけ考えていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている 41
- 2 自分のことだけ考えている
- 3 その他(記入)
- 4 わからない

問52 他人は、機会があれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

- 1 他人は機会があれば利用しようとしていると思う 42
- 2 そんなことはないと思う
- 3 その他(記入)
- 4 わからない

問53 たいていの方は信頼できると思いますか、それとも、常に用心した方がよいと思いますか。

- | | | | | | |
|----------|------------|----------|-------|----|--|
| 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 信頼できると思う | 常に用心した方がよい | その他(記入) | わからない | 43 | |

問54 [カード31] 次のような意見がいくつかあります。ご自分の立場や個人的な感情を考えて、「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」のいずれかで答えて下さい。

a. まず、「たいていの方は、他人を助けるために多少の努力をすることができる」というのですが、あなたのお考えに近いのはどれですか。

	賛成	やや賛成	やや反対	反対	その他	わからない	
(以下同様にb～eを聞く)							
a. たいていの方は、他人を助けるために多少の努力をすることができる 1	2	3	4	5	6	44	
b. 結びつきが強い地域社会に自分が属していると思う 1	2	3	4	5	6	45	
c. 今日、人は明日のことを心配しないでその日その日を生きざるを得ない 1	2	3	4	5	6	46	
d. 収入を得るための手段の方が、得られる収入よりも大切である 1	2	3	4	5	6	47	
e. 現代は、自分も含めて、人々は孤独で他人から切り離されていると感じることが多い 1	2	3	4	5	6	48	

問55 [カード32] 科学上の発見とその利用は、あなたの日常生活の改善に役だっていると思いますか。

- 49
- | | |
|-------------|-----------|
| 1 役だっている | 4 その他(記入) |
| 2 少しは役だっている | 5 わからない |
| 3 役だっていない | |

問56 [カード33] コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むにつれて、日常生活の上で変わっていく面があると思います。あなたは、このような変化をどう思いますか。

- 50
- | | |
|---------------------------|---|
| 1 望ましいことである | |
| 2 望ましいことではないが、避けられないことである | |
| 3 困ったことであり、危険なことでもある | |
| 4 その他(記入) |) |
| 5 わからない | |

問57 [カード34] つぎに読み挙げる事柄についてあなたはどう思いますか。

それぞれについて、この中からお答えください。(a~cについてそれぞれ開く)

a 病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうがよいものもある。

- 51
- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 5 その他(記入) |
| 3 そうは思わない | 6 わからない |

b. 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。

- 52
- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 5 その他(記入) |
| 3 そうは思わない | 6 わからない |

c. 今日我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

- 53
- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 5 その他(記入) |
| 3 そうは思わない | 6 わからない |

問58 [カード35] つぎに挙げることは今後25年の間に実現すると思いますか。

それぞれについてこの中からお答えください。

- | | | 多分実現する | 実現する可能性は低い | 実現しない | その他 | わからない |
|----|--|--------|------------|-------|-----|-------|
| 54 | a. まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法」
についてはどうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 55 | b. 「ガンの治療方法の解明」
についてはどうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 56 | c. 「老人性痴呆症(ほけ)の治療方法の解明」
についてはどうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 57 | d. 「宇宙ステーションでの生活」
についてはどうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問59 [カード36] エネルギーの節約について話題になることがしばしばあります。
あなたご自身は、このことは重要な問題だと思いますか。

- | | | | |
|-------------|-----------|---|----|
| 1 非常に重要である | 4 重要ではない |) | 68 |
| 2 重要である | 5 その他(記入) | | |
| 3 あまり重要ではない | 6 わからない | | |

問60 [カード36] 環境の保護は、あなたにとってどのくらい重要な問題ですか。

- | | | | |
|-------------|-----------|---|----|
| 1 非常に重要である | 4 重要ではない |) | 69 |
| 2 重要である | 5 その他(記入) | | |
| 3 あまり重要ではない | 6 わからない | | |

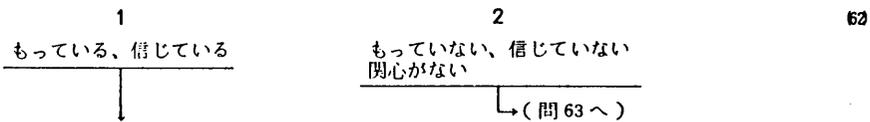
問61 日本文化ときいて、まず思い浮かべることは何ですか。

(記入)	9 わからない	60
------	------------	----

問61b そのほかいくつでもあげて下さい。
何かそのほかにありますか。

(記入)	9 わからない	60
------	------------	----

問62 宗教についておききたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。



問62b (問62で「1 もっている、信じている」と回答した人に)
それは何という宗教ですか。

- | | | |
|--------------|---|----|
| 1 仏教系(記入) |) | 63 |
| 2 神道系(記入) |) | |
| 3 キリスト教(記入) |) | |
| 4 その他の宗教(記入) |) | |
| 5 わからない |) | |

d [カード39] では、「自由主義」についてはどうですか。

- | | | | |
|-----------|-----------|---|----|
| 1 よい | 4 その他(記入) |) | 72 |
| 2 時と場合による | 5 わからない | | |
| 3 よくない | | | |

e [カード39] では、「保守主義」についてはどうですか。

- | | | | |
|-----------|-----------|---|----|
| 1 よい | 4 その他(記入) |) | 73 |
| 2 時と場合による | 5 わからない | | |
| 3 よくない | | | |

問68 [カード40] 日本の民主政治の運営のしかたについてはどうですか。

- | | | | |
|--------------|-----------|---|----|
| 1 非常に満足 | 4 全く不満 | | 74 |
| 2 かなり満足 | 5 その他(記入) |) | |
| 3 あまり満足していない | 6 わからない | | |

問69 [カード41] 現在の日本で、裁判制度はよく機能していると思いますか。

- | | | | |
|----------------|---------------|---|----|
| 1 非常によく機能している | 4 全然よく機能していない | | 75 |
| 2 かなりよく機能している | 5 その他(記入) |) | |
| 3 あまりよく機能していない | 6 わからない | | |

問70 [カード42] 労働者と経営者の関係について、次のような二つの意見があります。

甲の意見 「労働者と経営者の利害は、全くあい反しているから、労働者と経営者はあくまで戦わなければならない」

乙の意見 「会社がもうかれれば労働者の賃金も上がるというように、労働者と経営者の利害は結局において一致するのだから労働者と経営者は協力しなければならない」

あなたは、このどちらの意見に賛成ですか。

- | | | | | |
|----------------|-----------------|---------|---------|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 76 |
| 甲に賛成
(戦うべき) | 乙に賛成
(協力すべき) | その他(記入) |) わからない | |

問71 [カード43] 次にわれわれが住んでいる社会についての考え方が3つ挙げてあります。

あなたの意見に最も近いものを1つ選んでください。

- | | |
|---|----|
| 1 われわれの社会の仕組みは、革命によって根本的に変えなければならない | 77 |
| 2 われわれの社会は、改革によって徐々に変えていかなければならない | |
| 3 われわれの現在の社会は、あらゆる破壊的勢力に対して断固防衛されなければならない | |
| 4 その他(記入) |) |
| 5 わからない | |

問72 日本の社会は、根本的な改革を必要としていると思いますか。

78

1	2	3	4
思　　う	思　　わ　　ない	そ　　の　　他　　(　　記　　入　　)	わ　　か　　ら　　な　　い
↓			↳ (問73へ)

問72b (思うと回答した人に)

[カード44] では、その変革は^{ぜんしんてき}漸進的な改革がよいでしょうか、それとも急激な改革がよいでしょうか。

79 = b
80 = 2
(カード2)
<1>~<7> = ID
<8>~<14> = b

1	2	3	4
^{ぜんしんてき} 漸進的な改革 がよい	急激な改革 がよい	そ　　の　　他　　(　　記　　入　　)	わ　　か　　ら　　な　　い

問73 しいていば、あなたは何党を支持しますか。

<15>

1 自 民 党	5 共 産 党	8 支持政党なし	
2 社 会 党	6 社 民 連	9 わ か ら な い	
3 公 明 党	7 そ の 他 の 政 党		
4 民 社 党	(記 入)		

↳ (問75へ)

問74 (政党をあげたなら)あなたのお考えはその政党にどの程度近いでしょうか。

「非常に近い」「かなり近い」「非常に近いとはいえない」の三段階のうちどれにあたりますか。

<16>

1 非常に近い	4 その他(記入)
2 かなり近い	5 わからない
3 非常に近いとはいえない	

問75 [カード45] 政党についてお伺いします。もし好意も反感も持たない時には50度としてください。もし好意的な気持ちがあれば、その強さに応じて50度から100度のどこかを指してください。また、もし好意を感じていなければ、やはりその強さに応じて0度から50度のどこかを指してください。1番目は自民党です。自民党についてはどうですか。

(以下同様に聞く)

<17>~<19>	自 民 党	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> 度				
<20>~<22>	社 会 党	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> 度				
<23>~<25>	公 明 党	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> 度				
<26>~<28>	民 社 党	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> 度				
<29>~<31>	共 産 党	<table border="1" style="display: inline-table; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> <td style="width: 20px; height: 20px;"></td> </tr> </table> 度				

100° 好 意 的

90

80

70

60

50 中 間 (ど ち ら と も い え な い)

40

30

20

10

0 非 好 意 的

<フェイス・シート>

ご意見をおうかがいするのはこれで終わりですが、この結果を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについて少しおたずねします。

<32>~<35>=b

F 1 【性 別】

1 男	2 女	<36>
--------	--------	------

F 2 【年 齢】 あなたのお年は満でいくつですか。 記入

--	--

 歳

1 18~19歳	5 35~39歳	9 55~59歳	<37><38>
2 20~24歳	6 40~44歳	10 60~64歳	<39><40>
3 25~29歳	7 45~49歳	11 65~69歳	
4 30~34歳	8 50~54歳	12 70歳以上	

F 3 【学 歴】 【カード46】 あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。
(中途・在学中は卒業とみなす)

1	2	3	4	5	<41>
小 卒	旧高小・新中卒	旧中・新高卒	旧高专・大・新大卒	不 明	

F 4 【本人職業】 あなたのご職業は何ですか。
(具体的に記入して下の該当する項目に○をつける)

{

自 営 者			被 備 者				家 族 従 業 者			無 職			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	<42><43>
農	商	自	管	専	事	労	農	商	自	無	学	そ	
林	工	由	理	門	務	務	林	工	由	職	の	の	
漁	サ		職	技	職	職	漁	サ		の	主	無	
業	ー	業		術			業	ー	業	婦	生	職	
	ビ			職				ビ					
	ス							ス					
	業							業					

F 4 a 【労働組合加入】 (F 4で被備者に)あなたは、現在、労働組合に入っていますか。

1 入っている	2 入っていない	<44>
------------	-------------	------

F 5 【家族人数】 ご家族は、あなたも含めて、何人ですか。(使用人は含めない)

1	2	3	4	5	6	7	<45>
1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	

F 6 【世帯構成】〔カード47〕 お宅のご家族は、このように分類した場合どれにあたりますか。

- <46>
- | | | | |
|---|-------------|---|---------------|
| 1 | 1人世帯 | 4 | 3世代世帯(親と子と孫) |
| 2 | 1世代世帯(夫婦だけ) | 5 | その他の世帯(祖父母と孫) |
| 3 | 2世代世帯(親と子) | 6 | その他の世帯() |

F 7 【世帯内の地位】 あなたと世帯主との関係をお聞きしたいのですが……。主としてお宅の生活を支えていらっしゃるのはあなたですか、ほかのかたですか。

- <47>
- | | |
|----------------|---------|
| 1 | 2 |
| 対象者本人(実質上の世帯主) | 対象者本人以外 |
| ↓(F9へ) | ↓ |

F 8 【世帯主職業】 (主として)お宅の家計を支えている方のご職業は何ですか。(具体的に記入して下の該当する項目に○をつける)

- <48>
- | | | | | | | | |
|-------|---|---|-------|---|---|---|---|
| 自 営 者 | | | 被 傭 者 | | | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 農 | 商 | 自 | 管 | 専 | 事 | 労 | 無 |
| 林 | 工 | 由 | 理 | 門 | 務 | 務 | |
| 漁 | サ | | 職 | ・ | 職 | 職 | |
| 業 | ー | 業 | | 技 | 職 | 職 | 職 |
| | ビ | | | 術 | | | |
| | ス | | | 職 | | | |
| | 業 | | | | | | |

F 9 【家事担当者】 家計のきりもりをしているのはあなたですか、ほかのかたですか。

- <49>
- | | |
|--------------|---------|
| 1 | 2 |
| 対象者本人(家事担当者) | 対象者本人以外 |

F 10 【本人収入】〔カード48〕 あなたご自身の収入は、去年1年間で、およそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め、税込みでお答え下さい。

- <50>
- | | | | |
|---|-----------------|----|-------------------|
| 1 | 200万円未満 | 6 | 1,000万円～1,500万円未満 |
| 2 | 200万円～400万円未満 | 7 | 1,500万円～2,000万円未満 |
| 3 | 400万円～600万円未満 | 8 | 2,000万円以上 |
| 4 | 600万円～800万円未満 | 9 | 収入なし |
| 5 | 800万円～1,000万円未満 | 10 | わからない |

F 11 【世帯収入】 【カード49】 では、お宅の収入は、ご家族全部あわせて、去年1年間でおよそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め、税込みでお答え下さい。

- | | | |
|-------------------|---------------------|------|
| 1 200万円未満 | 6 1,000万円～1,500万円未満 | <51> |
| 2 200万円～ 400万円未満 | 7 1,500万円～2,000万円未満 | |
| 3 400万円～ 600万円未満 | 8 2,000万円以上 | |
| 4 600万円～ 800万円未満 | 9 わからない | |
| 5 800万円～1,000万円未満 | | |

F 12 【住宅の所有形態】 【カード50】 お住まいはこのように分けると、どれにあたりますか。

- | | |
|------------------------|------|
| 1 持ち家 | <52> |
| 2 都道府県・市区町村営の賃貸住宅 | |
| 3 住宅・都市整備公団・供給公社等の賃貸住宅 | |
| 4 民営の借家または賃貸アパート | |
| 5 給与住宅(社宅・公務員住宅など) | |
| 6 住宅に間借り | |
| 7 会社等の独身寮・寄宿舎 | |
| 8 その他 | |

F 13 【乗用車所有】 お宅では自家用乗用車をお持ちですか。

- | | | |
|-------|--------|------|
| 1 | 2 | <53> |
| 持っている | 持っていない | |

(どうも長い間ありがとうございました。)

【調査員記入欄】

F 14 全般的な、調査に対する回答者の態度：

- | | | |
|--------------------|--------------------|------|
| 1 興味深げで、協力的 | 3 落ち着かず、いらいらしている様子 | <54> |
| 2 協力的だが、とくに興味はなさそう | 4 非協力的 | |

F 15 全体として、回答者は、質問の内容がわかったようであったか。

- | | | |
|--------------------|---------|------|
| 1 よくわかっているようだ | 4 その他 | <55> |
| 2 大体のところはわかっているようだ | (記入) | |
| 3 あまりよくわかっていないようだ | 5 わからない | |

<56>～<79>=b

<80>=3

(カード3)

調査票 B

〔対象番号が3の倍数(03、06、09、12、15)の人に〕

生活と文化に関する世論調査

〔調査票B〕

(No1893)

昭和63年10月
新情報センター

(国)	(地点No)	(対象No)	調査日時	調査員氏名	点検者名
5			日 時		
①	② ③ ④ ⑤	⑥ ⑦			

新情報センターから世論調査に伺いました。

突然で恐れ入りますが、よろしくご協力下さいますようお願いいたします。

〔性・年齢〕〔訪問する前に記入しておきサンプルを確認する〕

あなたのお生まれは、

1	2	3	年	月
明治	大正	昭和		

ですね。

⑧~⑫

1 男	2 女
-----	-----

⑬

1 その通りだ	2 否 →	1	2	3	年	月	生まれだ
		明治	大正	昭和			

⑭~⑰

〔該当する生年の上の数字を○でかこむ〕

1	2	3	4	5	⑲
昭和38年	昭和33年	昭和28年	昭和23年	昭和18年	
以降	}	}	}	}	
	昭和37年	昭和32年	昭和27年	昭和22年	
6	7	8	9	10	
昭和13年	昭和8年	昭和3年	大正12年	大正11年	
}	}	}	}	}	
昭和17年	昭和12年	昭和7年	昭和2年	(明治も含む)	

問1*〔カード1〕 日本人全体の生活水準は、この10年間でどう変わったと思いますか。

- ②
- | | | | | |
|---|----------|---|---------|---|
| 1 | よくなった | 5 | わるくなった | |
| 2 | ややよくなった | 6 | その他(記入) |) |
| 3 | 変わらない | 7 | わからない | |
| 4 | ややわるくなった | | | |

問2*〔カード1〕 あなたの生活水準は、この10年間でどう変わりましたか。

- ②
- | | | | | |
|---|----------|---|---------|---|
| 1 | よくなった | 5 | わるくなった | |
| 2 | ややよくなった | 6 | その他(記入) |) |
| 3 | 変わらない | 7 | わからない | |
| 4 | ややわるくなった | | | |

問3*〔カード2〕 これから先の5年間に、あなたの生活状態はよくなると思いますか、それとも悪くなると思いますか。

- ②
- | | | | | |
|---|------------|---|----------|---|
| 1 | よくなるだろう | 5 | わるくなるだろう | |
| 2 | ややよくなるだろう | 6 | その他(記入) |) |
| 3 | 変わらないだろう | 7 | わからない | |
| 4 | ややわるくなるだろう | | | |

問4 これから先、ひとびとは幸福になるとと思いますか、不幸になるとと思いますか。

- ②
- | | | | | |
|-----|-----|-------|---------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 幸福に | 不幸に | 変わらない | その他(記入) |) |
| | | | | わからない |

問5 これから先、心のやすらかさは、ますと思いますか、へると思いますか。

- ②
- | | | | | |
|----|----|-------|---------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ます | へる | 変わらない | その他(記入) |) |
| | | | | わからない |

問6 では、人間の自由は、ふえると思いますか、へると思いますか。

- ②
- | | | | | |
|-----|----|-------|---------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ふえる | へる | 変わらない | その他(記入) |) |
| | | | | わからない |

問7 これから先、人間の健康の面はよくなってゆくと思いますか、わるくなると思いますか。

- ②
- | | | | | |
|------|-------|-------|---------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| よくなる | わるくなる | 変わらない | その他(記入) |) |
| | | | | わからない |

問8〔カード3〕 わが国の向こう10年から15年間の国家目標をどう設定したらよいかについて、最近盛んに議論されています。ここにいろいろな人が最も重視する目標がいくつかあげてあります。あなたはこれらの中で何が最も重要だと思いますか。(○は1つ)

- ②
- | | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 国家の秩序を維持すること | |
| 2 | 重要な政策を決める時、人々にもっと発言させること | |
| 3 | 物価の上昇をくいとめること | |
| 4 | 言論の自由を守ること | |
| 5 | その他(記入) |) |
| 6 | わからない | |

問9 [カード4] ときどき、自分自身のことや家族のことで不安になることがあります。あなたは、次のような危険について不安を感じることがありますか。

	非感 常じ にる	か感 なじ りる	少感 しじ はる	全じ くな 感い	そ 他	わな かい ら	
a. まず、「重い病気」の不安はどの程度でしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉔
b. では、「交通事故」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉕
c. では、「失業」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉖
d. では、「戦争」についてはどうでしょうか。……………	1	2	3	4	5	6	㉗
e. では、「原子力施設の事故」についてはどうでしょうか。…	1	2	3	4	5	6	㉘

問10

a. 家計のやりくりをしなければならないことがありますか。

1	2	3	4	
あ る	な い	そ 他(記 入)	わ か ら な い	㉙
↓		↳ (問11へ)		

b. [カード5] 特にどこを節約しますか。下記のうちからいくつでも上げて下さい。

	あ り	な し	
a. 医 療 ……………	1	0	㉚
b. 車 の 費 用 ……………	1	0	㉛
c. 家 庭 用 品 ……………	1	0	㉜
d. 食 料 品 ……………	1	0	㉝
e. 美 容 ……………	1	0	㉞
f. レジャー・休暇 ……………	1	0	㉟
g. 衣 料 費 ……………	1	0	㊱
h. 住 居 費 ……………	1	0	㊲
i. 子 供 の 養 育 費 ……………	1	0	㊳
j. タバコ・酒 ……………	1	0	㊴
8. そ の 他			㊵
9. わ か ら な い			㊶

問11* あなたはどちらかといえば、先祖を尊ぶ方ですか、それとも尊ばない方ですか。

1	2	3	4	5	
尊 ぶ 方	尊 ば な い 方	普 通	そ 他(記 入)	わ か ら な い	㊷

問12* 子供がないときは、たとえ血のつながりがない他人の子供でも、養子にもらって家をつがせた方がよいと思いますか、それとも、つがせる必要はないと思いますか。

1	2	3	4	5	
つ が せ た 方 が よ い	つ が せ る 必 要 は な い	場 合 に よ る	そ 他(記 入)	わ か ら な い	㊸

問13 現在、一般的な家庭にとって望ましい子供の数は何人だと思いますか。

④8 人 9
わからない

問14 [カード6] ここ1ヶ月の間に次にあげるものに悩みましたか。(かかりましたか。)

		かかったことあり	なし
④9	a. 頭痛、偏頭痛 <small>へんずつう</small>	1	0
⑤0	b. 背中 <small>せなか</small> の痛み	1	0
⑤1	c. いらいら	1	0
⑤2	d. うつ状態	1	0
⑤3	e. 不眠症	1	0
	8. その他		
	9. わからない		

問15 [カード7] あなたと同じ年の人と比べて、あなたの健康状態はいかがですか。

- ⑤4
- | | |
|--------------|-----------|
| 1 非常に満足している | 4 満足していない |
| 2 満足している | 5 その他(記入) |
| 3 あまり満足していない | 6 わからない |

問16* [カード8] かりに現在の日本社会全体を、ここに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、お宅はこのどれにはいると思いますか。

⑤5

上	下		
1	2	3	4
5	6 その他(記入)		7 わからない

問17* [カード9] あなたは次のうちどちらが好ましいと思いますか。

- ⑤6
- | | |
|----------------------|---|
| 1 欲しい物がもっと買えるようになること | |
| 2 自由な時間がもっと長くなること | |
| 3 その他(記入) |) |
| 4 わからない | |

問18 もし、一生、楽に生活できるだけのお金がたまったら、あなたはずっと働きますか、それとも働くのをやめますか。

- ⑤7
- | | | | |
|---------|-----------|-----------|---------|
| 1 ずっと働く | 2 働くのをやめる | 3 その他(記入) | 4 わからない |
|---------|-----------|-----------|---------|

問19 [カード10] 仕事について、次の2つの意見があります。どちらがあなたの気持ちに近いですか。

- ⑤8
- | | |
|---------------------------------|---|
| 1 いくらお金があっても、仕事が無ければ、人生はつまらない | |
| 2 お金があれば、仕事が無くても、人生がつまらないとは思わない | |
| 3 その他(記入) |) |
| 4 わからない | |

問20*〔カード11〕ここに仕事について、ふだん話題になることがあります。
あなたは、どれが一番関心がありますか。

- 1 かなりよい給料がもらえること 59
- 2 倒産や失業の恐れがない仕事
- 3 気の合った人たちと働くこと
- 4 やりとげたいという感じもてる仕事
- 5 その他(記入))
- 6 わからない

問21 現在、あなたの一週間の予定を立てるとき、仕事上のことがあなたの個人生活や家庭生活とよくぶつかりますか。

- | | | | | |
|----|-----|---------|-------|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 60 |
| はい | いいえ | その他(記入) | わからない | |

問22*〔カード12〕人のくらし方には、いろいろあるでしょうが、つきにあげるもののうちで、どれが一番、あなた自身の気持ちに近いものですか。

- 1 金持ちになること 61
- 2 名をあげること
- 3 自分の趣味にあったくらし方をする
- 4 のんきにクヨクヨしないでくらすこと
- 5 清く正しくくらすこと
- 6 社会のためにすべてを捧げてくらすこと
- 7 その他(記入))
- 8 わからない

問23*〔カード13〕お宅の付近の生活環境について、全体としてどう思っていますか。

- | | | |
|--------------|-----------|----|
| 1 満足している | 4 満足していない | 62 |
| 2 やや満足している | 5 その他(記入) |) |
| 3 あまり満足していない | 6 わからない | |

問24〔カード14〕近所の治安についておうかがいします。次に挙げるようなことで問題になっていることがありますか。

- | | 重
大
な
問
題
に | 問
題
に
な
っ
て | 大
な
問
題
に
な
っ
て | 全
然
問
題
に
な
ら
な
い | そ
の
他 | わ
か
ら
な
い | |
|--|----------------------------|----------------------------|--------------------------------------|---|-------------|-----------------------|----|
| a. 「強盗にはいられること」については、どうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 63 |
| b. 「急に襲われて身の危険を感じる <small>おそ</small> こと」については、どうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 64 |

問29〔カード17〕 あなたの生活についておききます。ひとくちにいてあなたは今の生活に満足して
いますか、それとも不満がありますか。

- | | | | | | | | |
|----|------|---------------|----------|----|---------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | ㉔ |
| 満足 | やや満足 | どちらとも
いえない | やや
不満 | 不満 | その他(記入) |) | わからない |

問30* 人の成功には、個人の才能や努力と、運やチャンスのどちらか大きな役割をはたしていると思いますか。

- | | | | | |
|----------|--------|---------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | ㉕ |
| 個人の才能や努力 | 運やチャンス | その他(記入) |) | わからない |

問31〔カード18〕 次の二つの意見のうち、どちらがあなたの意見に近いですか。

甲：収入が不十分な世帯を国が経済的に面倒をみることは、その世帯に生活の道を与えること
になる

乙：収入が不十分な世帯を国が経済的に面倒をみることは、その世帯から責任感を全く奪うこ
とになる

- | | | | | |
|------|------|---------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | ㉖ |
| 甲の意見 | 乙の意見 | その他(記入) |) | わからない |

問32 こういう意見があります。

「世の中は、だんだん科学や技術が発展して、便利になって来るが、それにつれて人間らしさがなくな
って行く」

というのですが、あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | | | | |
|--------------|------------|------------------|---------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ㉗ |
| 賛成(人間らしさはへる) | いちがいいはいえない | 反対(人間らしさ、不変、ふえる) | その他(記入) |) | わからない |

問33* 小学校に行っているくらいの子供をそだてるのに、つぎのような意見があります。

「小さいときから、お金は人にとって、とても大切なものと教えるのがよい」
というのです。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | | | | |
|----|----|------------|---------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ㉘ |
| 賛成 | 反対 | いちがいいはいえない | その他(記入) |) | わからない |

問34* こういう意見があります。

「国をよくするためには、すぐれた政治家がでてきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは
その人にまかせの方がよい」

というのですが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか。

- | | | | | | |
|---------|----------------|------------|---------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ㉙ |
| 賛成(まかせ) | 反対(まかせきりはいけない) | いちがいいはいえない | その他(記入) |) | わからない |

問41〔カード22〕 南山さんという人は、小さいときに両親に死に別れ、となりの親切な西木野さんに育てられて、大学まで卒業させてもらいました。そして、南山さんはある会社の社長にまで出世しました。ところが故郷の、育ててくれた、西木野さんが「キトクだからスグカエレ」という電報を受け取ったとき、南山さんの会社がつぶれるか、つぶれないか、ということがきまってしまう大事な会議があります。あなたはつぎのどちらの態度をとるのがよいと思いますか。よいと思う方を1つだけえらんで下さい。

- 1 なにをおいても、すぐ故郷に帰る 04
- 2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する
- 3 その他(記入))
- 4 わからない

問42〔カード22〕 いまの質問では、恩人が死にそうなきを、うかがいましたが、もしキトクなのが恩人ではなくて、南山さんの親だったら、どうしたらよいと思いますか、どちらかえらんで下さい。

- 1 なにをおいても、すぐ故郷に帰る 05
- 2 故郷のことが気になっても、大事な会議に出席する
- 3 その他(記入))
- 4 わからない

問43〔カード23〕 自然と人間との関係について、つぎのような意見があります。あなたがこのうち真実に近い(ほんとうのことに近い)と思うものを、1つだけ選んでください。

- 1 人間が幸福になるためには、自然に従わなければならない 06
- 2 人間が幸福になるためには、自然を利用しなければならない
- 3 人間が幸福になるためには、自然を征服していかなければならない
- 4 その他(記入))
- 5 わからない

問44⁺〔カード24〕 あなたはつぎの意見の、どちらに賛成ですか。1つだけあげてください。

- 1 個人が幸福になって、はじめて日本全体がよくなる 07
- 2 日本がよくなって、はじめて個人が幸福になる
- 3 日本がよくなることも、個人が幸福になることも同じである
- 4 その他(記入))
- 5 わからない

問45*〔カード25〕 つぎのうち、大切なことを2つあげてくれといわれたら、どれにしますか。

		あ	り	な	し
08	a. 親孝行をすること	1		0	
09	b. 恩返しをすること	1		0	
00	c. 個人の権利を尊重すること	1		0	
01	d. 自由を尊重すること	1		0	
02	5. その他(記入)				
	6. わからない				

03~05 = b (上の質問では、2つの項目をあげてもらうこと)

問46*〔カード26〕 つぎのうち、あなたはどちらが人間として望ましいとお考えですか。

- 06
- 1 他人と仲がよく、なにかと頼りになるが、仕事の上ではバツとしない人
 - 2 仕事はよくできるが、他人の事情や心配事には無関心な人
 - 3 その他(記入)
 - 4 わからない

問47*〔カード27〕 物事の「スジを通すこと」に重点をおく人と、物事を「まるくおさめること」に重点をおく人では、どちらがあなたの好きな“ひとがら”ですか。

- 07
- 1 「スジを通すこと」に重点をおく人
 - 2 「まるくおさめること」に重点をおく人
 - 3 その他(記入)
 - 4 わからない

問48〔カード28〕 あなたが、ある会社の社長だったとします。その会社で、新しく職員を1人採用するために試験をしました。入社試験をまかせておいた課長が、
「社長のご親戚の方は2番でした。しかし、私としましては、1番の人でも、ご親戚の方でも、どちらでもよいと思いますがどうでしょうか」と社長のあなたに報告しました。
あなたはどちらをとれ(採用しろ)といえますか。

- 08
- 1 1番の人を採用するようという
 - 2 親戚を採用するようという
 - 3 その他(記入)
 - 4 わからない

問49*〔カード29〕 それでは、この場合2番になったのがあなたの親戚の子供でなくて、あなたの恩人の子供だったとしたら、あなたはどうしますか。(どちらをとれといえますか)

- 09
- 1 1番の人を採用するようという
 - 2 恩人の子供を採用するようという
 - 3 その他(記入)
 - 4 わからない

問50 [カード30] ある会社につきのような2人の課長がいます。もしあなたが使われるとしたら、どちらの課長に使われる方がよいと思いますか。どちらか1つあげて下さい。

- 1 規則をまけてまで、無理な仕事をさせることはありませんが、仕事以外のことで人のめんどろを見ません (40)
- 2 時には規則をまけて、無理な仕事をさせることもあります。仕事のこと以外でも人のめんどろをよく見ます
- 3 その他(記入))
- 4 わからない

問51* たいていの人は、他人の役にたとうとしていると思いますか、それとも自分のことだけに気をくばっていると思いますか。

- 1 他人の役にたとうとしている (41)
- 2 自分のことだけに気をくばっている
- 3 その他(記入))
- 4 わからない

問52* 他人は、スキがあれば、あなたを利用しようとしていると思いますか、それともそんなことはないと思いますか。

- 1 利用しようとしていると思う (42)
- 2 そんなことはないと思う
- 3 その他(記入))
- 4 わからない

問53* たいていの人は信頼できると思いますか、それとも、用心するにこしたことはないと思いますか。

- | | | | | |
|----------|------------------|---------|---|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 信頼できると思う | 用心するにこしたことはないと思う | その他(記入) |) | わからない (43) |

問54 [カード31] 次のような意見がいくつかあります。ご自分の立場や個人的な感情を考えて、「賛成」「やや賛成」「やや反対」「反対」のいずれかで答えて下さい。

a. まず、「たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる」というのですが、あなたのお考えに近いのはどれですか。

(以下同様にb～eを聞く)

	賛成	やや賛成	やや反対	反対	その他	わからない	
a. たいていの人は、他人を助けるために多少の努力をすることができる	1	2	3	4	5	6	44
b. 結びつきが強い地域社会に自分が属していると思う	1	2	3	4	5	6	45
c. 今日、人は明日のことを心配しないでその日の日を生きざるを得ない	1	2	3	4	5	6	46
d. 収入を得るための手段の方が、得られる収入よりも大切である	1	2	3	4	5	6	47
e. 現代は、自分も含めて、人々は孤独で他人から切り離されていると感じることが多い	1	2	3	4	5	6	48

問55 [カード32] 科学上の発見とその利用は、あなたの日常生活の改善に役だっていると思いますか。

- 49
- | | |
|-------------|-----------|
| 1 役だっている | 4 その他(記入) |
| 2 少しは役だっている | 5 わからない |
| 3 役だっていない | |

問56 [カード33] コンピュータがいろいろなところに使われるようになり、情報化社会などということが言われています。このような傾向が進むにつれて、日常生活の上で変わっていく面があると思います。あなたは、このような変化をどう思いますか。

- 50
- | | |
|---------------------------|---|
| 1 望ましいことである | |
| 2 望ましいことではないが、避けられないことである | |
| 3 困ったことであり、危険なことでもある | |
| 4 その他(記入) |) |
| 5 わからない | |

問57 [カード34] つぎに読み挙げる事柄についてあなたはどう思いますか。

それぞれについて、この中からお答えください。(a～cについてそれぞれ聞く)

a 病気の中には近代医学とは別の方法で治療したほうがよいものもある。

- 51
- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 5 その他(記入) |
| 3 そうは思わない | 6 わからない |

b. 科学技術が発展すれば、いつかは人間の心の中までも解明できる。

- 52
- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 5 その他(記入) |
| 3 そうは思わない | 6 わからない |

c. 今日我々が直面している経済的、社会的問題のほとんどは科学技術の進歩により解決される。

- 53
- | | |
|---------------|--------------|
| 1 全くそのとおりだと思う | 4 決してそうは思わない |
| 2 そう思う | 5 その他(記入) |
| 3 そうは思わない | 6 わからない |

問58 [カード35] つぎに挙げることは今後25年の間に実現すると思いますか。

それぞれについてこの中からお答えください。

- | | | 多分実
現する | 実現する可
能性は低い | 実現し
ない | その他 | わから
ない |
|----|--|------------|----------------|-----------|-----|-----------|
| 54 | a. まず、「原子力廃棄物の安全な処理方法」
についてはどうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 55 | b. 「ガンの治療方法の解明」についてはどう
ですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 56 | c. 「老人性痴呆症(ぼけ)の治療方法の解明」
についてはどうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 57 | d. 「宇宙ステーションでの生活」については
どうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問59 [カード36] エネルギーの節約について話題になることがしばしばあります。
あなたご自身は、このことは重要な問題だと思いますか。

- | | | |
|-------------|-----------|------|
| 1 非常に重要である | 4 重要ではない |) 68 |
| 2 重要である | 5 その他(記入) | |
| 3 あまり重要ではない | 6 わからない | |

問60 [カード36] 環境の保護は、あなたにとってどのくらい重要な問題ですか。

- | | | |
|-------------|-----------|------|
| 1 非常に重要である | 4 重要ではない |) 69 |
| 2 重要である | 5 その他(記入) | |
| 3 あまり重要ではない | 6 わからない | |

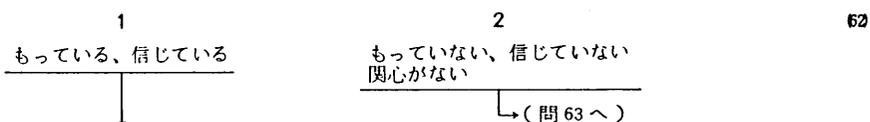
問61 日本文化ときいて、まず思い浮かべることは何ですか。

(記入)	9 わからない	60
------	------------	----

問61b そのほかいくつでもあげてください。
何かそのほかにありますか。

(記入)	9 わからない	61
------	------------	----

問62 宗教についておききたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか。



問62b (問62で「1 もっている、信じている」と回答した人に)
それは何という宗教ですか。

- | | |
|--------------|------|
| 1 仏教系(記入) |) 63 |
| 2 神道系(記入) | |
| 3 キリスト教(記入) | |
| 4 その他の宗教(記入) | |
| 5 わからない | |

d [カード39] では、「自由主義」についてはどうですか。

- | | | | |
|-----------|-----------|---|----|
| 1 よい | 4 その他(記入) |) | 72 |
| 2 時と場合による | 5 わからない | | |
| 3 よくない | | | |

e [カード39] では、「保守主義」についてはどうですか。

- | | | | |
|-----------|-----------|---|----|
| 1 よい | 4 その他(記入) |) | 73 |
| 2 時と場合による | 5 わからない | | |
| 3 よくない | | | |

問68 [カード40] 日本の民主政治の運営のしかたについてはどうですか。

- | | | | |
|--------------|-----------|---|----|
| 1 非常に満足 | 4 全く不満 | | 74 |
| 2 かなり満足 | 5 その他(記入) |) | |
| 3 あまり満足していない | 6 わからない | | |

問69 [カード41] 現在の日本で、裁判制度はよく機能していると思いますか。

- | | | | |
|----------------|---------------|---|----|
| 1 非常によく機能している | 4 全然よく機能していない | | 75 |
| 2 かなりよく機能している | 5 その他(記入) |) | |
| 3 あまりよく機能していない | 6 わからない | | |

問70 [カード42] 労働者と経営者の関係について、次のような二つの意見があります。

甲の意見 「労働者と経営者の利害は、全くあい反しているから、労働者と経営者はあくまで戦わなければならない」

乙の意見 「会社がもうかれば労働者の賃金も上がるというように、労働者と経営者の利害は結局において一致するのだから労働者と経営者は協力しなければならない」

あなたは、このどちらの意見に賛成ですか。

- | | | | | |
|----------------|-----------------|---------|---|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 76 |
| 甲に賛成
(戦うべき) | 乙に賛成
(協力すべき) | その他(記入) |) | わからない |

問71* [カード43] 社会について、つぎの3つの考えのうち、どれがあなたの考え方に1番近いでしょうか。

- | | |
|-----------------------------|----|
| 1 今の社会の構造は、革命によって一挙に変えるべきだ | 77 |
| 2 今の社会の悪いところは、少しずつよくしてゆくべきだ | |
| 3 今の社会の体制を、あくまで守り通すべきだ | |
| 4 その他(記入) |) |
| 5 わからない | |

問72 日本の社会は、根本的な改革を必要としていると思いますか。

78

1	2	3	4
思　　う	思わない	その他(記入)	わからない
↓			↓ (問73へ)

問72b (思うと回答した人に)

[カード44] では、その変革は漸進的ぜんしんてきな改革がよいでしょうか、それとも急激な改革がよいでしょうか。

79 = b
80 = 2
(カード2)
<1>~<7> = ID
<8>~<14> = b

1	2	3	4
漸進的 <small>ぜんしんてき</small> な改革 がよい	急激な改革 がよい	その他(記入)	わからない

問73* しいていえば、あなたのお考えに近い政党はどれですか。

<15>

1 自 民 党	5 共 産 党	8 支持政党なし	
2 社 会 党	6 社 民 連	9 わからない	
3 公 明 党	7 その他の政党	↓ (問75へ)	
4 民 社 党	(記入)		

問74 (政党をあげたなら)あなたのお考えはその政党にどの程度近いでしょうか。

「非常に近い」「かなり近い」「非常に近いとはいえない」の三段階のうちどれにあたりますか。

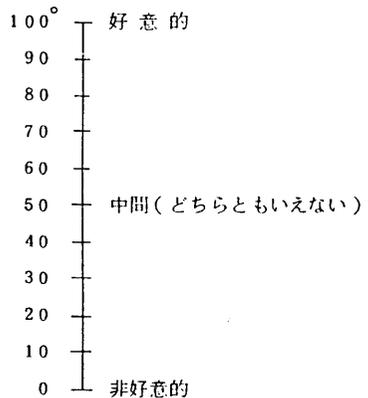
<16>

1 非常に近い	4 その他(記入)		
2 かなり近い	5 わからない		
3 非常に近いとはいえない			

問75 [カード45] 政党についてお伺いします。もし好意も反感も持たない時には50度としてください。もし好意的な気持ちがあれば、その強さに応じて50度から100度のどこかを指してください。また、もし好意を感じていなければ、やはりその強さに応じて0度から50度のどこかを指してください。1番目は自民党です。自民党についてはどうですか。

(以下同様に聞く)

<17>~<19>	自 民 党	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	度
<20>~<22>	社 会 党	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	度
<23>~<25>	公 明 党	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	度
<26>~<28>	民 社 党	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	度
<29>~<31>	共 産 党	<input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>	度



<フェース・シート>

ご意見をおうかがいするのはこれで終わりですが、この結果を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについて少しおたずねします。

<32>~<35>=b

F 1 【性別】

	1	2	<36>
	男	女	

F 2 【年齢】 あなたのお年は満でいくつですか。 記入 歳 <37><38>

1	18~19歳	5	35~39歳	9	55~59歳	<39><40>
2	20~24歳	6	40~44歳	10	60~64歳	
3	25~29歳	7	45~49歳	11	65~69歳	
4	30~34歳	8	50~54歳	12	70歳以上	

F 3 【学歴】 【カード46】 あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。
(中途・在学中は卒業とみなす)

1	2	3	4	5	<41>
小卒	旧高小・新中卒	旧中・新高卒	旧高专・大・新大卒	不明	

F 4 【本人職業】 あなたのご職業は何ですか。
(具体的に記入して下の該当する項目に○をつける)

自営者			被 傭 者				家族従業者			無 職			<42><43>
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
農	商	自	管	専	事	労	農	商	自	無	学	其	
林	工	由	理	門	務	務	林	工	由	職		他	
漁	サ	業	職	・	職	職	漁	サ	業	の	主	の	
業	ー			技			業	ー		無	婦	無	
	ビ			術				ビ		職	生	職	
	ス			職				ス					
	業							業					
	業							業					

F 4 a 【労働組合加入】 (F 4で被傭者に)あなたは、現在、労働組合に入っていますか。

1	2	<44>
入っている	入っていない	

F 5 【家族人数】 ご家族は、あなたも含めて、何人ですか。(使用人は含めない)

1	2	3	4	5	6	7	<45>
1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	

F 6 【世帯構成】 【カード47】 お宅のご家族は、このように分類した場合どれにあたりますか。

- <46>
- | | | | |
|---|-------------|---|---------------|
| 1 | 1人世帯 | 4 | 3世代世帯(親と子と孫) |
| 2 | 1世代世帯(夫婦だけ) | 5 | その他の世帯(祖父母と孫) |
| 3 | 2世代世帯(親と子) | 6 | その他の世帯() |

F 7 【世帯内の地位】 あなたと世帯主との関係をお聞きしたいのですが……。

主としてお宅の生活を支えていらっしゃるのはあなたですか、ほかのかたですか。

- <47>
- | | |
|----------------|---------|
| 1 | 2 |
| 対象者本人(実質上の世帯主) | 対象者本人以外 |
| └ (F9へ) | ↓ |

F 8 【世帯主職業】 (主として)お宅の家計を支えている方のご職業は何ですか。

(具体的に記入して下の該当する項目に○をつける)

- <48>
- | | | | | | | | |
|-------|---|---|-------|---|---|---|---|
| 自 営 者 | | | 被 傭 者 | | | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 農 | 商 | 自 | 管 | 専 | 事 | 勞 | 無 |
| 林 | 工 | | 理 | 門 | 務 | 務 | |
| 漁 | サ | 由 | | ・ | | | |
| | ー | | | 技 | | | |
| | ビ | | | 術 | | | |
| | ス | | | 職 | | | |
| 業 | 業 | 業 | 職 | 職 | 職 | 職 | 職 |

F 9 【家事担当者】 家計のきりもりをしているのはあなたですか、ほかのかたですか。

- <49>
- | | |
|--------------|---------|
| 1 | 2 |
| 対象者本人(家事担当者) | 対象者本人以外 |

F 10 【本人収入】 【カード48】 あなたご自身の収入は、去年1年間で、およそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め、税込みでお答え下さい。

- <50>
- | | | | |
|---|-----------------|----|-------------------|
| 1 | 200万円未満 | 6 | 1,000万円～1,500万円未満 |
| 2 | 200万円～ 400万円未満 | 7 | 1,500万円～2,000万円未満 |
| 3 | 400万円～ 600万円未満 | 8 | 2,000万円以上 |
| 4 | 600万円～ 800万円未満 | 9 | 収入なし |
| 5 | 800万円～1,000万円未満 | 10 | わからない |

F 11 〔世帯収入〕〔カード49〕では、お宅の収入は、ご家族全部あわせて、去年1年間でおよそどれくらいになりましたか。この中ではどうでしょうか。ボーナスも含め、税込みでお答え下さい。

- | | | |
|-------------------|---------------------|------|
| 1 200万円未満 | 6 1,000万円～1,500万円未満 | <51> |
| 2 200万円～ 400万円未満 | 7 1,500万円～2,000万円未満 | |
| 3 400万円～ 600万円未満 | 8 2,000万円以上 | |
| 4 600万円～ 800万円未満 | 9 わからない | |
| 5 800万円～1,000万円未満 | | |

F 12 〔住宅の所有形態〕〔カード50〕お住まいはどのようにわけると、どれにあたりますか。

- | | |
|------------------------|------|
| 1 持ち家 | <52> |
| 2 都道府県・市区町村営の賃貸住宅 | |
| 3 住宅・都市整備公団・供給公社等の賃貸住宅 | |
| 4 民営の借家または賃貸アパート | |
| 5 給与住宅(社宅・公務員住宅など) | |
| 6 住宅に間借り | |
| 7 会社等の独身寮・寄宿舎 | |
| 8 その他 | |

F 13 〔乗用車所有〕 お宅では自家用乗用車をお持ちですか。

- | | | |
|-------|--------|------|
| 1 | 2 | <53> |
| 持っている | 持っていない | |

(どうも長い間ありがとうございました。)

〔調査員記入欄〕

F 14 全般的な、調査に対する回答者の態度：

- | | | |
|--------------------|--------------------|------|
| 1 興味深げで、協力的 | 3 落ち着かず、いらいらしている様子 | <54> |
| 2 協力的だが、とくに興味はなさそう | 4 非協力的 | |

F 15 全体として、回答者は、質問の内容がわかったようであったか。

- | | | |
|--------------------|---------|------|
| 1 よくわかっているようだ | 4 その他 | <55> |
| 2 大体のところはわかっているようだ | (記入) |) |
| 3 あまりよくわかっていないようだ | 5 わからない | |

<56>～<79>=b

<80>=3

(カード3)

各質問のニックネーム

特別推進研究 (1) 61060002「意識の国際比較方法論の研究」

Grant-in-aid for Specially Promoted Research(1)
61060002 Cultural Link Analysis for Comparative Research

- 1-#7.30B 国の生活水準10年の変化
Standard of living in country 10 years ago
- 2-#7.30A あなたの生活水準10年の変化
Your standard of living 10 years ago
- 3-#7.31 今後の生活水準
Living conditions in future
- 4-#7.18E 幸福になるか
Happiness in future
- 5-#7.18B 心の安らかさはますか
Peace of mind
- 6-#7.18C 人間の自由はふえるか
Freedom
- 7-#7.18 人間の健康の面はよくなるか
People's health
- 8-#8.80 国家目標
The country's goal
- 9-#2.30 不安感-重い病気
Extent of worry: serious illness
- 9-#2.30D 不安感-交通事故
Extent of worry: car accident
- 9-#2.30E 不安感-失業
Extent of worry: unemployment
- 9-#2.30F 不安感-戦争
Extent of worry: war
- 9-#2.30G 不安感-原子力施設の事故
Extent of worry: nuclear power accident
- 10-#7.80A 家計の節約-医療
Household expenses: health care
- 10-#7.80B 家計の節約-車
Household expenses: motoring costs
- 10-#7.80C 家計の節約-家庭用品
Household expenses: home appliances
- 10-#7.80D 家計の節約-食料品
Household expenses: food
- 10-#7.80E 家計の節約-美容
Household expenses: beauty care
- 10-#7.80F 家計の節約-バカンス, 休暇
Household expenses: vacation and leisure
- 10-#7.80G 家計の節約-衣服
Household expenses: clothes
- 10-#7.80H 家計の節約-住居
Household expenses: housing
- 10-#7.80I 家計の節約-子供の養育
Household expenses: expenses for children
- 10-#7.80J 家計の節約-タバコ, アルコール
Household expenses: smoking or drinking

特別推進研究 (1) 61060002「意識の国際比較方法論の研究」

- 11-#4.11 先祖を尊ぶか
Respect for ancestors
- 12-#4.10 他人の子供を養子にするか
Adopt a child
- 13-#4.80 望ましい子供の数
Ideal number of children
- 14-#2.80A 病気－頭痛, 偏頭痛
Health problems: headaches, migraines
- 14-#2.80B 病気－背中への痛み
Health problems: backaches
- 14-#2.80C 病気－神経の興奮
Health problems: nervousness
- 14-#2.80D 病気－鬱病
Health problems: depression
- 14-#2.80E 病気－不眠症
Health problems: insomnia
- 15-#2.3G 健康状態満足か
Satisfaction with health
- 16-#1.8 社会的階層
Living class
- 17-#7.81 収入か余暇か
Choose money or free time
- 18-#2.8 一生働くか
If had enough money, still work?
- 19-#7.25 お金と仕事
Life without work
- 20-#7.24 就職の第1の条件
Most important aspect of job
- 21-#2.81 仕事と個人生活
Work conflicts with private life
- 22-#2.4 暮らし方
Attitudes towards life
- 23-#2.3F 生活環境満足か
Quality of life in the area where you live
- 24-#5.80A 近所の治安－強盗にはいられること
Safety in neighborhood: burglary
- 24-#5.80B 近所の治安－急に襲われて身の危険を感じる
Personal safety
- 25-#7.82 アリとキリギリス
The idle grasshopper and diligent ant
- 26-#2.7A 一番大切なもの
The most important thing in life
- 26-#2.7B その他 非常に大切なもの
Other important things
- 27-#5.81A 生活領域の重要性－あなた自身の家族と子供
Importance: immediate family and children
- 27-#5.81B 生活領域の重要性－職業や仕事
Importance: career and work
- 27-#5.81C 生活領域の重要性－自由になる時間とくつろぎ
Importance: free time and relaxation

特別推進研究 (1) 61060002「意識の国際比較方法論の研究」

- 27-#5.81D 生活領域の重要性－友人, 知人
Importance: friends
- 27-#5.81E 生活領域の重要性－両親, 兄弟, 姉妹, 親戚
Importance: parents and other relative
- 27-#5.81F 生活領域の重要性－宗教
Importance: religion and church
- 27-#5.81G 生活領域の重要性－政治, 公的生活
Importance: politics
- 28-#2.3C 家庭に満足か
Satisfaction with family life
- 29-#2.82 生活に満足か
Satisfaction with life
- 30-#7.19 才能か運か
Success: ability or luck
- 31-#4.81 生活保護の考え方
Attitude towards governmental assistance
- 32-#7.1 人間らしさはへるか
Science and loss of human feeling
- 33-#4.5 子供に「金は大切」と教えるか
Teaching children money is important
- 34-#8.1B 政治家にまかせるか
Leave it up to political leaders
- 35-#2.1 しきたりに従うか
Custom versus conscience
- 36-#7.2 心の豊かさはへらないか
Mechanization and human feeling
- 37-#4.30 家庭はくつろぐ場所
Home is relaxing place
- 38-#4.32 離婚すべきではないか
Marriage is permanent
- 39-#4.31 家事や子供の世話
Housework and child care
- 40-#4.4 先生が悪いことをした
Rumor about teacher
- 41-#5.1 恩人がキトクするとき
Benefactor on death-bed
- 42-#5.1B 親がキトクするとき
Real father on death-bed
- 43-#2.5 自然と人間との関係
Man and nature
- 44-#7.4 国と個人の幸福
Improve the country or make people happy
- 45-#5.1D 大切な道徳－親孝行をすること
Important things: Filial piety
大切な道徳－恩返しをすること
Important things: Repaying obligations
大切な道徳－個人の権利を尊重すること
Important things: Respect for individual rights
大切な道徳－個人の自由を尊重すること
Important things: Respect for individual freedom
大切な道徳－その他(記入)、 大切な道徳－D K

特別推進研究 (1) 61060002「意識の国際比較方法論の研究」

- 46-#5.6H 他人との仲か仕事か
Desirable person: efficient versus friendly
- 47-#2.2B スジかまるくか
Consensus versus own principle
- 48-#5.1C1 入社試験 (親戚)
Employment examination: relative
- 49-#5.1C2 入社試験 (恩人の子)
Employment examination: son of benefactor
- 50-#5.6 めんどうをみる課長
Type of boss preferred
- 51-#2.12 他人のためか自分のためか
Are people helpful most of the time
- 52-#2.12B スキがあれば利用されるか
Are most people fair
- 53-#2.12C 人は信頼できるか
Are most people trustworthy
- 54-#2.83A 現代生活の個人態度 - 他人を助ける
Life: most people are helpful
- 54-#2.83B 現代生活の個人態度 - 共同体
Life: part of community
- 54-#2.83C 現代生活の個人態度 - その日その日
Life: people live for today
- 54-#2.83D 現代生活の個人態度 - 収入より手段
Life: way of earning money is more important than amount
- 54-#2.83E 現代生活の個人態度 - 孤独感
Life: people often feel lonely
- 55-#7.36 科学上の発見・利用は生活に役立つか
Improvement of everyday life through science
- 56-#7.33 コンピュータ社会は望ましいか
Computers change our lives
- 57-#7.83 科学技術 - 病気の治療
Some illness treated by methods other than modern medicine
- 57-#7.84 科学技術 - 人間の心の解明
Science permits understanding of the human mind
- 57-#7.85 科学技術 - 経済的・社会的問題の解決
Resolution of social and economic problems through science
- 58-#7.86A 今後の25年 - 原子力廃棄物の安全な処理方法
The next 25 years: safe method for nuclear waste disposal
- 58-#7.86B 今後の25年 - ガンの治療方法の解明
The next 25 years: cure for cancer
- 58-#7.86C 今後の25年 - 老人性痴呆症の治療方法の解明
The next 25 years: cure for senility
- 58-#7.86D 今後の25年 - 宇宙ステーションでの生活
The next 25 years: living in space stations
- 59-#7.34 省エネルギーは重要か
Energy conservation
- 60-#7.35 環境の保護は重要か
Environmental preservation
- 61-#9.80 文化 (各国の文化)
Culture

- 62-#3.1A 宗教を信じるか
Religious faith
- 62-#3.1B (Aで信じている人に) 何という宗教か
Religion
- 63-#3.2 「宗教心」は大切か
Religious attitude
- 64-#3.3 宗教は1つか
All religions same
- 65-#8.81 革新か保守か
Political stance
- 66-#8.82 政治関心
Interest in politics
- 67-#8.2E 「民主主義」はよいか
Democracy
- 67-#8.2F 「資本主義」はよいか
Capitalism
- 67-#8.2H 「社会主義」はよいか
Socialism
- 67-#8.2G 「自由主義」はよいか
Liberalism
- 68-#8.83 民主政治に満足か
Satisfaction with democracy
- 69-#8.84 裁判制度は機能しているか
Legal system
- 70-#7.87 労働者階級と資本家階級
Employer versus employee
- 71-#8.8 社会は変えるべきか
Attitudes concerning society
- 72-#8.85A 社会の根本改革は必要か
Profound transformation of society
- 72-#8.85B 社会の根本改革
The way of changing society
- 73-#8.7 支持政党
Political party
- 74-#8.86 政党支持(強度)
Close to party
- 75-#8.87 主要政党への好嫌度
Feeling thermometer

国別単純集計表

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987 FRG 1000	1987 FRANCE 1013	1987 UK 1043	1988 USA 1563	1988 JAPAN 2265	1988 JAPAN 1017	1989 JAPAN 1537
1 7.30b 121	Standard of living in country 10 years ago	1.Much better	19.2	2.6	21.4	17.0	25.1	39.9	17.6
		2.Slightly better	42.0	18.5	40.0	32.0	49.8	34.8	47.8
		3.About the same	26.0	17.1	13.0	18.0	16.7	17.0	22.5
		4.Slightly worse	9.6	37.4	15.0	21.8	4.5	3.2	8.5
		5.Much worse	1.4	23.0	8.0	9.3	0.8	1.4	1.5
		8.Other	-	-	-	-	-	0.1	0.1
		9.D.K.	1.8	1.5	2.7	1.9	3.1	3.5	2.0
2 7.30a 122	Your standard of living 10 years ago	1.Much better	16.6	6.7	24.0	25.9	7.2	16.3	5.0
		2.Slightly better	38.9	19.4	30.4	27.0	43.7	37.1	37.8
		3.About the same	33.3	25.9	25.2	26.2	37.9	35.5	43.3
		4.Slightly worse	8.0	29.7	11.8	14.3	7.9	7.0	10.5
		5.Much worse	2.0	16.5	6.7	6.0	1.3	2.7	1.5
		8.Other	-	-	-	-	0.1	-	-
		9.D.K	1.2	1.8	1.9	0.6	1.9	1.5	1.9
3 7.31 123	Living conditions in future	1.Much better	3.8	6.7	11.8	17.1	2.6	7.7	1.4
		2.Slightly better	27.4	25.1	28.2	29.9	22.4	20.1	18.7
		3.About the same	47.6	28.5	38.6	35.0	52.2	50.3	51.7
		4.Slightly worse	15.6	27.4	12.8	8.6	14.8	10.3	19.6
		5.Much worse	1.0	6.4	3.1	3.7	1.5	4.3	2.7
		8.Other	-	-	-	-	0.0	0.2	-
		9.D.K	4.6	5.8	5.5	5.7	6.5	7.1	6.0
4 7.18e 124	Happiness in future	1.Happier	12.8	15.6	18.0	28.7	22.1	24.5	
		2.Less happy	33.7	55.2	51.3	37.3	11.6	11.8	
		3.About the same	43.4	19.3	20.9	24.5	47.7	44.1	
		8.Other	-	-	-	2.1	0.9	1.0	
		9.D.K	10.1	9.9	9.8	7.4	17.7	18.7	
5 7.18b 125	Peace of mind	1.Increase	11.3	15.3	17.3	31.0	17.3	17.7	
		2.Decrease	47.4	56.8	59.3	46.6	37.4	36.7	
		3.Not change	33.2	16.6	16.1	16.1	36.1	35.3	
		8.Other	0.2	0.7	1.5	1.3	0.4	0.5	
		9.D.K	7.9	10.7	5.8	4.9	8.8	9.8	
6 7.18c 126	Freedom	1.Increase	21.2	29.6	42.5	29.9	37.5	36.1	
		2.Decrease	33.4	42.1	32.2	37.4	17.7	19.5	
		3.Not change	38.1	21.9	21.1	27.6	34.9	34.7	
		8.Other	-	-	-	1.4	0.1	0.3	
		9.D.K	7.3	6.4	4.2	3.8	9.7	9.4	
7 7.18 127	People's Health	1.Improve	25.5	49.3	61.6	63.9	41.3	42.3	
		2.Get worse	43.8	35.2	24.1	25.5	31.2	29.3	
		3.Not change	23.7	10.3	10.6	7.9	21.5	21.5	
		8.Other	-	-	-	0.6	0.1	0.2	
		9.D.K	7.0	5.2	3.7	2.1	5.9	6.7	
8 8.80 128	The country's goal	1.Maintain order	38.1	35.6	40.4	29.4	20.6	20.2	
		2.Give people more say	29.5	15.4	31.4	33.1	27.1	27.4	
		3.Fight rising prices	8.8	21.5	14.3	22.6	35.1	36.1	
		4.Protect freedom of speech	18.8	22.0	11.0	10.9	7.5	6.7	
		8.Other	1.2	3.7	1.9	2.2	0.6	0.9	
		9.D.K	3.6	1.8	1.0	1.7	9.1	8.8	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1989
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
9 2.30 129	Extent of worry: Serious illness	1.Very much	16.8	50.5	31.7	32.3	21.9	20.7	
		2.Somewhat	21.8	24.6	17.6	33.5	24.9	26.1	
		3.Slightly	35.4	17.7	30.7	22.3	38.7	39.0	
		4.Not at all	25.5	7.0	19.7	11.5	13.6	13.0	
		8.Other	-	-	-	-	0.0	0.1	
		9.D.K	0.5	0.2	0.3	0.4	1.0	1.1	
9 2.30d 130	Extent of worry: Car accident	1.Very much	8.5	43.7	23.6	21.9	26.0	21.9	
		2.Somewhat	13.6	27.6	16.1	29.0	31.1	31.8	
		3.Slightly	40.5	20.5	33.1	28.9	32.4	35.9	
		4.Not at all	35.7	8.0	26.7	19.8	9.2	8.8	
		8.Other	-	-	-	-	-	0.1	
		9.D.K	1.7	0.1	0.5	0.4	1.3	1.5	
9 2.30e 131	Extent of worry: Unemploy- ment	1.Very much	13.0	54.2	31.6	22.3	8.2	7.7	
		2.Somewhat	16.3	19.8	13.6	19.3	14.4	13.4	
		3.Slightly	25.2	14.7	22.3	22.8	30.7	31.9	
		4.Not at all	43.2	10.1	31.9	33.9	41.1	41.8	
		8.Other	-	-	-	-	0.5	0.6	
		9.D.K	2.3	1.2	0.5	1.7	5.1	4.7	
9 2.30f 132	Extent of worry: war	1.Very much	19.9	30.9	24.9	21.8	11.3	10.8	
		2.Somewhat	20.5	16.7	15.2	25.2	13.3	13.9	
		3.Slightly	32.4	28.2	26.1	27.4	36.4	34.7	
		4.Not at all	26.1	23.4	33.0	24.3	32.9	34.4	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.3	
		9.D.K	1.1	0.8	0.8	1.2	5.9	5.9	
9 2.30g 133	Extent of worry: Nuclear power accident	1.Very much	30.3	25.8	34.3	25.7	18.8	19.1	
		2.Somewhat	28.3	16.5	18.5	24.4	24.8	24.5	
		3.Slightly	27.8	31.6	23.3	24.3	34.4	33.2	
		4.Not at all	12.4	23.6	23.3	23.6	15.5	16.5	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	-	
		9.D.K	1.2	2.6	0.6	1.9	6.4	6.7	
10 7.80a 135	Household expenses: Health care	1.Yes	6.3	9.7	26.1	41.8	5.6	5.3	
		2.No	91.6	89.8	67.8	57.0	93.7	94.0	
		8.Other	-	-	-	-	0.2	0.2	
		9.D.K	2.1	0.5	6.1	1.2	0.5	0.5	
10 7.80b 136	Household expenses: Motoring costs	1.Yes	21.0	37.7	35.9	58.2	12.5	13.6	
		2.No	74.6	54.6	44.2	38.0	86.8	85.7	
		8.Other	-	-	-	-	0.2	0.2	
		9.D.K	4.4	7.7	19.9	3.8	0.5	0.5	
10 7.80c 137	Household expenses: Home appliance	1.Yes	12.4	40.2	46.1	39.7	18.1	20.1	
		2.No	84.8	56.4	50.8	58.5	81.2	79.3	
		8.Other	-	-	-	-	0.2	0.2	
		9.D.K	2.8	3.5	3.1	1.8	0.5	0.5	
10 7.80d 138	Household expenses: Food	1.Yes	8.2	19.1	29.1	38.4	15.3	17.7	
		2.No	90.6	80.4	69.9	61.2	84.0	81.6	
		8.Other	-	-	-	-	0.2	0.2	
		9.D.K	1.2	0.6	1.1	0.4	0.5	0.5	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987 FRG 1000	1987 FRANCE 1013	1987 UK 1043	1988 USA 1563	1988 JAPAN A	1988 JAPAN B	1989 JAPAN C
10 7.80e 139	Household expenses: Beauty care	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	12.3 80.9 - 6.8	32.8 51.8 - 15.4	19.8 59.0 - 21.3	27.4 66.3 - 6.3	16.5 82.8 0.2 0.5	16.6 82.7 0.2 0.5	
10 7.80f 140	Household expenses: Vacation and leisure	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	35.2 61.3 - 3.5	49.6 45.6 - 4.8	57.2 39.1 - 3.6	58.6 38.8 - 2.6	30.4 68.9 0.2 0.5	28.4 70.9 0.2 0.5	
10 7.80g 141	Household expenses: Clothes	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	19.2 79.3 - 1.5	46.4 52.0 - 1.6	52.5 46.2 - 1.2	50.0 49.4 - 0.6	27.8 71.6 0.2 0.5	26.5 72.9 0.2 0.5	
10 7.80h 142	Household expenses: Housing	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	14.3 83.6 - 2.1	20.5 75.3 - 4.1	39.7 53.0 - 7.3	43.4 54.1 - 2.4	7.1 92.2 0.2 0.5	7.5 91.8 0.2 0.5	
10 7.80i 143	Household expenses: Expenses for Children	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	9.3 78.9 - 11.8	17.2 61.6 - 21.2	22.1 35.4 - 42.5	33.3 44.5 - 22.1	4.5 94.9 0.2 0.5	4.7 94.6 0.2 0.5	
10 7.80j 144	Household expenses: Smoking or drinking	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	12.9 80.0 - 7.1	19.7 60.9 - 19.3	24.4 53.5 - 22.1	18.0 59.3 - 22.6	14.7 84.6 0.2 0.5	15.0 84.3 0.2 0.5	
11 4.11 146	Respect for ancestors	1.More than average 2.Less than average 3.About the same 8.Other 9.D.K	9.1 15.7 64.7 0.4 10.1	29.0 16.5 49.8 1.4 3.4	41.9 8.7 45.7 0.3 3.4	73.1 8.1 17.0 0.2 1.7	47.5 8.4 42.5 0.0 1.5	55.5 8.1 35.5 - 1.0	48.1 6.4 43.4 0.1 2.0
12 4.10 147	Adopt a child	1.Desirable 2.Undesirable 3.It depends 8.Other 9.D.K	39.5 28.8 24.0 1.0 6.7	63.9 21.1 9.6 2.7 2.8	34.3 44.6 11.9 5.8 3.4	52.3 34.5 8.2 1.8 3.1	19.1 42.4 30.5 0.2 7.8	20.3 42.9 26.1 0.2 10.6	16.3 46.4 28.2 0.1 9.0
13 4.80 148	Ideal number of children	0.None 1. 1 2. 2 3. 3 4. 4 5. 5 6. 6 7. 7 9.Other, D.K	4.2 13.3 60.4 15.2 2.2 0.2 0.1 - 4.4	- 2.8 45.7 42.6 5.2 0.9 0.2 - 2.6	1.3 1.5 60.8 18.6 9.6 1.1 0.9 - 6.2	0.8 2.1 49.6 24.3 13.2 2.1 2.3 - 5.6	- 0.9 35.6 55.4 3.6 1.0 0.1 0.0 3.4	- 0.6 33.2 55.4 4.6 1.1 0.3 - 4.8	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987 FRG 1000	1987 FRANCE 1013	1987 UK 1043	1988 USA 1563	1988 JAPAN A	1988 JAPAN B	1989 JAPAN C
14 2.80 149	Health problems: Headaches	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	40.6 58.3 - 1.1	35.8 63.9 - 0.3	36.1 63.5 - 0.4	34.6 64.8 - 0.6	21.9 76.9 1.1 -	22.5 77.0 0.5 -	
14 2.80b 150	Health problems: Backaches	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	32.9 65.8 - 1.3	46.3 53.6 - 0.1	35.5 64.0 - 0.6	37.8 61.7 - 0.5	19.1 79.8 1.1 -	19.2 80.3 0.5 -	
14 2.80c 151	Health problems: Nervousnes	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	25.1 72.7 - 2.2	55.8 44.0 - 0.2	19.7 79.7 - 0.7	30.3 69.0 - 0.8	25.7 73.2 1.1 -	26.2 73.4 0.5 -	
14 2.80d 152	Health problems: Depression	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	7.7 90.6 - 1.7	19.5 80.2 - 0.3	20.9 78.4 - 0.7	20.7 78.2 - 1.0	5.4 93.4 1.1 -	5.7 93.8 0.5 -	
14 2.80e 153	Health problems: Insomnia	1.Yes 2.No 8.Other 9.D.K	25.9 72.5 - 1.6	31.9 67.9 - 0.2	18.5 80.4 - 1.1	16.9 82.4 - 0.7	12.0 86.8 1.1 -	12.2 87.3 0.5 -	
15 2.3g 154	Satisfac- tion with health	1.Very satisfied 2.Fairly satisfied 3.Fairly dissatisfied 4.Very dissatisfied 8.Other 9.D.k	19.2 61.3 14.2 2.6 - 2.7	22.6 64.4 11.4 1.6 - 0.1	40.2 47.2 8.4 4.0 - 0.2	46.1 41.0 8.4 4.3 - 0.2	13.6 57.5 21.1 5.4 0.1 2.3	15.4 57.4 20.1 5.2 0.1 1.8	
16 1.8 155	Living class	1.Upper 2.Upper middle 3.Middle 4.Lower middle 5.Lower 8.Other 9.D.K	0.9 15.9 53.7 21.5 3.4 - 4.6	1.8 10.8 61.2 18.9 6.3 - 1.1	0.4 7.2 53.6 28.1 8.1 - 2.6	1.5 16.7 54.5 21.6 5.2 - 0.5	1.1 10.9 53.6 26.9 5.4 - 2.1	0.4 10.0 61.3 20.2 4.4 0.2 3.5	
17 7.81 156	Choose money or free time	1.More money 2.More free time 8.Other 9.D.K	43.9 40.7 - 15.4	66.8 25.0 - 8.2	66.0 27.2 - 6.8	65.3 30.1 - 4.7	60.6 32.7 1.5 5.3	37.9 47.9 2.5 11.8	60.1 32.8 2.0 5.2
18 2.8 157	If had enough money, still work	1.Continue working 2.Stop working 8.Other 9.D.K	39.4 47.7 4.3 8.6	55.2 33.7 7.4 3.8	55.7 34.1 6.3 3.8	57.8 30.4 8.7 3.1	64.1 24.1 1.5 10.4	60.3 27.3 1.4 11.0	64.3 25.4 1.6 8.7
19 7.25 158	Life without work	1.Life without work 2.With money life 8.Other 9.D.K	39.8 52.5 - 7.7	51.0 43.3 - 5.6	54.4 37.8 - 7.9	64.6 32.0 - 3.5	72.8 19.8 1.0 6.4	70.2 21.2 0.8 7.8	69.9 22.6 0.6 7.0

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1989
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
20 7.24 159	Most important aspect of job	1.Good salary	12.9	16.7	16.5	20.9	19.8	15.9	20.7
		2.Safe job	36.0	40.4	29.1	21.6	15.4	14.8	14.6
		3.Likable coworkers	20.2	6.6	14.9	11.3	29.2	30.2	31.0
		4.Accomplishment	23.2	35.0	37.0	43.6	29.4	30.8	28.6
		8.Other	-	-	-	0.4	0.5	0.5	0.2
		9.D.K	7.7	1.3	2.6	2.1	5.7	7.8	4.9
21 2.81 160	Work conflicts with private life	1.Yes	30.2	26.0	31.9	40.6	35.2	34.6	
		2.No	37.6	30.0	31.0	36.1	58.4	58.8	
		3.Not in paid employ- ment	28.5	43.5	36.3	22.4	-	-	
		8.Other	-	-	-	-	0.8	0.7	
		9.D.K	3.7	0.5	0.8	0.8	5.6	5.9	
22 2.4 161	Attitudes towards life	1.Get rich	2.8	8.1	7.3	6.1	13.8	6.4	13.9
		2.Make a name	15.6	5.5	3.6	7.2	1.7	1.3	3.1
		3.Suit own taste	32.4	36.9	38.0	33.2	37.3	47.5	43.1
		4.No worrying	21.5	29.3	42.0	37.1	32.0	28.8	26.5
		5.Pure & just life	15.6	8.9	5.0	11.2	5.9	10.2	4.9
		6.Serve society	2.1	3.7	1.7	2.8	2.9	2.3	3.1
		8.Other	1.6	3.4	1.3	0.8	1.2	0.4	1.1
		9.D.K	8.4	4.2	1.1	1.5	5.2	3.1	4.4
23 2.3f 162	Quality of life in the area where you live	1.Very satisfied	21.8	23.9	28.2	40.0	36.2	29.5	
		2.Fairly satisfied	65.9	60.1	57.9	46.3	43.4	46.5	
		3.Fairly dissatisfied	9.7	12.2	8.9	9.1	15.4	17.7	
		4.Very dissatisfied	0.9	3.7	4.9	3.9	4.3	4.9	
		8.Other	-	-	-	-	0.0	0.2	
		9.D.K	1.7	0.1	0.1	0.7	0.6	1.2	
24,a 5.80a 163	Safety in neighbor- hood : Burglary	1.A serious problem	2.8	29.5	14.0	8.6	2.4	2.5	
		2.A problem	12.9	39.4	26.2	16.2	6.3	8.7	
		3.Not a serious problm	38.3	15.2	42.1	44.8	34.3	36.8	
		4.Not a problem at all	42.2	15.2	15.9	29.6	53.6	48.5	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.3	
		9.D.K	3.8	0.7	1.8	0.8	3.4	3.3	
24,b 5.80b 164	Personal safety	1.A serious problem	1.4	43.5	7.0	4.7	2.7	2.8	
		2.A problem	7.1	30.0	14.0	8.2	6.3	8.3	
		3.Not a serious problm	31.3	10.3	43.5	37.9	32.0	34.3	
		4.Not a problem	50.5	15.0	33.8	48.2	55.0	50.7	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.3	
		9.D.K	9.7	1.2	1.6	1.0	3.9	3.6	
25 2.82 165	Idle grass- hopper and diligent ant	1.Ant sends him away	12.9	13.9	12.6	11.6	15.3	15.6	
		2.Ant shares food	77.8	78.8	82.6	85.1	75.0	74.3	
		8.Oter	1.3	5.5	0.1	0.6	0.3	0.6	
		9.D.K	8.0	1.8	4.7	2.7	9.4	9.4	
26,a 2.7 166	The most important thing	1.Answered	95.9	99.7	99.5		92.3	92.7	
		9.D.K	4.1	0.3	0.5		7.7	7.3	
26,b 2.7b 167	Other important things	1.Answered	89.4	96.5	97.0		71.2	70.6	
		9.D.K	10.6	3.5	3.0		28.8	29.4	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1989
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
27 5.81 168	Importance: Immediate family and children	1.Not important at all	1.6	2.0	1.2	0.6	0.6	1.0	
		2.	1.2	1.0	0.2	0.0	0.2	0.3	
		3.	0.9	0.5	0.3	0.4	0.4	0.6	
		4.	4.6	1.6	1.1	0.9	2.6	3.3	
		5.	5.4	4.1	2.2	2.0	4.4	3.9	
		6.	14.8	8.6	4.5	3.9	7.5	8.1	
		7.Very important	66.9	80.1	88.9	91.6	82.6	82.1	
		8.Other	-	-	-	-	0.2	0.3	
		9.D.K	4.6	2.2	1.6	0.6	1.5	0.4	
27 5.81b 169	Importance: Career and work	1.Not important at all	8.5	4.7	16.5	10.4	1.4	2.0	
		2.	7.3	1.8	2.9	2.3	0.9	1.9	
		3.	10.7	1.8	4.1	6.0	1.3	2.3	
		4.	20.0	4.7	14.2	11.5	8.4	9.0	
		5.	22.3	15.2	15.1	18.1	12.3	12.3	
		6.	17.1	26.7	15.5	17.4	17.6	17.6	
		7.Very important	12.0	43.5	26.4	29.8	54.6	52.6	
		8.Other	-	-	-	-	0.5	0.1	
		9.D.K	2.1	1.6	5.4	4.7	3.1	2.3	
27 5.81c 170	Importance: Free time and relaxation	1.Not important at all	0.3	1.5	3.4	1.9	0.6	0.9	
		2.	1.5	2.0	3.1	2.4	1.1	1.2	
		3.	2.7	6.5	6.8	5.7	3.1	3.3	
		4.	11.8	16.2	19.0	15.0	17.0	15.5	
		5.	25.4	23.6	25.9	24.6	24.2	23.0	
		6.	30.1	23.9	19.0	22.5	20.8	21.7	
		7.Very important	27.0	25.8	21.5	27.0	31.2	33.4	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.2	
		9.D.K	1.2	0.6	1.4	0.8	1.9	0.7	
27 5.81d 171	Importance: Friends	1.Not important at all	0.4	1.7	1.2	1.0	0.4	0.6	
		2.	0.5	3.5	1.9	1.7	0.7	0.8	
		3.	4.2	7.0	5.8	4.0	1.5	2.2	
		4.	9.4	14.7	15.3	10.4	8.7	10.7	
		5.	21.2	23.7	21.7	20.0	20.4	19.0	
		6.	34.2	24.7	27.1	26.6	27.5	28.4	
		7.Very important	29.0	24.7	26.7	36.0	39.4	38.0	
		8.Other	-	-	-	-	0.0	0.1	
		9.D.K	1.1	0.1	0.3	0.3	1.5	0.3	
27 5.81e 172	Importance: Parents and other relative	1.Not important at all	1.7	1.8	3.3	1.2	0.5	0.9	
		2.	2.1	2.0	2.4	0.8	0.4	0.4	
		3.	4.9	4.2	3.4	2.4	1.0	1.2	
		4.	9.3	8.5	6.5	4.2	5.1	5.9	
		5.	17.1	14.4	10.6	9.5	10.6	10.1	
		6.	29.9	24.1	19.4	18.0	22.6	23.1	
		7.Very important	33.6	44.1	52.6	62.3	58.1	58.0	
		8.Other	-	-	-	-	0.0	-	
		9.D.K	1.4	0.9	1.8	1.6	1.6	0.4	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1989		
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C		
27 5.81f 173	Importance: Religion and church	1.Not important at all	15.6	25.8	20.4	5.7	12.4	14.2			
		2.	13.8	11.8	12.8	4.2	8.7	9.1			
		3.	15.3	12.2	15.0	5.3	13.1	12.0			
		4.	16.6	14.7	15.5	8.8	24.5	24.4			
		5.	16.4	12.2	11.8	13.5	15.9	14.9			
		6.	11.9	11.1	10.5	15.0	7.8	8.7			
		7.Very important	9.4	11.9	13.8	47.2	13.8	13.1			
		8.Other	-	-	-	-	0.2	0.2			
		9.D.K	1.0	0.2	0.2	0.3	3.6	3.4			
27 5.81g 174	Importance: Politics	1.Not important at all	9.8	36.2	24.2	11.5	2.8	2.3			
		2.	11.1	14.7	13.6	8.0	5.3	4.3			
		3.	17.0	13.5	16.9	12.2	8.9	10.1			
		4.	21.3	12.0	19.3	21.9	24.5	26.5			
		5.	21.2	11.7	13.9	21.2	20.9	21.0			
		6.	12.9	6.3	5.8	12.3	15.0	14.4			
		7.Very important	5.9	5.0	6.0	12.2	18.2	17.7			
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.3			
		9.D.K	0.8	0.4	0.4	0.7	4.4	3.3			
28 2.3c 175	Satisfaction with family life	1.Completerly satisfied	30.2	40.7	50.1	42.8	43.5	45.3			
		2.Somewhat satisfied	51.2	26.9	39.2	38.3	38.7	38.8			
		3.Neither satisfied	12.7	16.6	6.1	11.2	10.4	11.2			
		4.Somewhat dissatisfid	2.9	7.5	2.4	6.0	4.6	3.6			
		5.Completerly dissatisf	0.3	7.2	0.9	1.2	1.2	0.5			
		8.Other	-	-	-	0.1	0.1	-			
		9.D.K	2.7	1.1	1.2	0.5	1.4	0.5			
		29 2.82 176	Satisfaction with life	1.Completerly satisfied	17.2	21.0	31.1	31.2	32.8	32.2	
				2.Somewhat satisfied	59.3	30.8	54.5	48.6	41.4	44.9	
3.Neither satisfied	16.5			31.5	7.5	12.3	13.2	12.6			
4.Somewhat dissatisfid	4.3			10.3	4.7	6.7	9.6	8.2			
5.Completerly dissatisf	0.8			5.8	1.8	0.8	2.7	2.1			
8.Other	-			-	-	0.1	-	-			
9.D.K	1.9			0.6	0.5	0.4	0.3	0.1			
30 7.19 177	Success: Ability or luck			1.Ability & effort	57.1	63.7	56.1	69.9	52.7	51.9	
				2.Luck and chance	28.2	21.0	32.1	23.2	35.2	35.8	
		8.Other	7.0	12.7	8.4	4.8	3.6	3.3			
		9.D.K	7.7	2.6	3.4	2.2	8.5	8.9			
31 4.81 214	Attitude towards governmental assistance	1.Enable them to live	57.5	49.9	59.4	46.5	53.0	52.9			
		2.Take away responsi- bility	25.9	35.1	29.1	42.4	26.9	25.8			
		8.Other	2.1	8.9	8.1	7.4	1.9	2.9			
		9.D.K	14.5	6.1	3.3	3.7	18.1	18.5			
32 7.1 215	Science and loss of human feeling	1.Agree	68.6	60.6	69.8	69.0	44.6	44.4	44.0		
		2.Disagree	14.5	29.0	20.2	24.2	9.9	11.9	14.3		
		3.Undecided	13.2	7.0	6.6	5.6	39.3	37.8	37.2		
		8.Other	-	-	-	0.1	0.0	-	-		
		9.D.K	3.7	3.4	3.4	1.1	6.1	5.9	4.6		

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1988
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
33 4.5* 216	Teaching children money is important	1. Agree	26.2	40.9	21.1	16.6	47.8	61.0	48.0
		2. Disagree	55.6	53.0	73.8	78.4	18.7	12.9	22.1
		3. Undecided	15.1	2.9	3.7	4.1	30.7	23.0	27.7
		8. Other	0.3	2.2	0.6	0.3	0.1	0.2	0.1
		9. D.K	2.8	1.1	0.8	0.6	2.7	2.9	2.1
34 8.1b 217	Leave it up to political leaders	1. Agree	7.7	37.9	13.0	7.4	13.1	12.0	12.9
		2. Disagree	73.4	42.1	80.2	88.2	61.6	63.0	62.2
		3. Undecided	16.2	12.1	5.3	3.0	19.0	18.7	20.0
		8. Other	-	-	-	0.3	0.1	0.2	0.4
		9. D.K	2.7	7.9	1.4	1.2	6.2	6.1	4.5
35 2.1 218	Custom vs. conscience	1. Go ahead	52.7	75.2	69.1	69.9	19.2	18.2	21.9
		2. Follow custom	16.9	14.6	20.6	19.4	25.7	26.2	22.7
		3. Undecided	27.1	5.9	8.3	9.5	52.0	52.1	52.1
		8. Other	0.1	0.3	0.3	0.2	0.1	0.3	0.1
		9. D.K	3.2	3.9	1.6	1.0	3.0	3.0	3.2
36 7.2 219	Mechaniza- tion and human feeling	1. Agree	20.8	69.0	71.9	76.1	29.6	32.4	31.8
		2. Disagree	52.7	22.1	19.8	19.0	31.3	30.2	32.0
		3. Undecided	19.1	4.6	5.6	3.5	32.4	30.9	31.6
		8. Other	-	-	-	0.1	0.0	-	0.1
		9. D.K	7.4	4.2	2.7	1.3	6.6	6.6	4.6
37 4.30 220	Home is relaxing place	1. Yes	56.1	65.4	50.7	44.8	80.3	78.5	
		2. No	37.5	29.7	48.0	54.4	16.3	18.2	
		8. Other	2.0	3.3	0.4	0.1	0.6	0.3	
		9. D.K	4.4	1.6	0.9	0.7	2.8	3.0	
38 4.32 221	Marriage is permanent	1. Permanent	9.9	25.9	43.1	45.2	35.4	35.2	
		2. Broken under serious	36.5	33.3	39.3	41.3	37.7	38.5	
		3. Broken by agreement	44.7	37.4	16.6	12.2	19.5	19.0	
		8. Other	-	-	-	-	0.7	0.6	
		9. D.K	8.9	3.5	1.0	1.3	6.8	6.7	
39 4.31 222	Housework and child care	1. Women's work	12.4	4.4	12.3	6.3	13.6	14.7	
		2. Some of work	35.0	25.4	34.1	33.1	53.7	61.0	
		3. Men and women	48.3	68.6	51.2	59.1	28.3	20.9	
		8. Other	2.9	1.1	1.9	-	0.8	1.0	
		9. D.K	1.4	0.5	0.5	1.5	3.5	2.4	
40 4.4 223	Rumor about teacher	1. Tell the truth	58.3	64.2	74.9	90.3	55.5	55.2	61.0
		2. Deny it	18.8	21.4	8.3	2.7	24.6	24.2	20.4
		8. Other	4.8	8.1	11.6	3.8	3.8	4.6	3.3
		9. D.K	18.1	6.3	5.2	3.1	16.2	16.0	15.3
41 5.1 224	Benefactor death-bed	1. Go home	58.0	62.6	62.4	66.3	45.7	42.7	44.4
		2. Attend the meeting	22.2	22.8	27.4	24.4	37.7	40.5	39.1
		8. Other	4.6	7.2	4.7	5.0	1.3	1.5	1.6
		9. D.K	15.2	7.4	5.5	4.4	15.4	15.3	14.9
42 5.1b 225	Real father death-bed	1. Go home	61.5	65.6	73.5	64.4	45.4	47.2	47.6
		2. Attend the meeting	18.3	20.0	18.7	25.7	40.6	39.0	38.6
		8. Other	4.5	6.8	4.1	4.7	1.2	0.9	1.2
		9. D.K	15.7	7.5	3.6	5.2	12.8	12.9	12.6

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1988
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
43 2.5 226	Man and nature	1.Follow nature	36.8	22.0	22.5	25.5	36.6	36.6	42.7
		2.Make use of nature	46.6	66.0	67.1	66.2	47.9	46.4	43.7
		3.Conquer nature	6.7	6.4	4.5	4.5	5.3	6.8	5.3
		8.Other	1.4	2.5	0.7	1.0	0.7	0.7	0.4
		9.D.K	8.5	3.1	5.2	2.8	9.5	9.5	7.9
44 7.4 227	Improve the country or make people happy	1.Individual->Country	23.0	23.8	24.8	27.1	34.0	32.6	32.1
		2.Country->Individual	37.4	23.3	31.6	28.3	22.4	22.1	23.7
		3.Country=Individual	28.4	46.8	37.7	36.7	36.0	37.5	37.7
		8.Other	-	-	-	2.3	0.2	-	0.1
		9.D.K	11.2	6.1	5.8	5.6	7.3	7.8	6.4
45 5.1D 228 -233	Important thing	1.Filial piety	55.0	52.4	63.4	69.4	77.7	73.2	76.1
		2.Repaying obligations	15.0	38.2	49.6	27.6	56.8	45.0	58.4
		3.Individual rights	65.9	47.8	46.4	62.3	25.2	37.7	23.8
		4.Individual freedom	57.4	57.7	36.1	33.1	32.8	36.6	36.4
		5.Other answer	1.8	0.3	1.4	0.5	-	-	-
9.D.K	2.3	2.1	1.4	-	-	-	1.8		
46 5.6h 236	Desirable person: efficient vs. friendly	1.Friendly	77.9	62.5	84.7	78.6	61.5	62.9	62.3
		2.Efficient	12.6	30.7	10.9	15.2	11.3	10.3	11.4
		8.Other	-	-	-	2.1	4.3	4.4	6.1
		9.D.K	9.5	6.8	4.4	4.0	23.0	22.3	20.2
47 2.2b 237	Consensus vs. principle	1.Stress own principle	28.3	29.4	44.4	47.6	20.2	36.9	21.0
		2.Stress consensus	62.4	65.7	52.1	47.1	68.3	52.9	69.3
		8.Other	-	-	-	1.4	1.3	2.5	1.2
		9.D.K	9.3	4.8	3.5	3.9	10.3	7.8	8.5
48 5.1c1 238	Employment examina- tion: Relative	1.Highest grade	44.5	58.8	72.6	65.9	60.4	62.1	62.6
		2.Relative	39.8	34.9	21.3	29.5	22.8	21.8	22.3
		8.Other	2.1	1.2	2.0	1.7	1.0	1.4	1.2
		9.D.K	13.6	5.0	4.1	2.9	15.8	14.7	13.9
49 5.1c2 239	Employment examina- tion: son of benefactor	1.Highest grade	36.2	50.2	68.6	64.9	40.6	43.4	41.1
		2.Son of benefactor	46.9	43.2	23.9	30.4	42.3	40.2	43.4
		8.Other	3.4	1.0	2.1	1.5	1.2	1.4	1.3
		9.D.K	13.5	5.5	5.5	3.3	15.9	15.0	14.2
50 5.6 240	Type of boss preferred	1.Non-paternalistic	22.8	30.9	39.9	44.9	9.0	10.7	10.3
		2.Paternalistic	68.6	64.1	56.7	51.4	80.3	77.8	80.2
		8.Other	-	-	-	0.4	0.1	0.6	0.5
		9.D.K	8.6	5.0	3.5	3.3	10.6	10.9	9.0
51 2.12 241	Are people helpful most of the time	1.Try to be helpful	42.8	19.2	52.9	53.6	31.2	29.4	32.0
		2.Look out for them- selves	48.2	77.2	42.8	43.6	54.2	56.5	51.5
		8.Other	2.2	2.2	2.3	1.1	1.5	1.1	2.0
		9.D.K	6.8	1.4	2.0	1.7	13.2	13.0	14.5
52 2.12b 242	Are most people fair	1.Take advantage	29.9	57.7	37.5	40.4	32.3	28.1	33.8
		2.Try to be fair	54.9	35.8	57.8	56.0	52.8	56.0	52.8
		8.Other	2.6	3.0	1.9	1.2	0.9	0.7	1.4
		9.D.K	12.6	3.6	2.8	2.4	14.0	15.1	12.1

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987 FRG 1000	1987 FRANCE 1013	1987 UK 1043	1988 USA 1563	1988 JAPAN A	1988 JAPAN B	1988 JAPAN C
53 2.12c 243	Are most people trustworthy	1.Can be trusted	37.8	22.8	36.3	42.4	39.1	34.2	40.9
		2.Cannot be trusted	47.0	73.8	60.0	54.5	46.0	53.4	46.0
		3.Other	4.6	1.8	1.5	1.3	2.8	1.8	2.3
		9.D.K	10.6	1.6	2.1	1.8	12.1	10.6	10.8
54 2.83 244	Life: Most people are helpful	1.Strongly agree	7.7	26.4	12.6	12.7	42.2	46.6	
		2.Agree to some extent	39.6	46.2	67.9	62.7	46.8	43.1	
		3.Disagree to some ext	35.3	22.5	16.0	20.0	4.4	3.5	
		4.Strongly disagree	14.1	4.1	2.9	4.0	1.2	0.5	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.4	
9.D.K	3.3	0.8	0.7	0.6	5.3	5.9			
54 2.83b 245	Life: Part of community	1.Strongly agree	19.3	15.3	12.3	21.4	23.9	22.5	
		2.Agree to some extent	48.4	32.6	43.0	45.7	46.8	45.8	
		3.Disagree to some ext	22.7	28.8	28.0	23.2	13.8	14.8	
		4.Strongly disagree	6.5	18.9	14.7	8.2	4.5	6.2	
		8.Other	-	-	-	-	0.3	0.5	
9.D.K	3.1	4.4	2.0	1.5	10.7	10.1			
54 2.83c 246	Life: People live for today	1.Strongly agree	11.1	9.5	25.6	20.9	12.3	13.9	
		2.Agree to some extent	28.0	15.9	46.2	34.2	31.1	27.4	
		3.Disagree to some ext	34.6	27.8	19.9	28.9	28.3	29.6	
		4.Strongly disagree	24.4	45.5	7.7	14.9	18.4	20.1	
		8.Other	-	-	-	-	0.5	0.2	
9.D.K	1.9	1.3	0.6	1.1	9.4	8.8			
54 2.83d 247	Life: Way of earning money is important than amount	1.Strongly agree	31.1	37.3	30.2	40.8	18.8	20.6	25.2
		2.Agree to some extent	41.3	39.5	45.3	35.0	31.9	30.1	34.0
		3.Disagree to some ext	17.7	11.7	14.4	13.2	20.8	20.3	12.9
		4.Strongly disagree	5.8	8.2	6.5	9.3	11.3	12.4	7.7
		8.Other	-	-	-	-	0.3	0.5	0.3
9.D.K	4.1	3.3	3.6	1.7	17.0	16.2	19.8		
54 2.83e 248	Life: People feel lonely	1.Strongly agree	5.7	15.2	9.2	8.4	9.8	8.7	
		2.Agree to some extent	25.1	25.2	23.2	26.5	29.5	32.8	
		3.Disagree to some ext	27.5	26.9	28.3	30.8	30.5	30.3	
		4.Strongly disagree	38.4	32.1	38.2	33.3	19.9	18.5	
		8.Other	-	-	-	-	0.5	0.6	
9.D.K	3.3	0.7	1.2	1.1	9.8	9.1			
55 7.36 249	Improvement of everyday life through science	1.A lot	37.2	33.4	50.4	61.3	47.6	47.8	
		2.A little bit	48.3	52.1	39.6	33.7	39.2	39.7	
		3.Not at all	8.7	10.2	7.6	3.3	6.6	5.9	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.1	
		9.D.K	5.8	4.3	2.4	1.8	6.4	6.5	
56 7.33 250	Computers change our lives	1.Desirable thing	14.7	31.8	15.9	33.6	30.5	31.5	
		2.Inevitable thing	55.0	51.0	63.1	51.4	52.8	50.4	
		3.Dangerous thing	25.6	12.5	16.7	11.6	6.6	8.1	
		8.Other	-	-	-	-	0.3	0.6	
		9.D.K	4.7	4.6	4.3	3.5	9.8	9.4	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1988
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
57 7.83 251	Some illness treated by methods other than modern medicine	1.Strongly agree	29.1	23.0	22.7	20.7	21.6	21.7	
		2.Agree to some extent	48.1	39.1	53.0	50.9	50.0	47.7	
		3.Disagree to some ext	13.4	15.5	11.4	17.3	17.3	18.1	
		4.Strongly disagree	5.9	19.2	6.2	6.9	4.9	6.0	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.2	
		9.D.K	3.5	3.2	6.6	4.2	6.1	6.3	
57 7.84 252	Science permits understand- ing the human mind	1.Strongly agree	9.1	26.8	12.4	18.6	2.5	2.6	
		2.Agree to some extent	25.3	37.9	37.3	39.2	11.3	11.3	
		3.Disagree to some ext	26.2	17.0	22.3	23.2	54.1	52.5	
		4.Strongly disagree	32.4	14.1	21.2	15.1	24.0	25.8	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.0	
		9.D.K	7.0	4.2	6.8	3.9	8.0	7.9	
57 7.85 253	Resolution of social and economic problems through science	1.Strongly agree	7.3	15.5	9.5	12.2	2.7	2.4	
		2.Agree to some extent	36.7	33.8	33.3	34.7	12.4	11.7	
		3.Disagree to some ext	27.8	25.4	28.5	30.5	55.1	57.6	
		4.Strongly disagree	23.0	21.7	23.2	19.7	18.8	18.3	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.0	
		9.D.K	5.2	3.7	5.6	2.9	10.9	10.0	
58 7.86 254	Safe method for nuclear wastes disposal	1.Very likely	17.1	28.4	33.7	32.2	33.4	33.2	
		2.Possible	42.3	50.5	44.3	50.0	35.8	36.8	
		3.Not at all likely	36.0	15.6	18.5	14.8	16.1	14.4	
		8.Other	-	-	-	-	0.2	0.1	
				9.D.K	4.6	5.4	3.5	2.9	14.4
58 7.86b 255	Cure for cancer	1.Very likely	36.5	68.3	63.5	61.9	65.1	64.8	
		2.Possible	46.8	26.4	32.2	32.9	24.3	23.6	
		3.Not at all likely	12.7	3.0	3.3	4.2	5.3	4.9	
		8.Other	-	-	-	-	0.2	0.2	
				9.D.K	4.0	2.4	1.1	1.0	5.2
58 7.86c 256	Cure for senility	1.Very likely	16.8	23.4	11.7	25.0	28.7	26.5	
		2.Possible	40.0	44.6	38.4	51.0	44.5	45.4	
		3.Not at all likely	37.1	21.4	45.6	20.3	18.0	16.9	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.2	
				9.D.K	6.1	10.6	4.2	3.7	8.6
58 7.86d 257	Living in space stations	1.Very likely	35.6	23.4	32.7	41.3	19.3	20.6	
		2.Possible	37.4	36.7	34.0	36.1	32.1	33.5	
		3.Not at all likely	22.2	31.4	28.9	20.2	33.2	29.5	
		8.Other	-	-	-	-	0.3	0.3	
				9.D.K	4.8	8.5	4.4	2.5	15.1
59 7.34 258	Energy conser- vation	1.Very important	56.2	33.1	50.9	66.0	41.9	39.0	
		2.Important	39.2	54.2	39.4	30.4	47.5	50.7	
		3.Not very important	3.4	10.0	6.3	2.8	5.7	4.8	
		4.Not at all important	0.0	1.9	1.4	0.6	0.5	1.2	
		8.Other	-	-	-	-	0.0	0.1	
		9.D.K	1.2	0.9	1.9	0.3	4.3	4.1	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1988
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
60 7.35 259	Environ- mental preser- vation	1.Very important	74.2	69.6	74.0	84.2	45.6	44.1	
		2.Important	24.3	28.1	23.2	14.7	45.7	47.8	
		3.Not very important	0.7	1.2	1.5	0.6	4.7	4.8	
		4.Not at all important	0.2	0.4	0.1	0.2	0.2	0.3	
		8.Other	-	-	-	-	0.0	-	
		9.D.K	0.6	0.7	1.2	0.3	3.8	3.0	
61 9.80 260	Culture	1.Answered	77.6	79.2	73.7		58.4	59.6	
		9.D.K	22.4	20.8	26.3		41.6	40.4	
						67.7	66.3		
62,a 3.1 261	Religious faith	1.Yes	74.8	64.4	64.2	85.3	36.5	34.7	36.4
		2.No	21.8	34.8	34.3	13.9	63.5	65.3	63.6
		9.D.K	3.4	0.8	1.4	0.8	-	-	-
62,b 3.1b 262	Religion	1.Protestant	33.7	1.6	50.0	54.8	-	-	
		2.Catholic	38.3	60.3	8.4	24.4	-	-	
		3.Jewish	-	0.5	0.2	1.2	-	-	
		4.Buddhist	-	-	0.1	-	28.5	26.2	
		5.Moslem	-	0.9	0.9	-	-	-	
		6.Shinto	-	-	-	-	2.1	1.5	
		7.Christian	-	-	-	-	1.2	1.7	
		8.Other	2.6	0.8	4.2	2.5	3.2	3.5	
		9.D.K	0.2	0.3	0.4	2.5	1.5	1.9	
		0.missing	25.2	35.6	35.8	14.7	63.5	65.3	
63 3.2 263	Religious attitude	1.Important	57.6	62.5	58.5	87.3	75.5	76.6	76.8
		2.Not important	34.3	33.2	36.3	10.4	11.1	10.4	10.1
		8.Other	1.6	2.2	3.4	1.0	1.1	0.6	0.8
		9.D.K	6.5	2.2	1.8	1.3	12.4	12.4	12.3
64 3.3 264	All Religions Same	1.Agree	61.8	57.8	71.2	56.5	63.3	62.4	
		2.Disagree	20.7	33.0	24.5	39.9	16.4	14.3	
		8.Other	0.4	1.0	0.9	1.0	0.5	0.3	
		9.D.K	17.1	8.2	3.4	2.7	19.9	23.0	
65 8.81 255 256	Political stance	01.Left	2.1	3.3	3.0	2.9	1.4	1.1	
		02.	3.5	3.8	1.4	2.6	1.0	0.9	
		03.	11.8	10.9	4.0	7.7	4.2	4.9	
		04.	13.3	11.0	7.2	6.8	6.0	5.3	
		05.	19.6	28.7	30.0	23.9	27.3	27.9	
		06.	13.4	9.7	12.8	13.7	15.0	14.8	
		07.	10.6	7.6	11.7	12.2	10.3	8.6	
		08.	7.2	7.0	12.3	13.8	9.9	11.7	
		09.	2.1	1.5	2.7	4.7	3.2	2.6	
		10.Right	1.4	1.6	5.2	7.3	4.6	4.7	
		88.Other	6.7	-	-	-	0.6	1.0	
		99.D.K	8.3	15.1	9.8	4.5	16.5	16.5	
66 8.82 267	Interest in politics	1.A great deal	10.7	8.8	10.0	21.7	11.3	11.6	
		2.To some extent	38.8	30.0	40.8	47.7	45.9	43.0	
		3.Not much	38.4	31.4	31.6	21.6	34.7	37.3	
		4.Not at all	10.3	29.1	17.0	8.6	6.2	6.4	
		9.D.K	1.8	0.7	0.6	0.5	1.8	1.8	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1988
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
67 8.2e 268	Democracy	1.Favourable	86.1	70.9	65.8	83.6	52.1	50.9	
		2.It depends	11.0	17.2	22.1	11.2	37.7	39.0	
		3.Unfavourable	1.5	4.9	5.0	2.9	1.7	1.0	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.1	
		9.D.K	1.4	7.0	7.1	2.3	8.4	8.9	
67 8.2f 269	Capitalism	1.Favourable	19.1	14.0	23.1	41.5	27.3	26.6	
		2.It depends	43.2	36.9	37.5	30.9	48.3	48.6	
		3.Unfavourable	32.2	42.5	29.7	20.9	10.1	10.2	
		8.Other	-	-	-	-	-	-	
		9.D.K	5.5	6.5	9.7	6.8	14.3	14.6	
67 8.2h 270	Socialism	1.Favourable	13.7	30.3	22.4	10.9	6.3	5.6	
		2.It depends	38.3	41.6	39.1	32.2	54.3	55.7	
		3.Unfavourable	40.8	20.2	30.7	49.5	20.9	21.3	
		8.Other	-	-	-	-	0.0	0.1	
		9.D.K	7.2	7.9	7.8	7.5	18.4	17.3	
67 8.2g 271	Liberalism	1.Favourable	20.5	48.7	21.6	16.9	33.5	36.8	
		2.It depends	46.9	34.1	47.2	43.6	47.1	45.9	
		3.Unfavourable	18.1	9.7	20.9	29.4	5.5	5.4	
		8.Other	-	-	-	-	0.0	-	
		9.D.K	14.5	7.6	10.4	10.1	13.9	11.9	
68 8.83 272	Satisfac- tion with democracy	1.Very satisfied	6.7	3.3	9.9	17.8	2.3	1.5	
		2.Fairly satisfied	64.6	49.0	58.4	62.6	30.3	29.3	
		3.Not very satisfied	23.0	28.8	20.6	14.8	47.5	50.6	
		4.Not at all satisfied	2.7	11.0	5.8	3.1	3.7	3.6	
		8.Other	-	-	-	-	0.3	0.2	
9.D.K	3.0	8.0	5.4	1.8	15.9	14.7			
69 8.84 273	Legal system	1.Very well	7.4	1.1	7.3	7.0	6.3	6.0	
		2.Fairly well	60.7	35.4	48.8	46.8	41.9	41.7	
		3.Poorly	23.1	44.4	30.2	34.9	25.0	24.7	
		4.Very poorly	2.8	16.0	9.7	9.9	2.4	2.2	
		8.Other	-	-	-	-	0.6	0.2	
9.D.K	6.0	3.1	4.0	1.3	23.8	25.3			
70 7.87 274	Employer vs. Employee	1.Conflict with	23.8	20.9	3.2	5.8	8.1	7.3	
		2.Co-operate with	64.1	74.3	92.7	91.7	79.2	79.8	
		8.Other	-	-	-	-	0.8	0.6	
		9.D.K	12.1	4.7	4.1	2.6	11.9	12.3	
		8.8	Attitudes concerning society	1.Change by revolution	3.7	4.8	4.3	4.4	2.6
2.Improve by reform	55.2	62.6		70.0	66.4	58.5	83.3	62.5	
3.Defend against force	27.8	29.0		19.7	24.6	15.0	5.1	13.4	
8.Other	-	-		-	-	0.3	-	0.3	
9.D.K	13.3	3.6		6.0	4.6	23.5	10.7	19.8	
72,a 8.85 276	Profound transfor- mation of society	1.Yes	21.0	58.4	43.4	39.3	29.4	29.7	
		2.No	62.4	37.3	48.1	53.3	47.3	48.2	
		8.Other	-	-	-	-	0.8	1.0	
		9.D.K	16.6	4.2	8.4	7.4	22.6	21.1	

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987	1987	1987	1988	1988	1988	1988
			FRG 1000	FRANCE 1013	UK 1043	USA 1563	JAPAN A	JAPAN B	JAPAN C
72,b 8.85b 277	The way of changing society	1.Gradual	18.1	45.2	32.3	33.3	27.4	27.3	
		2.Radical	2.5	11.8	10.2	4.9	1.0	1.2	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.1	
		9.D.K	0.4	1.4	1.0	1.0	0.8	1.1	
		0.	79.0	41.6	56.6	60.7	70.6	70.3	
74 8.86 316	Close to party	1.Very close	5.2	4.5	9.8	16.3	5.2	5.4	
		2.Fairly close	17.5	12.7	39.5	45.0	27.6	26.9	
		3.Not very close	16.7	50.0	31.6	16.1	23.0	23.1	
		8.Other	-	-	-	-	0.1	0.3	
		9.D.K	0.7	1.4	0.9	0.6	5.0	3.9	
		0.missing	59.9	31.3	18.2	21.9	39.1	40.3	
SEX		1.Male	44.4	46.6	47.6	50.5	46.2	45.3	48.7
		2.Female	55.6	53.4	52.4	49.5	53.8	54.7	51.3
AGE		1. - 19	3.9	4.4	4.2	3.3	2.8	3.3	4.4
		2. 20-24	9.7	10.8	9.8	6.8	7.0	5.8	7.3
		3. 25-29	12.6	11.6	9.4	10.0	6.1	7.7	7.4
		4. 30-34	9.7	12.5	10.0	9.9	9.0	10.3	9.1
		5. 35-39	11.4	10.8	8.9	10.3	10.4	11.3	12.1
		6. 40-44	8.4	8.4	8.9	9.0	10.9	11.4	10.9
		7. 45-49	9.9	5.8	8.6	7.5	10.9	9.7	10.1
		8. 50-54	8.6	7.1	7.5	6.1	9.9	10.1	9.3
		9. 55-59	7.0	7.1	6.3	7.0	10.1	9.1	10.0
		10.60-64	6.5	6.7	7.4	6.8	8.3	8.0	7.4
		11.65-69	5.2	5.2	5.8	8.3	6.1	6.6	5.5
		12. 70 -	7.1	9.5	13.2	15.0	8.6	6.6	6.4
EDUC		1.Low	33.6	30.9	45.5	20.2	30.8	28.2	28.8
		2.Middle	42.7	46.2	40.1	59.2	48.5	50.2	50.7
		3.High	21.7	22.6	13.8	20.3	19.7	20.6	20.1
		9.D.K	2.0	0.3	0.6	0.3	1.0	0.9	0.4

意識の国際比較調査結果

Q No	Item	Category	1987 FRG 1000	1987 FRANCE 1013	1987 UK 1043	1988 USA 1563	1988 JAPAN A	1988 JAPAN B	1988 JAPAN C
73	Political party FRG	11.CDU	15.4						
8.7		12.SPD	16.4						
314		13.FDP	2.6						
315		14.NPD	0.1						
		15.DKP	0.2						
		16.GRUNEN	5.1						
		17.Other	0.3						
		18.No party	57.0						
		19.D.K	2.9						
73	Political party FRANCE	21.Communiste		5.3					
8.7		22.Socialiste		29.7					
314		23.Ecologiste		9.0					
315		24.U.D.F		9.0					
		25.R.P.R		12.8					
		26.Front national		2.9					
		27.Other		1.1					
		28.No party		25.1					
		29.D.K		5.1					
73	Political party UK	31.Conservative			38.0				
8.7		32.Labour			30.4				
314		33.Liberal			7.9				
315		34.Nationalist			0.8				
		35.Ecology			0.5				
		36.SDP			2.6				
		37.Alliance			1.0				
		38.Other			0.8				
		39.No party			12.5				
		30.D.K			5.8				
	73	Political party USA	41.Republican				35.3		
8.7	42.Democrat					42.8			
314	43.Independent					8.3			
315	44.Other					0.7			
	45.No party					10.2			
	46.Refuse					0.9			
	49.D.K					1.9			
73	Political party JAPAN	51.Jimin				42.5	40.9	31.8	
8.7		52.Shakai				11.0	9.4	15.5	
314		53.Komei				2.9	4.2	4.6	
315		54.Minsha				2.4	2.8	2.5	
		55.Kyosan				1.3	1.7	3.1	
		56.Shaminren				0.5	0.6	0.3	
		57.Other				0.2	0.1	0.7	
		58.No party				32.5	32.2	28.6	
		59.D.K				6.7	8.2	12.9	

質問項目履歴一覧表

1987年ヨーロッパ3カ国調査 } 質問項目出典一覧
1988年アメリカ、日本調査 }

	原質問項目	調査	項目数 (延項目数)		他調査との重複等
継 続 調 査	日 本	国民性	30	(34)	
	アメリカ	ISR	6	(6)	GSS (2) EC (2)
		GSS	1	(1)	
	フランス	CREDOC	23	(53)	ALLBUS (2) GSS (3)
	E C	Eurobarometer	5	(5)	ALLBUS (1)
比 較 調 査	1978	アメリカ調査	4	(4)	ISR (2) EC (1)
	1987	科学技術調査	2	(7)	
新			2	(2)	
	政治の質問項目 は各国異なる		2	(4~6)	
	合 計		75	$\left\{ \begin{array}{c} 117 \\ ? \\ 119 \end{array} \right\}$	

統 数 研 日本人の国民性の研究

1987ヨーロッパ(独,仏,英) 1988日米調査項目	'53 KS I	'58 II	'63 III	'68 IV	'73 V	'78 VI	'83 VII	'88 VIII
1-17.90B 国の生活水準10年の変化 Standard of living in country 10 years ago							M14b	
2-17.90A あなたの生活水準10年の変化 Your standard of living 10 years ago							M14a	M25
3-17.91 今後の生活水準 Living conditions in future							M15	
4-17.18E 幸福になるか Happiness in future					M27e	M25c		
5-17.18B 心の安らかさはますか Peace of mind					M27b	M25b		
6-17.18C 人間の自由はふえるか Freedom					M27c	M25c		
7-17.18 人間の健康の面はよくなるか People's health					M27a	M25a		
8-18.80 国家目標 The country's goal								
9-12.90 不安感-重い病気 Extent of worry: serious illness							M25a	
9-12.90D 不安感-交通事故 Extent of worry: car accident							M25d	
9-12.90E 不安感-失業 Extent of worry: unemployment							M25e	
9-12.90F 不安感-戦争 Extent of worry: war							M25f	
9-12.90G 不安感-原子力施設事故 Extent of worry: nuclear power accident							M25g	
10-17.80A 家計の節約-医療 Household expenses: health care								
10-17.80B 家計の節約-車 Household expenses: motoring costs								
10-17.80C 家計の節約-家庭用品 Household expenses: home appliances								
10-17.80D 家計の節約-食料品 Household expenses: food								
10-17.80E 家計の節約-美容 Household expenses: beauty care								
10-17.80F 家計の節約-バカンス, 休暇 Household expenses: vacation and leisure								
10-17.80G 家計の節約-衣服 Household expenses: clothes								
10-17.80H 家計の節約-住居 Household expenses: housing								
10-17.80I 家計の節約-子供の養育 Household expenses: expenses for children								
10-17.80J 家計の節約-タバコ, アルコール Household expenses: smoking or drinking								

統数研 ハワイ日系人調査				トヨタ ア リ カ '78	France CREDOC	
'72 I	'78 II	'83 III	'88 IV		1979	1982 1984
		22	1		G13	J5 J5
		21	2		G13	J5 J5
		23	3		G14	J6 J6
		1				
	11	3	5			
	12	4				
	10	2	7			
		44				ALL82 Q32 I S R
		50 a	9 a			N6 N5
		50 d	9 b			N6 N5
		50 e	9 c			N6 N5
		50 f	9 d			N6 -
		50 g	9 e			N6 -
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4
					G10	J4 J4

		統 数 研 日本人の国民性の研究							
		'53 KS I	'58 II	'63 III	'68 IV	'73 V	'78 VI	'83 VII	'88 VIII
11-21.11	先祖を尊ぶか Respect for ancestors	3				K 20	K 10	K 14	K 12
12-21.10	他人の子供を養子にするか Adopt a child	23の1	106	2	2	K 3	K 3	M 3	K 2
13-21.80	望ましい子供の数 Ideal number of children								
14-22.80A	病氣-頭痛, 偏頭痛 Health problems: headaches, migraines								
14-22.80B	病氣-背中の痛み Health problems: backaches								
14-22.80C	病氣-神経の興奮 Health problems: nervousness								
14-22.80D	病氣-鬱病 Health problems: depression								
14-22.80E	病氣-不眠症 Health problems: insomnia								
15-22.9G	健康状態満足か Satisfaction with health							M 13	
16-21.4	社会的階層 Living class							K 33 M 30	K 32 M 23
17-21.81	収入か余暇か Choose money or free time								
18-22.4	一生働くか If had enough money, still work?					M 2	K 1	K 2 M 1	K 3 M 1
19-21.25	お金と仕事 Life without work							K 24	K 23 M 11
20-21.24	就職の第1の条件 Most important aspect of job						K 24a	K 25 M 23	K 24 M 17
21-22.81	仕事と個人生活 Work conflicts with private life								
22-22.4	くらし方 Attitudes towards life	39	22	26	31	K 34	K 19	K 20 M 20	K 18 M 9
23-22.9F	生活環境満足か Quality of life in the area where you live							M 12	
24-25.80A	近所の治安-強盗にはいられること Safety in neighborhood: burglary								
24-25.80B	近所の治安-急に襲われて身の危険を感じる Personal safety								
25-21.82	アリとキリギリス The idle grasshopper and diligent ant								
26-22.7A	一番大切なもの The most important thing in life	47	29 129	29	34	K 41	K 32	K 13	K 11
26-22.7B	その他 非常に大切なもの Other important things								
27-25.81A	生活領域の重要性-あなた自身の家族と子供 Importance: immediate family and children								
27-25.81B	生活領域の重要性-職業や仕事 Importance: career and work								
27-25.81C	生活領域の重要性-自由になる時間とくつろぎ Importance: free time and relaxation								

統数研 ハワイ日系人調査				トヨタ アメリ リカ '78	France CREDOC		
'72 I	'78 II	'83 III	'88 IV		1979	1982 1984	
	73	14	11	14			
9	4	7	12	4			
					C1	C7 C9	GSS88 211
					F3	I2 I2	
					F3	I2 I2	
					F3	I2 I2	
					F3	I2 I2	
					F3	I2 I2	
						I3 I3	
				44			ALL82 Q28
						G33 G27	ISR
	2	5	18	2			GSS88 181
							ISR
		43	20	33			ALL82 Q6
					E22	G32 G26	GSS88 182
44	26*	29	22	26			
		20	23		D15	D13 D15	
						- D17	
						- D17	
							新
		26A					
		26B					
							GSS88 (82のみ) 282A
							GSS88 (82のみ) 282B
							GSS88 (82のみ) 282C

統 数 研 日本人の国民性の研究

	統 数 研 日本人の国民性の研究							
	'53 KS I	'58 II	'63 III	'68 IV	'73 V	'78 VI	'83 VII	'88 VIII
27-25.81D 生活領域の重要性-友人, 知人 Importance: friends								
27-25.81E 生活領域の重要性-両親, 兄弟, 姉妹, 親戚 Importance: parents and other relative								
27-25.81F 生活領域の重要性-宗教 Importance: religion and church								
27-25.81G 生活領域の重要性-政治, 公的生活 Importance: politics								
28-22.3C 家庭に満足か Satisfaction with family life					M9 a	M5 a	K32a	
29-22.82 生活に満足か Satisfaction with life								
30-27.19 才能か運か Success: ability or luck						M2		M6
31-24.81 生活保護の考え方 Attitude towards governmental assistance								
32-27.1 人間らしさはへるか Science and loss of human feeling	5	3	6	7	K10	K2	K3 M2	K4
33-24.5 子供に「金は大切」と教えるか Teaching children money is important	24の1		5	5	K6	K5	K5 M4	K6
34-28.1B 政治家にまかせるか Leave it up to political leaders						K8	K10 M7	K8
35-22.1 しきたりに従うか Custom versus conscience	4	7 107	7	8	K11	K6	K6 M5	K7
36-27.2 心の豊かさはへらないか Mechanization and human feeling	29	24	12	13	K18	K12	M8	K27
37-24.30 家庭はくつろぐ場所 Home is relaxing place							M9	
38-24.32 離婚すべきではないか Marriage is permanent							M11	
39-24.31 家事や子供の世話 Housework and child care							M10	
40-24.4 先生が悪いことをした Rumor about teacher	9	6	4	4	K5	K4	K4	K5
41-23.1 恩人がキトクするとき Benefactor on death-bed	41	111 a	13 a	15 a	K21 a	K15 a	K16 a M16 a	K14 a
42-23.1B 親がキトクするとき Real father on death-bed	42	111 b	13 b	15 b	K21 b	K15 b		
43-22.5 自然と人間との関係 Man and nature	34	15	15	17	K23 M20	K16	K17 M17	K15
44-27.4 国と個人の幸福 Improve the country or make people happy	45		16	19	K25	K17	K18 M18	K16
45-#5.1D 大切な道徳-親孝行をすること Important things: Filial piety			17	20	K26	K18	K19	K17
大切な道徳-恩返しをすること Important things: Repaying obligations			*	*	*	*	*	*
大切な道徳-個人の権利を尊重すること Important things: Respect for individual rights			*	*	*	*	*	*
大切な道徳-個人の自由を尊重すること Important things: Respect for individual freedom			*	*	*	*	*	*
大切な道徳-その他(記入)			*	*	*	*	*	*

統数研 ハワイ日系人調査				トヨタ アメリ リカ '78	France CREDOC		GSS 88 (82のみ) 282 d
'72 I	'78 II	'83 III	'88 IV		1979	1982 1984	
							GSS 88 (82のみ) 282 f
							GSS 88 (82のみ) 282 g (Politic life)
	38	38	28	31*			ISR
	40	39	29	32*			
	3	6		3			
						M7 M5	
13		10	32	7			
11	6	9	33	6			
18	8*	11	34	9			
15	7	12	35	8			
19		15	36	11			
		16	37		C4	C1 C1	
		17	38		C5	C2 C2	
		18	39		C9	C6 -	
10	5	8	40	5			
22	20	24	41	15			
23	21	25	42	16			
25	22	26	43	17			
28	23	27	44	18			
29	24a	28	45	19			
,	b	,	,	,			
,	c	,	,	,			
,	d	,	,	,			
,		,	,	,			

統 数 研 日本人の国民性の研究

	'53 KS I	'58 II	'63 III	'68 IV	'73 V	'78 VI
46-25.8R 他人との仲か仕事か Desirable person: efficient versus friendly						K14
47-22.2B スジかまるくか Consensus versus own principle						K13
48-25.1C1 入社試験 (親戚) Employment examination: relative			20 a	22 a	K28 a M16 a	K21 a
49-25.1C2 入社試験 (恩人の子) Employment examination: son of benefactor			20 b	22 b	K28 b M16 b	K21 b
50-25.6 めんどろをみる課長 Type of boss preferred	35	117	21	23	K29	K22
51-22.12 他人のためか自分のためか Are people helpful most of the time						K27
52-22.12B スキがあれば利用されるか Are most people fair						K28
53-22.12C 人は信頼できるか Are most people trustworthy						K29
54-22.83A 現代生活の個人態度 - 他人を助ける Life: most people are helpful						
54-22.83B 現代生活の個人態度 - 共同体 Life: part of community						
54-22.83C 現代生活の個人態度 - その日その日 Life: people live for today						
54-22.83D 現代生活の個人態度 - 収入より手段 Life: way of earning money is more important than amount						
54-22.83E 現代生活の個人態度 - 孤独感 Life: people often feel lonely						
55-27.36 科学上の発見・利用は生活に役立つか Improvement of everyday life through science						
56-27.39 コンピュータ社会は望ましいか Computers change our lives						
57-27.83 科学技術 - 病気の治療 Some illness treated by methods other than modern medicine						
57-27.84 科学技術 - 人間の心の解明 Science permits understanding of the human mind						
57-27.85 科学技術 - 経済的・社会的問題の解決 Resolution of social and economic problems through science						
58-27.86A 今後の25年 - 原子力廃棄物の安全な処理方法 The next 25 years: safe method for nuclear waste disposal						
58-27.86B 今後の25年 - ガンの治療方法の解明 The next 25 years: cure for cancer						
58-27.86C 今後の25年 - 老人性痴呆症の治療方法の解明 The next 25 years: cure for senility						
58-27.86D 今後の25年 - 宇宙ステーションでの生活 The next 25 years: living in space stations						
59-27.34 省エネルギーは重要か Energy conservation						
60-27.35 環境の保護は重要か Environmental preservation						
61-29.80 文化 (各国の文化) Culture						

		統計 統計 統計 統計 統計 統計				トヨタ アメリカ '78	France CREDOC	
'83 VI	'88 VII	'72 I	'78 II	'83 III	'88 IV		1979	1982 1984
K 26			27	30	46	27		
K 27	K 25	31	28	31	47	21		
K 22 a M 21 a	K 21 a	32	29	32	48	22		
K 22 b M 21 b	K 21 b	33	30	33	49	23		
K 23 M 22	K 22 M 18	34	31	35	50	24		
K 7			60	40	51	38		GSS 88 158 I S R
K 8			61	41	52	39		GSS 88 159 I S R
K 9			62	42	53	40		GSS 88 160 A I S R
							L 6	
							L 6	
							L 6	GSS 88 (176)
							L 6	
							L 6	
M 28				56	55		P 1	N 3 N 3
M 26				52	56		P 2	N 4 N 4
								1987 科学技術 NSF Q6 - (1) SOPRES
								1987 科学技術 NSF Q9 - (3)* SOPRES
								1987 科学技術 Q9 - (7)*
								1987 科学技術 Q18 - (1) NSF
								1987 科学技術 Q18 - (2) NSF
								1987 科学技術 Q18 - (4) NSF
								1987 科学技術 Q18 - (6)
M 27 a				53	59			E 14 -
M 27 b				54	60		D 22	F 1 F 1
					61			

		統 数 研 日本人の国民性の研究							
		'53 KS I	'58 II	'63 III	'68 IV	'73 V	'78 VI	'83 VII	'88 VIII
62-#3.1A	宗教を信じるか Religious faith		16 a	28 a	33 a	K19a	K11a	K15a	K13a
62-#3.1B	(Aで信じている人に) 何という宗教か Religion		16 b	28 a	33 a	K19a			
63-#3.2	「宗教心」は大切か Religious attitude		16 c	28 b	33 b	K19b	K11b	K15b	K13b
64-#3.3	宗教は1つか All religions same		17						
65-#8.81	革新か保守か Political stance								
66-#8.82	政治関心 Interest in politics								
67-#8.2E	「民主主義」はよいか Democracy			27 a	32 a	K35a			
67-#8.2F	「資本主義」はよいか Capitalism			27 b	32 b	K35b			
67-#8.2H	「社会主義」はよいか Socialism			27 d	32 d	K35d			
67-#8.2G	「自由主義」はよいか Liberalism			27 c	32 c	K35c			
68-#8.83	民主政治に満足か Satisfaction with democracy								
69-#8.84	裁判制度は機能しているか Legal system								
70-#7.87	労働者階級と資本家階級 Employer versus employee								
71-#8.8	社会は変えるべきか Attitudes concerning society						K26		
72-#8.85A	社会の根本改革は必要か Profound transformation of society								
72-#8.85B	社会の根本改革 The way of changing society								
73-#8.7	支持政党 Political party	58	35 135	35	39	K40 M28	K31 M26	K支持 M支持	K支持 M支持
74-#8.88	政党支持(強度) Close to party								
75-#8.87	主要政党への好感度 Feeling thermometer								
	組合に入っているか?								

統数研 ハワイ日系人調査				トヨタ アメリ リカ '78	France CREDOC		
'72 I	'78 II	'83 III	'88 IV		1979	1982 1984	
49	F2*	F01	62a				
50	F3	F02	62b				ALL82 S33
	F5	F03	63	42			
	F7	F04	64	43			
							GSS88 (68B) EC
	F8	F05	66				ALL82 Q31 EC
45	11	37 a	67 a				
46	12	37 b	67 b				
48	13	37 c	67 c				
47	15	37 e	67 d				
							EC
		55	69		K1	N1 N1	
				37			
	35	36	71	30			EC
		37			L1	N2 a N2 a	
					L2	N2 b N2 b	
							EC
					-		
							GSS88 196

意識の国際比較
1987年ヨーロッパ3カ国調査
1988年アメリカ、日本調査

<注>

◎主に参照した調査

フランス82：CREDOCの調査、79、82、84年調査
日本83：「日本人の国民性」83年調査
ハワイ83：ハワイ・ホノルル市民調査（83年）
アメリカ78：1978年アメリカ調査等

◎それ以外で参照した調査

I S R：ミシガン大学社会調査研究所調査
G S S：シカゴ大学NORC：一般社会調査
13カ国：1980年13カ国価値観調査
ヨーロッパ9カ国：ヨーロッパ9カ国価値観調査（1981）
V：国民性73年調査 II：国民性58年調査
VI：国民性78年調査
N S F：アメリカ1985年調査（科学技術に関する）
SOFRES：フランス1982年調査（同上）
科学技術87：日本1987年3月調査（同上）
Eurobarometer：1987（or 1973～）
ALLBUS：1980、1982ドイツ一般社会調査

◎質問項目ごとの回答選択肢のちがいが等

Q11 #4.11

* 回答選択肢：国により異なる

1. More 2. Less 3. Same

要注イ！ フランス、イギリス、ハワイ、アメリカ78

1. More 2. Same 3. Less 日本、ドイツ

Q12 #4.10

** 英語質問文小変更：（アメリカ78とイギリスは異なる）

Q16 #1.8

* アメリカ78とハワイ83：選択肢異なる

1. Upper 2. Middle 3. Working 4. Lower

Q18 #2.8

**（質問文小変更） continue to work・・ → still want to work・・

Q28 (#2.3C)

* 日本の選択肢は異なる、中間項なし、参考資料

Q32 #7.1

** 日本の回答選択肢のコード

- | | | |
|----------|--------------|---------------------|
| 1. Agree | 2. Disagree | 3. 中間：ドイツ、フランス、イギリス |
| 1. 賛成 | 2. いちがいにいえない | 3. 反対：日本 |

Q33 #4.5

* 質問文小変更：money is the most important ..

→.. is one of the most

アメリカ	78	
ハワイ	83	は参考
日本	83	

Q34 #8.1b

** 回答肢に中間項入れる

アメリカ	78	
ハワイ	83	は参考
日本	83	

Q36 #7.2

***回答選択肢のコード：

- | | | |
|----------|-------------|--------------------------|
| 1. Agree | 2. Disagree | 3. 中間： |
| | | ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ78、ハワイ |
| 1. 反対 | 2. 中間 | 3. 賛成：日本 |

Q40 #4.4

***回答選択肢のコード：

- [日本は 1. そんなことない 2. 本当だという、他は逆
ハワイ

Q55 #7.36

* 回答選択肢：1. a lot 2. A little bit
3. Not at all：ドイツ、イギリス、ハワイ、日本
1. un peu 2. beaucoup
3. Pas du tout：フランス、フランス82

Q57 # 7.84

** 質問文；科学技術87とNSFは今回およびSOFRESと逆にきいている

Q65 # 8.81

* 85 : Eurobarometer 1985.12 Vol.24より

Q68 # 8.83

* 87 : Eurobarometer 1987. 6. Vol.27より

Q66 # 8.82

* 83 : Eurobarometer 1983. 6 Vol.19より

Q72a # 8.85

* ハワイは質問文すこし異なる：参考

Q75 # 8.87

** Q75 (#8.87) はそれぞれの国により異なる

日 本：# 8.87J - 1～

ハ ワ イ：# 8.87H - 1～

ア メ リ カ：# 8.87A - 1～

ド イ ツ：# 8.87D - 1～

フ ラ ン ス：# 8.87F - 1～

イ ギ リ ス：# 8.87E - 1～

Q71 (# 8.8)

87 : Eurobarometer 1987. 6. Vol.27より

Q74 # 8.86

85 : Eurobarometer 1985. 12. Vol.24より

その他の有無、リストの有無
一 覧 表

掲載様式が異なるもの

1987ヨーロッパ(独,仏,英)1988日米調査項目

1-27.30B	国の生活水準10年の変化 Standard of living in country 10 years ago	
2-27.30A	あなたの生活水準10年の変化 Your standard of living 10 years ago	
3-27.31	今後の生活水準 Living conditions in future	
4-27.18E	幸福になるか Happiness in future	
5-27.18B	心の安らかさはますか Peace of mind	
6-27.18C	人間の自由はふえるか Freedom	
7-27.18	人間の健康の面はよくなるか People's health	
8-28.80	国家目標 The country's goal	4ページ
9-22.30	不安感-重い病気 Extent of worry: serious illness	}
9-22.30D	不安感-交通事故 Extent of worry: car accident	
9-22.30E	不安感-失業 Extent of worry: unemployment	
9-22.30F	不安感-戦争 Extent of worry: war	12ページ
9-22.30G	不安感-原子力施設の事故 Extent of worry: nuclear power accident	}
10-27.80A	家計の節約-医療 Household expenses: health care	
10-27.80B	家計の節約-車 Household expenses: motoring costs	}
10-27.80C	家計の節約-家庭用品 Household expenses: home appliances	
10-27.80D	家計の節約-食料品 Household expenses: food	
10-27.80E	家計の節約-美容 Household expenses: beauty care	
10-27.80F	家計の節約-バカンス, 休暇 Household expenses: vacation and leisure	18ページ
10-27.80G	家計の節約-衣服 Household expenses: clothes	}
10-27.80H	家計の節約-住居 Household expenses: housing	
10-27.80I	家計の節約-子供の養育 Household expenses: expenses for children	
10-27.80J	家計の節約-タバコ, アルコール Household expenses: smoking or drinking	

掲載様式が異なるもの

11-#4.11	先祖を尊ぶか Respect for ancestors	
12-#4.10	他人の子供を養子にするか Adopt a child	
13-#4.80	望ましい子供の数 Ideal number of children	4ページ
14-#2.80A	病氣-頭痛, 偏頭痛 Health problems: headaches, migraines	} 12ページ
14-#2.80B	病氣-背中の痛み Health problems: backaches	
14-#2.80C	病氣-神経の興奮 Health problems: nervousness	
14-#2.80D	病氣-鬱病 Health problems: depression	
14-#2.80E	病氣-不眠症 Health problems: insomnia	
15-#2.30	健康状態満足か Satisfaction with health	
16-#1.8	社会的階層 Living class	
17-#7.81	収入か余暇か Choose money or free time	
18-#2.8	一生働くか If had enough money, still work?	
19-#7.25	お金と仕事 Life without work	
20-#7.24	就職の第1の条件 Most important aspect of job	4ページ
21-#2.81	仕事と個人生活 Work conflicts with private life	
22-#2.4	くらし方 Attitudes towards life	6ページ
23-#2.3F	生活環境満足か Quality of life in the area where you live	
24-#5.80A	近所の治安-強盗にはいられること Safety in neighborhood: burglary	} 6ページ
24-#5.80B	近所の治安-急に襲われて身の危険を感じる事 Personal safety	
25-#7.82	アリとキリギリス The idle grasshopper and diligent ant	4ページ
26-#2.7A	一番大切なもの The most important thing in life	} 4ページ
26-#2.7B	その他 非常に大切なもの Other important things	
27-#5.81A	生活領域の重要性-あなた自身の家族と子供 Importance: immediate family and children	} 18ページ
27-#5.81B	生活領域の重要性-職業や仕事 Importance: career and work	
27-#5.81C	生活領域の重要性-自由になる時間とくつろぎ Importance: free time and relaxation	
27-#5.81D	生活領域の重要性-友人, 知人 Importance: friends	

その他の有無					リストの有無				
FRG	France	UK	USA	Japan	FRG	France	UK	USA	Japan
4	4	4	4	4					
4	4	*5 4	*5 4	4					
			Itdehart 8						
				8					6
				8					6
				8					6
				8					6
				8					6
				5					7
				6	3	16	C	16	8
				3					9
3	3	*4 3	*4.5 3	3					
				3	4	19	D	19	10
			5	5	5	20	E	20	11
				3					
7	7	7	7	7	6	22	F	22	12
				5			G		13
				5	7	24	H	24	14
				5	7	24	H	24	14
3	3	3	3	3	8	25	I	25	15
				8	9	27	J	27	16
				8	9	27	J	27	16
				8	9	27	J	27	16
				8	9	27	J	27	16

掲載様式が異なるもの

27-#5.81E	生活領域の重要性-両親, 兄弟, 姉妹, 親戚 Importance: parents and other relative	18ページ
27-#5.81F	生活領域の重要性-宗教 Importance: religion and church	
27-#5.81G	生活領域の重要性-政治, 公的生活 Importance: politics	
28-#2.3C	家庭に満足か Satisfaction with family life	
29-#2.82	生活に満足か Satisfaction with life	
30-#7.19	才能か運か Success: ability or luck	
31-#4.81	生活保護の考え方 Attitude towards governmental assistance	
32-#7.1	人間らしさはへるか Science and loss of human feeling	
33-#4.5	子供に「金は大切」と教えるか Teaching children money is important	
34-#8.1B	政治家にまかせるか Leave it up to political leaders	
35-#2.1	しきりに従うか Custom versus conscience	
36-#7.2	心の豊かさはへらないか Mechanization and human feeling	
37-#4.30	家庭はくつろぐ場所 Home is relaxing place	
38-#4.32	離婚すべきではないか Marriage is permanent	
39-#4.31	家事や子供の世話 Housework and child care	
40-#4.4	先生が悪いことをした Rumor about teacher	
41-#5.1	恩人がキトクするとき Benefactor on death-bed	4ページ
42-#5.1B	親がキトクするとき Real father on death-bed	
43-#2.5	自然と人間との関係 Man and nature	4ページ
44-#7.4	国と個人の幸福 Improve the country or make people happy	4ページ
45-#5.1D	大切な道徳-親孝行をすること Important things: Filial piety	
	大切な道徳-恩返しをすること Important things: Repaying obligations	
	大切な道徳-個人の権利を尊重すること Important things: Respect for individual rights	12ページ
	大切な道徳-個人の自由を尊重すること Important things: Respect for individual freedom	
	大切な道徳-その他(記入)、	
	大切な道徳-D K	

その他の有無 *は調査終了後加わったカテゴリー					リストの有無				
FRG	France	UK	USA	Japan	FRG	France	UK	USA	Japan
				8	9	27	J	27	16
				8	9	27	J	27	16
				8	9	27	J	27	16
			6	6	10	28	K	28	17
			6	6	10	29	K	28	17
3	3	3	*4 3	3					
3	3	3	*4 3	3			L	31	18
			4	4					
4	4	4	4	4					
			4	4					
4	4	4	4	4					
			4	4					
3	3	3	3	3					19
				4	11	38	M	38	20
4	4	4		4	12	39	N	39	21
3	3	*4.5.6 3	*4 3	3					
3	3	3	*4 3	3	13	41	O	41	22
3	3	3	*4 3	3	14	42	O	42	22
4	4	4	4	4	15	43	P	43	23
			4	4	16	44	Q	44	24
					17	45	R	45	25
					17	45	R	45	25
					17	45	R	45	25
					17	45	R	45	25
1	1	1	1	1	17	45	R	45	25
					17	45	R	45	25

掲載様式が異なるもの

46-#5.6B	他人との仲か仕事か Desirable person: efficient versus friendly	4ページ
47-#2.2B	スジかまるくか Consensus versus own principle	4ページ
48-#5.1C1	入社試験(親戚) Employment examination: relative	4ページ
49-#5.1C2	入社試験(恩人の子) Employment examination: son of benefactor	4ページ
50-#5.6	めんどろをみる課長 Type of boss preferred	4ページ
51-#2.12	他人のためか自分のためか Are people helpful most of the time	
52-#2.12B	スキがあれば利用されるか Are most people fair	
53-#2.12C	人は信頼できるか Are most people trustworthy	
54-#2.83A	現代生活の個人態度-他人を助ける Life: most people are helpful	} 12ページ
54-#2.83B	現代生活の個人態度-共同体 Life: part of community	
54-#2.83C	現代生活の個人態度-その日その日 Life: people live for today	
54-#2.83D	現代生活の個人態度-収入より手段 Life: way of earning money is more important than amount	
54-#2.83E	現代生活の個人態度-孤独感 Life: people often feel lonely	
55-#7.36	科学上の発見・利用は生活に役立つか Improvement of everyday life through science	
56-#7.33	コンピュータ社会は望ましいか Computers change our lives	
57-#7.83	科学技術-病気の治療 Some illness treated by methods other than modern medicine	} 12ページ
57-#7.84	科学技術-人間の心の解明 Science permits understanding of the human mind	
57-#7.85	科学技術-経済的・社会的問題の解決 Resolution of social and economic problems through science	
58-#7.86A	今後の25年-原子力廃棄物の安全な処理方法 The next 25 years: safe method for nuclear waste disposal	} 12ページ
58-#7.86B	今後の25年-ガンの治療方法の解明 The next 25 years: cure for cancer	
58-#7.86C	今後の25年-老人性痴呆症の治療方法の解明 The next 25 years: cure for senility	
58-#7.86D	今後の25年-宇宙ステーションでの生活 The next 25 years: living in space stations	
59-#7.34	省エネルギーは重要か Energy conservation	
60-#7.35	環境の保護は重要か Environmental preservation	
61-#9.80	文化 (各国の文化) Culture	

その他の有無 *は調査終了後加わったカテゴリー					リストの有無				
FRG	France	UK	USA	Japan	FRG	France	UK	USA	Japan
			3	3	18	46	S	46	26
			3	3	19	47	T	47	27
3	3	3	3	3	20	48	U	48	28
3	3	3	3	3	21	49	V	49	29
			3	3	22	50	W	50	30
3	3	3	3	3					
3	3	3	3	3					
3	3	3	3	3					
				5	23	54	X	54	31
				5	23	54	X	54	31
				5	23	54	X	54	31
				5	23	54	X	54	31
				5	23	54	X	54	31
				4					32
				4				56	33
				5	23	57	X	57	34
				5	23	57	X	57	34
				5	23	57	X	57	34
				4	24	58	Y	58	35
				4	24	58	Y	58	35
				4	24	58	Y	58	35
				4	24	58	Y	58	35
				5					36
				5					36

		掲載様式が異なるもの
62-83.1A	宗教を信じるか Religious faith	6ページ
62-83.1B	(Aで信じている人に) 何という宗教か Religion	
63-83.2	「宗教心」は大切か Religious attitude	
64-83.3	宗教は1つか All religions same	
65-88.81	革新か保守か Political stance	6ページ
66-88.82	政治関心 Interest in politics	
67-88.2E	「民主主義」はよいか Democracy	} 12ページ
67-88.2F	「資本主義」はよいか Capitalism	
67-88.2H	「社会主義」はよいか Socialism	
67-88.2G	「自由主義」はよいか Liberalism	
68-88.83	民主政治に満足か Satisfaction with democracy	
69-88.84	裁判制度は機能しているか Legal system	
70-87.87	労働者階級と資本家階級 Employer versus employee	4ページ
71-88.8	社会は変えるべきか Attitudes concerning society	4ページ
72-88.85A	社会の根本改革は必要か Profound transformation of society	} 6ページ
72-88.85B	社会の根本改革 The way of changing society	
73-88.7	支持政党 Political party	4ページ
74-88.86	政党支持(強度) Close to party	
75-88.87	主要政党への好嫌度 Feeling thermometer	
	組合に入っているか?	

その他の有無					リストの有無				
*は調査終了後加わったカテゴリー									
FRG	France	UK	USA	Japan	FRG	France	UK	USA	Japan
5	5	8	Sel Face	4					
3	3	3	3	3					
3	3	3	3	3					
				11	25	65	Z	65	37
				5			AA		38
				4	26	67	AB	67	39
				4	26	67	AB	67	39
				4	26	67	AB	67	39
				4	26	67	AB	67	39
				5					40
				5					41
				3	27	70	AC	70	42
				4	28	71	AD	71	43
				3					
				3					44
7	7	8	4	7	29	73			
				4					
					30	75	AE	75	45

図 の 記 号	問 番 号	1978 US (KSVI)	質 問 項 目	回 答 選 択 肢	日 本			U. S. A		
					KSVI K 2032	KSVIII K 1858	K+M 3682	1978 1571	1988 1563	
A	18	2 (K-1)	一生働くか # 2.8 H-2	1.ずっと働く 2.働くのをやめる	69.1 24.7	68.5 24.9	65.3 27.6	66.7 27.5	57.8 30.4	
B	12	4 (K-3)	他人の子供を養子にするか # 4.10 H-4	1.つがせた方がよい 2.場合による 3.つがせないでもよい	32.5 11.6 47.8	28.4 15.1 51.6		57.5 2.0 30.6	52.3 8.2 34.5	順番注意
C	40	5 (K-4)	先生が悪いことをした # 4.4 H-5	1.ほんとうだという 2.場合による 3.そんなことはないという	56.9 7.6 27.1	62.2 9.4 22.7		84.3 6.7 4.0	90.3 3.8 2.7	"
D	33	6 (K-5)	子供に「金は大切」と教える # 4.5 H-6	1.賛成 2.いぢがいはない 3.反対	44.5 12.8 40.4	35.3 16.2 46.7		5.4 0.8 93.1	16.6* 4.1* 78.4*	"
E	32	7 (K-2)	人間らしさはへるか # 7.1	1.賛成(へる) 2.いぢがいはない 3.反対(不変、ふえる)	42.7 21.0 30.3	46.7 24.0 25.8		71.2 4.5 20.4	69.0 5.6 24.2	
F	35	8 (K-6)	しきたりに従うか # 2.1 H-7	1.おし通せ 2.場合による 3.従え	30.1 24.1 41.6	27.0 34.6 36.0		74.3 5.5 15.5	69.9 9.5 19.4	"
G	34	9 (K-8)	政治家にまかせるか # 8.1b H-8	1.賛成(まかせる) 2.反対(まかせっきりはよくない)	32.3 58.2	30.0 61.0		8.3 88.6	7.4 88.2	
H	36	11 (K-12)	心の豊かさはへらないか # 7.2	1.賛成(へらない) 2.いぢがいはない 3.反対(へる)	52.7 15.4 25.3	42.3 21.6 32.6		70.0 5.3 21.7	76.1 3.5 19.0	"
I	11	14 (K-10)	先祖を尊ぶか # 4.11 H-73	1.尊ぶ 2.普通 3.尊ばない	72.1 16.0 10.3	65.5 21.0 11.5		54.9 20.7 20.6	73.1* 17.0* 8.1*	
J	41	15 (K-15a)	恩人がキトクするとき # 5.1 H-20	1.故郷へ帰る 2.会議に出る	51.3 41.8	51.9 41.2		64.5 28.5	66.3 24.4	
K	42	13 (K-15b)	親がキトクするとき # 5.1b H-21	1.故郷へ帰る 2.会議に出る	49.3 44.4	52.8 41.0		67.6 25.6	64.4 25.7	
L	43	17 (K-17)	自然と人間との関係 # 2.5 H-22	1.自然に従え 2.自然を利用 3.自然を征服	33.0 44.4 15.8	41.7 44.0 8.8		25.0 63.7 5.8	25.5 66.2 4.5	
M	44	18 (K-17)	国家と個人の幸福 # 7.4 H-23	1.個人→国 2.個人=国 3.国→個人	27.2 41.1 27.0	29.2 42.1 24.7		25.8 37.0 29.0	27.1 36.7 28.3	"
N	45	19 (K-18)	大切な道徳 # 5.1d H-24	1.親孝行 2.恩返し 3.権利尊重 4.自由尊重	70.4 47.4 37.7 39.3	70.8 47.2 35.8 42.0		52.1 19.5 74.0 45.4	69.3* 27.6* 62.2 33.1	
O	47	21 (K-13)	スジかまるるか # 2.2b H-28	1.スジを通す 2.まるくおさめる	43.9 49.9	42.1 54.1		46.5 46.5	47.6 47.1	

*印は質問文異なる

図 の 記 号	問 番 号	1978 US (KSVI)	質 問 項 目	回 答 選 択 肢	日 本			U. S. A	
					KSVI K 2032	KSVII K 1858	K+M 3682	1978 1571	1988 1563
P	48	22 (K-21a)	入社試験 # 5.1c-1 H-29	1.1番の人 2.親戚の人	71.7 22.5	70.2 23.9		72.4 21.8	65.9 29.5
Q	49	23 (K-21b)	入社試験 # 5.1c-2 H-30	1.1番の人 2.恩人の子	47.2 46.1	44.6 49.2		69.9 24.5	64.9 30.4
R	50	24 (K-22)	めんどうをみる課長 # 5.6 H-31	1.めんどうをみない 2.めんどうをみる	9.5 87.2	9.7 87.9	9.9 87.3	47.2 49.5	44.9 51.4
S	22	26 (K-19)	くらし方 # 2.4 H-26	1.金持ち 2.名をあげる 3.趣味 4.のんきに 5.清く正しく 6.社会につくす	13.9 2.0 39.1 21.6 10.7 6.6	17.1 3.2 37.9 22.7 9.4 4.0	15.3 2.7 41.1 23.0 9.0 3.8	7.2 6.7 35.3 35.3 10.2 2.0	6.1 7.2 33.2 37.1 11.2 2.8
T	20	33 (K-24a)	就職の第1の条件 # 7.24	1.よい給料 2.失業の恐れがない 3.気の合う仲間 4.やりがいのある仕事	6.8 23.4 30.1 38.0	9.5 14.4 35.1 38.8	9.9 15.5 35.7 36.4	16.2 18.7 13.9 49.4	20.9 21.6 11.3 43.6
U	63	42 (K-11a+b)	「宗教心」は大切か # 3.2 H-F5	1.大切 2.大切でない	48.8* 8.8*	72.1 15.0		85.0 12.5	87.3 10.4

* 質問文注意

注)

これは第2部 § 3 で比較検討のために示した図-3 (68頁)及び参考図(69頁)に用いた回答結果の一覧表である。

発 表 成 果

発表成果

1. 林 知己夫 (1990) 「意識の国際比較方法論の研究」、学術月報 Vol. 43, No. 12, 1072-1077.
2. Suzuki, Tatsuzo. (1989) Cultural Link Analysis : Its application to social attitudes --A study among five nations--, Bulletin of the International Statistical Institute, Proceedings of the 47th Session, Paris, 363-379.
3. Suzuki, Tatsuzo. (1990) Comparative Social Survey : Current Status, Future Directions, Research Memorandum, No. 393, Institute of Statistical Mathematics.
4. Suzuki, Tatsuzo and Sasaki, Masamichi. (1991) Dimensions of Public Acceptance of Science and Technology among Five Industrialized Nations, Behaviormetrika, No. 29, 73-82.
5. Sasaki, Masamichi and Suzuki, Tatsuzo. (1990) Trend and Cross-National Study of General Social Attitudes, International Journal of Comparative Sociology XXXI, 3-4, 193-205.
6. Miyake, Ichiro. (1991) Dimensions of Partisanship : A Five-Nation Comparison, read at the German-Japanese Symposium on Quantitative Social Research, Cologne, Germany, May 6-10, 1991. Unpublished paper.
7. 林 知己夫、鈴木 達三 (1986) 「社会調査と数量化」、岩波書店 序および第 I 部、 翻訳 (P. M. Scott による)
Data Analysis for Comparative Social Research: International Perspective, Foreword and Part I, Translated by P. M. Scott.
8. 林 知己夫 (1990) 「国民性をはかる」市場調査 206-207号, 2-32.

このほか、次の口頭発表がある。

Hayashi, Chikio. (1990), Belief system and the way of thinking of the Japanese; Interchronological and international perspectives, key note address read at The 22nd International Congress of Applied Psychology, Kyoto, Japan, July 26, 1990.

これは改めて論文として Proceedings に収録される。

「意識の国際比較方法論の研究」

林 知己夫

学術月報 Vol. 43
No. 12, 1072-1077, (1990)

意識の国際比較方法論の研究

林 知己 夫

Free Preview is not available

Cultural Link Analysis: Its Application
to Social Attitudes
--A Study among Five Nations--

Suzuki, Tatsuzo

Bulletin of the International Statistical Institute
Proceedings of the 47th Session, Paris, 363-379, (1989)

CULTURAL LINK ANALYSIS: ITS APPLICATION TO
SOCIAL ATTITUDES--A STUDY AMONG FIVE NATIONS

Tatsuzo Suzuki
The Institute of Statistical Mathematics, Tokyo

Free Preview is not available

Comparative Social Survey:
Current Status, Future Directions

Suzuki, Tatsuzo

Research Memorandum, No. 393
Institute of Statistical Mathematics, (1990)

Research Memorandum No. 393

October 30, 1990

COMPARATIVE SOCIAL SURVEYS:
CURRENT STATUS, FUTURE DIRECTIONS

Research on Methodology for International
Comparative Studies of Ways of Thinking

Tatsuzo Suzuki
The Institute of Statistical Mathematics

Free Preview is not available

Dimensions of Public Acceptance of Science and
Technology among Five Industrialized Nations

Suzuki, Tatsuzo
and
Sasaki, Masamichi

Behaviormetrika, No. 29, 73-82, (1991)

DIMENSIONS OF PUBLIC ACCEPTANCE OF SCIENCE
AND TECHNOLOGY AMONG FIVE
INDUSTRIALIZED NATIONS***

Masamichi Sasaki* and Tatsuzo Suzuki**

Free Preview is not available

Trend and Cross-National Study of General
Social Attitudes

Sasaki, Masamichi
and
Suzuki, Tatsuzo

International Journal of Comparative Sociology
XXXI, 3-4, 193-205, (1990)

International Journal of Comparative Sociology XXXI, 3-4 (1990)

Trend and Cross-National Study of General Social Attitudes*

MASAMICHI SASAKI** AND TATSUZO SUZUKI***

Free Preview is not available

**Dimensions of Partisanship:
A Five-Nation Comparison**

Miyake, Ichiro

read at the German-Japanese Symposium
on Quantitative Social Research
Cologne, Germany May 6-10, 1991
Unpublished paper, (1991)

DIMENSIONS OF PARTISANSHIP: A FIVE-NATION COMPARISON

ICHIRO MIYAKE
Faculty of Law, Kobe University
Kobe 657 JAPAN

Free Preview is not available

「社会調査と数量化」

林知己夫、鈴木達三

岩波書店

序および第 I 部

翻訳 (P.M.Scott による) (1986)

Data Analysis for Comparative Social Research :
International Perspective

Foreword and Part I
Translated by P.M.Scott.

社会調査と数量化

林知己夫、鈴木達三
(1986) 岩波書店

序 および 第I部 翻訳
P. M. S c o t t による

Free Preview is not available

「国民性をはかる」

林 知己夫

市場調査 206-207号
2-32, (1990)

(最終ページからお読み下さい)

Free Preview is not available

Research Report

General Series No.71

CULTURAL LINK ANALYSIS FOR COMPARATIVE SOCIAL RESEARCH

—A New Approach for the Exploration of
Structure in Ways of Thinking Applied to Cross
-National Analysis of General Social Attitudes

1 9 9 1

The Research Committee

TOKEI-SURI KENKYUZYO

The Institute of Statistical Mathematics

4-6-7 Minami-Azabu, Minato-ku,

Tokyo 106, JAPAN